

徳島大学病院 2026 TOKUSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL 2026

# TOKUSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL 2026

TOKUSHIMA  
UNIVERSITY  
HOSPITAL  
2026

 徳島大学病院  
Tokushima University Hospital

770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1  
Phone.088-631-3111【案内】  
Fax.088-633-7009  
<https://www.tokushima-hosp.jp/>

 徳島大学病院 2026

2-50-1 Kuramoto-cho, Tokushima 770-8503, Japan  
Phone.+81-88-631-3111 Fax.+81-88-633-7009 <https://www.tokushima-hosp.jp/>

## 徳島大学病院のシンボルマーク

| Symbol Mark



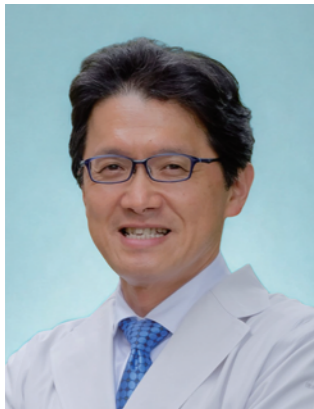
### デザインコンセプト

シンボル・マークの中心にある「+」は、徳島の「T」と病院のマーク「+」を表しています。また、下方にある「U」は「University」の「U」であり、全体で見たときに「笑顔」をイメージさせる「U」でもあります。そして、より擬人化するために、二つの「+」を配置しました。これは、「Eye」(眼・愛)という意味も込められています。病院のイメージを強調させながら、全体的には「わかりやすさ」「親しみやすさ」「安心感」「人の笑顔を願う気持ち」を表現しています。

## 目次

| Contents

02	ご挨拶 Greeting	22	診療科 [スタッフ一覧] Clinical Departments [Staff List]
03	基本理念と目標 / 看護の理念 / 臨床研修の理念・基本方針 / 患者の皆様の権利と責務 Philosophy 患者の皆様へ To Patients	50	部・室・センター [スタッフ一覧] Sections, Offices and Centers [Staff List]
04	品質方針 / 個人情報保護方針 Quality Policy / Privacy Policy	91	寄附講座 Endowed Course
05	ISO 15189 臨床検査における質と適合能力 Quality and Competence to Medical Laboratory	96	先進医療 For Advanced Medicine
06	歴代病院長 Chronological List of Directors, University Hospital	99	沿革 History
07	役員 Executive Members	104	建物配置図 Campus Map
09	現員 Present Members	106	各種施設のご案内 Guide for Facilities
10	機構図 Organization Chart	108	位置図 Location Map
12	患者数・病床数 Number of Patients・Beds		別冊 患者紹介方法 Guide for patient Referral
14	検査件数等 Number of Laboratory Tests	01	● FAX予約票
17	医療機関の承認・指定状況 Medical Institution Certification	02	● 高度画像診断センターFAX予約票
21	政策医療等の対応状況 Correspondence for Medical Policy	03	● てんかんセンター予約方法
	土地・建物データ Campus and Buildings	04	● てんかんセンターFAX予約票
		05	● 高次脳機能障害支援センター 予約方法
		06	● 高次脳機能障害支援センター FAX予約票
		07	● 痛みセンター予約方法
		08	● 痛みセンターFAX予約票
		09	● PET / CTのご案内
		10	● PET / CT検査依頼書
		11	● PET / CT検査の保険適用要件 確認表
		12	● メモ



徳島大学病院長

西良 浩一

## 徳島大学病院 2026 ビジョンと使命

徳島大学病院は、徳島県内唯一の**特定機能病院**として、また知の拠点である**アカデミア**として、以下の4つの使命を軸に、次世代の医療を切り拓いてまいります。

### 1. 国内最先端の「超低侵襲医療」の提供

私たちは、患者さんの身体的負担を軽減する低侵襲医療を強力に推進しています。

・**ロボット支援手術の拡充**：「ダヴィンチ」「hinotori」に加え、整形外科（Mako, Cirq, Cori）や脳神経外科専用ロボットなど計7台を運用。

・**高度な手術支援**：医科・歯科ともに顕微鏡・内視鏡・外視鏡を用いた豊富な実績を誇ります。

・**最新テクノロジーの融合**：VR（バーチャルリアリティ）技術を応用し、手術の正確性と安全性を極限まで高めています。

### 2. 未来を創る「次世代医療」の開発

「未来の診断・治療法を創る」ことこそが、大学病院の存在意義です。医・歯・薬・栄養・保健の5学科が集結する最高の環境を活かし、イノベーションを創出します。

・**創薬・再生医療の成果**：令和6年にはALS新規治療薬の承認を実現。現在は1型糖尿病根治を目指した再生医療の医師主導治験が進行中です。

・**医光連携**：青色LEDを用いたがん・肉腫への新治療など、光工学と医学を融合させた独自研究を推進しています。

・**ゲノム医療の拠点化**：本年度、メディカルゾーンに「ゲノム医療センター」を新設。遺伝子情報に基づく精密医療（プレジジョン・メディシン）から予防アドバイスまで、最先端のケアを提供します。

### 3. 高い志を持つ「すぐれた医療人」の育成

次世代を担う専門家を育てるため、教育研修プログラムを質・量ともに拡充しています。

・**実践的な研修環境**：改築された「スキルスラボ」「クリニカルアナトミーラボ」等を活用し、高度な手技を習得。

・**チーム医療の強化**：特定看護師の育成に注力し、多職種が連携して患者さんを支える体制を強化しています。

### 4. 盤石な「地域医療連携」による安心の提供

県民の皆様の健康を守るため、地域ネットワークの核として機能します。

・**メディカルゾーンの強化**：徳島県立中央病院との連携を深化させ、県域の中核を担う基幹組織へと発展させます。

・**知のネットワーク拡大**：本年度、県内各地に「地域医療教育・研究センター」を開設。大学病院のアカデミアを県内全域へ波及させます。

### 結びに代えて：Patient First の精神

私たちは、常に「患者第一（Patient First）」の精神を原点に置いています。地元徳島に根ざしながら、世界に誇れる先進医療を実践することで、国民の皆様の Well-being（幸福で健康な状態）の向上に貢献してまいります。

皆様の変わらぬご支援とご指導を、心よりお願い申し上げます。

## 基本理念

生命の尊重と個人の尊厳の保持を基調とし、先端的で、かつ生きる力をはぐくむ安全な医療を実践するとともに、人間愛に溢れた医療人を育成する

## 目標

**人間尊重の全人的医療の実践** 生命科学の正しい理解と生命の尊厳に対する深い認識に立脚し、疾患に悩む人の人格を尊重し、全人的医療を安全に実践する

**高度先端医療の開発と推進** 先端的医学・歯学研究の推進を通じて高度先端医療の開発および実践を安全に進めることにより、人類の健康増進に寄与する

**高い倫理観を備えた医療人の育成** すべての医療活動において、常に個人の人格や権利を真摯に考え、尊重し、献身的な思いやりを持った医療人を育成する

**地域医療および社会への貢献** 社会に開かれた病院として、地域医療機関との密な連携、国内外との人的交流の促進、あらゆる組織との共同研究の推進を通じて社会貢献を行う

## 看護の理念

私たちは、常に生命、人格、権利を尊重することを看護の判断、行動の基本とするとともに、社会環境の変化、医療の進歩に対応した安全でより質の高いケアを提供します。

## 臨床研修の理念・基本方針

## 理念

医療人としての人格と倫理性を涵養し、全人的な診療能力を有し、

医学・医療の社会的ニーズを認識できる医療人を育成する

## 基本方針

**人間尊重の全人的医療の実践** すべての医療活動において、常に個人の人格や権利を尊重し、思いやりのある全人的医療を実践し、プライマリーケアの基本的診療能力（態度、技能、知識）を身につける

**チーム医療の実践** 多職種が連携した実践診療の中で職種間の相互理解を図りチーム医療を実践する

**教育機関として次世代のリーダーの育成** 主体的に診療に参加する体制のもと専門性の高い医療を経験し、また研究倫理や臨床研究の仕組みを理解する

**地域医療および社会への貢献** 研修協力病院・協力施設と連携することで医療人としての知見を深め、在宅医療・介護から先進医療までを理解できる医療人を育成する

## 患者の皆様の権利と責務

### 権利

個人としての人格や価値観が尊重される医療を受ける権利があります。

■ 適切で良質な医療を公平に受けることができます。

■ 診療内容について情報の提供を受けることができます。

■ 医療・看護について十分な説明を受けた後、医療・看護を「受ける」、あるいは「受けない」という選択をすることができます。

■ 診療の過程で得られた個人情報及びプライバシーは保護されます。

■ 教育実習や研究に対する協力は断ることができます。

■ 医療・看護・福祉などについて相談することができます。

### 責務

最善の医療を受けていただくためには次のような責務があります。

■ ご自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に医療者に対して提供してください。

■ ご自身の病気を治すために、自ら決定した治療方針に沿って、医療者と共に病を克服する姿勢で取り組んでください。

■ よりよい療養環境で医療が受けられるように、医療者の指示と病院内でのマナーを守ってください。

## 患者の皆様へ

本院では、医療の教育研究と社会貢献を担うことを目的とし、患者の皆様の意思を尊重した上で診療を通して、優れた医療人の育成と医療の発展に貢献しています。

つきましては、医療系学生の臨床教育の一環として、患者さんの診療に立ち会う場合や、病歴聴取や診察にご協力をお願いする場合がございます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 品質方針

| Quality Policy



医療における主役は患者の皆様であり、その患者の皆様に対して質の高い医療というサービスを提供することが、われわれ医療従事者の使命である。

すなわち「生命の尊重と個人の尊厳の保持を基調とし、先端的で、かつ生きる力をはぐくむ安全な医療を実践するとともに、人間愛に溢れた医療人を育成する」ことを大方針として以下の品質を追求する。

1. 人間尊重の全人的医療の実践
2. 高度先端医療の開発と推進
3. 高い倫理観を備えた医療人の育成
4. 地域医療および社会への貢献

## 個人情報保護方針

| Privacy Policy

### 個人情報保護の理念

本院における個人情報の取扱いは、徳島大学病院保有個人情報の保護に関する規則に基づき、適正に管理することとしているが、個人情報保護法等関係法令を遵守し、個人情報を適切に管理することを社会的責務と考え、基本方針を次のとおり定める。

1. 個人情報の取得、利用及び提供
2. 個人情報の安全対策
3. 個人情報の照会、開示、訂正等
4. 個人情報に関する法令、規範の遵守
5. 継続的改善

## ISO 15189臨床検査における質と適合能力

| Quality and Competence to Medical Laboratory



臨床検査は患者診療にとって不可欠であり、疾患の診断、治療方針の決定、治療判定などに用いられている。本院臨床検査技術部門は、品質マネジメントシステムを構築し、かつ検査技術の能力が要求事項を満たし、測定された検査値は国際的にも互換性があることが認められて、ISO 15189認定を取得した。臨床検査技術部門では、認定取得後も、より高品質なデータを診療に提供するために、以下の品質方針に基づいたQMSにより検査スキルの向上と継続的な改善に取り組んでいる。

1. 医療に対する高度な専門的知識・技能を有し、コンプライアンスの重視と高い倫理観を伴った医療人の育成を心がける。さらに、良好な業務習慣と検査品質の向上を図り、品質マネジメントシステムを遵守する。
2. ISO 15189認定施設としての高品質な検査値を提供する。また、特定機能病院としての医療および大学病院としての高度先端医療に貢献する。
3. 品質目標を定め、患者診療に対する検査室の寄与を系統的に監視し評価するため、品質指標を施行する。
4. 患者診療に貢献できる高品質なサービスを提供する。
5. 品質文書の活用に精通し、方針と手順を遵守し業務を実施する。
6. ISO 15189の要求する国際規格への適合性を継続して守る。

- ISO15189認定  
公益財団法人日本適合性認定協会  
Japan Accreditation Board  
認定番号 Certificate No.RML00240  
■ 有効期間 Effective for the period  
2023年8月1日～2027年7月31日 August 1, 2023 - July31, 2027

## 歴代病院長

| **Chronological List of Directors, University Hospital**

医学部附属病院長   <b>Directors, University Medical Hospital</b>		
白川 吾一郎 SHIRAKAWA Goichiro (事務取扱)	昭和25年1月24日～昭和25年1月31日	Jan.24.1950～Jan.31.1950
白川 吾一郎 SHIRAKAWA Goichiro	昭和25年2月1日～昭和27年1月31日	Feb.1.1950～Jan.31.1952
飯田 無二 IIDA Muni	昭和27年2月1日～昭和29年1月31日	Feb.1.1952～Jan.31.1954
北村 義男 KITAMURA Yoshio	昭和29年2月1日～昭和31年1月31日	Feb.1.1954～Jan.31.1956
油谷 友三 ABURAYA Tomozo	昭和31年2月1日～昭和33年1月31日	Feb.1.1956～Jan.31.1958
荒川 忠良 ARAKAWA Tadayoshi	昭和33年2月1日～昭和35年1月31日	Feb.1.1958～Jan.31.1960
田北 周平 TAKITA Shuhei	昭和35年2月1日～昭和37年1月31日	Feb.1.1960～Jan.31.1962
山田 憲吾 YAMADA Kengo	昭和37年2月1日～昭和39年1月31日	Feb.1.1962～Jan.31.1964
三井 幸彦 MITSUI Yukihiko	昭和39年2月1日～昭和41年1月31日	Feb.1.1964～Jan.31.1966
三好 和夫 MIYOSHI Kazuo	昭和41年2月1日～昭和43年1月31日	Feb.1.1966～Jan.31.1968
足立 春雄 ADACHI Haruo	昭和43年2月1日～昭和47年1月31日	Feb.1.1968～Jan.31.1972
井上 權治 INOUE Kenji	昭和47年2月1日～昭和49年1月31日	Feb.1.1972～Jan.31.1974
檜 学 HINOKI Manabu	昭和49年2月1日～昭和51年1月31日	Feb.1.1974～Jan.31.1976
宮尾 益英 MIYAO Masuhide	昭和51年2月1日～昭和53年1月15日	Feb.1.1976～Jan.15.1978
黒川 一男 KUROKAWA Kazuo	昭和53年1月16日～昭和55年1月15日 <p>Jan.16.1978～Jan.15.1980</p>	
河村 文夫 KAWAMURA Fumio	昭和55年1月16日～昭和56年11月15日 <p>Jan.16.1980～Nov.15.1981</p>	
齋藤 隆雄 SAITO Takao	昭和56年11月16日～昭和58年11月15日 <p>Nov.16.1981～Nov.15.1983</p>	
武田 克之 TAKEDA Katsuyuki	昭和58年11月16日～昭和60年11月15日 <p>Nov.16.1983～Nov.15.1985</p>	
森 博愛 MORI Hiroyoshi	昭和60年11月16日～昭和62年11月15日 <p>Nov.16.1985～Nov.15.1987</p>	
松本 圭藏 MATSUMOTO Keizo	昭和62年11月16日～平成元年11月15日 <p>Nov.16.1987～Nov.15.1989</p>	
齋藤 史郎 SAITO Shiro	平成元年11月16日～平成3年11月15日 <p>Nov.16.1989～Nov.15.1991</p>	
井形 高明 IKATA Takaaki	平成3年11月16日～平成5年11月15日 <p>Nov.16.1991～Nov.15.1993</p>	
加藤 逸夫 KATO Itsuo	平成5年11月16日～平成7年10月15日 <p>Nov.16.1993～Oct.15.1995</p>	
井形 高明 (事務取扱) IKATA Takaaki	平成7年10月16日～平成7年11月15日 <p>Oct.16.1995～Nov.15.1995</p>	
青野 敏博 AONO Toshihiro	平成7年11月16日～平成9年11月15日 <p>Nov.16.1995～Nov.15.1997</p>	
黒田 泰弘 KURODA Yasuhiro	平成9年11月16日～平成11年11月15日 <p>Nov.16.1997～Nov.15.1999</p>	
香川 征 KAGAWA Susumu	平成11年11月16日～平成15年9月30日 <p>Nov.16.1999～Sep.30.2003</p>	

徳島大学病院長   <b>Directors, Tokushima University Hospital</b>		
香川 征 KAGAWA Susumu	平成15年10月1日～平成22年3月31日	Oct.1.2003～Mar.31.2010
苛原 稔 IRAHARA Minoru	平成22年4月1日～平成23年3月31日	Apr.1.2010～Mar.31.2011
安井 夏生 YASUI Natsuo	平成23年4月1日～平成28年3月31日	Apr.1.2011～Mar.31.2016
永廣 信治 NAGAIRO Shinji	平成28年4月1日～平成31年3月31日	Apr.1.2016～Mar.31.2019
香美 祥二 KAGAMI Shoji	平成31年4月1日～令和7年3月31日	Apr.1.2019～Mar.31.2025
西良 浩一 SAIRYO Koichi	令和7年4月1日～	Apr.1.2025～

| **歯学部附属病院長 | **Directors, University Dental Hospital****

筒井 英夫 TSUTSUI Hideo	昭和54年4月1日～昭和59年4月1日 <p>Apr.1.1979～Apr.1.1984</p>	
若野 洋一 WAKANO Yoichi	昭和59年4月2日～昭和61年4月1日 <p>Apr.2.1984～Apr.1.1986</p>	
松本 直之 MATSUMOTO Naoyuki	昭和61年4月2日～昭和62年3月31日 <p>Apr.2.1986～Mar.31.1987</p>	
中村 亮 NAKAMURA Ryo	昭和62年4月1日～平成3年3月31日 <p>Apr.1.1987～Mar.31.1991</p>	
坂東 永一 BANDOHi Eiichi	平成3年4月1日～平成5年3月31日 <p>Apr.1.1991～Mar.31.1993</p>	
西野 瑞穂 NISHINO Mizuho	平成5年4月1日～平成9年3月31日 <p>Apr.1.1993～Mar.31.1997</p>	
坂東 永一 BANDOHi Eiichi	平成9年4月1日～平成11年3月31日 <p>Apr.1.1997～Mar.31.1999</p>	
中條 信義 NAKAJO Nobuyoshi	平成11年4月1日～平成15年3月31日 <p>Apr.1.1999～Mar.31.2003</p>	
長山 勝 NAGAYAMA Masaru	平成15年4月1日～平成15年9月30日 <p>Apr.1.2003～Sep.30.2003</p>	

	平成15年10月1日～平成22年3月31日	Oct.1.2003～Mar.31.2010
	平成22年4月1日～平成23年3月31日	Apr.1.2010～Mar.31.2011
	平成23年4月1日～平成28年3月31日	Apr.1.2011～Mar.31.2016
	平成28年4月1日～平成31年3月31日	Apr.1.2016～Mar.31.2019
	平成31年4月1日～令和7年3月31日	Apr.1.2019～Mar.31.2025
	令和7年4月1日～	Apr.1.2025～

## 役職員

| **Executive Members**

病院長 Director, University Hospital	<b>西良 浩一</b> SAIRYO Koichi
副病院長 Vice-Director, University Hospital	総務担当 <b>原田 雅史</b> HARADA Masafumi
	診療担当 <b>滝沢 宏光</b> TAKIZAWA Hiromitsu
	歯科担当 <b>川人 伸次</b> KAWAHITO Shinji
	医療安全管理担当 <b>高木 康志</b> TAKAGI Yasushi
	看護担当 <b>上田 美香</b> UETA Mika

病院長補佐 Assistant Director	キャリア支援・地域連携担当 <b>脇野 修</b> WAKINO Shu	救急・災害・メディカルゾーン担当 <b>大藤 純</b> OTO Jun
	リスクマネジメント・医療の質担当 <b>池本 哲也</b> IKEMOTO Tetsuya	アカデミア推進担当 <b>和泉 唯信</b> IZUMI Yuishin
	タスクシフト・タスクシェア担当 <b>田中 克哉</b> TANAKA Katsuya	労働環境・イノベーション担当 <b>沼田 周助</b> NUMATA Shusuke
	経営戦略・企画担当 <b>松岡 賢市</b> MATSUOKA Ken-ichi	医療D X担当 <b>若田 好史</b> WAKATA Yoshifumi
	医療連携担当 <b>松香 芳三</b> MATSUKA Yoshizo	医薬品安全管理・研究支援担当 <b>石澤 啓介</b> ISHIZAWA Keisuke
	医療支援担当 <b>中尾 隆之</b> NAKAO Takayuki	経営担当 <b>近藤 武</b> KONDO Takeshi
	事務担当 <b>浦田 明宏</b> URATA Akishiro	

診療科名 Clinical Departments	科長名 Director
<b>内科</b> Department of Internal Medicine	<b>松岡 賢市</b> MATSUOKA Ken-ichi
<b>循環器内科</b> Cardiovascular Medicine	<b>佐田 政隆</b> SATA Masataka
<b>呼吸器・膠原病内科</b> Respiratory Medicine and Rheumatology	<b>西岡 安彦</b> NISHIOKA Yasuhiko
<b>消化器内科</b> Gastroenterology	<b>宮本 弘志</b> MIYAMOTO Hiroshi
<b>腎臓内科</b> Nephrology	<b>脇野 修</b> WAKINO Shu
<b>内分泌・代謝内科</b> Endocrinology and Metabolism	<b>遠藤 逸朗</b> ENDO Itsuro
<b>血液内科</b> Hematology	<b>松岡 賢市</b> MATSUOKA Ken-ichi
脳神経内科 Neurology	<b>和泉 唯信</b> IZUMI Yuishin
<b>外科</b> Department of Surgery	<b>古川 順也</b> FURUKAWA Junya
<b>心臓血管外科</b> Cardiovascular Surgery	<b>秦 広樹</b> HATA Hiroki
<b>食道・乳腺甲状腺外科</b> Esophageal,Breast and Thyroid Surgery	<b>後藤 正和</b> GOTO Masakazu
<b>呼吸器外科</b> Thoracic Surgery	<b>滝沢 宏光</b> TAKIZAWA Hiromitsu
<b>泌尿器科</b> Urology	<b>古川 順也</b> FURUKAWA Junya
<b>消化器・移植外科</b> Digestive Surgery and Transplantation	<b>曾山 明彦</b> SOYAMA Akihiko
<b>小児外科・小児内視鏡外科</b> Pediatric Surgery and Pediatric Endoscopic Surgery	<b>石橋 広樹</b> ISHIBASHI Hiroki

診療科名 Clinical Departments	科長名 Director
<b>感覚・皮膚・運動機能科</b> Department of Ophthalmology, Otolaryngology, Dermatology Orthopedics, and Plastic Surgery	<b>三田村 佳典</b> MITAMURA Yoshinori
<b>眼科</b> Ophthalmology	<b>三田村 佳典</b> MITAMURA Yoshinori
<b>耳鼻咽喉科・頭頸部外科</b> Otolaryngology and Head and Neck Surgery	<b>北村 嘉章</b> KITAMURA Yoshiaki
<b>整形外科</b> Orthopedic Surgery	<b>西良 浩一</b> SAIRYO Koichi
<b>皮膚科</b> Dermatology	<b>久保 宜明</b> KUBO Yoshiaki
<b>形成外科・美容外科</b> Plastic・Aesthetic Surgery	<b>橋本 一郎</b> HASHIMOTO Ichiro
<b>脳・神経・精神科</b> Department of Neurosurgery, Psychiatry and Anesthesiology	<b>高木 康志</b> TAKAGI Yasushi
<b>脳神経外科</b> Neurosurgery	<b>高木 康志</b> TAKAGI Yasushi
<b>麻酔科</b> Anesthesiology	<b>田中 克哉</b> TANAKA Katsuya
<b>精神科神経科</b> Psychiatry	<b>沼田 周助</b> NUMATA Shusuke
<b>心身症科</b> Psychosomatic Medicine	<b>沼田 周助</b> NUMATA Shusuke
<b>小児・産産・女性科</b> Department of Pediatrics,Perinatal and Gynecology	<b>漆原 真樹</b> URUSHIHARA Maki
<b>小児科</b> Pediatrics	<b>漆原 真樹</b> URUSHIHARA Maki
<b>産科婦人科</b> Obstetrics and Gynecology	<b>岩佐 武</b> IWASA Takeshi

診療科名 Clinical Departments	科長名 Director
<b>放射線科</b> Department of Radiology	<b>原田 雅史</b> HARADA Masafumi
<b>放射線診断科</b> Diagnostic Radiology	原田 雅史 HARADA Masafumi
<b>放射線治療科</b> Radiation Oncology	生島 仁史 IKUSHIMA Hitoshi
<b>救急科</b> Emergency Medicine	<b>大藤 純</b> OTO Jun
<b>救急集中治療科</b> Emergency and Critical Care Medicine	大藤 純 OTO Jun

<b>病理診断科</b> Diagnostic Pathology	<b>上原 久典</b> UEHARA Hisanori
<b>病理診断科</b> Diagnostic Pathology	上原 久典 UEHARA Hisanori
<b>歯科</b> Department of General Dentistry	<b>松香 芳三</b> MATSUKA Yoshizo
<b>むし歯科</b> Cariology	保坂 啓一 HOSAKA Keiichi
<b>歯周病科</b> Periodontics	湯本 浩通 YUMOTO Hiromichi
<b>そしやく科</b> Oral Rehabilitation and Geriatric Dentistry	渡邊 恵 WATANABE Megumi

<b>かみあわせ補綴科</b> Occlusion and Prosthodontics	松香 芳三 MATSUKA Yoshizo
<b>歯科放射線科</b> Oral and Maxillofacial Radiology	前田 直樹 MAEDA Naoki
<b>矯正歯科</b> Department of Orthodontics	<b>田中 栄二</b> TANAKA Eiji
<b>矯正歯科</b> Orthodontics	田中 栄二 TANAKA Eiji
<b>小児歯科</b> Department of Pediatric Dentistry	<b>岩崎 智憲</b> IWASAKI Tomonori
<b>小児歯科</b> Pediatric Dentistry	岩崎 智憲 IWASAKI Tomonori
<b>歯科口腔外科</b> Department of Oral and Maxillofacial Surgery	<b>川人 伸次</b> KAWAHITO Shinji

<b>口腔内科</b> Oral Medicine	津島 文彦 TUSHIMA Fumihiko
<b>口腔外科</b> Oral Surgery	栗尾 奈愛 KURIO Naito
<b>歯科麻酔科</b> Dental Anesthesiology	川人 伸次 KAWAHITO Shinji
中央診療施設等 Central Clinical Facilities	部(センター室)長名 Director (Head)
<b>検査部</b> Laboratory Medicine	松岡 賢市 MATSUOKA Ken-ichi
<b>手術部</b> Surgical Center	滝沢 宏光 TAKIZAWA Hiromitsu
<b>放射線部</b> Radiological Center	原田 雅史HARADA Masafumi
<b>救急集中治療部</b> Emergency service・Intensive Care Unit	大藤 純 OTO Jun
<b>リハビリテーション部</b> Rehabilitation	松浦 哲也 MATSUURA Tetsuya
<b>視能訓練部</b> Orthoptics	三田村 佳典 MITAMURA Yoshinori
<b>輸血・細胞治療部</b> Transfusion Medicine and Cell Therapy	三木 浩和 MIKI Hirokazu
<b>病理部</b> Pathology	上原 久典 UEHARA Hisanori
<b>安全管理部</b> Department of Patient Safety	池本 哲也 IKEMOTO Tetsuya
<b>感染制御部</b> Department of Infection Control and Prevention	松岡 賢市 MATSUOKA Ken-ichi
<b>総合歯科診療部</b> Department of Oral Care and Clinical Education	北村 直也 KITAMURA Naoya
<b>高次歯科診療部</b> Center for Advanced Dental Health Care	湯本 浩通 YUMOTO Hiromichi
<b>周産母子センター</b> Maternity and Perinatal Care Unit	加地 剛 KAJI Takashi
<b>病院情報センター</b> Medical IT Center	若田 好史 WAKATA Yoshifumi
<b>臨床研究推進部</b> Department of Clinical and Translational Science	石澤 啓介 ISHIZAWA Keisuke
<b>総合診療部</b> General Medicine and Primary Care	八木 秀介 YAGI Shusuke
<b>患者支援センター</b> Patient-Support and Community-Service Center	原田 雅史 HARADA Masafumi
<b>移植・免疫細胞療法センター</b> Transplant and Cell therapy Unit	松岡 賢市 MATSUOKA Ken-ichi
<b>内視鏡センター</b> Center of the Endoscopy	滝沢 宏光 TAKIZAWA Hiromitsu
<b>超音波センター</b> Ultrasound Examination Center	山田 博胤 YAMADA Hirotsugu

中央診療施設等 Central Clinical Facilities	部(センター室)長名 Director (Head)
<b>高次脳センター</b> Center for Clinical Neuroscience	和泉 唯信 IZUMI Yuishin
<b>卒後臨床研修センター</b> Center for Post-graduate Medical Education Hospital	大藤 純 OTO Jun
<b>医療支援センター</b> Clinical Support Center	滝沢 宏光 TAKIZAWA Hiromitsu
<b>脳卒中センター</b> Stroke Center	高木 康志 TAKAGI Yasushi
<b>高度画像診断センター</b> High Quality Imaging Center	原田 雅史 HARADA Masafumi
<b>口腔管理センター</b> Oral Health Management Center	青田 桂子 AOTA Keiko
<b>がん診療連携センター</b> Cancer Management Center	荻野 広和 OGINO Hirokazu
<b>物流センター</b> Material Management and Supply Center	高木 康志 TAKAGI Yasushi
<b>臨床工学部</b> Department of Clinical Engineering	大藤 純 OTO Jun
<b>アンチエイジング医療センター</b> Anti Aging Medical Center	遠藤 逸朗 ENDO Itsuro
<b>パーキンソン病・ジストニア治療研究センター</b> Parkinson´ Disease and Dystonia Research Center	和泉 唯信 IZUMI Yuishin
<b>高次脳機能障害支援センター</b> Higher Brain Dysfunction Support Center	高木 康志 TAKAGI Yasushi
<b>キャリア形成支援センター</b> Center for Career and Professional Development	脇野 修 WAKINO Shu
<b>糖尿病対策センター</b> Clinical Research Center for Diabetes	遠藤 逸朗 ENDO Itsuro
<b>徳島県地域医療支援センター</b> Tokushima Community Medical Support Center	西良 浩一 SAIRYO Koichi
<b>口腔インプラントセンター</b> Oral Implant Center	友竹 偉則 TOMOTAKE Yoritoki
<b>クリニカルアナトミー教育・研究センター</b> Clinical Anatomy Education and Research Center	古川 順也 FURUKAWA Junya
<b>てんかんセンター</b> Epilepsy Center	高木 康志 TAKAGI Yasushi
<b>国際医療センター</b> International Medical Center	高木 康志 TAKAGI Yasushi
<b>クリニカルパスセンター</b> Clinical Pathway Center	岩佐 武 IWASA Takeshi
<b>総合スポーツ医学センター</b> Integrated Sports Medicine Center	松浦 哲也 MATSUURA Tetsuya
<b>口唇口蓋裂センター</b> Cleft Lip and Palate Center	橋本 一郎 HASHIMOTO Ichiro
<b>周術期管理センター</b> Perioperative Management Center	田中 克哉 TANAKA katsuya
<b>看護師特定行為研修センター</b> Advanced Nurse Training Center	田中 克哉 TANAKA Katsuya
<b>総合アレルギーセンター</b> Allergy Center	北村 嘉章 KITAMURA Yoshiaki
<b>再生医療細胞調整センター</b> Cell Processing Center(CPC) for Regenerative Medicine and Cell Transplantation	曾山 明彦 SOYAMA Akihiko
<b>総合腎臓病センター</b> Integrate Kidney Center	脇野 修 WAKINO Shu
<b>下肢救済・創傷治療センター</b> Limb Salvage and Wound Care Center	橋本 一郎 HASHIMOTO Ichiro
<b>脳卒中・心臓病等総合支援センター</b> Stroke and Cardiovascular Diseases Support Center	佐田 政隆 SATA Masataka
<b>痛みセンター</b> Pain Center	川人 伸次 KAWAHITO Shinji
<b>ゲノム医療センター</b> Clinical Genomics Center	森野 豊之 MORINO Hiroyuki
<b>技工室</b> Dental Laboratories	永尾 寛 NAGAO Kan

中央診療施設等 Central Clinical Facilities	部(センター室)長名 Director (Head)
<b>歯科衛生室</b> Dental Hygiene Section	片岡 宏介 KATAOKA Kosuke
<b>子と親のこころ診療・学習障害センター</b> COCOLO Clinic for Children and Family / Learning Disorder Center	漆原 真樹 URUSHIHARA Maki
<b>褥瘡対策室</b> Pressure Ulcer Management	橋本 一郎 HASHIMOTO Ichiro
<b>人工透析室</b> Department of Dialysis	脇野 修 WAKINO Shu
<b>排尿ケア管理室</b> Management Section of Urinary Care	古川 順也 FURUKAWA Junya
<b>ER・災害医療診療部</b> Department of Emergency and Disaster Medicine	板垣 大雅 ITAGAKI Taiga
<b>地域外科診療部</b> Department of Minimum invasive and Telesurgery	徳永 卓哉 TOKUNAGA Takuya
<b>地域脳神経外科診療部</b> Department of Regional Neurosurgical	島田 健司 SHIMADA Kenji
<b>麻酔科診療部</b> Department of Anesthesiology	酒井 陽子 SAKAI Yoko
<b>地域小児科診療部</b> Department of Pediatrics and community medicine	早瀬 康信 HAYABUCHI Yasunobu
<b>高度先進整形外科診療部</b> Department of Advanced Orthopaedic Surgery	酒井 紀典 SAKAI Toshinori
看護部 Division of Nursing	部長名 Director
<b>看護部長</b> Director	<b>上田 美香</b> UETA Mika
薬剤部 Division of Pharmacy	部長名 Director
<b>薬剤部長</b> Director	<b>石澤 啓介</b> ISHIZAWA Keisuke

医療技術部 Division of Medical Technology	部長名 Director
<b>医療技術部長</b> Director	<b>中尾 隆之</b> NAKAO Takayuki
栄養部 Division of Nutrition	部長名 Director
<b>栄養部長</b> Director	<b>野村 和弘</b> NOMURA Kazuhiro
事務部 Administrative Office	部長名 Director
<b>事務部長</b> Director	<b>浦田 明宏</b> URATA Akihiro
<b>総務課長</b> Head, General Affairs Division	兒玉 実和 KODAMA Miwa
<b>経営企画課長</b> Head, Management Planning Division	井元 純 IMOTO Jun
<b>経理調達課長</b> Head, Accounting and Supply Affairs Division	酒井 稔雄 SAKAI Toshio
<b>医事課長</b> Head, Medical Affairs Division	安部 修司 ABE Shuji
病院教授	
<b>消化器・移植外科学分野</b> Department of Digestive Surgery and Transplantation	<b>石橋 広樹</b> ISHIBASHI Hiroki
<b>口腔顎顔面補綴学分野</b> Department of Oral and Maxillofacial Prosthodontics and Oral Implantology	<b>永尾 寛</b> NAGAO Kan
<b>口腔インプラントセンター</b> Oral Implant Center	<b>友竹 偉則</b> TOMOTAKE Yoritoki
<b>口腔内科</b> Oral Medicine	<b>青田 桂子</b> AOTA Keiko
<b>輸血・細胞治療部</b> Transfusion Medicine and Cell Therapy	<b>三木 浩和</b> MIKI Hirokazu

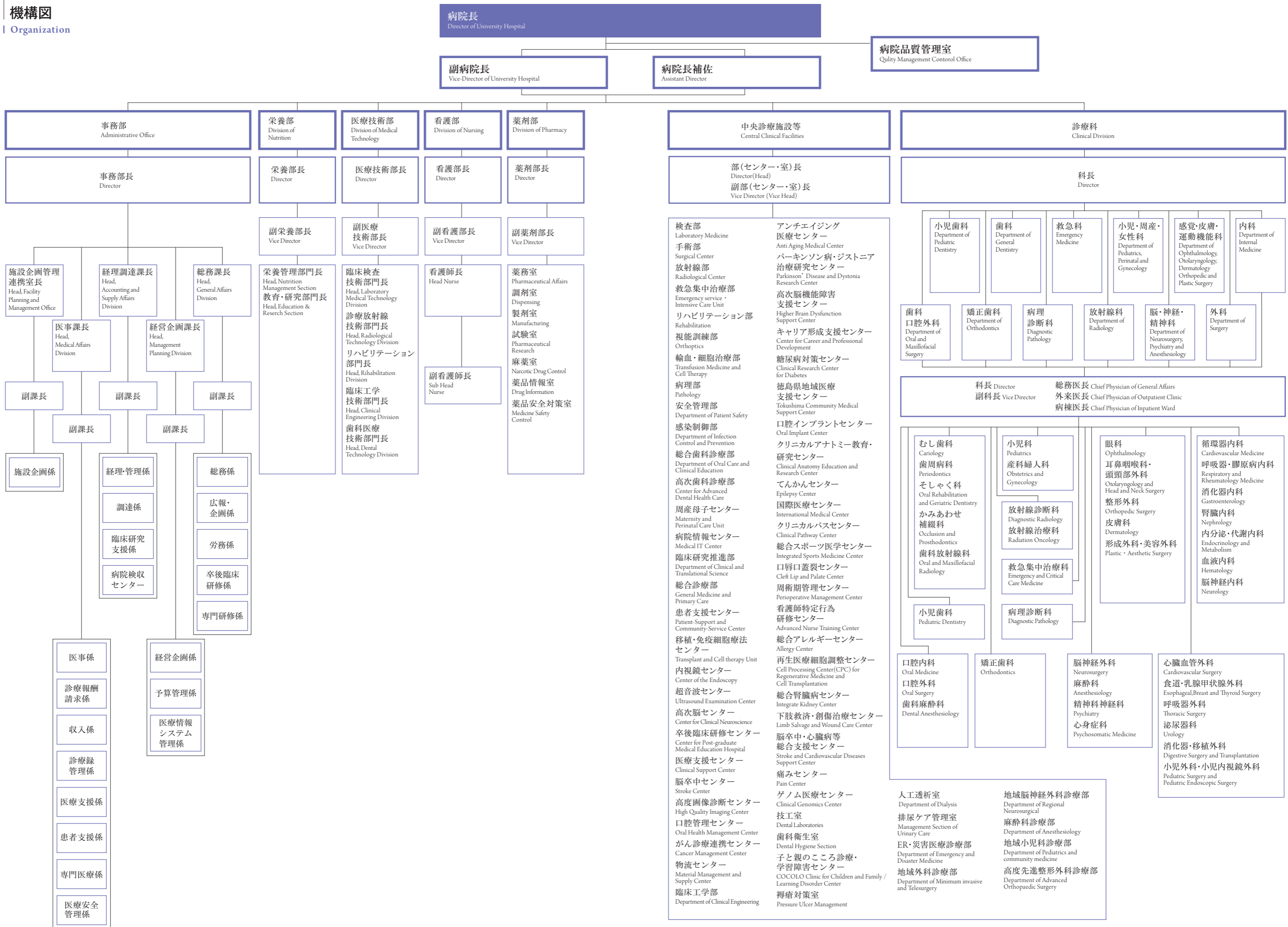
<b>看護部</b> Division of Nursing	<b>看護部長</b> Director
<b>看護部</b> Division of Nursing	<b>看護部長</b> Director
<b>薬剤部</b> Division of Pharmacy	<b>薬剤部長</b> Director
<b>薬剤部</b> Division of Pharmacy	<b>薬剤部長</b> Director

## 現員

<b>Present Members</b>							
区分 Classification	病院		大学院医歯薬学研究部				
	医科診療部門	歯科診療部門	医学系	歯学系	保健学科系(口腔保健学系含む)	栄養学系	
教授 Professor	※	10	0	45	19	26	8
准教授 Associate Professor	※	7	1	31	10	11	1
講師 Lecture	※	35	12	27	8	8	4
助教 Assistant Professor	※	101	16	59	37	19	10
医員 Medical Staff		122	19	—	—	—	—
医員(修練歯科医) Training the Dental Staff		—	6	—	—	—	—
医員(研修医) Training the Medical Staff		15	20	—	—	—	—
診療支援医師 Clinical Doctor		47	37	—	—	—	—
看護職員 Nurse,etc.		800		—	—	—	—
薬剤師 Pharmacist		49		—	—	—	—
管理栄養士 Registered Dietitian		13		—	—	—	—
医療技術職員 Medical Technician		196		—	—	—	—
事務職員等 Administrative Staff,etc.		274		—	—	—	—
計 Total		1,780		162	74	64	23

※特任教員を内数で含む

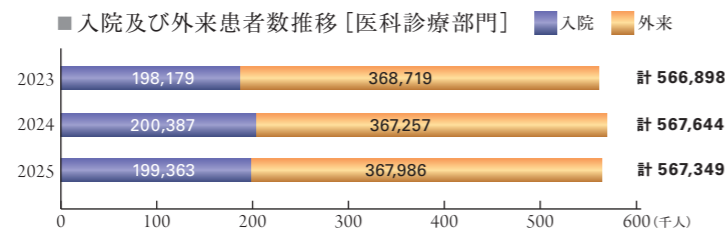
令和8年4月1日作成



1 診療科別入院及び外来患者数 Number of Patients in Each Clinical Division

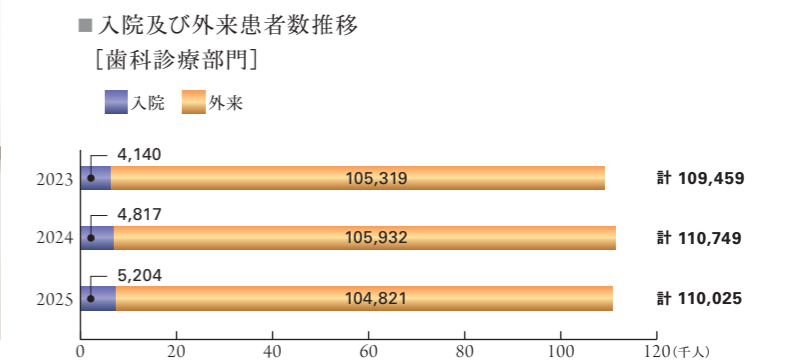
■ 医科診療部門 Medical Division

区分 Classification	病床数 Number of Beds	入院 Inpatients		外来 Outpatients	
		患者延数 Total patients	1日平均患者数 Per Day	患者延数 Total patients	1日平均患者数 Per Day
循環器内科 Cardiovascular Medicine	675	9,097	24.9	17,062	70.5
呼吸器・膠原病内科 Respiratory Medicine and Rheumatology		12,986	35.6	24,945	103.1
消化器内科 Gastroenterology and Oncology		13,284	36.4	21,294	88.0
腎臓内科 Nephrology		3,700	10.1	7,950	32.9
内分泌・代謝内科 Endocrinology and Metabolism		2,212	6.1	15,461	63.9
血液内科 Hematology		9,930	27.2	8,430	34.8
脳神経内科 Neurology		6,076	16.6	17,670	73.0
精神科神経科・心身症科 Psychiatry・Psychosomatic Medicine		9,451	25.9	21,121	87.3
小児科 Pediatrics		13,335	36.5	18,465	76.3
消化器・移植外科 Digestive Surgery and Transplantation		19,104	52.3	15,254	63.0
小児外科・小児内視鏡外科 Pediatric Surgery and Pediatric Endoscopic Surgery		1,076	2.9	2,213	9.1
食道・乳腺甲状腺外科 Esophageal, Breast and Thyroid Surgery		10,006	27.4	15,471	63.9
呼吸器外科 Thoracic Surgery		3,869	10.6	3,573	14.8
整形外科 Orthopedic Surgery		14,600	40.0	15,734	65.0
脳神経外科 Neurosurgery		14,741	40.4	9,787	40.4
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery		4,887	13.4	2,981	12.3
皮膚科 Dermatology		1,954	5.4	14,947	61.8
泌尿器科 Urology		9,438	25.9	16,036	66.3
眼科 Ophthalmology		6,572	18.0	16,866	69.7
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 Otolaryngology and Head and Neck Surgery		8,632	23.6	14,649	60.5
放射線診断科 Diagnostic Radiology		76	0.2	31,017	128.2
放射線治療科 Radiation Oncology		494	1.4	9,244	38.2
産科婦人科 Obstetrics and Gynecology		19,108	52.4	33,759	139.5
麻酔科 Anesthesiology		2	—	4,853	20.1
形成外科・美容外科 Plastic and Aesthetic Surgery		4,721	12.9	8,495	35.1
救急科		2	—	3	0.0
リハビリテーション科		—	—	223	0.9
総合診療部		—	—	483	2.0
* 共通		—	—	—	—
感染症病棟 Infection Disease Ward		(各科患者数に含む)	—	—	—
RI病棟 RI ward		〃	—	—	—
ICU	〃	—	—	—	
MFICU	〃	—	—	—	
NICU	〃	—	—	—	
GCU	〃	—	—	—	
その他 Others	〃	—	—	—	
小計-① Total-1	675	199,353	546.1	367,986	1,520.6



■ 歯科診療部門 Dental Division

区分 Classification	病床数 Number of Beds	入院 Inpatients		外来 Outpatients	
		患者延数 Total patients	1日平均患者数 Per Day	患者延数 Total patients	1日平均患者数 Per Day
歯科 General Dentistry	17	—	—	7,149	29.5
むし歯科 Conservative Dentistry		—	—	8,252	34.1
歯周病科 Periodontology and Endodontology		—	—	5,293	21.9
そしゃく科 Removable Prosthodontics		—	—	5,593	23.1
かみあわせ補綴科 Fixed Prosthodontics		—	—	2,242	9.3
歯科放射線科 Oral and Maxillofacial Radiology		—	—	5,323	22.0
歯科総合臨床研究センター		—	—	—	—
矯正歯科 Orthodontics		—	—	11,045	45.6
小児歯科 Pediatric Dentistry		—	—	7,714	31.9
歯科口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery		—	—	—	—
口腔内科 Oral Medicine		1,472	4.0	20,306	83.9
口腔外科 Oral Surgery		3,732	10.2	13,732	56.7
歯科麻酔科 Dental Anesthesiology		—	—	1,594	6.6
総合歯科診療部 Department of Oral Care and Clinical Education		—	—	10,458	43.2
高次歯科診療部 Center for Advanced Dental Health Care		—	—	—	—
障害者歯科 Clinic for Challenged		—	—	1,075	4.4
顎関節症外来 Clinic for Temporomandibular Disorders		—	—	858	3.5
口臭外来 Clinic for Breath Odor		—	—	83	0.3
歯周病専門外来 Clinic of Periodontal Surgery		—	—	37	0.2
歯科用金属アレルギー外来 Clinic for Dental Metal Allergy		—	—	243	1.0
小児摂食・嚥下機能発達外来 Clinic of Dysphagia Habilitation for Children		—	—	93	0.4
歯科衛生室 Dental Hygiene Section	—	—	679	2.8	
口腔インプラントセンター Oral Implant Center	—	—	3,052	12.6	
小計-② Total-2	17	5,204	14.2	104,821	433.0
①+② 合計 Total	692	204,557	560.3	472,807	1,953.6

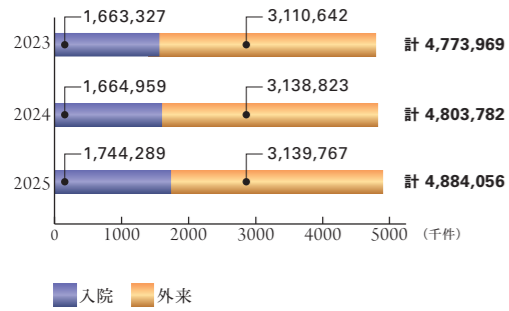


## 検査件数等

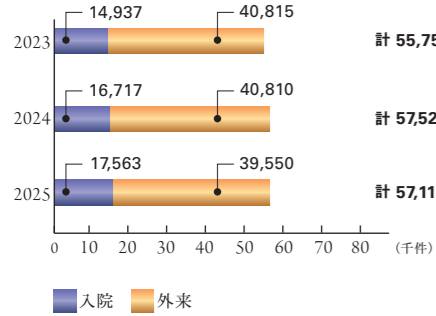
### Number of Laboratory Tests

令和7年度 [2025]

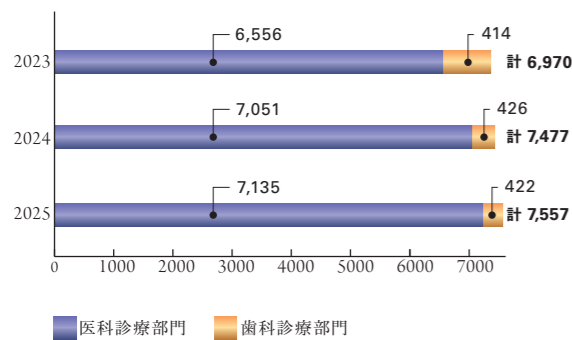
#### ■ 臨床検査件数推移 [医科診療部門]



#### ■ 臨床検査件数推移 [歯科診療部門]



## 2 手術件数 Number of Surgery Cases



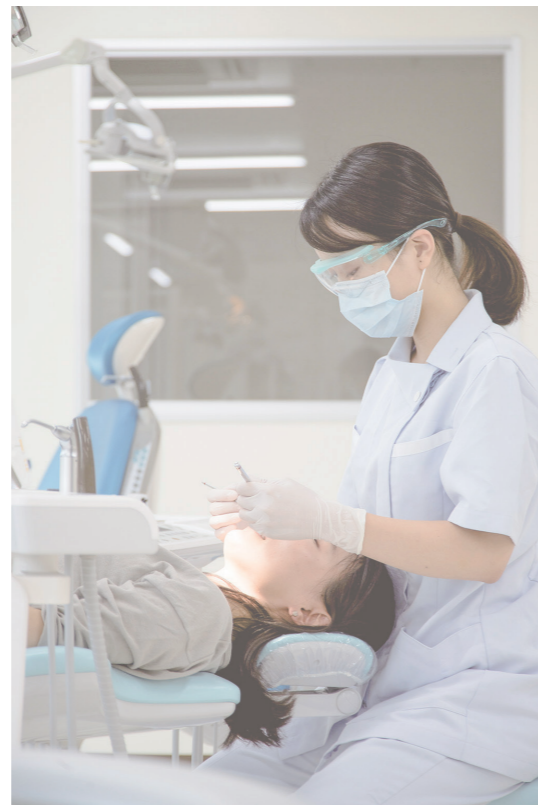
## 1 臨床検査件数 Number of Clinical Laboratory Tests

### ■ 医科診療部門 Medical Division

区分 Classification	入院 Inpatients	外来 Outpatients	合計 Total
一般検査 General Laboratory	21,398	97,778	119,176
血液学的検査 Hematology	198,151	376,032	574,183
生化学的検査 Clinical Chemistry	946,596	1,604,143	2,550,739
内分泌学的検査 Endocrinology	20,320	84,833	105,153
免疫学的検査 Serology	120,086	345,070	465,156
微生物学的検査 Bacteriology	17,181	12,598	29,779
病理学的検査 Surgical Pathology	19,242	19,196	38,438
その他検体検査 Others	165,022	334,608	499,630
生理機能検査 Physiology	228,193	142,651	370,844
採血・採液等 Blood Fluid Collection	6,445	114,198	120,643
内視鏡検査 Endoscopy	1,655	8,660	10,315
小計-① Total-1	1,744,289	3,139,767	4,884,056

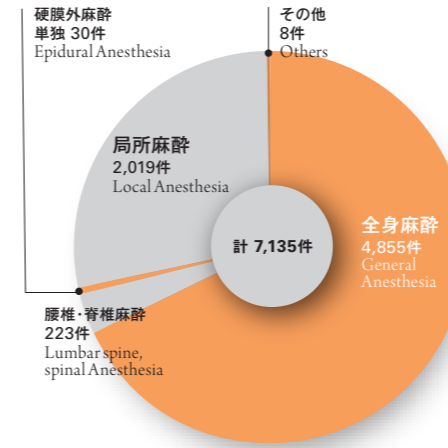
### ■ 歯科診療部門 Dental Division

区分 Classification	入院 Inpatients	外来 Outpatients	合計 Total
一般検査 General Laboratory	15	1,185	1,200
血液学的検査 Hematology	1,303	4,170	5,473
生化学的検査 Clinical Chemistry	9,433	16,825	26,258
内分泌学的検査 Endocrinology	2	17	19
免疫学的検査 Serology	803	6,643	7,446
微生物学的検査 Bacteriology	69	2,090	2,159
病理学的検査 Surgical Pathology	257	512	769
その他検体検査 Others	4,139	2	4,141
生理機能検査 Physiology	1,499	6,508	8,007
採血・採液等 Blood Fluid Collection	43	1,598	1,641
内視鏡検査	—	—	—
小計-② Total-2	17,563	39,550	57,113
①+② 合計 Total	1,761,852	3,179,317	4,941,169

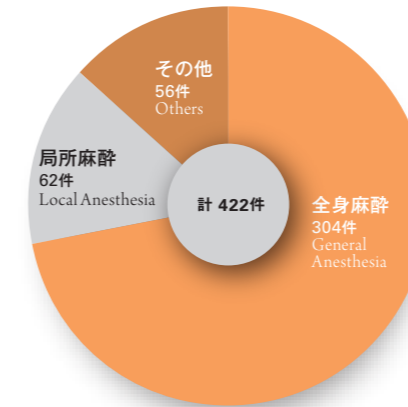


## 3 麻酔件数 Number of Anesthetic Cases

### ■ 医科診療部門 Medical Division



### ■ 歯科診療部門 Dental Division



## 4 X線撮影及び透視件数 Number of X-ray, Photographs and Fluoroscopy

### ■ 医科診療部門 Medical Division

区分 Classification	入院 Inpatients	外来 Outpatients	合計 Total
X線撮影 Radiography	19,340	36,838	56,178
X線透視 Contrast Radiography	1,329	1,357	2,686
血管造影 Angiography	1,622	458	2,080
CT検査 CT	7,673	23,417	31,090
MRI検査 MRI	1,761	7,344	9,105
核医学検査(インビボ) RI (in vivo)	434	957	1,391
PET-CT	11	3,111	3,122
放射線治療 Radiotherapy	7,017	6,721	13,738
治療計画※ Radiotherapy planning	444	610	1,054
小計-① Total-1	39,631	80,813	120,444

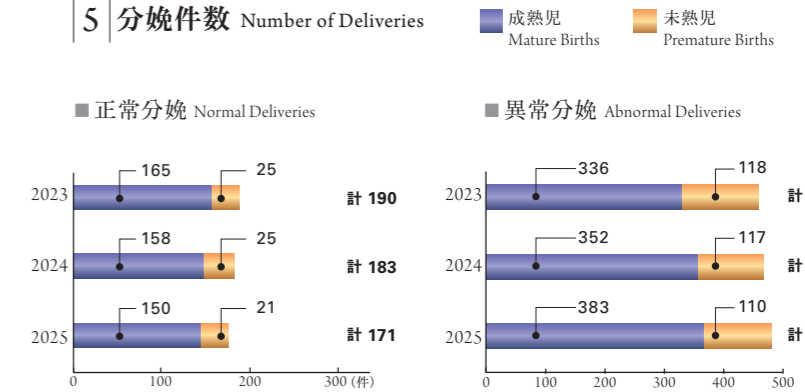
※放射線治療管理料を算定した患者数である。

### ■ 歯科診療部門 Dental Division

区分 Classification	入院 Inpatients	外来 Outpatients	合計 Total
X線撮影 Radiography	1,035	17,259	18,294
3DX-CT	17	1,292	1,309
MRI検査※ MRI	1	20	21
小計-② Total-2	1,053	18,571	19,624
①+② 合計 Total	40,684	99,384	140,068

(令和7年度、令和7年4月1日～令和8年3月31日)

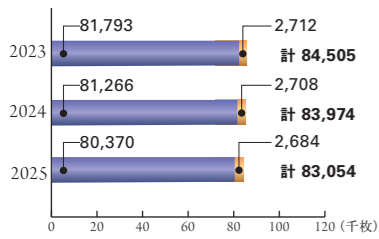
## 5 分娩件数 Number of Deliveries



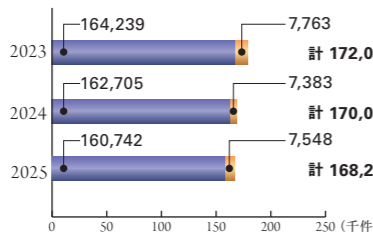
## 6 処方箋枚数・件数・剤数 Number of Prescriptions

■ 入院 Inpatients ■ 外来 Outpatients

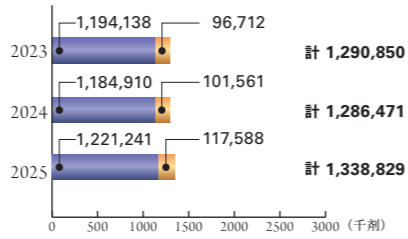
■ 処方箋枚数 [医科診療部門]  
Prescriptions [Medical Division]



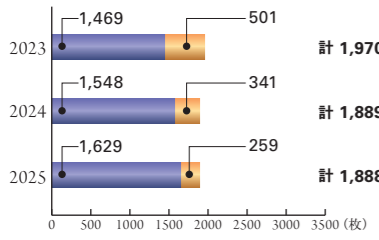
■ 処方箋件数 [医科診療部門]  
Cases [Medical Division]



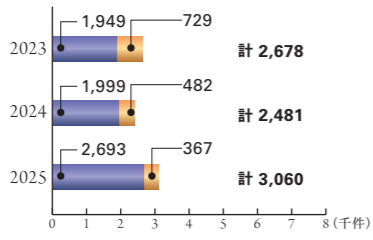
■ 薬剤数 [医科診療部門]  
Medicines [Medical Division]



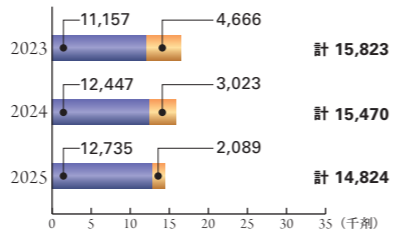
■ 処方箋枚数 [歯科診療部門]  
Prescriptions [Dental Division]



■ 処方箋件数 [歯科診療部門]  
Cases [Dental Division]



■ 薬剤数 [歯科診療部門]  
Medicines [Dental Division]



## 7 技工件数 Number of Dental Crafts

■ 歯科診療部門 Dental Division

区分 Classification	件数 Number	区分 Classification	件数 Number
インレー、アンレー、根面キャップ Inlay, Onlay, Coping 内:オールセラミック、ジルコニア、CAD/CAM All Ceramic, Zirconia, CAD/CAM	119	顎顔面補綴装置 Maxillofacial Prosthesis 内:インプラントを含む症例 Cases include Implant	9
支台築造(メタルコア、ファイバーコアなど) Foundation restoration (Metal Core, Fiber Core etc.)	92	咬合誘導装置・矯正装置 Occlusion Guiding Appliance, Orthodontic Appliance	599
全部被覆冠 Complete Crown 内:オールセラミック、ジルコニア、CAD/CAM All Ceramic, Zirconia, CAD/CAM	429	オーラルアプライアンス(スプリント、ナイトガード、スポーツ用マウスプロテクター、アブネア装置など) Oral Appliance (Splint, Night Guard, Sports Mouse Protector, Oral Appliance for Sleep Apnea Syndrome etc.)	279
ブリッジ Bridge 内:オールセラミック、ジルコニア、CAD/CAM All Ceramic, Zirconia, CAD/CAM	279	その他技工(補綴装置、矯正装置修理など) the Others (Repair etc.)	402
インプラント上部構造 Implant Superstructure 内:オールセラミック、ジルコニア、CAD/CAM All Ceramic, Zirconia, CAD/CAM	143	診断、手術用技工(診断用・外科用ステント、挿管用マウスプロテクター、診断用石膏模型、3Dプリンター出力) Appliance for Diagnosis and/or Surgery (Stent, Mouse Protector, Plaster Model for Diagnosis, 3D Print)	4,411
PD Partial Denture 内:ジルコニア床、アタッチメントなどの特殊床 Special Denture Base (Zirconia Denture Base, Attachment etc.)	310	内:ラビッドマニファクチャリング等(3Dプリンター出力など) Rapid Manufacture (3D Print etc.)	144
FD Complete Denture 内:ジルコニア床、アタッチメントなどの特殊床 Special Denture Base (Zirconia Denture Base, Attachment etc.)	101	内:医科部門依頼の技工 Order from Medical departments	18
小計-① Total-1	1,473	小計-② Total-2	5,700
		①+② 合計 Total	7,173

## 8 病理解剖件数 Number of Pathological Anatomy

■ 医科診療部門 Medical Division

区分 Classification	死亡患者数 Hospital deaths	解剖体数 Number of Autopsies	剖検率 Percentage
小計-① Total-1	158	10	6.3%

■ 歯科診療部門 Dental Division

区分 Classification	死亡患者数 Hospital deaths	解剖体数 Number of Autopsies	剖検率 Percentage
小計-② Total-2	1	0	0%
①+② 合計 Total	159	10	6.3%

## 医療機関の承認・指定状況

### Medical Institution Certification

#### 1 病院開設承認等

Medical Institution Designations	承認年月日
病院開設承認	昭和18年4月1日 Apr.1.1943
総合病院の名称使用承認	昭和32年8月1日 Aug.1.1957
医療法による特定機能病院の名称承認	平成6年8月1日 Aug.1.1994

#### 2 法令による医療機関の指定等

Designations by Laws and Ordinances	指定等の年月日
特定承認保険医療機関	昭和62年8月1日 Aug.1.1987
戦傷病者特別援護法による医療機関	平成4年8月1日(※) Aug.1.1992
労働者災害補償保険法による医療機関	昭和28年1月1日 Jan.1.1953
障害者自立支援法(育成医療)による医療機関	昭和29年4月1日 Apr.1.1954
障害者自立支援法(更生医療)による医療機関	昭和54年7月1日(※) Jul.1.1979
障害者自立支援法(原爆援護法)による医療機関	昭和29年4月1日 Apr.1.1954
障害者自立支援法による医療機関	昭和54年7月1日(※) Jul.1.1979
性病予防法による医療機関	昭和42年10月11日 Oct.11.1967
母子保健法による医療機関	昭和46年2月1日 Feb.1.1971
地方公務員災害補償法による医療機関	昭和36年11月28日 Nov.28.1961
生活保護法による医療機関	昭和48年12月1日 Dec.1.1973
国家公務員災害補償法による医療機関	昭和51年11月1日 Nov.1.1976
消防法による救急医療(救急病院)	昭和54年5月10日 May.10.1979
第一種感染症指定医療機関	昭和58年10月1日 Oct.1.1983
	平成21年9月20日 Sep.20.2009

※印は歯科診療部門の指定年月日

#### 3 その他の承認状況

Other Recognized Approvals	指定等の年月日
基本診療科の施設基準	令和8年4月1日現在
医療DX推進体制整備加算	令和7年8月1日 Aug.1.2025
地域歯科診療支援病院 歯科初診料	平成22年4月1日 Apr.1.2010
歯科外来診療医療安全対策加算2	令和6年6月1日 Jun.1.2024
歯科外来診療感染対策加算4	令和6年6月1日 Jun.1.2024
歯科診療特別対応連携加算	令和4年4月1日 Apr.1.2022
特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1入院基本料) 精神病棟(10対1入院基本料)	平成28年9月1日 Sep.1.2016
救急医療管理加算	平成22年7月1日 Jul.1.2010
超急性期脳卒中加算	平成20年4月1日 Apr.1.2008
診療録管理体制加算1	令和6年6月1日 Jun.1.2024
医師事務作業補助体制加算2	令和4年4月1日 Apr.1.2022
急性期看護補助体制加算	平成25年6月1日 Jun.1.2013
看護職員夜間配置加算	平成29年8月1日 Aug.1.2017
療養環境加算	平成15年10月1日 Oct.1.2003
重症者等療養環境特別加算	平成15年10月1日 Oct.1.2003
無菌治療室管理加算1	平成25年12月1日 Dec.1.2013
無菌治療室管理加算2	平成24年4月1日 Apr.1.2012
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	令和4年4月1日 Apr.1.2022
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	令和4年4月1日 Apr.1.2022
緩和ケア診療加算	平成25年2月1日 Feb.1.2013
小児緩和ケア診療加算	令和6年7月1日 Jul.1.2024
精神科身体合併症管理加算	平成21年3月1日 Mar.1.2009
精神科リエゾンチーム加算	令和4年7月1日 Jul.1.2022
摂食障害入院医療管理加算	平成22年4月1日 Apr.1.2010
栄養サポートチーム加算	平成23年4月1日 Apr.1.2011
医療安全対策加算1	平成20年4月1日 Apr.1.2008
法令等の名称	指定等の年月日
特掲診療科の施設基準	法令等の名称
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	令和4年1月1日 Jan.1.2022
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	令和4年4月1日 Apr.1.2022
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	令和2年4月1日 Apr.1.2020

法令等の名称	指定等の年月日
感染対策向上加算1	令和4年4月1日 Apr.1.2022
患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日 Apr.1.2012
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成19年6月1日 Jun.1.2007
ハイリスク妊娠管理加算	平成20年4月1日 Apr.1.2008
ハイリスク分娩等管理加算	平成20年4月1日 Apr.1.2008
術後疼痛管理チーム加算	令和5年5月1日 May.1.2023
後発医薬品使用体制加算1	令和7年10月1日 Oct.1.2025
病棟薬剤業務実施加算1	令和4年10月1日 Oct.1.2022
病棟薬剤業務実施加算2	令和3年5月1日 May.1.2021
データ提出加算	平成24年10月1日 Oct.1.2012
入退院支援加算	平成22年4月1日 Apr.1.2010
認知症ケア加算【加算2】	令和5年1月1日 Jan.1.2023
せん妄ハイリスク患者ケア加算	令和2年11月1日 Nov.1.2020
精神疾患診療体制加算	平成28年4月1日 Apr.1.2016
排尿自立支援加算	平成30年3月1日 Mar.1.2018
地域医療体制確保加算	令和4年11月1日 Nov.1.2022
地域歯科診療支援病院 入院加算	平成20年4月1日 Apr.1.2008
特定集中治療室管理料2	平成28年9月1日 Sep.1.2016
ハイクアユニット入院医療管理料1	平成30年1月1日 Jan.1.2018
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	平成18年11月1日 Nov.1.2006
新生児特定集中治療室管理料2	令和6年6月1日 Jun.1.2024
総合周産期特定集中治療室 1母体・胎児集中治療室管理料	令和6年6月1日 Jun.1.2024
新生児治療回復室入院医療管理料	平成22年8月1日 Aug.1.2010
一類感染症患者入院医療管理料	平成21年11月1日 Nov.1.2009
小児入院医療管理料2	平成22年7月1日 Jul.1.2010
短期滞在手術等基本料1	平成12年4月1日 Apr.1.2000
法令等の名称	指定等の年月日
糖尿病合併症管理料	令和8年1月1日 Jan.1.2026
がん性疼痛緩和指導管理料	平成25年2月1日 Feb.1.2013
がん患者指導管理料ハ	平成27年10月1日 Oct.1.2015
がん患者指導管理料ニ	令和2年4月1日 Apr.1.2020

法令等の名称	指定等の年月日
外来緩和ケア管理料	平成26年10月1日 Oct.1.2014
移植後患者指導管理料 (臓器移植後)	平成25年2月1日 Feb.1.2013
移植後患者指導管理料 (造血幹細胞移植後)	平成28年11月1日 Nov.1.2016
糖尿病透析予防指導管理料	令和7年7月1日 Jul.1.2025
小児運動器疾患指導管理料	平成30年7月1日 Jul.1.2018
婦人科特定疾患治療管理料	令和2年4月1日 Apr.1.2020
腎代替療法指導管理料	令和2年6月1日 Jun.1.2020
一般不妊治療管理料	令和4年4月1日 Apr.1.2022
生殖補助医療管理料1	令和4年4月1日 Apr.1.2022
下肢創傷処置管理料	令和4年9月1日 Sep.1.2022
外来放射線照射診療料	平成24年4月1日 Apr.1.2012
外来腫瘍化学療法診療料1	令和4年4月1日 Apr.1.2022
連携充実加算	令和4年4月1日 Apr.1.2022
ニコチン依存症管理料	平成29年5月1日 May.1.2017
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	令和2年4月1日 Apr.1.2020
がん治療連携計画策定料	平成22年4月1日 Apr.1.2010
外来排尿自立指導料	平成30年3月1日 Mar.1.2018
ハイリスク妊産婦連携指導料1	平成30年8月1日 Aug.1.2018
ハイリスク妊産婦連携指導料2	平成30年4月1日 Apr.1.2018
肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年4月1日 Apr.1.2010
こころの連携指導料(Ⅱ)	令和4年4月1日 Apr.1.2022
薬剤管理指導料	平成22年6月1日 Jun.1.2010
医療機器安全管理料1	平成20年4月1日 Apr.1.2008
医療機器安全管理料2	平成20年4月1日 Apr.1.2008
医療機器安全管理料 (歯科)	平成24年4月1日 Apr.1.2012
歯科治療時医療管理料	平成18年4月1日 Apr.1.2006
在宅患者歯科治療時医療管理料	平成22年4月1日 Apr.1.2010
在宅植込型補助人工心臓 (非拍動流型)指導管理料	令和5年7月1日 Jul.1.2023
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	平成30年11月1日 Nov.1.2018
持続血糖測定器加算(開飲注入 シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	平成22年4月1日 Apr.1.2010
持続血糖測定器加算(開飲注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	令和2年4月1日 Apr.1.2020
遺伝学的検査の注1に規定する施設基準	平成28年4月1日 Apr.1.2016
染色体検査の注2に規定する基準	令和4年4月1日 Apr.1.2022

法令等の名称	指定等の年月日
骨髄微小残存病変量測定	令和元年8月1日 Aug.1.2019
BRCA1/2遺伝子検査	令和4年4月1日 Apr.1.2022
がんゲノムプロファイリング検査	令和4年4月1日 Apr.1.2022
先天性代謝異常症検査	令和2年4月1日 Apr.1.2020
抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	令和4年4月1日 Apr.1.2022
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	平成30年4月1日 Apr.1.2018
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	平成26年4月1日 Apr.1.2014
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	令和2年4月1日 Apr.1.2020
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	令和6年6月1日 Jun.1.2024
検体検査管理加算(Ⅰ)	平成20年4月1日 Apr.1.2008
検体検査管理加算(Ⅳ)	平成22年6月1日 Jun.1.2010
国際標準検査管理加算	平成28年4月1日 Apr.1.2016
遺伝カウンセリング加算	平成20年4月1日 Apr.1.2008
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	令和2年4月1日 Apr.1.2020
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	平成20年4月1日 Apr.1.2008
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	平成24年4月1日 Apr.1.2012
胎児心エコー法	平成22年4月1日 Apr.1.2010
ヘッドアップティルト試験	平成24年4月1日 Apr.1.2012
人工膵臓検査、人工膵臓療法	平成30年6月1日 Jun.1.2018
長期継続頭蓋内脳波検査	平成12年4月1日 Apr.1.2000
長期脳波ビデオ同時記録検査1	平成30年12月1日 Dec.1.2018
単線維筋電図	令和2年4月1日 Apr.1.2020
脳波検査判断料1	平成30年12月1日 Dec.1.2018
神経学的検査	平成20年4月1日 Apr.1.2008
補聴器適合検査	平成12年4月1日 Apr.1.2000
全視野精密網膜電図	令和2年4月1日 Apr.1.2020
ロービジョン検査判断料	平成25年10月1日 Oct.1.2013
小児食物アレルギー負荷検査	平成26年11月1日 Nov.1.2014
内服・点滴誘発試験	平成22年4月1日 Apr.1.2010
経頸静脈的肝生検	令和6年6月1日 Jun.1.2024
CT透視下気管支鏡検査加算	平成24年4月1日 Apr.1.2012
経気管支凍結生検法	令和2年4月1日 Apr.1.2020
口腔細菌定量検査	令和4年4月1日 Apr.1.2022

法令等の名称	指定等の年月日
有床義歯咀嚼機能検査1のイ	平成28年4月1日 Apr.1.2016
有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	平成28年4月1日 Apr.1.2016
有床義歯咀嚼機能検査2のイ	平成30年4月1日 Apr.1.2018
有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	平成30年4月1日 Apr.1.2018
精密触覚機能検査	平成30年6月1日 Jun.1.2018
睡眠時歯科筋電図検査	令和2年4月1日 Apr.1.2020
画像診断管理加算1	平成18年3月1日 Mar.1.2006
歯科画像診断管理加算1	平成15年10月1日 Oct.1.2003
ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	平成18年6月1日 Jun.1.2006
ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	令和6年6月1日 Jun.1.2024
CT撮影及びMRI撮影	平成26年4月1日 Apr.1.2014
冠動脈CT撮影加算	平成24年5月1日 May.1.2012
心臓MRI撮影加算	平成21年2月1日 Feb.1.2009
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日 Apr.1.2010
外来化学療法加算1	平成20年4月1日 Apr.1.2008
無菌製剤処理料	平成20年4月1日 Apr.1.2008
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	平成25年4月1日 Apr.1.2013
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	平成29年6月1日 Jun.1.2017
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成24年4月1日 Apr.1.2012
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成18年4月1日 Apr.1.2006
がん患者リハビリテーション料	平成24年2月1日 Feb.1.2012
歯科口腔リハビリテーション料2	平成26年4月1日 Apr.1.2014
経頭蓋磁気刺激療法	令和4年8月1日 Aug.1.2022
通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	令和4年4月1日 Apr.1.2022
認知療法・認知行動療法1	平成24年4月1日 Apr.1.2012
精神科作業療法	平成15年4月1日 Apr.1.2003
精神科ショート・ケア「小規模なもの」	平成18年4月1日 Apr.1.2006
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	平成24年4月1日 Apr.1.2012
医療保護入院等診療料	平成22年4月1日 Apr.1.2010
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	令和7年4月1日 Apr.1.2025

法令等の名称	指定等の年月日
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	令和7年4月1日 Apr.1.2025
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	令和7年4月1日 Apr.1.2025
静脈圧迫処置 (慢性静脈不全に対するもの)	令和2年9月1日 Sep.1.2020
多血小板血漿処置	令和4年6月1日 Jun.1.2022
硬膜外自家血注入	令和3年8月1日 Aug.1.2021
エタノールの局所注入(甲状腺)	平成18年5月1日 May.1.2006
エタノールの局所注入(副甲状腺)	平成18年5月1日 May.1.2006
人工腎臓	平成30年4月1日 Apr.1.2018
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	令和5年4月1日 Apr.1.2023
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	平成30年3月1日 Mar.1.2018
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	平成30年4月1日 Apr.1.2018
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	令和4年4月1日 Apr.1.2022
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	令和4年4月1日 Apr.1.2022
ストーマ合併症加算	令和6年6月1日 Jun.1.2024
手術用顕微鏡加算	平成28年4月1日 Apr.1.2016
う蝕無痛的窩洞形成加算	平成24年4月1日 Apr.1.2012
歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算光学印象	令和6年6月1日 Jun.1.2024
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	平成26年4月1日 Apr.1.2014
歯科技工加算1及び2	平成22年4月1日 Apr.1.2010
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	平成22年4月1日 Apr.1.2010
自家脂肪注入	令和7年10月1日 Oct.1.2025
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	平成26年4月1日 Apr.1.2014
四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	令和2年4月1日 Apr.1.2020
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	令和6年6月1日 Jun.1.2024
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	平成30年4月1日 Apr.1.2018
椎間板内酵素注入療法	令和2年4月1日 Apr.1.2020
腫瘍脊椎骨全摘術	平成24年4月1日 Apr.1.2012
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	平成28年11月1日 Nov.1.2016
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	平成12年4月1日 Apr.1.2000
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	平成12年4月1日 Apr.1.2000
頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	令和6年3月1日 Mar.1.2024

法令等の名称	指定等の年月日
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	令和4年4月1日 Apr.1.2022
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便通活動膀胱)	平成30年5月1日 May.1.2018
角結膜悪性腫瘍切除手術	令和4年4月1日 Apr.1.2022
角膜移植術(内皮移植加算)	令和5年4月1日 Apr.1.2023
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	平成26年4月1日 Apr.1.2014
緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	令和4年4月1日 Apr.1.2022
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	令和4年4月1日 Apr.1.2022
網膜再建術	平成26年4月1日 Apr.1.2014
経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	令和4年4月1日 Apr.1.2022
人工中耳植込術	平成30年4月1日 Apr.1.2018
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	平成25年9月1日 Sep.1.2013
耳管用補綴材挿入術	令和4年11月1日 Nov.1.2022
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)	平成26年4月1日 Apr.1.2014
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	令和2年6月1日 Jun.1.2020
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和6年1月1日 Jan.1.2024
内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	令和4年4月1日 Apr.1.2022
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	令和2年6月1日 Jun.1.2020
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	平成24年4月1日 Apr.1.2012
顎関節人工関節全置換術(歯科)	令和7年4月1日 Apr.1.2025
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	平成28年4月1日 Apr.1.2016
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	平成30年4月1日 Apr.1.2018
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	令和4年4月1日 Apr.1.2022
乳癌センチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	平成22年4月1日 Apr.1.2010
乳癌センチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	平成22年4月1日 Apr.1.2010
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	平成26年4月1日 Apr.1.2014
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	令和6年6月1日 Jun.1.2024
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和2年4月1日 Apr.1.2020

法令等の名称	指定等の年月日
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成31年2月1日 Feb.1.2019
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成31年2月1日 Feb.1.2019
気管支バルブ留置術	令和6年6月1日 Jun.1.2024
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和6年6月1日 Jun.1.2024
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和元年8月1日 Aug.1.2019
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和元年8月1日 Aug.1.2019
肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	令和6年6月1日 Jun.1.2024
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和6年10月1日 Oct.1.2024
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	令和6年6月1日 Jun.1.2024
胸腔鏡下弁形成術	令和2年6月1日 Jun.1.2020
胸腔鏡下弁置換術	令和2年6月1日 Jun.1.2020
経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)	平成29年2月1日 Feb.1.2017
経カテーテル弁置換術(経皮的肺動脈弁置換術)	令和6年11月1日 Nov.1.2024
経皮的僧帽弁クリップ術	令和5年10月1日 Oct.1.2023
不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	令和4年4月1日 Apr.1.2022
不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	令和5年7月1日 Jul.1.2023
経皮的中隔心筋焼灼術	平成26年6月1日 Jun.1.2014
ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術	平成12年4月1日 Apr.1.2000
ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術(リードレスベースメーカー)	平成30年5月1日 May.1.2018
両心室ベースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ベースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	平成19年4月1日 Apr.1.2007
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	平成18年4月1日 Apr.1.2006
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	平成21年4月1日 Apr.1.2009
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	平成10年4月1日 Apr.1.1998

法令等の名称	指定等の年月日
有床義歯咀嚼機能検査1のイ	平成28年4月1日 Apr.1.2016
有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	平成28年4月1日 Apr.1.2016
有床義歯咀嚼機能検査2のイ	平成30年4月1日 Apr.1.2018
有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	平成30年4月1日 Apr.1.2018
精密触覚機能検査	平成30年6月1日 Jun.1.2018
睡眠時歯科筋電図検査	令和2年4月1日 Apr.1.2020
画像診断管理加算1	平成18年3月1日 Mar.1.2006
歯科画像診断管理加算1	平成15年10月1日 Oct.1.2003
ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	平成18年6月1日 Jun.1.2006
ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	令和6年6月1日 Jun.1.2024
CT撮影及びMRI撮影	平成26年4月1日 Apr.1.2014
冠動脈CT撮影加算	平成24年5月1日 May.1.2012
心臓MRI撮影加算	平成21年2月1日 Feb.1.2009
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日 Apr.1.2010
外来化学療法加算1	平成20年4月1日 Apr.1.2008
無菌製剤処理料	平成20年4月1日 Apr.1.2008
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	平成25年4月1日 Apr.1.2013
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	平成29年6月1日 Jun.1.2017
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成24年4月1日 Apr.1.2012
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成18年4月1日 Apr.1.2006
がん患者リハビリテーション料	平成24年2月1日 Feb.1.2012
歯科口腔リハビリテーション料2	平成26年4月1日 Apr.1.2014
経頭蓋磁気刺激療法	令和4年8月1日 Aug.1.2022
通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算	令和4年4月1日 Apr.1.2022
認知療法・認知行動療法1	平成24年4月1日 Apr.1.2012
精神科作業療法	平成15年4月1日 Apr.1.2003
精神科ショート・ケア「小規模なもの」	平成18年4月1日 Apr.1.2006
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	平成24年4月1日 Apr.1.2012
医療保護入院等診療料	平成22年4月1日 Apr.1.2010
医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	令和7年4月1日 Apr.1.2025

法令等の名称	指定等の年月日
経皮的循環補助法 <p>(ポンプカテーテルを用いたもの)</p>	令和3年5月1日 <p>May.1.2021</p>
補助人工心臓	令和2年6月1日 <p>Jun.1.2020</p>
経皮的下肢動脈形成術	令和2年4月1日 <p>Apr.1.2020</p>
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	令和2年6月1日 <p>Jun.1.2020</p>
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	平成30年9月1日 <p>Sep.1.2018</p>
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	平成30年9月1日 <p>Sep.1.2018</p>
腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	平成30年9月1日 <p>Sep.1.2018</p>
腹腔鏡下胃縮小術	平成30年3月1日 <p>Mar.1.2018</p>
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	平成30年4月1日 <p>Apr.1.2018</p>
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
胆管悪性腫瘍手術(瘰頭十二指腸切除及び肝切除[薬以上]を伴うものに限る。)	平成28年4月1日 <p>Apr.1.2016</p>
腹腔鏡下肝切除術	平成28年4月1日 <p>Apr.1.2016</p>
腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和5年11月1日 <p>Nov.1.2023</p>
生体部分肝移植術	平成11年6月1日 <p>Jun.1.1999</p>
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	平成30年4月1日 <p>Apr.1.2018</p>
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	平成24年4月1日 <p>Apr.1.2012</p>
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和5年11月1日 <p>Nov.1.2023</p>
腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	令和3年8月1日 <p>Aug.1.2021</p>
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術	平成24年4月1日 <p>Apr.1.2012</p>
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和4年12月1日 <p>Dec.1.2022</p>
腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	令和6年7月1日 <p>Jul.1.2024</p>
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成30年9月1日 <p>Sep.1.2018</p>
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	平成28年4月1日 <p>Apr.1.2016</p>
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和2年4月1日 <p>Apr.1.2020</p>
同種死体腎移植術	平成20年4月1日 <p>Apr.1.2008</p>

法令等の名称	指定等の年月日
生体腎移植術	平成20年4月1日 <p>Apr.1.2008</p>
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	平成22年4月1日 <p>Apr.1.2010</p>
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	平成24年4月1日 <p>Apr.1.2012</p>
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成30年4月1日 <p>Apr.1.2018</p>
精巣温存手術	令和6年6月1日 <p>Jun.1.2024</p>
精巣内精子採取術	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	平成19年4月1日 <p>Apr.1.2007</p>
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	平成24年4月1日 <p>Apr.1.2012</p>
腹腔鏡下仙骨腔固定術	令和元年6月1日 <p>Jun.1.2019</p>
腹腔鏡下仙骨腔固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和3年4月1日 <p>Apr.1.2021</p>
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和3年6月1日 <p>Jun.1.2021</p>
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	令和5年11月1日 <p>Nov.1.2023</p>
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	平成26年12月1日 <p>Dec.1.2014</p>
腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
胎児胸腔・羊水腔シャント術	平成26年4月1日 <p>Apr.1.2014</p>
胎児輸血術及び臍帯穿刺	令和2年5月1日 <p>May.1.2020</p>
体外式膜型人工肺管理料	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	令和7年4月1日 <p>Apr.1.2025</p>
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	令和7年4月1日 <p>Apr.1.2025</p>
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	令和7年4月1日 <p>Apr.1.2025</p>
医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	平成26年4月1日 <p>Apr.1.2014</p>
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
輸血管理料1	平成24年8月1日 <p>Aug.1.2012</p>
同種クリオプレシビート作製術	令和2年4月1日 <p>Apr.1.2020</p>
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	令和6年11月1日 <p>Nov.1.2024</p>
胃瘻造設時嚙下機能評価加算	平成26年4月1日 <p>Apr.1.2014</p>
歯周組織再生誘導手術	平成20年9月1日 <p>Sep.1.2008</p>
手術時歯根面レーザー応用加算	平成24年4月1日 <p>Apr.1.2012</p>

法令等の名称	指定等の年月日
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成24年4月1日 <p>Apr.1.2012</p>
歯根端切除手術の注3	平成28年4月1日 <p>Apr.1.2016</p>
レーザー機器加算	平成30年12月1日 <p>Dec.1.2018</p>
麻酔管理料(I)	平成12年4月1日 <p>Apr.1.2000</p>
麻酔管理料(II)	平成22年4月1日 <p>Apr.1.2010</p>
歯科麻酔管理料	令和2年4月1日 <p>Apr.1.2020</p>
放射線治療専任加算	平成12年4月1日 <p>Apr.1.2000</p>
外来放射線治療加算	平成20年4月1日 <p>Apr.1.2008</p>
高エネルギー放射線治療	平成12年4月1日 <p>Apr.1.2000</p>
一回線量増加加算	平成26年4月1日 <p>Apr.1.2014</p>
強度変調放射線治療(IMRT)	平成21年4月1日 <p>Apr.1.2009</p>
画像誘導放射線治療(IGRT)	平成22年4月1日 <p>Apr.1.2010</p>
体外照射呼吸性移動対策加算	平成24年4月1日 <p>Apr.1.2012</p>
定位放射線治療	平成16年4月1日 <p>Apr.1.2004</p>
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	平成29年1月1日 <p>Jan.1.2017</p>
保険医療機関間の連携による病理診断	平成30年5月1日 <p>May.1.2018</p>
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	平成27年6月1日 <p>Jun.1.2015</p>
デジタル病理画像による病理診断	平成30年9月1日 <p>Sep.1.2018</p>
病理診断管理加算2	平成25年11月1日 <p>Nov.1.2013</p>
悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年4月1日 <p>Apr.1.2018</p>
口腔病理診断管理加算2	平成26年4月1日 <p>Apr.1.2014</p>
クラウン・ブリッジ維持管理料	平成15年10月1日 <p>Oct.1.2003</p>
歯科矯正診断料	平成22年4月1日 <p>Apr.1.2010</p>
顎口腔機能診断料(顎変形症[顎離断等の手術を必要とするものに限る。]の手術前後における歯科矯正に係るもの)	平成15年10月1日 <p>Oct.1.2003</p>
看護職員処遇改善評価料(1～165)	令和4年10月1日 <p>Oct.1.2022</p>
外来・在宅ベースアップ評価料(1)	令和6年6月1日 <p>Jun.1.2024</p>
歯科外来・在宅ベースアップ評価料(1)	令和6年6月1日 <p>Jun.1.2024</p>
入院ベースアップ評価料(1～165)	令和6年6月1日 <p>Jun.1.2024</p>

法令等の名称	指定等の年月日
医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	令和4年4月1日 <p>Apr.1.2022</p>
<ul style="list-style-type: none"><li>頭蓋内腫瘍摘出術等</li> <li>黄斑下手術等</li> <li>鼓室形成手術等</li> <li>肺悪性腫瘍手術等</li> <li>経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術</li> <li>靱帯断裂形成手術等</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>水頭症手術等</li> <li>鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等</li> <li>尿道形成手術等</li> <li>角膜移植術</li> <li>肝切除術等</li> <li>子宮付属器悪性腫瘍手術等</li> <li>上顎骨形成術等</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>胸腔鏡又は腹腔鏡を用いる手術</li> <li>人工関節置換術</li> <li>乳児外科施設基準対象手術</li> <li>ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>上顎骨悪性腫瘍手術等</li> <li>バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両薬)</li> <li>母指化手術等</li> <li>内反足手術等</li> <li>食道切除再建術等</li> <li>同種死体腎移植術等</li></ul>

4 先進医療承認状況					令和7年4月1日現在
Far Advanced Medicine Recognized Approvals					
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	消化器・移植外科	第3項先進医療(先進医療B)	アスピリン経口投与療法	消化器内科	第3項先進医療(先進医療B)
反復経頭蓋磁気刺激療法	精神科神経科	第3項先進医療(先進医療B)	着床前胚異数性検査2	産科婦人科	第3項先進医療(先進医療B)
抗ネオオセルフβ2グリオブロテイン1複合体抗体検査	産科婦人科	第2項先進医療(先進医療A)			

政策医療等の対応状況					
Correspondence for Medical Policy					
政策医療等名称	承認等年月日				
脳死下における臓器移植実施施設(腎臓)	平成8年5月27日 <p>May.27.1996</p>				
徳島県リハビリテーション支援センター	平成15年10月1日 <p>Oct.1.2003</p>				
総合周産期母子医療センター	平成16年12月15日 <p>Dec.15.2004</p>				
徳島県高次脳機能障害支援拠点機関	平成19年6月21日 <p>Jun.21.2007</p>				
災害・事故等における医療救護活動の地域の中核的病院	平成19年7月10日 <p>Jul.10.2007</p>				
エイズ治療の中核拠点病院	平成20年6月13日 <p>Jun.13.2008</p>				
徳島県肝疾患診療連携拠点病院	平成20年7月28日 <p>Jul.28.2008</p>				
都道府県がん診療連携拠点病院	平成22年3月3日 <p>Mar.3.2010</p>				
徳島県災害拠点病院	平成24年3月30日 <p>Mar.30.2012</p>				
徳島県難病診療連携拠点病院	平成30年4月1日 <p>Apr.1.2018</p>				
徳島県てんかん診療拠点機関	平成30年11月12日 <p>Nov.12.2018</p>				
徳島県アレルギー疾患医療拠点病院	平成31年1月29日 <p>Jan.29.2019</p>				

看護師特定行為研修センター					
脳卒中・心臓病等総合支援センター	令和2年2月26日 <p>Feb.26.2020</p>				
	令和4年6月8日 <p>Jun.8.2022</p>				

土地・建物データ					
Campus and Buildings					令和8年4月1日現在
土地				面積(m <sup>2</sup> )	
					73,107
建物					
団地名	棟名称	構造	地上階	建築面積(m <sup>2</sup> )	延面積(m <sup>2</sup> )
蔵本	西外来診療棟	R	3	120	360
	西外来診療棟	R	5	224	1,210
	園舎	W	1	42	30
	医学臨床A棟・西外来診療棟	SR	8	1,864	10,021
	西外来診療棟	RS	3	490	822
	保健学C棟・西外来診療棟	R	2	1,678	2,835
	特高受電室	R	2	595	806
	ポンプ室	B	1	48	48
	歯学部校舎	S	6	4,666	22,243
	維持管理センター	R	3	839	1,300
	医学臨床B棟	SR	8	1,362	10,093
	東病棟	SR	8	4,246	18,423
	中央診療棟	R	5	5,285	17,541
	廃棄物集積場	S	1	510	510
	西病棟	SR	11	2,112	19,098
	サイクロトン棟	R	2	145	284
	SPDセンター棟	S	1	277	277
	園舎	S	1	220	206
	外来診療棟	S	5	4,682	19,200
	総合研究棟	R	4	358	1,359
	立体駐車場(東)	S	2	1,441	2,858
	立体駐車場(北)	S	2	2,867	5,666
	駐車整理部事務所	S	2	84	143
	駐車整理部倉庫	S	1	12	12
	医歯薬学共同利用棟	S	3	1,000	2,524
	宿舍棟	S	4	941	2,921
	災害・感染症トリアージ棟	R	2	231	418
	合計			36,339	141,208

- |                             |                      |
|-----------------------------|----------------------|
| 23 循環器内科<br>呼吸器・膠原病内科       | 38 小児科<br>産科婦人科      |
| 24 消化器内科<br>腎臓内科            | 39 スタッパー<br>放射線診断科   |
| 25 内分泌・代謝内科<br>血液内科         | 40 放射線治療科<br>救急集中治療科 |
| 26 脳神経内科<br>スタッパー           | 41 病理診断科<br>スタッパー    |
| 27 スタッパー                    | 42 むし歯科<br>歯周病科      |
| 28 心臓血管外科<br>食道・乳腺甲状腺外科     | 43 そしゃく科<br>かみあわせ補綴科 |
| 29 呼吸器外科<br>泌尿器科            | 44 歯科放射線科<br>矯正歯科    |
| 30 消化器・移植外科<br>小児外科・小児内視鏡外科 | 45 小児歯科<br>口腔内科      |
| 31 スタッパー                    | 46 口腔外科<br>歯科麻酔科     |
| 32 眼科<br>耳鼻咽喉科・頭頸部外科        | 47 スタッパー             |
| 33 整形外科<br>皮膚科              | 48 スタッパー             |
| 34 形成外科・美容外科<br>スタッパー       |                      |
| 35 スタッパー<br>脳神経外科           |                      |
| 36 麻酔科<br>精神科神経科・心身症科       |                      |
| 37 スタッパー                    |                      |

心臓病、血管病、高血圧などの全ての循環器疾患に対し、専門的かつ最新の検査・治療を行うとともに、特定機能病院として倫理委員会承認済臨床研究ならびに高度先進医療に取り組んでいます。

## 診療体制

外来は木曜日を除き毎日3～4名が診療を担当しています。救急症例に関しては、救急集中治療部との連携によりスムーズな受け入れを行っています。入院症例については、1人の患者さんに対し主治医と指導医が協力して診療に当たりその人にとって最適の治療を行っています。

## 治療方針

毎週木曜日には循環器内科病棟症例検討会にてすべての入院症例の問題点を全員で相談し治療方針を決定しています。また、特に複雑な症例に関しては、関係している他科との合同症例検討会を適宜行っています。

## 得意分野・主な検査

各種心臓超音波(経胸壁心エコー、経食道心エコー、血管エコーなど)、負荷心電図、心臓CT・MRI、心筋シンチ、心臓電気生理検査、心臓カテーテル検査などの各種検査を幅広く行い、専門治療として冠動脈形成術、急性冠症候群の救急治療、カテーテルアブレーション、ペースメーカー・植込み型除細動器(ICD)植え込み、心臓再同期療法、心臓リハビリテーション、末梢閉塞性動脈疾患に対する幹細胞移植による血管新生治療、遺伝子治療、大動脈狭窄症に対するTAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)など最先端の治療を行っています。

対象疾患:虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症など)、不整脈(心房細動・

粗動、心室頻拍、上室性頻拍、房室ブロック、洞不全症候群など)、急性並びに慢性心不全、高血圧(本態性高血圧、二次性高血圧)、心筋症(肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症など)、心臓弁膜症、心筋炎・心膜炎、感染性心内膜炎、肺動脈疾患(肺高血圧、肺塞栓症など)、末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症など)などすべての循環器疾患を対象としています。



呼吸器・膠原病内科は、肺がん、間質性肺疾患、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、睡眠時無呼吸症候群等の呼吸器疾患と、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス等の膠原病の診療を担当しています。最先端の診断技術による早期診断から高度先進医療まで、患者さんサイドに立った視点から、チームワークを基本とした診療を進めています。また、アレルギー疾患県民公開講座、膠原病・リウマチ県民講座等の啓発活動にも力を入れています。

## 診療体制

■**外来:**月、火、木、金の週4日、計3-4名の医師が診療に当たっています。(専門外来)化学療法外来(月、木、金)、禁煙外来(金)、睡眠時無呼吸外来(金)

■**病棟:**担当医を中心に数名の医師がチームになって診療に当たっています。毎週月曜日には、新規に入院した患者さんについて、水曜日には入院患者さん全員の経過について呼吸器・膠原病内科全体で検討し治療方針を決定しています。

## 治療方針

各種呼吸器疾患、関節リウマチ・膠原病についてガイドラインに基づいた適切な診療を行っています。肺がんのように、内科的治療以外に手術や放射線治療が必要な患者さんについては、呼吸器外科、放射線科医師と週一回合同カンファレンスを行い、より良い治療を目指し方針を決めています。また、肺がんや間質性肺炎の国際共同治験に積極的に参加し、最先端の医療を提供できるよう努めています。

## 得意分野

呼吸器疾患全般、リウマチ・膠原病全般

## 対象疾患

呼吸器疾患全般(肺がん、間質性肺疾患、気管支喘息、肺炎、COPD、睡眠時無呼吸症候群等)、膠原病全般(関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、強皮症、血管炎等)が対象疾患になります。

## 主な検査

- 気管支鏡検査(超音波気管支鏡、蛍光気管支鏡を含む)、呼吸機能検査、アストグラフ・呼気NO測定(気管支喘息の診断)、ポリソムノグラフィー(睡眠時無呼吸症候群の診断)
- 関節超音波検査(関節リウマチの診断・経過観察)



## 消化器内科

食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌などの消化器癌をはじめ、炎症性腸疾患、肝炎、膵炎、胆石などの消化器全般の診療を行っています。また、県内及び県外の多数の関連病院と人的交流を行いながら、幅広い地域診療も行っていきます。

### 診療体制

最先端の診療技術による早期診断から最新の手技・薬剤を用いた治療に至るまで、患者さんとのコミュニケーションを重視し、地域の医療機関とも連携した診療を進めていきます。

### 治療方針

胃癌をはじめとする早期消化管癌に対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術を積極的に行っており、バルーン拡張術、ステント留置術、アルゴンプラズマ凝固療法など多様な内視鏡的治療も行っています。一方、進行消化器癌に対する薬物療法では、新しい抗癌剤や分子標的治療薬を組み合わせた最新の治療を導入しています。また、肝炎に対する最新の抗ウイルス薬などによる発癌予防とともに、肝癌に対する内科的治療も積極的に行っていきます。

### 得意分野

- 早期消化管癌(食道・胃・大腸)に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、肝癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術(RFA)、経カテーテル的肝動脈塞栓術(TAE)、進行食道癌に対する化学放射線療法
- 進行胃癌に対する多剤併用化学療法、進行大腸癌に対する分子標的治療薬を併用した化学療法、進行膵癌に対する化学放射線療法

### 対象疾患

**消化器癌:** 食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆嚢癌、胆管癌など

**肝疾患:** C型・B型肝炎、アルコール性肝炎、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変など

**炎症性腸疾患:** 潰瘍性大腸炎、クローン病

**その他:** 食道・胃静脈瘤、胆道炎、膵炎、胃・十二指腸潰瘍など

### 主な検査

**消化管疾患:** 上部・下部消化管内視鏡検査(NBI、拡大観察)、超音波内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、小腸カプセル内視鏡検査など

**肝・胆・膵疾患:** 腹部超音波検査、肝生検、腹部血管造影検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、超音波内視鏡下穿刺細胞診など



## 腎臓内科

腎臓は生体の体液恒常性維持機構、老廃物の排泄、血圧の調節、骨代謝、貧血など多岐にわたって生体で重要な働きをします。慢性腎臓病(chronic kidney disease: CKD)の進行、すなわち腎機能低下や蛋白尿の増加は、腎不全へ進行するだけでなく、心血管事故・死亡の重要なリスクとなることがわかり、早期からの腎臓病の診断と必要に応じた適切な治療の継続が非常に重要であることが明らかになってきています。

### 診療体制

腎臓内科では、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病関連腎臓病などの慢性腎臓病(CKD)および急性・慢性腎不全などの内科的腎臓病の診断と治療を行っています。腎臓内科・透析専門医のチームとして、難治性腎疾患の診断・治療を行い、県下の各診療機関からの紹介や治療相談にも幅広く対応しています。

### 治療方針・得意分野

診療対象は下記の如く、とても多彩ですが、これは腎臓内科があつかう疾患の特徴ともいえます。全身の体液の恒常性維持を担う臓器である腎臓の障害の影響は、さまざまな腎以外の臓器にも及び、また、多くの全身性疾患の一部分症として腎臓病が認められることも多いのが実際です。我々は、腎臓や透析の専門医は当然のことながら、内科専門医・総合内科専門医なども有し、腎臓を含めた全身のマネジメントを実施しております。

### 対象疾患

- ①進行性腎疾患(腎炎・ネフローゼ症候群)の診断と治療、②慢性腎臓病(CKD)の精査および加療、③糖尿病関連腎臓病など糖尿病に

合併する腎障害の精査・加療、④腎疾患を伴った自己免疫疾患などのさまざまな全身性疾患の治療・全身管理、⑤慢性腎不全の保存的治療と教育(入院)および合併症の診断治療、⑥透析導入(血液透析・腹膜透析)、⑦水電解質異常・酸塩基平衡異常の精査・加療、⑧急性腎不全の精査・加療、⑨腎機能低下患者での血圧管理をはじめとする薬剤適正使用の管理・指導、⑩腎移植患者およびドナーの管理、⑪小児腎臓病患者の成人への移行症例、⑫腎臓病に関わる社会保障システムの活用による患者さんの生活支援。

### 主な検査

腎生検、各種画像検査(エコーによる精査など)、尿検査・沈渣、血液検査とさまざまな全身性疾患・合併症の診断のための各種検査。維持透析患者のブラッド・アクセス管理のための検査。腹膜透析に関する検査。



## 内分泌・代謝内科

内分泌・代謝内科では、内科、内分泌、糖尿病の専門医資格を有するスタッフが視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などの内分泌機能異常症および糖、脂質、尿酸、カルシウム・リンなどの代謝異常の診断を行っております。糖尿病、高血圧、脂質異常、肥満症、骨粗鬆症などの生活習慣病の診療から先天性疾患の遺伝子診断などの高度先進医療に至るまで、幅広い分野にわたる良質の医療を皆様にご提供できるよう努めております。

### 診療体制

複雑に絡み合う病態にも対応できるように内分泌疾患、代謝疾患を総合的に診療できる体制を整えておりますが、ご紹介頂く際により分かり易い外来とするため「内分泌・代謝内科」と「糖尿病外来」「肥満外来」を並立致しました。

### 治療方針

日本内分泌学会、日本糖尿病学会などで標準化された診断基準・治療指針に基づき治療を行っております。

### 得意分野

- 内分泌疾患および糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症、骨粗鬆症、痛風などの代謝性疾患の診断と治療。
- 負荷試験などの専門的手法を用いた視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺内分泌系の機能診断。
- 下垂体、副腎腫瘍に対する外科と連携した専門的治療、パセドウ眼症に対する放射線併用ステロイドパルス療法や、インスリン様成長因子受容体(IGF-1R)阻害薬などの専門的治療。

- 低ホスファターゼ症、FGF23関連低リン血症くる病・骨軟化症の診断、治療
- インスリンポンプ療法や持続血糖モニタリングなどの先進的な1型糖尿病診療。
- 病診連携に基づいた糖尿病治療、合併症評価、インスリン導入など。
- 動脈硬化症の早期診断とその予防。
- 高度肥満症に対する持続性GLP-1受容体作動薬や肥満外科手術をとり入れた専門的治療。
- 高齢者に対する生活習慣病治療。

### 対象疾患

視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などの内分泌疾患全般、および糖尿病、高血圧、脂質異常症、骨粗鬆症、痛風をはじめとする糖、脂質、骨、尿酸などの代謝疾患。肥満症。

### 主な検査

下垂体・副腎負荷試験をはじめとする各種ホルモン負荷試験、経口ブドウ糖負荷試験、薬剤負荷試験。画像診断として甲状腺エコー検査、頸動脈エコー検査、血管内皮機能検査など。



## 血液内科

血液疾患全般を対象に、特定機能病院として高度な医療を担う診療体制を整えています。患者さんと検査・治療方針などについてよく話し合い、地域の関連医療機関との連携のもとに診療を進めております。

### 診療体制

血液内科専門医を中心に、歯科医、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士などとチーム診療を行います。

### 治療方針

特定機能病院として、下記のような治療を行っております。

- ① 同種造血幹細胞移植療法:急性白血病、骨髄異形成症候群やリンパ腫などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの骨髄不全に対し、無菌管理の出来る病棟でHLA半合致移植を含む同種骨髄/末梢血幹細胞および臍帯血移植を行っています。免疫抑制療法、感染症対策や支持療法を丁寧に行うことを心がけ、常に治療成績の向上に挑戦しております。
- ② キメラ抗原受容体発現T(CAR-T)細胞療法:急性白血病、骨髄異形成症候群、リンパ腫や多発性骨髄腫などの造血器腫瘍に対する様々な化学療法を行っています。近年、様々な薬剤が臨床応用され、治療成績が益々向上しており、各疾患に対して新規治療薬を積極的に導入しております。2025年4月よりキメラ抗原受容体発現T(CAR-T)細胞療法の診療体制を立ち上げ。これまで以上に県内外からの患者の受け入れを行っております。
- ③ 自家造血幹細胞移植併用大量化学療法:急性前骨髄球性白血病、リンパ腫や多発性骨髄腫に対し自家造血幹細胞移植を併用した大量化学療法を行っています。

- ④ 無菌管理を要する治療:移植後の拒絶反応に対する免疫抑制療法を受けられる患者さんや免疫不全の患者さんに対し、無菌管理のできる病棟で感染を防御します。
- ⑤ 新しい薬剤の臨床試験:治療抵抗性の造血器腫瘍に対しては、従来の治療法より効果が期待できる新規治療法が求められています。そのために、新たな治療法の開発を目的として、大学病院として臨床試験や治験を行っています。

### 得意分野

- ① 白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍の診療
- ② 造血幹細胞移植
- ③ 再生不良性貧血などの難治性造血障害や出血・凝固異常など

### 特徴・特色

西病棟10階に全フロアが無菌管理可能な移植・免疫細胞療法センター(TCU)を備えています。血液悪性腫瘍やその他の血液疾患に対して、造血幹細胞移植や強力な化学療法などの専門診療を行っております。日本造血・免疫細胞療法学会の移植認定施設、日本骨髄バンクの認定採取施設であり、移植患者さんや移植ドナーさんを多数受け入れております。また、地域の関連医療機関と診療連携を密にした体制を確立しております。



内科	[外来]tel.088-633-7118 [外来]fax.088-633-7479
	[医局]tel.088-633-7207

## 脳神経内科

「神経系全般にわたる広い守備範囲、`治る脳神経内科、」

3大成人病の一つである脳卒中や頭痛、しびれ、アルツハイマー病などのありふれた病気から、筋萎縮性側索硬化症のような難病までを診療対象とし、病気は脳、脊髄、末梢神経、筋肉など、神経系全般にわたります。診断、治療ともに進歩しています。

### 診療体制

外来診療では、主として専門医が脳神経内科疾患全般を担当しています。病棟では毎週行われるカンファレンスにおいて詳細な検討を行い、チーム医療により診療にあたっています。

### 治療方針

#### ■ボツリヌス毒素治療

痙性斜頸・眼瞼けいれんなどの運動異常症に対し筋肉注射療法を行います。

#### ■神経難病に対する治療

筋萎縮性側索硬化症に対する高用量メコパラミン開発などの実績があります。

#### ■脳卒中の包括的ケア

脳神経外科、救急集中治療部、放射線科などと協力し、急性期の脳卒中の患者さんを受け入れ早期治療を目指します。血栓溶解療法、血栓回収療法など高度な医療も行っています。

### 対象疾患

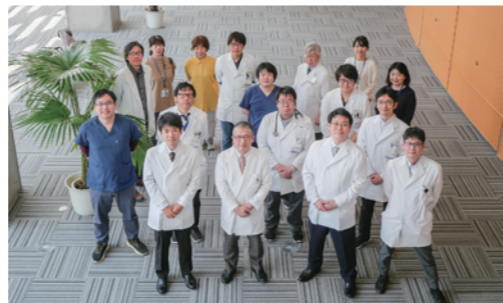
頭痛、しびれ、認知症、痙性斜頸、眼瞼けいれんなどの運動異常症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、多発性硬化症、

ギラン・バレー症候群、末梢神経障害、脊髄炎、重症筋無力症など。

### 主な検査

#### ■筋電図・神経伝導検査

末梢神経、神経根、神経筋接合部、筋肉、脊髄の疾患が疑われた時、弱い電気を手足の神経に当てたり、小さな針を筋肉に挿入したりして異常部位の診断を行います。



診療科名	役職	職名	氏名	専門分野	
循環器内科	科長	教授	佐田 政隆	循環器、心臓カテーテル治療、虚血性心疾患、動脈硬化、高血圧、再生医療	
	副科長・総務医長	講師	山口 浩司	循環器、虚血性心疾患、心臓カテーテル治療	
	医局長	特任教授	添木 武	循環器、不整脈、心不全、心臓カテーテル治療(アブレーション)	
	外来医長	助教	松浦 朋美	循環器、不整脈、心臓カテーテル治療(アブレーション)	
	病棟医長	助教	川端 豊	循環器	
	研究推進医長	助教	原 知也	循環器	
		特任教授	山田 博胤	循環器、心臓超音波、心不全、心筋症、肺高血圧症	
		特任教授	八木 秀介	循環器、高血圧、動脈硬化	
		講師	伊勢 孝之	循環器、心不全、心臓カテーテル治療	
		特任助教	伊藤 浩敬	循環器	
		特任講師	門田 宗之	循環器	
		助教	大櫛 祐一郎	循環器	
		特任助教	高橋 智紀	循環器	
	呼吸器・膠原病内科	科長	教授	西岡 安彦	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にびまん性肺疾患、肺がん、がん免疫療法
		副科長・研究推進医長	准教授	佐藤 正大	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にびまん性肺疾患
		総務医長	講師	荻野 広和	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん
外来医長		特任助教	山下 雄也	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般	
病棟医長		助教	坂東 弘基	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般	
		特任教授	埴淵 昌毅	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に気管支喘息	
		講師	河野 弘	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特にリウマチ・膠原病	
		助教	内藤 伸仁	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般	
		助教	土師 恵子	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般	
		特任助教	塚崎 佑貴	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般	
		特任助教	村上 行人	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般	
		特任助教	島田 大嗣	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般	
	特任助教	森田 優	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般		
	特任講師	三橋 惇志	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん		

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
消化器内科	科長	准教授	宮本 弘志	消化器病学、胆膵疾患、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
	副科長	講師	岡本 耕一	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
	総務医長	講師	田中 宏典	消化器病学、肝臓病学、臨床腫瘍学、消化器内視鏡学
	外来医長	特任助教	川口 智之	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学、炎症性腸疾患
	病棟医長	特任助教	三宅 孝典	消化器病学、消化器内視鏡学、胆膵疾患
	研究推進医長	助教	岡田 泰行	消化器病学、胆膵疾患、臨床腫瘍学、消化器内視鏡学
		助教	三井 康裕	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		助教	喜田 慶史	消化器病学、消化器内視鏡学、炎症性腸疾患、臨床腫瘍学
		特任教授	佐藤 康史	消化器病学、肝臓病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		特任准教授	影本 開三	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		特任助教	横山 怜子	消化器病学、肝臓病学、消化器内視鏡学
	特任助教	吉本 貴則	臨床腫瘍学、消化器病学、消化器内視鏡学	
腎臓内科	科長	教授	脇野 修	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副科長・外来医長、研究推進医長	准教授	長谷川 一宏	腎臓内科全般、腎不全透析
	総務医長	講師	田蒔 昌憲	腎臓内科全般、腎不全、透析
	病棟医長	特任助教	湊 将典	腎臓内科全般、腎不全、透析
		助教	山口 純代	腎臓内科全般、腎不全、透析
		特任助教	清水 郁子	腎臓内科全般、腎不全、透析
		特任助教	宮上 慎司	腎臓内科全般、腎不全、透析
	科長・外来医長	教授	遠藤 逸朗	内分泌・代謝学全般、糖尿病、骨粗鬆症
	副科長・総務医長・病棟医長	助教	山上 紘規	内分泌・代謝学全般、糖尿病
		特任助教	山口 佑樹	内分泌・代謝学全般、糖尿病
研究推進医長	特任助教	浅井 孝仁	内分泌・代謝学全般、糖尿病	
血液内科	科長	教授	松岡 賢市	血液内科学、造血幹細胞移植
	副科長	講師	藤井 志朗	血液内科学、造血幹細胞移植
	総務医長・研究推進医長	准教授	原田 武志	血液内科学
	外来医長	助教	曾我部 公子	血液内科学
	病棟医長	特任助教	住谷 龍平	血液内科学
		講師、病院教授	三木 浩和	血液内科学、輸血学
		特任教授	中村 信元	血液内科学、感染症学
		講師	大浦 雅博	血液内科学、造血幹細胞移植
		特任助教	前田 悠作	血液内科学
		特任助教	堀 太貴	血液内科学
脳神経内科	科長	教授	和泉 唯信	脳神経内科全般、神経変性疾患
	副科長	教授	松井 尚子	脳神経内科全般
	総務医長	講師	藤田 浩司	脳神経内科全般
	外来医長	特任助教	福本 竜也	脳神経内科全般
	病棟医長	特任講師	山本 伸昭	脳神経内科全般
	研究推進医長	特任講師	宮本 亮介	脳神経内科全般
		特任准教授	東原 真奈	脳神経内科全般
		特任助教	山本 雄貴	脳神経内科全般
		特任助教	中尾 遼平	脳神経内科全般
		特任助教	花田 健太	脳神経内科全般



外科	[外来]tel.088-633-7150	[外来]fax.088-633-7483
	[医局]tel.088-633-7581	[医局]fax.088-633-7408
	[HP]https://tokudai-cvs.jp	

## 心臓血管外科

僧帽弁狭窄症の手術の様子

虚血性心疾患・心臓弁膜症、大動脈疾患、先天性心疾患などに対して低侵襲化とQOLの改善を追求した外科治療を行っています。

**得意分野・対象疾患**

① **心臓弁膜症手術**:大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症など。大動脈弁狭窄症に対しては、従来の開胸手術に加えて、手術リスクの高い方や併存症の多い方に経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を実施しており、現在では通算症例数が100例を超えました。

僧帽弁疾患では可能な症例で弁形成を行い、また小開胸(MICS)手術を可能症例では実施し低侵襲化を目指しています。

② **先天性心疾患**:美容面を意識した小切開創手術、チアノーゼの早期除去と小児の成長を考慮した自己組織による再建手術(フォンタン手術、ファロー四徴症根治術等)。

③ **虚血性心疾患**:off-pump冠動脈バイパス手術(CABG)、心室中隔穿孔、虚血性心筋症、心室瘤・破裂手術など。四国で初めて下肢大伏在静脈採取に内視鏡採取装置を導入・活用し、より低侵襲化を目指しています。

④ **大動脈疾患(大動脈瘤・大動脈解離)**:ステントグラフト内挿術と人工血管置換術、また両者を組み合わせたハイブリッド手術など低侵襲を基本に確実な治療を心がけております。高齢者でも早期の社会復帰が可能です。

⑤ **末梢血管疾患(閉塞性動脈硬化症など)**:外科手術とカテーテル治療を専門医が一貫して行い個々に最適な治療が可能です。

大動脈解離の手術の様子

外科	[外来]tel.088-633-7136	[外来]fax.088-633-7482
	[医局]tel.088-633-7143	[医局]fax.088-633-7144

## 食道・乳腺甲状腺外科

食道がんの手術の様子

食道・乳腺甲状腺外科は、食道疾患、乳腺疾患および甲状腺疾患の診断・治療を行っています。消化管から内分泌臓器、胸腔まで、幅広い知識と高度な技術をもった専門スタッフが診療します。綿密な検査・治療計画に基づいて診療情報を提供し、十分なインフォームド Consentのもとに安心できる治療を提供いたします。長年にわたる基礎的、臨床的研究の蓄積により精度の高いセンチネルリンパ節ナビゲーションや安全な内視鏡手術手技を駆使した最先端医療を実践しています。

**診療体制**

食道外科専門医・消化器外科専門医 2名、乳腺専門医 4名、内分泌外科専門医 2名、甲状腺専門医 1名、他 2名の担当医師が診療を行っています。

**得意分野・対象疾患**

〔食道外科〕食道癌、食道粘膜下腫瘍、食道アカラシア、食道裂孔ヘルニア、胃食道逆流症、乳び胸など

〔乳腺外科〕乳癌など

〔甲状腺外科〕甲状腺癌、甲状腺機能亢進症(バセドウ病)、甲状腺良性腫瘍、副甲状腺疾患など

胸部外科を中心とした低侵襲治療・集学的治療

**治療方針**

我々の目指す医療は根治性を担保した低侵襲手術です。正確な診断、親身になった治療選択、思いやりと技術を駆使した最先端医療を実現します。

**食道外科**

①鏡視下手技を駆使した低侵襲手術(胸腔鏡、縦隔鏡、ロボット支援手術)

[外来]tel.088-633-7150	[外来]fax.088-633-7483
[医局]tel.088-633-7581	[医局]fax.088-633-7408
[HP]https://tokudai-cvs.jp	

大動脈解離の手術の様子

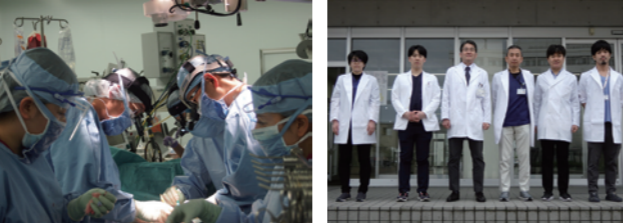
⑥ **静脈血栓塞栓症・急性肺塞栓症**:肺塞栓症重症例では肺動脈血栓除去術を行います。

**主な治療対象**

先天性心疾患、弁膜症、冠動脈、大動脈、末梢血管、静脈疾患等

**夜間連絡先**

①救急外来　　tel. 088 - 633 - 9211



[外来]tel.088-633-7136	[外来]fax.088-633-7482
[医局]tel.088-633-7143	[医局]fax.088-633-7144

食道がんの手術の様子

②進行癌に対する導入化学療法

③放射線科との連携による化学放射線療法

④食道癌に対するステント治療・バイパス手術・光線力学的治療

**乳腺外科**

①低侵襲で整容性に満足できるラジオ波焼灼療法

②独自に開発した精度の高いセンチネルリンパ節ナビゲーション手術

③形成外科との連携による乳房再建術

④産婦人科との連携による妊孕性温存

⑤ゲノム医療センターとの連携による遺伝性乳癌の診療

**甲状腺外科**

①整容的に満足できる低侵襲手術(内視鏡手術など)

②分子標的治療を含む薬物治療

③内分泌・代謝内科、放射線科との連携による甲状腺・副甲状腺疾患の治療

**主な検査**

〔食道外科〕上部消化管内視鏡検査、食道造影、嚥下造影、CTリンパ管造影、(超音波)気管支鏡検査、食道内圧測定、24時間PHモニタリングなど、〔乳腺外科〕乳腺超音波検査(穿刺吸引細胞診、経皮針生検)、CTリンパ管造影、マンモトーム生検、BRCA遺伝学的検査など、〔甲状腺外科〕頸部超音波検査(穿刺吸引細胞診)、PET/CT検査など



外科	[外来]tel.088-633-7136	[外来]fax.088-633-7482
	[医局]tel.088-633-7143	[医局]fax.088-633-7144

## 呼吸器外科

胸腔鏡手術の様子

呼吸器疾患における外科領域全般を担当しており、肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍の手術を始めとし、気管支鏡によるインターベンションにも積極的に取り組んでいます。新しい診断治療の開発を行う研究機関として、また呼吸器外科専門医育成の教育機関としての責任も果たすことができるよう日々研鑽を行っています。

**診療体制**

9名の呼吸器外科専門医が日々の診療にあたるという、全国的にみても非常に充実した診療体制をひいています。呼吸器内科、放射線科との合同カンファレンスを開催し、病理部との密な連携体制も構築しており、「呼吸器チーム」として患者さんに最良の治療を提供できるよう心掛けています。

**治療方針**

標準治療を確実に提供し、患者さんにとって有益と考えられる先進医療は積極的に取り入れるようにしています。当科で扱う主な疾患の治療方針については、病院ホームページの呼吸器外科の案内をご参照ください。(https://www.tokushima-hosp.jp/)

**得意分野**

**肺癌手術**:ロボット支援手術を含む胸腔鏡下手術で安全かつ確実な手術を行っています。早期肺癌（非浸潤癌）に対する胸腔鏡下肺部分切除においては、ハイブリッド手術室で行う気管支鏡下金属コイルマーキングという技術で、確実な病変の切除を行っています。局所進行肺癌に対しては、呼吸器内科・放射線科と連携しながら周術期を行うことで、手術成績の向上に努めています。最近では、独自開発した3Dシミュレーションソフトウェアを術前、ならびに術中に活用することで、より正確で安

胸腔鏡手術の様子

外科	[外来]tel.088-633-7157	[医局]tel.088-633-7159	[医局]fax.088-633-7160
----	----------------------	----------------------	----------------------

## 泌尿器科

泌尿器科の手術の様子

当科では、低侵襲な治療をモットーに、副腎、腎、尿管、前立腺疾患に対するロボット手術や腹腔鏡手術、経尿道的手術など、最新の治療に積極的に取り組んでいます。また、腎細胞癌や前立腺癌など泌尿器悪性腫瘍に対して、手術や薬物療法、放射線治療などを併用して、治療困難な症例に対しても個々の症例に合わせた適切な治療を行っています。

**診療体制**

外来診療は専門医が二診制で行っており、前立腺小線源、小児泌尿器科、女性泌尿器科、神経因性膀胱、腎移植、メンズヘルスに関しては専門外来を設けています。入院診療は主治医チームが責任を持って診療を行う体制をとっています。

**治療方針**

スタッフ一同、十分な説明と丁寧な診療を心がけています。また、診断や治療に関しては、毎週、スタッフ全員で、ディスカッションを行い、よりよい医療を提供できるように努力しています。

**得意分野**

■**ロボット手術**:前立腺癌、腎細胞癌、膀胱癌などの泌尿器悪性腫瘍や、腎盂尿管移行部狭窄症、骨盤臓器脱などの良性疾患に対しても積極的にを行っています。

■**腹腔鏡手術**:副腎腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍に対し、多くの手術を手がけています。

■**前立腺小線源療法**:限局性前立腺癌に対して、約1,000例の患者さんに治療を行っています。QOLの高い治療法です。

■**進行癌に対する各種薬物療法**(抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など)

[外来]tel.088-633-7136	[外来]fax.088-633-7482
[医局]tel.088-633-7143	[医局]fax.088-633-7144

泌尿器科の手術の様子

全な手術が行えるような取り組みも行っています。

**光線力学療法**:気管支に発生する早期肺癌に対しては、光線力学療法というレーザー治療で根治を目指します。

**気道狭窄に対する治療**:良性・悪性の気道狭窄に対する手術、レーザー焼灼、ステント留置を数多く実施しています。

**縦隔腫瘍の外科治療**:胸腺腫、胸腺癌、胚細胞性腫瘍などに対して、手術治療を中心とした集学的治療に実績があります。縦隔腫瘍に対するロボット手術、内視鏡下手術も行っています。

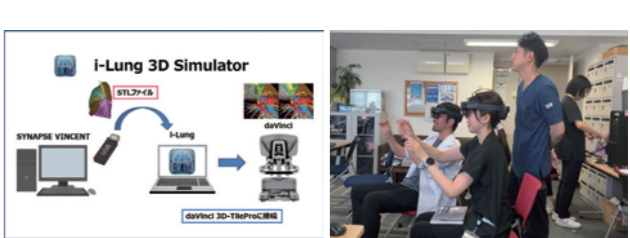
**重症筋無力症**:神経内科と連携して重症筋無力症に対する手術(拡大胸腺摘出術)を行っています。より低侵襲な内視鏡下胸腺摘出術も積極的に行っています。

**対象疾患**

肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、重症筋無力症、胸壁腫瘍、胸膜中皮腫、気胸(特に難治性気胸)、膿胸、漏斗胸、多汗症など。

**主な検査**

仮想気管支鏡ナビゲーションおよび Cone-beam CT 併用気管支鏡検査(肺腫瘍生検、リンパ節生検)、蛍光気管支鏡検査、胸腔鏡検査など。



[外来]tel.088-633-7157	[医局]tel.088-633-7159	[医局]fax.088-633-7160
----------------------	----------------------	----------------------

泌尿器科の手術の様子

■尿路結石に対し、内視鏡下のレーザー治療を行っています。

■**腎不全、腎移植**:腎不全患者のためのブラッドアクセス作成、腎移植を積極的に取り組んでいます。

■**小児泌尿器科**:停留精巣や包茎など一般的な疾患だけでなく、尿道下裂など手術手技の高度な疾患も含めて診療しています。膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡手術も行っています。

■**女性泌尿器科**:尿失禁、骨盤臓器脱など女性特有の疾患の診療に取り組み、手術治療も積極的に行っています。

■**男性不妊・勃起機能不全症**:男性不妊患者の診断や治療、婦人科と協力して体外受精の際の精子採取などを行っています。

**対象疾患**

①前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌、腎盂尿管癌、陰茎癌などの泌尿生殖器悪性腫瘍②尿路結石症③副腎腫瘍④前立腺肥大症、尿失禁などの排尿障害⑤小児泌尿器科疾患⑥女性泌尿器科疾患⑦泌尿生殖器感染症⑧男性不妊症や勃起機能不全症⑨腎不全などで、泌尿器科に関わる幅広い疾患を対象としています。

**主な検査**

血液検査、尿検査、超音波、CT、MRI、膀胱鏡、シンチグラフィー、膀胱機能検査、精液検査、前立腺生検



外科	
----	--

## 消化器・移植外科

「拡大切除・機能喪失から低侵襲・再生外科へ」をスローガンに、胃、大腸、肝癌の低侵襲手術の標準化、肝移植・間葉系幹細胞由来のインスリン産生細胞・肝細胞様細胞移植の臨床応用、難治性 の肝、胆嚢、膵癌の先進医療開発などを目指し、日夜研鑽を積んでいます。

#### 診療体制

日本外科学会、日本消化器外科学会の専門医制度指定修練施設であり、日本肝胆膵外科学会高度技能医制度の認定修練施設(A)、徳島県肝疾患診療連携拠点病院に指定されている当科には日本外科学会、消化器外科学会をはじめ主要学会の専門医、指導医が多数在籍し、疾患別グループで責任を持って診察、手術を行う体制をとっています。

#### 診療方針

肝胆膵、消化管疾患に対して3D画像解析を駆使し安全に手術を行い、術後の早期回復と入院期間の短縮を目指しています。全国規模、さらに最近では世界規模の臨床研究にも積極的に参加し、臨床研究の発展にも大きく貢献しています。

#### 得意分野

**肝胆膵領域の悪性疾患（肝、胆道、膵臓癌）に対する手術を中心とした集学的治療**：3次元画像解析の応用による最近のナビゲーション技術やロボット手術の導入、拡大手術とともに抗癌剤による補助療法などの集学的治療を積極的に行っています。肝切除件数も年間80例程度、膵切除件数は、30-40例となっています。

**非代償性肝硬変、劇症肝炎、肝細胞癌に対する肝移植**：ほかの治療法で延命が得られない症例に生体肝移植術を施行し、最近は、最難関

<b>【外来】</b> tel.088-633-7136	<b>【外来】</b> fax.088-633-7482
<b>【医局】</b> tel.088-633-7139	<b>【医局】</b> fax.088-631-9698

の血液型不適合移植にも成功し、トップクラスの成績を挙げています。**消化管外科における鏡視下手術**：100例以上の胃癌、大腸・直腸癌手術を行い、高難度手術も実施しています。胃切除、結腸切除、直腸切除に手術用ロボットda Vinciを導入したロボット手術や、中四国で初めて導入した腹腔鏡下の肥満手術（スリーブ手術）も行っています。直腸癌に対しては術前化学放射線療法を施行し、予後の改善、肛門温存に努めております。

手術不適應の進行癌や再発癌へは最新の化学療法、化学放射線治療とともに奏功例には手術を導入するなどの集学的治療も積極的に行っています。

遺伝子解析を用いたテーラーメード治療：腫瘍の遺伝子解析で術後補助療法の効果を検討し、個別のテーラーメード治療の実現に取り組んでいます。

#### 対象疾患

消化管、肝胆膵のあらゆる疾患（胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌など）を診療しています。お近くの病院で精密検査、手術等の治療が必要と言われた場合は、一度受診をお勧めします。



<b>【外来】</b> tel.088-633-7136	<b>【外来】</b> fax.088-633-7482
<b>【医局】</b> tel.088-633-9276	<b>【医局】</b> fax.088-631-9698

■**腫瘍**:血管腫、リンパ管腫、神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍(奇形腫・セミノーマ、卵黄嚢腫、絨毛癌)

■**肝胆道系疾患**:胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症(膵胆管合流異常)

■**消化管**:胃食道逆流症、胃軸捻転症、肥厚性幽門狭窄症、腸管重複症、消化管ポリープ、慢性便秘、腸間膜嚢腫

■**泌尿器**:先天性水腎症・尿管症(腎盂尿管移行部狭窄、重複腎盂尿管、尿管膀胱移行部狭窄)、先天性腎嚢胞性疾患、尿管瘤、膀胱尿管逆流症、後部尿道弁、尿道下裂

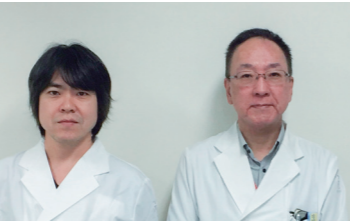
■**呼吸器**:肺分画症、先天性気管狭窄症、気管軟化症、先天性嚢胞性腺腫瘍肺奇形(CCAM)、気胸、膿胸

■**形成外科**:漏斗胸、臍突出症(でべそ)

■**救急**:急性虫垂炎、腹部外傷、気道・消化管異物、腸重積症、鼠径ヘルニア嵌頓、急性陰囊症、急性腹症

#### 主な検査

■消化管造影検査、食道機能検査(食道内圧、PHモニター)、直腸肛門機能検査(便秘に対する排便機能検査)、直腸粘膜組織化学的検査、超音波検査



診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
心臓血管外科	科長	教授	秦 広樹	心臓弁膜症/冠動脈バイパス手術・重症心不全に対する再生療法・外科治療・補助人工心臓
	副科長・総務医長・外来医長	講師	菅野 幹雄	先天性心疾患、心臓血管外科一般
	病棟医長・研究推進医長	助教	松本 遼太	重症心不全に対する再生治療・外科治療、心臓血管外科一般
		特任助教	富田 聡	心臓血管外科一般
食道・乳腺甲状腺外科	科長	講師	後藤 正和	食道外科
	副科長・総務医長	講師	井上 聖也	食道外科
	外来医長	講師	井上 寛章	乳腺外科
	病棟医長	講師	三崎 万理子	甲状腺外科、乳腺外科
	研究推進医長	講師	河北 直也	呼吸器外科
		特任助教	乾 友浩	乳腺外科、緩和ケア
	特任助教	行重 佐和香	乳腺外科	
呼吸器外科	科長	教授	滝沢 宏光	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、甲状腺疾患
	副科長	教授	鳥羽 博明	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、肺移植、再生医療
	総務医長	講師	井上 聖也	食道外科
	外来医長・研究推進医長	講師	河北 直也	肺癌、気管支鏡診断、低侵襲外科治療
	病棟医長	講師	三崎 万理子	甲状腺外科、乳腺外科
		特任助教	森下 敦司	呼吸器外科
		助教	竹内 大平	呼吸器外科
		助教	藤本 啓介	呼吸器外科
		特任助教	竹原 恵美	呼吸器外科
		特任助教	山本 清成	呼吸器外科
泌尿器科	科長	教授	古川 順也	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍、ロボット手術
	副科長・外来医長	講師	山口 邦久	泌尿器科疾患全般、腎移植
	総務医長	准教授	布川 朋也	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍
	病棟医長	講師	楠原 義人	泌尿器科疾患全般、前立腺小線源治療
	研究推進医長	講師	佐々木 雄太郎	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍、ロボット手術、小児泌尿器科
		助教	富田 諒太郎	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍
		特任助教	塩崎 啓登	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍、尿路結石
		助教	湊 諒詠	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍
		助教	小林 早紀	泌尿器科疾患全般、排尿機能女性泌尿器、小児泌尿器科
		教授	曾山 明彦	肝胆膵外科、肝移植、鏡視下手術、ロボット手術
消化器・移植外科	副科長・総務医長	講師	齋藤 裕	肝胆膵外科、肝移植、鏡視下手術、ロボット手術
	外来医長	助教	山田 眞一郎	肝胆膵外科、鏡視下手術、ロボット手術
小児外科・小児内視鏡外科	病棟医長	講師	柏原 秀也	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
	研究推進医長	特任助教	和田 佑馬	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		教授	岩田 貴	消化管外科、鏡視下手術、癌化学療法
		講師(病院教授)	石橋 広樹	新生児外科、小児外科全般、鏡視下手術
		教授	池本 哲也	肝胆膵外科、膵・膵島移植
		助教	森 大樹	新生児外科、小児外科全般、鏡視下手術
		特任教授	徳永 卓哉	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任教授	西 正暁	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		講師	高須 千絵	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任講師	寺奥 大貴	肝胆膵外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任助教	吉川 雅登	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任助教	良元 俊昭	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
		特任助教	武原 悠花子	消化器外科、鏡視下手術
		特任助教	仲須 千春	消化器外科、鏡視下手術
小児外科・小児内視鏡外科	科長・外来医長	講師(病院教授)	石橋 広樹	小児外科全般
	副科長・総務医長・病棟医長・研究推進医長	助教	森 大樹	小児外科全般

## 眼科

眼は直径約24mmの小さな器官ですが、QOLに直結するとても重要な部分です。私達は眼科全般にわたり常に最新の技術を取り入れ診断、治療、予防などに取り組んでいます。

### 診療体制

外来患者数は1日平均約100人、手術件数は年約1000例行っています。網膜・硝子体、角膜・角膜移植、緑内障、斜視・弱視、眼瞼・眼窩、ぶどう膜の各専門外来を設け診察にあたっています。

### 治療方針

担当医と各専門外来スタッフが外来から入院まで一貫して受け持ち、詳細に検討した上で治療方針を決めています。

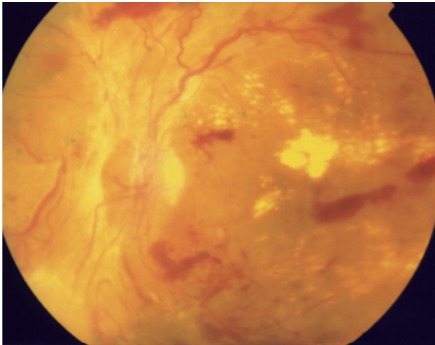
### 得意分野・対象疾患

- **網膜硝子体疾患**: 25ゲージ小切開硝子体手術をいち早く取り入れ、年間400例前後を施行し優れた成績を取っています。特に糖尿病網膜症に対する高難度の手術では本邦のトップクラスです。また、加齢性黄斑変性に対する光線力学療法や抗新生血管薬の硝子体内投与も行っています。
- **角膜疾患**: 角膜感染症の診断と治療、角膜内皮移植や最新の角膜移植を行っています。
- **緑内障**: 点眼治療やレベルの高い手術(年間約80例)を行っています。
- **斜視弱視**: 斜視手術や眼鏡装用による斜視・弱視の治療、ロービジョンケアを行っています。
- **ぶどう膜炎**: 原田病やペーチェット病、難治性の眼内炎症に対し、生物学的製剤や免疫製剤を用いた積極的な治療を行っています。

- **CL**: 円錐角膜や角膜外傷後などの角膜形状異常に対して、特殊ハードコンタクトレンズや強膜レンズの処方を行っています。
- **眼瞼眼窩・涙道疾患**: 鼻涙管閉塞や眼窩壁骨折、腫瘍などに対し手術治療を行っています。
- **白内障**: 日帰り手術のほか、入院手術も行っています。

### 主な検査

蛍光眼底造影、光干渉断層計、角膜形状解析、視野検査、斜視検査など



増殖糖尿病網膜症



硝子体手術風景

## 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

当科では、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の全ての担当疾患に対して国際レベルの診断と治療を行い、患者さんが幸せになり満足を得る医療の実践に努めています。

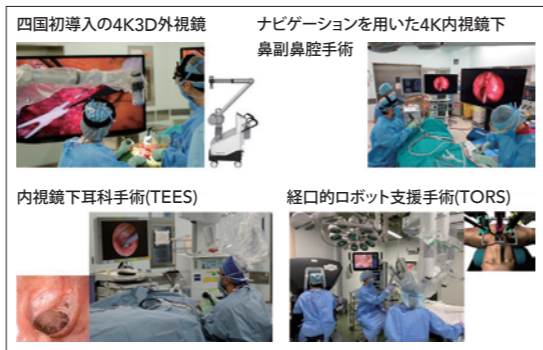
### 診療体制

初診日は火曜日と木曜日、再診日は月曜日、水曜日、金曜日です。また、以下の専門外来を設けて、専門的な診断と治療を行っています。難聴外来、めまい外来、鼻・アレルギー外来、腫瘍外来、顔面神経外来、味覚外来、睡眠時無呼吸外来、唾液腺外来、音声外来、補聴器外来、小児難聴外来、小児言語外来

### 治療方針・得意分野・対象疾患

難聴に対しては、内視鏡を用いた低侵襲の鼓室形成術や人工内耳手術、アブミ骨手術を行っています。耳管開放症に対しては耳管ピン手術を行っています。難治性のメニエール病に対しては中耳加圧療法や内リンパ囊開放術を行っています。また、難治性めまいに対しては、前庭リハビリテーションを行っています。副鼻腔炎に対してはナビゲーションを用いた内視鏡下鼻副鼻腔手術や、バイオ製剤の投与、アレルギー性鼻炎に対しては舌下免疫療法や後鼻神経切断術を行っています。頭頸部癌に対しては、ロボット手術、免疫チェックポイント阻害薬の投与、光免疫療法・再建手術・放射線治療・化学療法による集学的治療を行っています。顔面神経麻痺後の後遺症に対しては、ボツリヌス毒素療法やミラーバイオフィードバック療法などのリハビリを行っています。唾液腺に関しては、耳下腺腫瘍の手術に加えてシェーグレン症候群の診断と治療を行っています。音声障害に対しては、声帯脂肪注入や甲状軟骨形

成術、破裂軟骨内転術などの音声改善手術を行っています。補聴器は、補聴器適合判定医が補聴器の適合を行っています。難聴児の早期発見と聾学校と協力した聴能訓練、小児の人工内耳手術を行っています。小児の言語訓練も行っています。

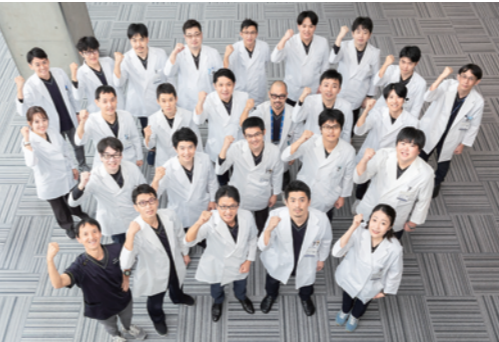


## 整形外科

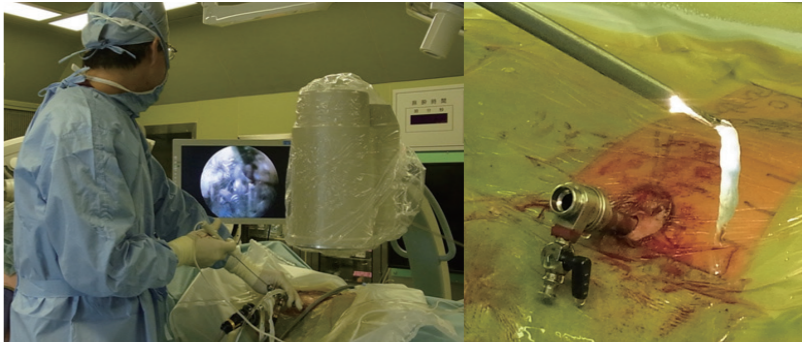
整形外科は運動器全般を幅広く扱う診療科です。脊椎脊髄疾患・スポーツ障害・関節疾患・骨軟部腫瘍など筋・骨格系にかかわるすべての疾患に対応いたします。大学病院では、手術療法を中心に組み合わせておりますが、それ以外に、原因不明の脊椎や関節の痛みやしびれの原因検索も行っております。

### 診療体制・治療方針

我々の基本姿勢は、まず最小侵襲手術です。身体に優しい内視鏡手術を得意とします。脊椎脊髄(腰痛、手足のしびれ)に加え、各関節痛(肩・肘・手・股・膝・足)の治療を内視鏡で行っております。特に、腰痛治療に対する局所麻酔・全内視鏡FESS手術(8mm切開)を行える施設は国内でも限られております。昨年は最先端技術である拡張現実AR顕微鏡および脊椎ロボットを導入しました。次に精度の高い手術です。



整形外科スタッフ



最少侵襲FESS手術とヘルニア摘出の実際

## 皮膚科

- 赤ちゃんから高齢者の皮膚と粘膜(口腔、陰部等)に生じる病気やトラブルを診療します。皮膚におこった変化は全て診させていただきます、一緒になって治療法を探してゆきましょう。
- 他臓器疾患の症状が皮膚に出ることがあり、「皮膚は内臓の鏡」と言われています。私達はこのことを常に頭において患者さんを診させていただきます。

### 診療体制

初めての患者さんは、外来で皮膚科専門医が診察の上、外来治療か入院治療かを決めます。その後、皮膚科全員で検討会を行い、専門に分かれて集学的な治療をさせていただきます。

### 治療方針

まず診断を確定しなければなりません。そのためにも皮膚科独自の検査をすることがありますが、全て内容をお話しした上で行います。診断確定後は、患者さんに負担や侵襲の少ない最良・最新の医療を患者さんと一緒になって全員で探し続けます。私達は、診断とは「診断名をつける」ことではなく「なぜその患者さんに、その皮膚変化が出たかに結論を出すこと」と思っています。入院の場合は、十分な知識と技術を持ったやさしい看護師さんも参加しての治療となります。根気強く治療法を探し続けましょう。

特に人工関節手術では、人工膝関節手術ロボット及び人工股関節手術ロボットも導入しております。さらに、骨・軟部悪性腫瘍治療のような学際領域は得意分野であり、抜群のチーム医療で良好な成績を取っております。また、手術後リハビリには、国内大学病院としては初めてピラティス・コントロールジーを導入しております。

### 得意分野・対象疾患

- 1: 脊椎・脊髄外科: 椎間板ヘルニア、狭窄症、すべり症、側弯症などの脊柱変形、脊髄腫瘍
- 2: 骨・軟部悪性腫瘍全般
- 3: 関節外科: 変形性関節症、関節リウマチ
- 4: スポーツ医学: 野球肘・野球肩、靭帯損傷、軟骨損傷、腰椎分離症
- 5: ピラティス・コントロールジー・リハビリテーション

### 得意分野・主な検査

全ての皮膚疾患をみせていただきますが、現在、皮膚科全員で集中的に取り組んでいるものは

- ① **皮膚癌のマネジメント**: 皮膚癌全て、特に黒色腫の集中・集学的治療
- ② **治りにくい皮膚疾患の先進的治療**: 水疱症、角化症、遺伝病
- ③ **全身性皮膚疾患の集学的治療**: 各種膠原病、他臓器癌、紅皮症
- ④ **生物製剤による治療**: 難治性乾癬、関節症性乾癬、アトピー性皮膚炎
- ⑤ **急性の皮膚障害の集中チーム治療**: 熱傷、重症薬疹、重症感染症
- ⑥ **特殊光線療法**: 乾癬、アトピー性皮膚炎、皮膚T細胞リンパ腫
- ⑦ **脱毛症**: 円形脱毛症、男性型脱毛症の治療 …… などです。



皮膚科全員が診療に参加します。

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
整形外科		特任助教	藤井 悠玄	脊椎・脊髄外科
		助教	中島 大生	脊椎・脊髄外科
		特任助教	杉峯 優人	関節外科
		特任助教	添田 沙織	脊椎・脊髄外科
		教授	久保 宜明	遺伝病、皮膚腫瘍、脱毛症、アトピー性皮膚炎
皮膚科	副科長	准教授	村尾 和俊	膠原病、皮膚病、熱傷
	総務医長	助教	仁木 真理子	乾癬、尋麻疹、化膿性汗腺炎
	外来医長	助教	中島 美世	乾癬、感染症、薬疹
	病棟医長	助教	中野 里穂	免疫・アレルギー、皮膚外科、画像解析
	研究推進医長	助教	宮本 翔子	アトピー性皮膚炎、乾癬、代謝異常
		助教	岩脇 文香	接触皮膚炎、水疱症、血管炎
形成外科・美容外科	科長	教授	橋本 一郎	形成外科全般、乳房再建、顔面神経麻痺
	副科長	准教授	安倍 吉郎	マイクロサージャリー、四肢先天奇形、皮膚悪性腫瘍、リンパ浮腫、頭頸部再建
	総務医長・研究推進医長	特任講師	峯田 一秀	唇裂、口蓋裂、美容、ケロイド、顔面骨骨折、小児先天異常
	外来医長	助教	山下 雄太郎	下肢救済、リンパ浮腫、マイクロサージャリー
	病棟医長	助教	山崎 裕行	形成一般、唇裂口蓋裂、下肢救済
		特任助教	中川 舞	形成一般、血管腫、美容
		特任助教	水口 誠人	形成外科一般、マイクロサージャリー、下肢救済
		特任助教	生島 健太	形成外科一般、乳房再建、リンパ浮腫

	<b>[外来]</b> tel.088-633-7147	<b>[外来]</b> fax.088-633-7485
	<b>[医局]</b> tel.088-633-7149	<b>[医局]</b> fax.088-632-9464

	<b>[外来]</b> tel.088-633-7147	<b>[外来]</b> fax.088-633-7485
	<b>[医局]</b> tel.088-633-7149	<b>[医局]</b> fax.088-632-9464

治性疼痛に対する脊髄刺激療法など)

薬剤訴求性てんかんに対するビデオ脳波モニタリングや手術(焦点切除術、頭蓋内電極留置術、脳梁離断術、迷走神経刺激療法など)

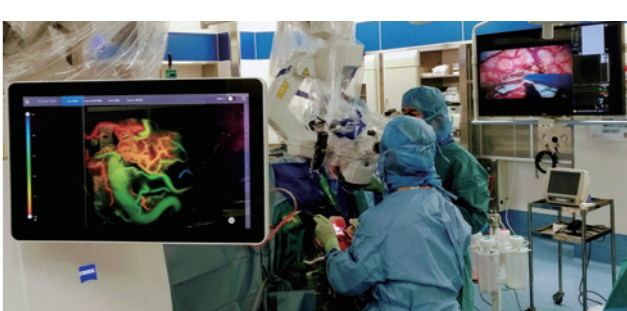
脊椎・脊髄疾患、末梢神経障害に対する手術(脊髄腫瘍、脊椎変性疾患、脊髄血管奇形、手根管症候群など)

**対象疾患**

脳神経外科で扱う疾患全体を対象とします。脳腫瘍(髄膜腫、神経膠腫、聴神経腫瘍、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍など)、脳血管障害(頸動脈狭窄症、脳動脈瘤、内頸動脈閉塞症・もやもや病、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、海綿状血管腫など)、機能的疾患(三叉神経痛、顔面痙攣、パーキンソン病をはじめとする不随意運動など)、てんかん、脊椎・脊髄疾患、水頭症、先天奇形などに対する外科的治療を行っています。

**主な検査**

MRI、CT、超音波エコー、脳血管撮影、SPECT、PET、脳波、脊髄造影、神経根ブロック、ビデオ脳波モニタリング、Wadaテストなど。



	<b>[外来]</b> tel.088-633-7147	<b>[外来]</b> fax.088-633-7485
	<b>[医局]</b> tel.088-633-7149	<b>[医局]</b> fax.088-632-9464

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
整形外科		特任助教	藤井 悠玄	脊椎・脊髄外科
		助教	中島 大生	脊椎・脊髄外科
		特任助教	杉峯 優人	関節外科
		特任助教	添田 沙織	脊椎・脊髄外科
		教授	久保 宜明	遺伝病、皮膚腫瘍、脱毛症、アトピー性皮膚炎
皮膚科	副科長	准教授	村尾 和俊	膠原病、皮膚病、熱傷
	総務医長	助教	仁木 真理子	乾癬、尋麻疹、化膿性汗腺炎
	外来医長	助教	中島 美世	乾癬、感染症、薬疹
	病棟医長	助教	中野 里穂	免疫・アレルギー、皮膚外科、画像解析
	研究推進医長	助教	宮本 翔子	アトピー性皮膚炎、乾癬、代謝異常
		助教	岩脇 文香	接触皮膚炎、水疱症、血管炎
形成外科・美容外科	科長	教授	橋本 一郎	形成外科全般、乳房再建、顔面神経麻痺
	副科長	准教授	安倍 吉郎	マイクロサージャリー、四肢先天奇形、皮膚悪性腫瘍、リンパ浮腫、頭頸部再建
	総務医長・研究推進医長	特任講師	峯田 一秀	唇裂、口蓋裂、美容、ケロイド、顔面骨骨折、小児先天異常
	外来医長	助教	山下 雄太郎	下肢救済、リンパ浮腫、マイクロサージャリー
	病棟医長	助教	山崎 裕行	形成一般、唇裂口蓋裂、下肢救済
		特任助教	中川 舞	形成一般、血管腫、美容
		特任助教	水口 誠人	形成外科一般、マイクロサージャリー、下肢救済
		特任助教	生島 健太	形成外科一般、乳房再建、リンパ浮腫

	<b>[外来]</b> tel.088-633-7147	<b>[外来]</b> fax.088-633-7485
	<b>[医局]</b> tel.088-633-7149	<b>[医局]</b> fax.088-632-9464

脳・神経・精神科	診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
脳神経外科		科長	教授	三田村 佳典	網膜硝子体疾患、糖尿病、加齢黄斑変性
		副科長	准教授	柳井 亮二	ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患
		外来医長	講師	江川 麻理子	ぶどう膜炎
		病棟医長	講師	村尾 史子	網膜硝子体疾患、眼瞼、眼窩、涙窩、ロービジョン、視覚認知
			講師	四宮 加容	斜視・弱視、眼瞼・眼窩、涙窩、ロービジョン
		助教	篠原 輝実	眼科一般、斜視・弱視	
		助教	山田 将之	眼科一般、ぶどう膜炎、緑内障	
		助教	谷 彰浩	眼科一般、緑内障	
		助教	南 佳佑	眼科一般、網膜硝子体疾患、角膜	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	教授	北村 嘉章	鼻科学、アレルギー、頭頸部腫瘍
		副科長・教育主任	准教授	佐藤 豪	平衡神経科学、耳科学
		総務医長	講師	東 貴弘	顔面神経、耳科学
		外来医長	講師	神村 盛一郎	鼻科学、アレルギー、頭頸部腫瘍
		病棟医長	講師	近藤 英司	咽喉頭科学、小児耳鼻咽喉科学
		研究推進医長	助教	高岡 奨	平衡神経科学
整形外科	科長	教授	西良 浩一	脊椎・脊髄外科、スポーツ医学	
	副科長	准教授	西庄 俊彦	骨・軟部腫瘍外科	
	総務医長	特任准教授	和田 佳三	関節外科	
	病棟医長	助教	岩瀬 穰志	スポーツ医学	
	外来医長	講師	竹内 誠	脊椎・脊髄外科、骨・軟部腫瘍外科	
	研究推進医長	特任准教授	森本 雅俊	脊椎・脊髄外科	
		特任准教授	手束 文威	脊椎・脊髄外科	
		特任准教授	眞鍋 裕昭	脊椎・脊髄外科	
		特任准教授	藤谷 順三	健康運動科学	
		特任准教授	景山 寛志	脊椎・脊髄外科	
		講師	玉置 康晃	関節外科	
		助教	木下 大	小児	
	特任助教	横山 賢二	スポーツ医学		
	助教	重清 晶太	関節外科		
	助教	西殿 圭祐	脊椎・脊髄外科		

	<b>[外来]</b> tel. 088-633-7047
	<b>[医局]</b> tel. 088-633-7296

	<b>[外来]</b> tel. 088-633-7047
	<b>[医局]</b> tel. 088-633-7296

■**母斑、色素異常**:いちご状血管腫、赤あざ、太田母斑・異所性蒙古斑などの青あざ、加齢性色素斑(シミ)などに対してレーザー治療を行っています。なお、いちご状血管腫が大きくなって目立つ可能性があるものについては、より効果のある内服治療を積極的に行っています。

■**難治性潰瘍**:褥瘡や、糖尿病足壊疽や虚血による足潰瘍の治療も行っていきます。創傷治癒に関する知識、技術を駆使して救肢・温存の方向で治療を進めています。

#### 対象疾患

唇裂・口蓋裂、小耳症、多指症(手足の指)などの先天異常、顔面骨骨折や熱傷などの外傷、良性・悪性の皮膚(軟部)腫瘍、ケロイド、外傷後やがん切除後の組織欠損の再建、乳房再建、血管腫・太田母斑・シミなどの色素異常、褥瘡や虚血・糖尿病による足潰瘍などの難治性潰瘍、リンパ浮腫など。

#### 主な検査

皮膚腫瘍に対する病理組織検査や画像検査(エコー・CT・MRI・PET-CT)や、足潰瘍に対する血行状態の精査(エコー・皮膚灌流圧測定・造影CT、血管造影)など。



	<b>[外来]</b> tel.088-633-7147	<b>[外来]</b> fax.088-633-7485
	<b>[医局]</b> tel.088-633-7149	<b>[医局]</b> fax.088-632-9464

	<b>[外来]</b> tel.088-633-7147	<b>[外来]</b> fax.088-633-7485
	<b>[医局]</b> tel.088-633-7149	<b>[医局]</b> fax.088-632-9464

形成外科は、機能だけでなく形態の改善を治療する診療科です。その診療対象は、体表の先天異常、外傷・熱傷、悪性および良性皮膚(軟部)腫瘍、ケロイド・肥厚性癬痕、血管腫・血管奇形、母斑(あざ)など多岐にわたります。

#### 診療体制

形成外科一般の外来は、火、木、金曜日の午前中に行っています。また、専門外来として青あざのレーザー治療とリンパ浮腫外来を月曜日の午前、赤あざのレーザー治療を水曜日の午前・午後、ケロイド外来を水曜日の午前、美容外来を水曜日の午後に行っています。診療は形成外科指導医および専門医が中心となって行っており、入院診療は主に手術治療が対象となりますが、患者さん個々の病態や希望を考えながら非手術的な方法を選択する場合があります。

#### 治療方針・得意分野

■**乳房再建**:乳がん患者のQOLを考えてシリコンインプラントや自家組織による乳房再建を行っています。

■**組織移植**:植皮・皮弁術やマイクロサージャリーの技術を応用した遊離複合組織移植による組織欠損の再建を行っています。

■**頭蓋顎顔面外科**:先天異常や骨折による顔面の変形に対して、骨切り移動術などの技術を用いて正常な状態に近づけるべく治療を行っています。

■**唇裂・口蓋裂**:2020年4月から口唇口蓋裂センターを開設し、産科、小児歯科、矯正歯科、耳鼻咽喉科、小児科、言語聴覚士などと連携をとりながら総合的な治療を行っています。

	<b>[外来]</b> tel.088-633-7147	<b>[外来]</b> fax.088-633-7485
	<b>[医局]</b> tel.088-633-7149	<b>[医局]</b> fax.088-632-9464

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
眼科	科長	教授	三田村 佳典	網膜硝子体疾患、糖尿病、加齢黄斑変性
	副科長・総務医長・研究推進医長	准教授	柳井 亮二	ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患
	外来医長	講師	江川 麻理子	ぶどう膜炎
	病棟医長	講師	村尾 史子	網膜硝子体疾患、眼瞼、眼窩、涙窩、ロービジョン、視覚認知
		講師	四宮 加容	斜視・弱視、眼瞼・眼窩、涙窩、ロービジョン
		助教	篠原 輝実	眼科一般、斜視・弱視
		助教	山田 将之	眼科一般、ぶどう膜炎、緑内障
		助教	谷 彰浩	眼科一般、緑内障
		助教	南 佳佑	眼科一般、網膜硝子体疾患、角膜
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	教授	北村 嘉章
副科長・教育主任		准教授	佐藤 豪	平衡神経科学、耳科学
総務医長		講師	東 貴弘	顔面神経、耳科学
外来医長		講師	神村 盛一郎	鼻科学、アレルギー、頭頸部腫瘍
病棟医長		講師	近藤 英司	咽喉頭科学、小児耳鼻咽喉科学
研究推進医長		助教	高岡 奨	平衡神経科学
整形外科	科長	教授	西良 浩一	脊椎・脊髄外科、スポーツ医学
	副科長	准教授	西庄 俊彦	骨・軟部腫瘍外科
	総務医長	特任准教授	和田 佳三	関節外科
	病棟医長	助教	岩瀬 穰志	スポーツ医学
	外来医長	講師	竹内 誠	脊椎・脊髄外科、骨・軟部腫瘍外科
	研究推進医長	特任准教授	森本 雅俊	脊椎・脊髄外科
		特任准教授	手束 文威	脊椎・脊髄外科
		特任准教授	眞鍋 裕昭	脊椎・脊髄外科
		特任准教授	藤谷 順三	健康運動科学
		特任准教授	景山 寛志	脊椎・脊髄外科
		講師	玉置 康晃	関節外科
		助教	木下 大	小児
	特任助教	横山 賢二	スポーツ医学	
	助教	重清 晶太	関節外科	
	助教	西殿 圭祐	脊椎・脊髄外科	

脳・神経・精神科

麻酔科

麻酔科の業務としては、安全で快適な手術環境を提供する麻酔管理のほか、難治性疼痛に対して特殊治療を施す、ペインクリニックも行っています。

診療体制・治療方針

手術麻酔管理では、麻酔の専門医(日本麻酔科学会指導医9名、同学会専門医16名、認定医3名が在籍)と研修医のペアで事前に麻酔計画を立て、科内で十分な検討を行った後、最新の機器を用いて全身麻酔や区域麻酔を行っています。術中は常に注意深い観察を行い、異常発生時には迅速かつ適切な処置を施すことで患者の安全を確保します。また日帰り手術や前日入院といった短期入院、さらに合併症を有する症例などに対しては、あらかじめ麻酔科外来にて詳細な情報収集と入院前チェックを行うことで、周術期に起こりうる事故を予測しその発生を予防します。

ペインクリニックでは、当院は日本ペインクリニック学会認定病院であり、1名の学会専門医を中心に疼痛緩和のための高度な治療を実践しています。ポリシーとして、患者との対話を重視し、様々な観点から個々のニーズに応じた、柔軟で満足度の高い診療を行うよう心がけています。

得意分野・対象疾患

手術麻酔管理については、あらゆる麻酔に関する相談や質問に応じるとともに、患者負担を軽減すべく、術前入院の短縮や術後疼痛管理にも配慮した麻酔を行っています。

ペインクリニックでは、全ての疼痛を有する疾患、また顔面神経麻痺や突発性難聴、手掌多汗症、血行不全などの神経機能異常に基づく非

[外来]tel.088-633-7179  
[医局]tel.088-633-7181

疼痛疾患なども対象に、神経ブロック療法や薬物療法、理学療法、手術療法、カウンセリングといった様々な治療手段で改善を図っています。特に帯状疱疹に伴う痛みに対しては、初期に行う神経ブロックとその後の特殊薬物療法や電気刺激療法の組み合わせによる、当科独自の治療プログラムにて良好な結果を得ております。他にも慢性の頭痛や頸肩甲骨痛、腰下肢痛、関節痛といった筋骨格系疾患などにも神経ブロック療法が有効なことが多く、これにより日常生活の向上や早期の社会復帰が期待できます。



挿管操作

脳・神経・精神科

精神科神経科・心身症科

統合失調症、気分障害(躁うつ病、うつ病)、不安障害(パニック障害、強迫性障害など)、てんかん、認知症、摂食障害、発達障害や不登校などに対して専門医が幅広く診療しています。

診療体制

一般外来は月曜から金曜まで毎日、原則として午前中に行っています。専門医による児童思春期外来の初診は、水曜日と木曜日に受け付けています。明るく開放的な雰囲気の中で入院治療を行っています。医師をはじめ、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、作業療法士等の多職種でチームを組んで治療にあたっています。

治療方針

エビデンスに基づいた合理的な薬物療法と、精神療法や精神科リハビリテーションなどの心理社会的治療を偏りなく組み合わせて行っています。必要な症例には、麻酔科医と協力して、けいれんを起こさない安全な電気けいれん療法も施行しています。内科や外科などのほかの診療科との連携にも力を入れており、精神腫瘍学の立場から緩和ケアチームの一員としても貢献しています。身体合併症の治療を同時に必要とする認知症などの老年期精神疾患の診療も得意としています。さらに、デイケアや作業療法など社会復帰に向けた精神科リハビリテーションの分野にも、積極的に取り組んでいます。

得意分野

統合失調症、気分障害、不安障害、認知症、てんかんの診断と合理的薬物療法、デイケアや作業療法などの精神科リハビリテーション、発

[外来]tel.088-633-7128 [外来・医局]fax.088-633-7480  
[医局]tel.088-633-7130

達障害など児童思春期症例の診療と専門的リハビリテーション、必要な症例に対する修正(けいれんがなく安全な)電気けいれん療法や反復経頭蓋刺激療法、緩和ケアと精神腫瘍学

対象疾患

統合失調症、躁うつ病、うつ病、パニック障害、強迫性障害、社交不安障害、認知症、てんかん、発達障害や不登校などの児童思春期症例

主な検査

脳波、CT、MRI、SPECT、光トポグラフィー検査、認知機能検査、心理検査



診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
脳神経外科	科長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
	副科長	特任准教授	島田 健司	脳血管障害、脳卒中の外科、脳血管内治療
	研究推進医長	准教授	多田 恵曜	てんかん、脳血管障害
		講師	中島 公平	脳腫瘍、神経内視鏡
		講師	原 慶次郎	脳腫瘍、脳神経外傷
		特任教授	森垣 龍馬	ニューロモジュレーション
	総務医長	講師	高麗 雅章	脳血管障害、脳卒中の外科、脳血管内治療
	外来医長	特任助教	三宅 一央	機能的脳神経外科、水頭症
	病棟医長	助教	宮本 健志	脳血管障害、脳卒中の外科、脳血管内治療
		特任助教	藤原 敏孝	てんかん、脳腫瘍
		特任助教	山口 泉	脳血管障害、脳卒中の外科、脳血管内治療
		特任助教	鹿草 宏	脳神経外科一般
		助教	安積 麻衣	小児脳神経外科、脳腫瘍
	特任助教	松田 拓	リハビリテーション、機能的脳神経外科、脳卒中	
	特任助教	榎本 紀哉	脳神経外科一般	
	特任助教	蔭山 彩人	脳腫瘍、脳神経外科一般	
麻酔科	科長	教授	田中 克哉	麻酔
	副科長・病棟医長・研究推進医長	准教授	角田 奈美	麻酔
	総務医長	助教	笠井 飛鳥	麻酔
	外来医長・教育主任医長	講師	川西 良典	麻酔
		特任教授	酒井 陽子	麻酔
		助教	木下 倫子	麻酔
		助教	中路 佳美	麻酔
		助教	米澤 宏記	麻酔
		助教	前田 悠樹	麻酔
		助教	蓑手 孝宗	麻酔
		助教	遠藤 寛也	麻酔
		特任助教	曾我部 洋平	麻酔
		特任助教	佐々木 秀人	麻酔
精神科神経科・心身症科	科長	教授	沼田 周助	統合失調症、気分障害、老年精神疾患
	副科長・外来医長・研究推進医長	准教授	中瀧 理仁	気分障害、心身症、てんかん
	総務医長	講師	富岡 有紀子	精神疾患、心身症、漢方治療
	病棟医長	講師	中山 知彦	認知行動療法、ニューロモジュレーション
		助教	山田 直輝	精神疾患、児童思春期疾患
		助教	松本 唯	老年精神疾患
		助教	増田 太利志	精神疾患、児童思春期疾患
		特任助教	吉田 朋広	精神疾患、心身症、産業メンタルヘルス
		特任助教	松田 宙也	精神疾患、緩和ケア
		特任助教	六車 隆太郎	精神疾患、心身症
		教授	友竹 正人	精神疾患、摂食障害
		教授	井崎 ゆみ子	精神疾患、心身症、児童思春期疾患
		教授	梅原 英裕	精神疾患、児童思春期疾患



小児・周産・女性科	[外来]tel.088-633-7132	[外来]fax.088-633-7481
	[医局]tel.088-633-7135	[医局]fax.088-631-8697

## 小児科

新生児から思春期までの幅広い小児疾患全体をカバーした外来・入院体制を整えており、腎臓・自己免疫疾患、神経、循環器、血液・腫瘍、内分泌・代謝、アレルギー、および未熟児・新生児等の各疾患専門診療グループがあります。

### 診療体制

外来においては、初診・再診、専門診療を担当する各々の専門医が配置され、最新の高度医療を提供して、県内外のこどもたちが安心して治療を受けられる体制となっています。また、関連病院小児科と連携して小児救急医療の中核施設としても機能しています。さらに、学校検尿、心電図検診、心の問題など、こどもたちのすこやかな成長・発達を守る健康支援活動にも力を注いでいます。

### 治療方針

入院患者さんの診療は、複数の担当医及び診療グループが責任を持って行います。治療方針は、専門領域の複数の医師が中心となって様々な角度から検討し決定されます。

### 得意分野

【腎臓・自己免疫疾患】ネフローゼ症候群や腎炎など腎臓病の診察と治療を行っています。また、全身性エリテマトーデスや若年性特発性関節炎などの自己免疫疾患の診療も行っています。

【神経】てんかん、発達障害、および他の種々の神経筋疾患の診断と治療を行っています。

【循環器】超音波検査、CT検査、心臓カテーテル検査などを駆使し、先天性心疾患などの小児心臓病の迅速な診断と治療を行っています。

【血液・腫瘍】白血病などの小児血液疾患や、脳腫瘍などの小児がんの

[外来]tel.088-633-7132	[外来]fax.088-633-7481
[医局]tel.088-633-7135	[医局]fax.088-631-8697

治療を行っています。造血幹細胞移植などの集学的治療も積極的に行っています。

【内分泌・代謝】1型糖尿病を中心に県内の小児糖尿病の大半の治療や教育を積極的に行っております。また、成長障害をはじめ多岐にわたる小児内分泌疾患の診断治療も行っております。

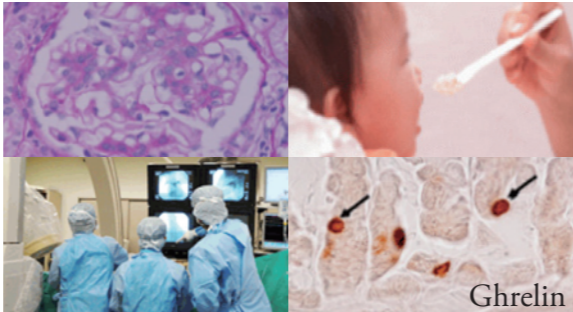
【アレルギー】食物アレルギーや気管支喘息、アトピー性皮膚炎を中心としたアレルギー疾患の診療を行っています。

【未熟児・新生児】周産母子センターNICUでは、日夜を徹して病的新生児の治療を行っています。外来では、赤ちゃんのすこやかな成長を願って、きめ細やかなケアを提供しています。

【子と親のこころ診療室】外傷後ストレス障害(PTSD)、心身症、不登校などを有する子どもの診察を行っています。

### 対象疾患

小児におけるあらゆる疾患です。特に一般病院から御紹介頂きます患者さんに対する先進医療・特殊医療に力を注いでいます。



小児・周産・女性科	[外来]tel.088-633-7175
	[医局]tel.088-633-7177

## 産科婦人科

産科婦人科は、四国東部の産婦人科医療の拠点として、また医学教育の中心として、一般医療から高度医療を幅広く担当しています。診療体制は、生殖医療部門・周産期医療部門・婦人科腫瘍部門・女性医学部門の4部門からなります。

### 診療体制

専門外来ではそれぞれの分野の専門医師が診療を行い、入院診療においては指導医の下、担当医が入院患者の診療を行っています。

### 治療方針

指導医と担当医の議論だけでなく、臨床カンファレンスをおこない治療方針を決めています。他科疾患がある場合は、他科とも合同カンファレンスを行い決定しています。

### 得意分野

①**生殖医療部門**: 一般不妊症、生殖補助医療

体外受精を日本で3番目に成功させるなど、不妊診療は全国的に高く評価され、先進的な診療と研究を行っています。特に、排卵誘発治療、生殖補助医療、不育症治療、腹腔鏡下手術などに全国でトップレベルの医療を展開しています。生殖医療研修施設となっています。

②**周産期医療部門**: 胎児超音波診断、胎児治療、合併症妊娠、異常妊娠管理

MFICU6床、NICU9床、GCU12床で総合周産期医療センターに指定され、実践を重視した高度周産期医療を展開しています。現在、周産期・新生児学会の専門医制度基幹施設となっています。

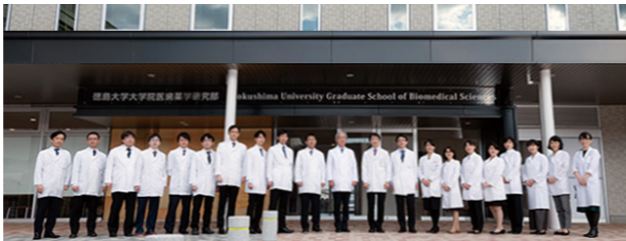
③**婦人科腫瘍部門**: 悪性腫瘍疾患手術、化学療法、ロボット支援下手術婦人科癌に対するトップレベルの手術療法、化学療法を行っています。治療成績は全国水準を超え、また化学療法では徳島県下の中核病院と連携した治療を行っています。特に最近の若年患者の増加で、子宮頸癌の初期病変にレーザー蒸散を積極的に導入しています。

④**女性医学部門**: 子宮内膜症・子宮筋腫治療、乳癌検診、更年期障害、女性内科

思春期から更年期、老年期にいたるまで、女性のトータルヘルスケアを重視した診療を行っています。特に、子宮内膜症や子宮筋腫に対する腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術、更年期におけるホルモン補充療法に積極的に取り組んでいます。また、当科における乳癌検診への取り組みは、新しい産婦人科医療のモデルケースとして注目されています。

### 対象疾患

一般不妊、不育症、生殖補助医療、内分泌疾患、正常妊娠、異常妊娠および分娩、婦人科良性、悪性腫瘍、更年期障害、骨粗鬆症、遺伝相談など



診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
小児科	科長	教授	漆原 真樹	小児腎臓病学
	副科長	講師	岡村 和美	小児血液腫瘍学
	総務医長・研究推進医長	講師	永井 隆	小児腎臓病学
	外来医長	特任助教	佐々木 亜由美	小児アレルギー学
	病棟医長	講師	苛原 誠	小児アレルギー学
		特任教授	早濑 康信	小児循環器学
		講師	中川 竜二	新生児学
		講師	小野 朱美	小児循環器学
		特任助教	武井 美貴子	小児内分泌代謝
		特任助教	竹内 竣亮	新生児学
産科婦人科	助教	中野 睦基	小児血液腫瘍学	
	特任助教	佐藤 宏紀	新生児学	
	助教	大野 卓也	小児神経学	
	科長	教授	岩佐 武	生殖医学
	副科長・研究推進医長	准教授	吉田 加奈子	女性医学
	総務医長	准教授	山本 由理	生殖医学
	外来医長	特任准教授	木内 理世	女性医学
	病棟医長	講師	峯田 あゆか	周産期医学
		名誉教授	苛原 稔	生殖医学、女性医学
		教授	加地 剛	周産期医学
		講師	吉田 あつ子	周産期医学
		講師	乾 宏彰	婦人科腫瘍学
		特任助教	武田 明日香	生殖医学
		助教	田村 公	生殖医学
		助教	杉本 達朗	周産期医学
	助教	青木 秀憲	婦人科腫瘍学	
	特任助教	篠原 文香	女性医学	
	特任助教	笹田 ひかり	女性医学	
	特任助教	野口 拓樹	生殖医学	

放射線科	[外来]tel.088-633-9284	[外来]fax.088-633-7470
	[医局]tel.088-633-7173	[医局]fax.088-633-7468

## 放射線診断科

放射線科の対象疾患は全身すべてにわたり、専門も大きくわけて、診断(X線単純検査、CT、MRIなど)、核医学(PET、シンチグラフィ検査)、IVR(血管内治療など)に分かれます。

### 診療体制

CTおよびMRI検査やX線診断、PET、核医学検査は休日を除くほぼ毎日行っており、IVRは週3日行っています。

IVRは動注化学療法、塞栓術、生検など、血管造影等による診断や治療を中心とした部門です。IVRは局所麻酔で施行でき、穿刺部位から挿入したカテーテルなどを画像で確認しながら目的部位に誘導し局所の診断、治療を行います。

核医学では診断分野以外に、体内に放射線を出す薬剤を投与するような治療法(内照射療法)も行っています。

### 治療方針

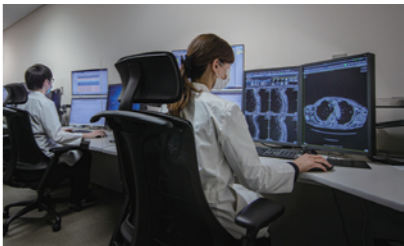
IVRでは他の診療科や他の医療機関からの依頼を受けて行うことが多く、専門スタッフを中心に複数のスタッフで適応や治療方法を検討しています。

### 得意分野・対象疾患

画像診断は全身の検査をカバーしており、各部位や画像検査法にそれぞれのサブスペシャリティーを有した画像診断医が対応しています。

IVRでは血管撮影装置とCT装置が一体となったIVR-CT装置を駆使し、日常の診断や治療の精度を高めています。

核医学では、放射性同位元素を用いた脳、心臓、肝臓、腎臓、甲状腺、副甲状腺、骨などの様々な検査に対応しています。シンチグラフィ検査では、県内唯一のSPECT/CT装置を有し、より明瞭で精度の高い検査を行えるようになってきました。また、2台のPET/CT装置にて全国の大学病院でもトップクラスの検査数のPET/CT検査を行っています。



<b>放射線科</b>	[外来]tel. 088-633-9284 [外来]fax.088-633-7470
	[医局]tel. 088-633-7173 [医局]fax.088-633-7468

## 放射線治療科

放射線治療を必要とする全ての疾患に対して、ハイテク放射線診療機器を駆使した最先端の医療を提供しています。放射線治療装置は、高精度外部放射線装置(リニアック)3台、前立腺がん・子宮がんなどを対象とした密封小線源治療システムを各1式設置、また最新の核医学治療にも対応しており、年間約900名の放射線治療患者を受け入れています。放射線治療専門の技術者(放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士、医学物理士)9名が常勤し装置の精度管理を行っており、高いレベルの品質保証に基づいた放射線治療を行っています。

### 診療体制

放射線治療専門医・癌治療認定医である医師・歯科医師5名で診療を行っています。新規患者さんの紹介日は火～金曜日に設けており、県外を含めて院外からも多くの患者さんを受け入れています。新たに放射線治療を開始する患者さんに関しては、外来担当医師が初回診察をおこなった後、全てのスタッフが集まって行うカンファレンスで放射線治療の適応や方法について討議し、患者さんごとに適切な放射線治療方法を決定しています。

### 治療方針

疾患ごとに関連診療科と合同で行うカンファレンスの中で、患者さんに提示すべき適切な治療方針を決定します。最終的な決定は患者さんご本人の十分な理解に基づいたご意志によりなされます。

### 得意分野

頭頸部領域、肺がん・乳がん・食道がんなど胸部領域、前立腺がんなど

[外来]tel. 088-633-9284 [外来]fax.088-633-7470
[医局]tel. 088-633-7173 [医局]fax.088-633-7468

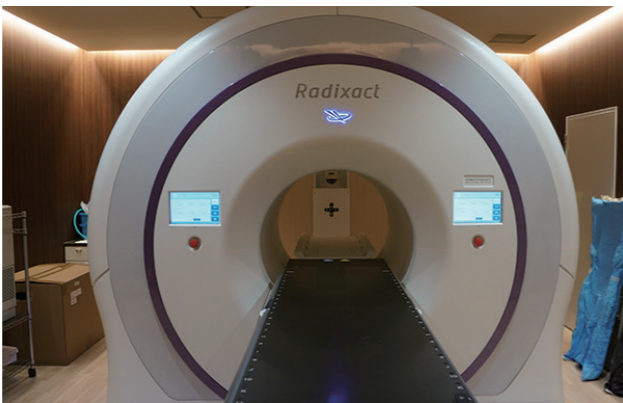
泌尿器科領域、婦人科領域のがんに対して、関連診療科と連携し、チーム医療を行っています。放射線治療を必要とする全ての疾患に対応しています。

### 対象疾患

悪性腫瘍全般および一部の良性疾患

### 主な検査

放射線治療で最も重要なことは正確な病巣位置の把握であり、そのため画像診断が主な検査法となります。放射線治療の最大の利点は身体の負担が小さいことであり、その方法を決定する検査においても可能な限り低侵襲の検査法を選択しています。



高精度外部放射線治療装置

[医局]tel. 088-633-9347 [医局]fax.088-633-9339
--

<b>救急科</b>
------------

## 救急集中治療科

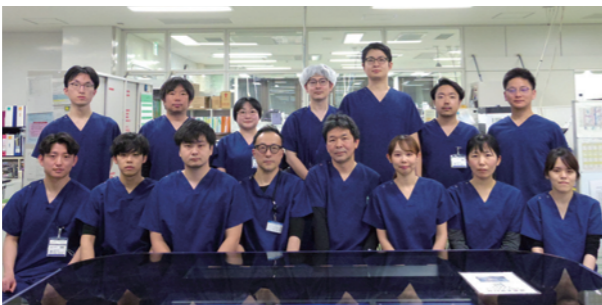
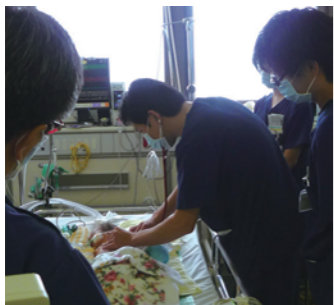
救急集中治療科は院内外の重症患者の治療を行う診療科です。心臓手術などの大手術、合併症を有する患者の術後管理や、院内の重症患者の治療を行っています。院外からは脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、重症熱傷、薬物中毒の患者を受け入れています。人工呼吸、腎代替療法(透析)、補助循環を駆使して様々な臓器不全の治療を行います。

### 診療体制

集学治療病棟(東病棟4階)に11床のICU、9床の脳卒中センター、15床のハイケア治療室を備えており、専従医師9名に加え、各診療科からの応援医師、研修医で診療を行っています。

### 特徴・特色

専門医、専従医が治療の中心となるclosed policyを実践している、日本では数少ない施設です。重症患者の治療成績も、このpolicyの実践により有意に改善しています。



### 年間診療患者数

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ICU 入室患者総数	673	538	515	520	471
心臓血管外科	147	149	141	135	128
脳神経外科	125	67	47	78	51
外科	264	184	192	160	144
内科	106	111	108	111	118
その他	31	27	27	36	30

HCU 入室患者総数	951	1,337	1,689	1,905	1,849
心臓血管外科	100	176	231	180	172
脳神経外科	145	212	238	260	280
外科	527	719	938	1,053	1,046
内科	148	203	244	376	325
その他	31	27	38	36	26
SCU 入室患者総数	393	381	308	344	322

<b>病理診断科</b>	[医局]tel. 088-633-7454 [医局]fax.088-633-9568
--------------	--

## 病理診断科

病気の診断・治療評価のため、生検・手術で採取された組織・細胞を顕微鏡で調べて病理診断を下します。病態の解明、医療の質向上のため、病理解剖も担当します。

### 診療体制

当院では病理部・病理診断科のみならず、医学部、歯学部病理学分野の協力のもと、異なった専門領域を有した16名の医師(病理専門医11名、口腔病理専門医5名)が病理診断業務に携わっています。また、細胞検査士の資格を有する臨床検査技師が細胞診専門医とともに細胞診断業務を行っています。

### 診療方針

当科では病理診断所要時間の短縮のために新鋭機器、病理診断支援システムの導入を行い、早期の治療開始、入院期間の短縮などを通じて患者様に貢献したいと考えております。また、採取された組織の肉眼像と顕微鏡像を電子カルテ上で簡便に患者さん、医療従事者に提供するためにバーチャルスライドを含めた先進的な画像管理システムを導入しています。さらに、臨床科と定期的な症例検討を行い、正確で質の高い病理診断を目指しています。吉野川医療センター、阿南医療センター、県立三好病院の3病院との間でバーチャルスライドシステムを用いた遠隔診断を行っており、地域医療にも貢献しています。

### 主な検査

年間の検体数:組織診断8,990件、細胞診断7,451件、術中迅速診断623件、病理解剖12件

### ・病理組織診断

生検や手術によって患部から採取された組織から組織標本を作製し、顕微鏡像をみて病気の質、範囲などの診断を行います。

### ・細胞診断

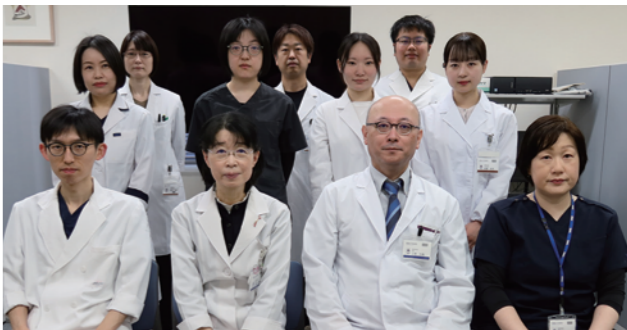
あらゆる部位から採取された細胞材料を用いて病変の良悪性診断、質的診断、感染症判定などを行っています。

### ・術中迅速診断

手術中に行う組織や細胞の診断です。手術の術式などを方向づける重要な検査です。

### ・病理解剖

死体解剖資格を持った医師が、ご遺体の家族の承諾を得てご遺体を解剖します。肉眼観察の後に病理標本を作製して顕微鏡で観察し、死因や病態の解明、治療効果の判定を行います。医学部・歯学部病理学分野と合同で、臨床病理カンファレンスを行い、最終報告をまとめます。



診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
放射線診断科	科長	教授	原田 雅史	放射線診断・核医学一般
	副科長	特任教授	新家 崇義	放射線診断・核医学
	総務医長	講師	新井 悠太	放射線診断・IVR
	外来医長	特任助教	松下 知樹	放射線診断(中枢神経、骨軟部領域)
	病棟医長	特任助教	平岡 淳一郎	放射線診断・IVR
	研究推進医長	准教授	音見 暢一	放射線診断・核医学
		教授	大塚 秀樹	放射線診断・核医学
		准教授	竹内 麻由美	放射線診断(女性骨盤部領域)
		准教授	高尾 正一郎	放射線診断(骨軟部領域)
		助教	廣島 由夏	放射線診断(乳腺領域)
		助教	高岡 友紀子	放射線診断(頭頸部領域)
		助教	松元 友暉	放射線技術
		助教	生島 仁史	放射線治療
放射線治療科	科長	教授	川中 崇	放射線治療
	副科長・病棟医長・研究推進医長	准教授		
	総務医長	助教	外磯 千智	放射線治療
	外来医長	講師	久保 亜貴子	放射線治療
		講師	新井 悠太	放射線治療・IVR
		助教	工藤 隆治	放射線治療(歯科)
		助教	大藤 純	放射線治療(外科)
救急集中治療科	科長	教授	大藤 純	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	副科長・研究推進医長	特任教授	板垣 大雅	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	総務医長	講師	石原 学	集中治療医学、救急医学、脳神経外科
		助教	佐藤 裕紀	集中治療医学、救急医学
		助教	板東 夏生	集中治療医学、救急医学
		助教	西條 早希	集中治療医学、救急医学
		特任助教	三好 晃太	集中治療医学、救急医学
		教授	上原 久典	前立腺病理
		教授	坂東 良美	乳腺病理
		特任助教	住田 智志	病理学
病理診断科		特任助教	西條 康代	病理学

## むし歯科

むし歯やそれに引き続いて起こる歯の神経や根の病気の治療を行うことにより歯を大切に“保存”し、その機能を回復・維持することで口腔、そして全身の健康増進に寄与することを目指しています。

### 診療体制

月曜日から金曜日の9:00から16:00まで、外来診療を行っています。診療は予約制ですが、月曜日、水曜日、金曜日は初診患者さんや紹介患者さん、急患の方も診察しております。

救急などの場合を除き、患者さんごとに担当医を決めて、適切な治療計画の下診療を進めていきます。従って今回の診療予約の日は、担当の先生と相談して決めることになります。また、歯の根の治療などが終わり、補綴処置(クラウン、ブリッジ、入れ歯など)が必要な場合は、そしゃく科、かみあわせ補綴科へ紹介することとなります。

### 治療方針

むし歯は口腔内の細菌による感染症です。歯の細菌に侵された部分を除去した後、歯の形態と機能を回復するため、コンポジットレジンやセラミックスなどを用いて審美性を重視した治療を取り入れています。また、なるべく歯を削らず、歯髄(歯の神経)をできるだけ保存する、体に優しい低侵襲の治療(ミニマルインターベンション:MI)を治療方針としています。

### 得意分野

最新の歯質接着修復材料を用いたむし歯治療、冷たいものがしみる象牙質知覚過敏症の治療、MTAを用いた歯髄保存治療、歯科用実体顕微鏡下での精密な歯内治療(歯の根の治療)を得意としています。ま

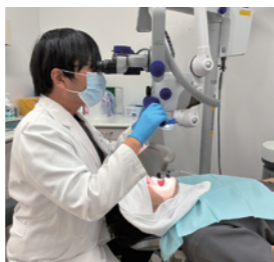
た、これらの治療に加えて、歯の色や形を良くする審美歯科治療としてホワイトニングやデジタル技術を活用したコンポジットレジン修復も行っていきます。

### 対象疾患

むし歯、象牙質知覚過敏症、歯の破折、歯髄炎(歯の神経の病気)、根尖性歯周炎(歯の根の病気)、歯の変色

### 主な検査

エックス線検査、歯髄電気診、温度診、電気抵抗値測定、歯周組織検査、歯の色調検査など



実体顕微鏡下での歯内治療



ホワイトニングのカウンセリング風景

## 歯周病科

歯周病科は歯周病の専門的な治療を行う診療室です。日本歯周病学会が認定し厚生労働省が認可した歯周病専門医の指導のもとで、歯周基本治療、歯周外科治療、歯周組織再生療法などを行っています。最近、全身と歯周病との深い関連が明らかにされつつあり、糖尿病に関連した歯周炎や薬物性歯肉増殖症の治療にも積極的に対応しています。また、むし歯由来の根尖性歯周炎の治療(感染根管治療)および歯内外科治療も行っています。

### 診療体制

初診患者の診察日は火曜日、木曜日、金曜日です。再来患者の診療は月曜日から金曜日まで毎日行っています。診療歯科医師は十数名(教授、准教授、講師、助教、医員、研修医)です。

### 治療方針

歯周基本治療が個々の歯科医師によって行われ、手術が必要な場合

には症例検討会で検討した後、歯周外科治療が行われます。糖尿病や高血圧などの基礎疾患を伴う歯周病患者さんに対しては、医歯薬連携によりチームを組んで治療に当たっています。

### 得意分野

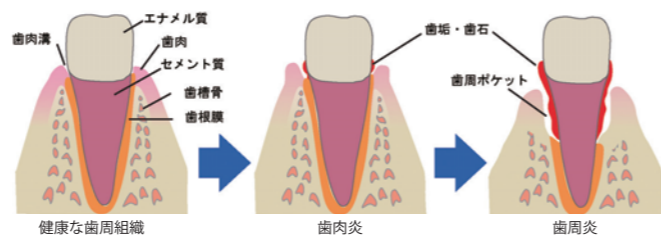
歯周外科治療および歯周組織再生療法。糖尿病関連歯周炎、薬物性歯肉増殖症、侵襲性歯周炎の診断と治療。

### 対象疾患

歯肉炎、慢性歯周炎(成人)、侵襲性歯周炎(若年者)、全身疾患関連歯周炎、薬物性歯肉増殖症、根尖性歯周炎。

### 主な検査

歯周組織検査(歯周ポケットの測定、歯の動揺度検査、歯肉出血検査など)、レントゲン検査、コーンビームCT検査、歯周病原細菌DNA検査。



術前

術後

## そしゃく科

歯だけでなく口腔の硬組織・軟組織の欠損を人工物で補い、患者さんの審美、咀嚼、構音、嚥下といった口腔の形態と機能の回復・維持を目的に診療(補綴(ほてつ)治療)を行っております。また、日々進歩する歯科治療材料、技術、情報をいち早く取り入れた診療を心がけております。

### 診療体制

(公社)日本補綴歯科学会および(公社)日本口腔インプラント学会の専門医・指導医、(一社)日本老年歯科医学会の認定医・指導医を有するものが中心となって専門的な治療を行っています。専門性の高い医療水準を保ち、患者さん個々の病態に沿った治療を心掛けているため、診療は予約制としております。

### 治療方針

有床義歯治療や歯冠補綴治療、高齢者歯科治療、インプラント治療など、専門とするいずれの治療も高度な質を提供することを第一義として治療を行っています。また、各診療科と連携しながら一口腔単位で総合的な検査を行い、治療計画を提示します。欠損補綴の手法としてはさまざまな方法があるため、予め複数の治療法の選択肢を提示し、それらの長所、短所の説明を十分に行います。治療に際しては、知識と技術を最大限に提供し、患者さんのQoLの向上を目指します。

### 対象疾患・得意分野

- 歯の一部の欠損や歯の欠損に対する補綴治療。とくに義歯
- 歯科インプラント治療
- 顎顔面の手術による顎や粘膜、顔面の大きな欠損に対する補綴治療

- 先天異常や脳卒中などの中途障害に伴う口腔機能障害に対する歯科的対応
- デジタル技術を用いた補綴治療

### 主な検査

- 口腔内エックス線画像検査:歯や歯の周囲の疾患の有無を調べるために撮影します。全ての補綴治療を行う上で診断の基本になるものです。
- 口腔内写真:口腔内状態を客観的に判断し、その変化を確認するために撮影します。
- 顎骨のCT:歯科インプラント治療の診断に必要です。インプラント専用のソフトウェアを用いて解析を行います。
- 咬合・咀嚼検査:噛み合わせ状態や咀嚼能力の検査です。補綴治療前後の治療評価などに必要です。
- 口腔機能の検査:口腔機能低下症の診断に必要な諸検査を行います。



インプラント治療(口腔内写真)



インプラント治療(インプラント義歯装着)

## かみあわせ補綴科

むし歯になった歯に冠をかぶせたり、むし歯や歯周病で失った歯を、ブリッジや入れ歯などで修復することによって、咀嚼・嚥下・発音といった機能を回復し、さらには審美性を良くすることでQuality of Lifeを高めることを目指した外来診療を行っています。

### 診療体制

初診日は原則的には火・木・金曜日です。2回目からの診療は予約制となります(救急はこの限りではありません)。診療は一人の患者さんに対して一人の歯科医師が責任を持って行う担当医制ですが、診療科全体で症例を検討し、最適な診断と治療を実践しています。

### 治療方針

良く噛めることは、食の喜びを享受し、健康な生活を維持するためにとっても重要です。『かみあわせ補綴科』では、様々な修復物を最新の技法に基づいて製作し、熟練した技術をもって治療にあたり、最先端の測定機器で検証し、臨床の場にフィードバックすることを目指しています。

### 得意分野

補綴治療全般:冠やブリッジなど歯を削ってレジン・金属やセラミックで修復する治療(クラウンブリッジ)を専門としています。また入れ歯による治療(顎補綴も含みます)や顎関節症の治療、審美修復も行っています。インプラント:口腔外科で埋入手術を行った人工歯根に連結する義歯の製作を行っています。

睡眠時無呼吸の治療:睡眠時無呼吸やいびきの患者さんに対して、下顎を前方に誘導することで気道の閉塞を防ぎ無呼吸を抑制するマウスピースを用いた治療を行っています。

歯科金属アレルギーの治療:歯科金属アレルギー外来でアレルギー陽性が確認された患者さんの金属修復物の除去治療を行っています。スポーツや演奏による口腔の外傷予防:スポーツや演奏時の口腔の外傷を予防するため、患者さんの歯並びや噛み合わせに適した軟性のマウスピースの製作や口腔管理を行っています。

### 対象疾患

歯の欠損、審美不良、金属アレルギー、睡眠時無呼吸、顎関節症、顎欠損、歯ぎしり、スポーツや演奏による歯の外傷予防

### 主な検査

歯科一般検査、顎機能検査、歯ぎしり検査、口腔機能検査、精密触覚機能検査



オールセラミッククラウンで製作した上顎側切歯(左:術前、右:術後)



睡眠時無呼吸の治療に用いる口腔内装置



顎運動測定風景

<b>歯科</b>	[外来]tel.088-633-7375
	[医局]tel.088-633-7362

## 歯科放射線科

歯科放射線科は、口腔・顎・顔面領域に発生する様々な疾患、すなわち、むし歯や歯周病に始まり腫瘍・嚢胞・炎症・外傷等に至るまで幅広い疾患の画像診断を行っています。診療には、日本歯科放射線学会が認定する歯科放射線専門医あるいは指導医が担当しています。パノラマエックス線検査や口内法エックス線検査はもとより、CT検査に加え最近ではコーンビームCT検査も行っています。但し、CT検査、コーンビームCT検査やMRI検査等の一部の検査は、中央診療棟の施設を使って放射線科の医師と共同で診療を行っています。また、一般の歯科医院で行われる矯正治療やインプラント治療のための検査や診断を行い、質の高い歯科医療が提供できるように努めています。

### 診療体制

初診および再診患者の診察日は月曜日から金曜日までの毎日です。診療を担当する歯科医師は4名(講師、助教、診療支援医師)です。尚、CT検査(コーンビームCT検査を除く)およびMRI検査等は、原則的には事前予約制で行っています。

### 治療方針

CR(Computed Radiography)によりフィルムを使わない撮影環境が構築されています。それらは、診断用画像参照端末を使って読影が行われる一方で、画像を従来のフィルムやCD-Rで提供することも適宜可能となっています。診断が難しい症例等については、随時、症例検討会を行っています。

### 得意分野

口腔・顎・顔面領域の各種疾患の画像診断、顎関節疾患の画像診断。

### 対象疾患

口腔・顎・顔面領域の各種疾患、顎関節症。

### 主な検査

口内法エックス線検査、パノラマエックス線検査、頭部単純エックス線検査、頭部エックス線規格撮影。CT検査、コーンビームCT検査。超音波検査、MRI検査。



コーンビームCT撮影装置

診断用画像参照端末

<b>歯科</b>	[医局]tel.088-633-7357	[医局]fax.088-633-9139
-----------	----------------------	----------------------

## 矯正歯科

当科では上顎前突や反対咬合などの不正咬合の治療を、患者さんのニーズに応じて行います。また、種々の先天性疾患によって生じた不正咬合や、顎変形症に対する診療を、多くの専門診療科との連携のもとで行っています。

### 診療体制

一人一人の患者さんに対して特定の主治医が責任を持って診療にあたります。乳幼児期の口唇裂・口蓋裂患者さんの診療や、歯科矯正用アンカースクリューの埋入処置は特定の診療日と時間帯を設け、専門的な診療を行います。

### 治療方針

患者さんのご希望などの問診や、採得した資料をもとに症例検討会にて討議します。その結果をもとに、患者さん、保護者、主治医、科長が診断日に話し合いを行い、治療方針を決定します。

### 得意分野

#### ■口唇裂・口蓋裂に伴う不正咬合に対する包括的治療

出生直後の哺乳障害への対応に始まり、成長期における顎顔面の成長発育のコントロールや不正咬合の治療を他診療科と連携して行います。

#### ■リンガルブラケット矯正、アライナー矯正

歯の裏側に矯正装置を装着したり、透明なアライナーを使用した目立たない矯正治療です。

#### ■外科的矯正治療

下顎前突や顎偏位の患者さんに種々のコンピューターシミュレーションを行い、予見性のある外科手術を計画します。

#### ■歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療

歯科矯正用アンカースクリューを固定源に用いることで、患者さんの

負担を最小限に抑えた治療です。

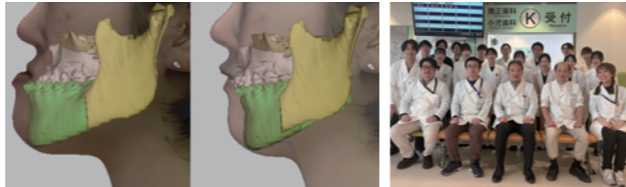
### 対象疾患

上顎前突、下顎前突、叢生などの一般的な不正咬合。歯の萌出不全などによる埋伏歯の牽引。入れ歯やクラウンブリッジなどの補綴治療に先立つ補綴前矯正治療。

顎変形症、口唇裂・口蓋裂、6歯以上の歯の先天性欠損、ゴールデンハー症候群(鰹弓症候群を含む)、鎖骨頭蓋異骨症、クルーゾン症候群、トリーチャーコリンズ症候群、ピエールロバン症候群、ダウン症候群、ラッセルシルバー症候群、ターナー症候群、ベックウィズ・ヴィードマン症候群、尖頭合指症、ソトス症候群、マルファン症候群などの先天性疾患に伴う不正咬合は保険診療の対象です。

### 主な検査

頭部X線規格写真による顎顔面形態分析、模型分析、治療のデジタルシミュレーション、顎運動測定、咬合力測定



外科的矯正治療による顔貌の変化



治療前

治療中

治療後

<b>歯科</b>	[外来]tel.088-633-7373
	[医局]tel.088-633-7359 [医局]fax.088-633-9132

## 小児歯科

健康な歯で食べ物をよく噛んで食べることは、子どもの身体の成長に必要なだけだけでなく、健全な「こころ」を育成するための基本要素です。さらに子どもの時に正しい噛み合わせを獲得し、これを生涯維持する方法を学ぶことは、今後の豊かな人生をおくるための原動力となります。小児歯科は、口腔を通して、子どもの健全な体とこころをつくることを実践している診療科です。

### 診療体制

リコールシステムに基づいて、う蝕の予防・治療、歯列・咬合の育成、外傷治療、正中埋伏過剰歯の摘出、上唇・舌小帯伸展術、粘液嚢胞の摘出等の外科処置および顎関節症の治療を行っています。

### 治療方針

小児は成長・発達をつづけるため、口の中も年齢とともに大きく変わり、生まれて歯がない状態から乳歯が萌出し、さらに永久歯列へとダイナミックに変化していきます。小児歯科では、子どもが成人したときに正しい噛み合わせを持つことを目標に治療を行っています。

### 得意分野

治療が怖くてできない小児に対しては、歯科治療に対する不安や恐怖を軽減するための心理的アプローチ法や精神鎮静法を併用して治療を行っています。また、歯科麻酔科や高次歯科診療部(障害者歯科部門)と連携して、通常の歯科治療を受けることが困難である障碍児の歯科治療を行っています。小児の睡眠時無呼吸に対しても歯科の側面から積極的に対応しています。

### 主な検査

個人の顎の模型を作成し、さらにデンタルエックス線写真やパノラマエックス線写真およびCT写真を併用し、現在の問題点や歯並びおよび噛み合わせの成長の分析を行います。また、治療による効果の判定について、将来の予測値と比較することで定期的にフィードバックを行い、個人に最も適した治療法を選択します。



医科病棟への往診

全身麻酔下での歯科治療



小児歯科外来診療風景

<b>歯科</b>	[外来]tel.088-633-7372
	[医局]tel.088-633-7352 [医局]fax.088-633-7388

## 口腔内科

口腔内科は、口腔疾患ならびに全身疾患に付随する口腔症状について診断し、治療を行う診療科です。口腔粘膜疾患や口腔心身症などの診療とともに、抜歯や嚢胞、腫瘍などの手術も行っています。

### 診療体制

初診日は水・木曜日、再診日は月・水・木・金曜日で、8名の歯科医師が外来診療と入院診療を行っています。初診の患者さんの診断は、各専門医・指導医が担当します。

日本口腔外科学会専門医・指導医3名、日本口腔科学会認定医・指導医2名、日本口腔内科学会専門医・指導医2名、日本口腔顎顔面痛学会専門医・指導医1名、がん治療認定医(歯科口腔外科)1名、日本口腔外科学会認定医2名が在籍しています。

### 治療方針

患者さん一人ひとりに最適な治療法を提案し、安心して治療を受けていただけるように心がけています。多種多様な口腔疾患を扱うため、毎週症例検討会を行い、最新の知見に基づいた質の高い医療を提供できるよう努力しています。疾患の治療を通じて、患者さんのQOLの向上と健康増進を目指します。

### 得意分野・対象疾患

- 口腔粘膜疾患(白板症、口腔扁平苔癬、紅板症、口腔カンジダ症、単純ヘルペス、帯状疱疹、難治性口内炎、など)
- 唾液腺疾患(ドライマウス、シェーグレン症候群、唾石症、粘液嚢胞、など)
- 炎症性疾患(歯周組織の炎症、顎骨の炎症、顎骨周囲の炎症、歯性上顎洞炎、など)

- 口腔心身症(舌痛症、非定型歯痛・顎顔面痛、口腔セネストパシー、歯科治療恐怖症、など)、味覚障害

- 有病者歯科治療:有病者の患者さんには、血圧、心電図、経皮的酸素飽和度をモニタリングしながら、低侵襲の操作で安全に抜歯等の観血的歯科治療を行っています。歯科治療恐怖症の患者さんには、精神鎮静法を併用して負担の少ない治療を行っています。

- 骨吸収抑制薬(ビスホスフォネート(BP製剤)、抗RANKL抗体)投与前ならびに頭頸部放射線治療前の口腔スクリーニングと口腔衛生指導:薬剤関連顎骨壊死や放射性骨髄炎の発症予防に努めています。

- 周術期等口腔機能管理:周術期の患者さんの合併症予防に取り組んでいます。

### 主な検査

画像検査(エックス線検査、CT、MRI、エコー、唾液腺シンチグラフィ)、口腔機能検査(ガムテスト、サクソントテスト)、血液検査、細菌・真菌検査、味覚機能検査



歯科
----

## 口腔外科

顎関節症の患者さん

顎・口腔領域の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷、先天異常、後天異常等の診断、治療ならびに医療情報提供を行っています。

顎関節症の患者さん

**診 療 体 制**

外来、入院診療ともに、一人ひとりの患者さんに対して、口腔外科専門医が診察・診断の上、担当医が責任をもって診療を行う体制をとっています。また、入院患者さんの治療方針は、口腔外科医全員が参加して毎週行う教授回診・カンファレンスにおいて検討・決定されます。

**治 療 方 針**

最新の医学・生物学知見と臨床経験に基づいた高度な診療の実践を目指します。
疾病の根治はもちろん、口腔機能の維持、回復にも十分配慮し、患者さんのQOLを考慮した治療を行います。

**得意分野**

**口腔腫瘍および顎骨嚢胞に対する治療**:口腔潜在的悪性疾患(癌になる手前の病気)を有する患者さんや、舌癌や歯肉癌などの口腔癌あるいは良性腫瘍の患者さん、顎骨嚢胞の患者さんに対して、症状に応じた治療と定期的な経過観察を行っています。

**外科的矯正治療における顎矯正手術**:一般の歯科矯正だけでは治療できない上下顎のバランスを治す手術(顎矯正手術)を矯正歯科および開業矯正医と連携して行っています。

**顎顔面外傷に対する治療**:顎顔面の骨折は咬合不全、咀嚼機能の異常、開口障害、発音障害、視力障害などを伴います。できる限り顔面にメスを入れず、口腔内から顎顔面外傷の治療を行っています。

**歯科インプラント治療**:歯の欠損に対して、人工の歯根(インプラン

外来]tel.088-633-7372
[医局]tel.088-633-7354　[医局]fax.088-633-7462

顎関節症の患者さん

顎関節症の患者さん

ト)による咬合の回復を補綴科、総合歯科、口腔インプラントセンターと共同で行っています。

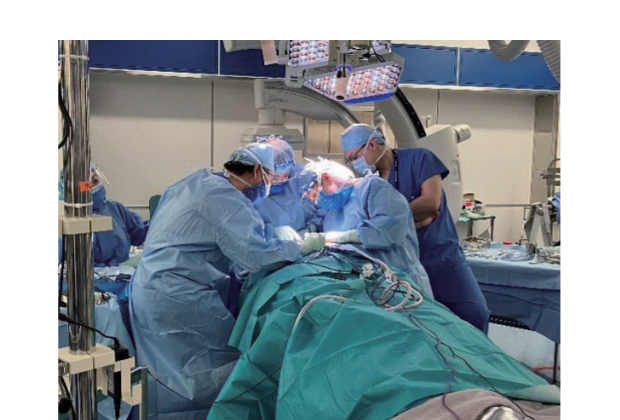
**顎関節症に対する治療**:薬やマウスピースによる保存的治療を主体的に行っていますが、奏功しない場合には、外科的治療(関節腔内の洗浄療法、内視鏡による手術、顎関節人工関節全置換術など)を行っています。

**対象疾患**

顎・口腔領域の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷、先天異常、後天異常、顎関節疾患、歯科インプラントなど

**主な検査**

超音波検査、顎顔面外傷に対する3D-CT、顎関節症のMRI、歯科インプラントの術前CT、口腔癌に対する造影CT など



顎関節症の患者さん

顎関節症の患者さん

外来]tel.088-633-7376
[医局]tel.088-633-7367　[医局]fax.088-633-7368

顎関節症の患者さん

顎関節症の患者さん

**【手術部での麻酔管理 / 全身管理】**

口腔外科領域における侵襲の大きな手術時の全身麻酔や精神鎮静法の管理を行っています。

**得意分野**

■歯科治療時の精神鎮静法、全身麻酔

■口腔外科手術の全身麻酔、静脈内鎮静法

■歯科治療中の合併症への対応

■口腔・顔面痛に対するペインクリニック

**対象疾患**

■歯科治療に対する不安、恐怖症

■歯科治療時に障害となる嘔吐反射

■歯科局所麻酔薬アレルギー

■三叉神経痛・非歯原性歯痛



診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
むし歯科	科長	教授	保坂 啓一	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	副科長	講師	細川 義隆	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	総務医長	助教	伊田 百美香	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	外来医長	准教授	中西 正	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	研究推進医長	講師	細川 育子	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		助教	武川 大輔	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		助教	下山 真弘	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		助教	井内 智貴	う蝕、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		教授	尾崎 和美	歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
		教授	湯本 浩通	歯周病、歯髄疾患

歯周病科	副科長・総務医長	講師	稲垣 裕司	歯周病、歯髄疾患
	外来医長	助教	二宮 雅美	歯周組織再生療法、歯周病細菌PCR検査
	研究推進医長	助教	板東 美香	歯周病、歯髄疾患
		助教	木戸 理恵	歯周組織再生療法
		助教	秋月 皆人	歯髄疾患
		助教	仲村 大輔	歯周組織再生療法

そしゃく科	科長	教授	渡邊 恵	歯科補綴治療、インプラント
	副科長・総務医長	准教授(病院教授)	永尾 寛	歯科補綴治療、高齢者歯科、摂食嚥下リハビリテーション、顎補綴
	外来医長	助教	松田 岳	歯科補綴治療、高齢者歯科
		講師	石田 雄一	歯科補綴治療、インプラント
	研究推進医長	助教	岩脇 有軌	歯科補綴治療、インプラント
		助教	藤本 けい子	歯科補綴治療、高齢者歯科
		助教	小西 晴奈	歯科補綴治療、インプラント

かみあわせ補綴科	科長	教授	松香 芳三	歯科補綴、口腔顔面痛、顎関節症、睡眠歯科、歯科インプラント、高齢者歯科、歯科用金属アレルギー
	副科長	准教授	大島 正充	歯科補綴、歯科インプラント、高齢者歯科
	総務医長	講師	鈴木 善貴	歯科補綴、顎関節症、睡眠歯科、スポーツ歯科、音楽歯科、高齢者歯科

矯正歯科	外来医長	助教	生田目 大介	歯科補綴、口腔顔面痛、顎関節症、高齢者歯科、歯科インプラント
	研究推進医長	助教	小池 一幸	歯科補綴、歯科インプラント、高齢者歯科
		教授	細木 眞紀	歯科補綴、歯科用金属アレルギー
		助教	井上 美穂	歯科補綴、高齢者歯科、歯科インプラント、歯科用金属アレルギー

歯科放射線科		助教	新開 瑞希	歯科補綴、高齢者歯科、睡眠歯科
	科長	講師	前田 直樹	口腔・顎・顔面領域・顎関節の画像診断
	副科長・研究推進医長	講師	水頭 英樹	口腔・顎・顔面領域の画像診断、高齢者歯科
	総務医長	助教	近藤 智之	口腔・顎・顔面領域の画像診断・病理診断
	外来医長	助教	奥 由里	口腔・顎・顔面領域の画像診断

矯正歯科	科長	教授	田中 栄二	歯科矯正、先天異常、顎変形症、顎関節症
	副科長	講師	堀内 信也	歯科矯正、先天異常、顎変形症、顎関節症
	総務医長	講師	渡邊 佳一郎	歯科矯正、先天異常、顎変形症
	外来医長・研究推進医長	准教授	日浅 雅博	歯科矯正、先天異常、顎変形症

小児歯科		助教	吉永 薫	歯科矯正、先天異常
		助教	松木 秀河	歯科矯正
		助教	花輪 茂己	歯科矯正
		助教	金城 総一郎	歯科矯正

小児歯科	科長	教授	岩崎 智憲	小児歯科、障害者歯科
	副科長	講師	長谷川 智一	小児歯科、障害者歯科
	総務医長	講師	中川 弘	障害者歯科、小児歯科
	外来医長	助教	前尾 慶	小児歯科、障害者歯科
	研究推進医長	助教	北村 尚正	小児歯科、障害者歯科
		助教	赤澤 友基	小児歯科、障害者歯科
		助教	鈴木 結加里	小児歯科、障害者歯科
		助教	花輪 菜里子	矯正歯科、小児歯科

口腔内科	科長	教授	津島 文彦	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
	副科長・総務医長	准教授(病院教授)	青田 桂子	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
	病棟医長	講師	桃田 幸弘	口腔心身症、口腔顔面痛、緩和ケア
	外来医長・研究推進医長	助教	浪花 耕平	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理

口腔内科		助教	可児 耕一	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
		助教	芳池 浩彰	口腔内科、周術期口腔機能管理
		特任助教	西田 真理	周術期口腔機能管理

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
口腔外科	科長	教授	栗尾 奈愛	口腔腫瘍、顎変形症、顎顔面外傷、顎関節疾患、顎顔面再建、顎嚢胞、顎顔面の先天異常、歯科インプラント
	副科長・ 外来医長	講師	高丸 菜都美	口腔腫瘍、顎変形症、顎顔面外傷、顎嚢胞
	総務医長	講師	工藤 景子	口腔外科一般、口腔腫瘍
	病棟医長	助教	上杉 篤史	口腔外科一般、口腔内科
	研究推進医長	助教	福田 直志	口腔外科一般、口腔腫瘍、顎顔面再建
			工藤 隆治	口腔外科一般、放射線治療(口腔腫瘍)
		助教	鎌田 久美子	口腔外科一般、歯科インプラント
			秋田 和也	口腔外科一般
歯科麻酔科	科長	教授	川人 伸次	歯科麻酔科学、ペインクリニック、緩和医療、集中治療
	副科長・ 外来医長	准教授	高石 和美	歯科麻酔科学、障害者歯科
	総務医長・ 研究推進医長	講師	江口 寛	歯科麻酔科学



- 51 検査部  
手術部
- 52 放射線部  
救急集中治療部
- 53 リハビリテーション部  
視能訓練部
- 54 輸血・細胞治療部  
病理部
- 55 安全管理部  
感染制御部
- 56 総合歯科診療部  
高次歯科診療部(口臭部門)
- 57 高次歯科診療部(口腔顔面痛・顎関節症部門)  
高次歯科診療部(障害者歯科部門)
- 58 高次歯科診療部(歯周病専門部門)  
高次歯科診療部(歯科用金属アレルギー部門)
- 59 高次歯科診療部(小児摂食・嚥下機能発達部門)  
周産母子センター
- 60 病院情報センター  
臨床研究推進部
- 61 総合診療部  
患者支援センター
- 62 移植・免疫細胞療法センター(TCU)  
内視鏡センター
- 63 超音波センター  
高次脳センター
- 64 卒後臨床研修センター  
医療支援センター
- 65 セカンドオピニオン外来  
脳卒中センター
- 66 高度画像診断センター  
口腔管理センター
- 67 がん診療連携センター
- 68 物流センター  
臨床工学部
- 69 アンチエイジング医療センター  
パーキンソン病・ジストニア治療研究センター
- 70 高次脳機能障害支援センター  
キャリア形成支援センター
- 71 キャリア形成支援センター(看護職部門)  
糖尿病対策センター
- 72 徳島県地域医療支援センター  
口腔インプラントセンター
- 73 クリニカルアナトミー教育・研究センター  
てんかんセンター
- 74 国際医療センター  
クリニカルバスセンター
- 75 総合スポーツ医学センター  
口唇口蓋裂センター
- 76 周術期管理センター  
看護師特定行為研修センター
- 77 総合アレルギーセンター  
再生医療細胞調整センター
- 78 総合腎臓病センター  
下肢救済・創傷治療センター
- 79 脳卒中・心臓病等総合支援センター  
痛みセンター
- 80 ゲノム医療センター  
技工室
- 81 歯科衛生室  
子と親のこころ診療・学習障害センター
- 82 褥瘡対策室  
人工透析室
- 83 排尿ケア管理室  
看護部
- 84 薬剤部  
医療技術部
- 85 栄養部  
事務部
- 86 スタッフ一覧
- 87 スタッフ一覧
- 88 スタッフ一覧
- 89 スタッフ一覧
- 90 スタッフ一覧

# TOKUSHIMA UNIVERSITY HOSPITAL 2026

## 検査部

検査部では、採取した血液や尿などを調べる「検体検査」と、患者さんに電極などを装着して直接調べる「生理機能検査」を行っています。

### 診療体制

臨床検査技師および検査管理医が、以下の部門に分かれて業務を実施しています。

①検査管理部門(中央採血室、品質管理)、②検体検査部門(臨床化学検査、腫瘍マーカー、ホルモン、ウイルス抗体等検査等)、③形態検査部門(血液検査、造血器悪性腫瘍検査、止血凝固検査、尿糞便検査等)、④微生物部門(一般細菌、真菌、結核菌等検査)⑤生理機能検査部門(心電図、肺機能、脳波、血圧脈波、血管内皮機能、誘発電位、睡眠時無呼吸検査等)⑥超音波検査部門(各種超音波検査)⑦特殊分析検査部門(遺伝子検査、特殊検査)また、夜間休日の緊急検査に対応するために24時間体制をとっています。

### 特徴・特色

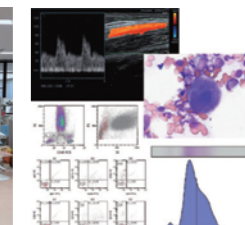
検体検査部門では、最新の分析装置やデータ管理システムを導入し、正確な検査結果を迅速に提供しています。外来患者さんでは、腫瘍マーカー、ホルモン、リウマチ検査なども診療前検査として迅速な結果報告が可能となっています。電子カルテも進歩し、末梢血液像・尿沈渣の異常細胞や心電図・脳波などの結果も電子カルテ上で結果を見ることが可能となりました。遺伝子検査は、「リアルタイムPCR」を導入し、結核菌検出や肝炎ウイルス検査を高感度、かつ迅速に行っています。2007年には、臨床検査に特化した国際規格ISO15189認定を取得しました。これは、本院の検査結果は、国際的に信頼性が認

められているということです。

生理機能部門では心電図検査等に加えて、致死性不整脈による突然死の危険性を評価する「心室遅延電位検査」、「体表心電図」、動脈硬化関連の検査である「血管内皮機能(FMD)検査」、さらに睡眠時無呼吸症候群診断のための、「終夜睡眠ポリグラフ検査」も行っています。細菌検査室では質量分析装置が導入され、細菌の蛋白を解析することにより短時間で細菌を同定することが可能となりました。また、感染管理支援システムが構築されており、薬剤耐性菌の院内情報共有や、菌の蔓延が疑われた場合に直ちに報告することが可能となっています。



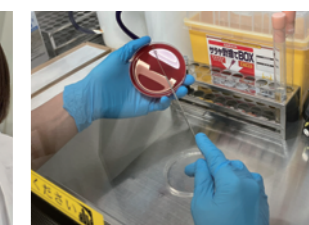
中央採血室



検査結果画像



呼吸機能検査



細菌検査

## 手術部

手術部では入院・外来患者に対する定時・緊急手術を安全かつ効率的に行うために、手術スケジュール、手術室環境、設備、機器、医療材料、医薬品、ならびに人員の管理を行っています。

### 体制

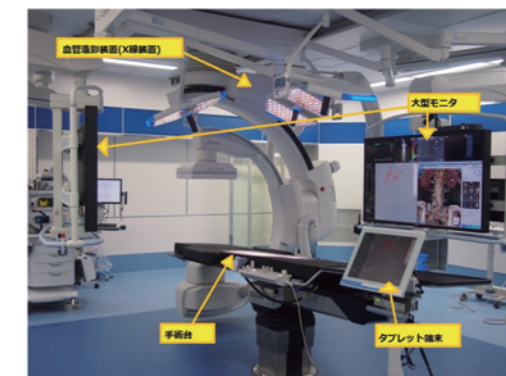
手術手技・技術の急速な進歩により、手術は高度化、複雑化、長時間化され、手術に用いられる機器も同様に高度・複雑化しています。このような流れのなかで、安全性を確保し、手術患者へ広い意味での良好な医療を提供するとともに、手術室を効率良く運用することを業務としています。そのためには医師・看護師など職種間の連携、診療科間の協調が必要であり、手術部は、医師4名、看護師49名、臨床工学技士6名、放射線技師2名、薬剤師1名の体制で業務を行っています。薬剤管理には薬剤師が関与しています。手術部は中央診療棟4階にあり、クリーンサプライ方式の14室/15ベッドからなり、クリーンルーム1室、特殊感染症用の陰圧室2室、内視鏡手術室1室を含みます。2015年12月に手術部内部から渡り廊下でつながる新外来診療棟4階低侵襲手術ユニットに、ハイブリット手術室とダヴィンチ手術(ロボット支援下手術)室の2室が完成し、高度先進的な手術に対応できるようになりました。

### 運営方針

限られた医療資源(人、物)のもとで、定時手術患者では待機期間が短くなるように、緊急手術では迅速な実施が可能となるように、また、良好な手術室環境を維持し、必要な機器等が整備されるように、関連各科・部署との緊密な連携を計っています。

### 特徴・特色

手術部にはロボット支援下手術装置、各種ナビゲーションシステム、4Kの内視鏡システムなど最新の設備、機器が導入されていますが、特徴は電子化により業務が迅速、確実に行われていることです。手術部門システムは生体監視装置からの情報を取り込むとともに、病院情報システムと複合的につながっています。病院情報システム上で手術が申し込まれ、調整を行ったスケジュールが、術前検査データなどとともに部門システムに送られます。使用薬剤、麻酔方法・時間、術式などの実施情報は病院情報システムに戻され、薬剤の在庫管理のために物流システムへ、料金計算のために医事課へ送られます。また、物品管理に関しては物品管理システムであるSPDを導入し、在庫の減少、物品管理に必要な職員の削減を計っています。



## 放射線部

放射線部では、各診療科と連携し画像診断及び放射線治療に関する診療を行っています。

### 体制

総勢41名の診療放射線技師と、医師、看護師、事務員が、画像診断部門、放射線治療部門に分かれ、協力して業務を行っています。

### 主な業務

#### 画像診断部門

画像診断部門は、中央診療棟1階及び2階にて、一般・特殊撮影検査、血管撮影検査、透視撮影検査、CT検査、MRI検査、核医学検査、PET/CT検査などを行い、外来棟4階では、歯科領域のパノラマ撮影やデンタル撮影を行っています。2004年4月より統合画像診断管理システムが導入され、画像の電子化が実現し、画像データ提供の迅速化、効率化が図られています。近年ではAI(Artificial Intelligence:人工知能)技術を用いた医用画像診断支援システムが導入され、画像診断の向上に貢献しています。

3テスラMRIは、SNR(Signal-to- Noise Ratio:信号対雑音比)が高く、分解能の向上や時間短縮が可能で、脳卒中急性期の初期診断に貢献しています。現在では脳神経領域以外にも骨盤内臓器や乳房

の診断にも優れており、特に乳房MRIではマンモグラフィや超音波よりも精度が高く有用とされています。今後は形態情報だけでなく、機能や代謝情報も得られるモダリティとしての有用性が期待されています。

PET/CTは、PET(Positron Emission Tomography:陽電子放出断層撮影)による生体の機能画像とCTによる形態画像を重ね合わせた融合画像であり、病変部の位置の特定や正確な診断を速やかに行うことができます。小さながんの発見や良性・悪性の適切な診断が可能となり、より正確な治療へと貢献しています。また全身の検査を行うため、原発の検出や転移検索に有用です。

#### 放射線治療部門

放射線治療部門は中央診療棟1階にTrue BeamとRadixact、外来棟1階にNovalis Txの計3台の治療装置が設置されており、IMRT(Intensity Modulated Radiation Therapy:強度変調放射線治療)や定位放射線治療などの高精度放射線治療を行っています。また、密封小線源治療としてリモートアフターローディングを用いた腔内照射、前立腺がんの永久挿入密封小線源療法も行っています。



MRI 装置 (Signa MR750 3T)



PET / CT 装置 (Discovery 710)



高エネルギー直線加速装置 (Novalis Tx)

[医局]tel. 088-633-9347 [医局]fax.088-633-9339

## 救急集中治療部

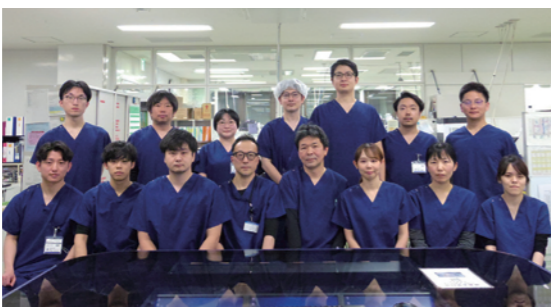
救急集中治療部は院内外の重症患者の治療を行う中央診療部門です。心臓手術などの大手術、合併症を有する患者の術後管理や、院内の重症患者の治療を行っています。院外からは脳卒中、急性冠症候群、心肺停止、重症熱傷、薬物中毒の患者を受け入れています。人工呼吸、腎代替療法(透析)、補助循環を駆使して様々な臓器不全の治療を行います。

### 診療体制

集学治療棟(東病棟4階)に11床のICU、9床の脳卒中センター、15床のハイケア治療室を備えており、専従医師9名に加え、各診療科からの応援医師、研修医で診療を行っています。

### 特徴・特色

専門医、専従医が治療の中心となるclosed policyを実践している、日本では数少ない施設です。重症患者の治療成績も、このpolicyの実践により有意に改善しています。



### 年間診療患者数

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
ICU 入室患者総数	673	538	515	520	471
心臓血管外科	147	149	141	135	128
脳神経外科	125	67	47	78	51
外科	264	184	192	160	144
内科	106	111	108	111	118
その他	31	27	27	36	30

HCU 入室患者総数	951	1,337	1,689	1,905	1,849
心臓血管外科	100	176	231	180	172
脳神経外科	145	212	238	260	280
外科	527	719	938	1,053	1,046
内科	148	203	244	376	325
その他	31	27	38	36	26
SCU 入室患者総数	393	381	308	344	322

## リハビリテーション部

リハビリテーション部は、患者の皆様に、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を提供して、日常生活の自立、早期退院、早期社会復帰を実現する中央診療施設です。

### 診療体制

リハビリテーション部には、医師(3名)、理学療法士(16名)、作業療法士(5名)、言語聴覚士(3名)、看護師(1名)、技術補佐員(1名)、クラーク(2名)、メディカルクラーク(1名)が所属しています。各診療科から入院患者の皆様を紹介いただいでリハビリテーションを行うとともに、外来での心大血管リハビリテーションなどを行っています。

### 治療方針

医師が患者の皆様を診察して障害評価を行い、理学療法、作業療法、言語聴覚療法を処方します。理学療法士は、座る、立つ、歩くなど、基本的な運動機能の訓練を行います。作業療法士は、食事動作、着替え動作などの応用動作の訓練、手の装具の作成、心理学的アプローチなどを行います。言語聴覚士は、話す、飲み込む、記憶などの障害に対する評価と訓練を行います。定期的にカンファレンスと回診を実施し、患者の皆様のご種々の障害に、最も適した治療方法の選択を心がけています。

### 得意分野・対象疾患

運動器疾患(脊椎、関節、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、切断など)、脳・神経疾患(脳卒中、脳腫瘍、パーキンソン病など)、心大血管疾患(心筋梗塞、狭心症など)、呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患など)、内分泌・代謝疾患(糖尿病、病的肥満など)などに対するリハビリテーションを提

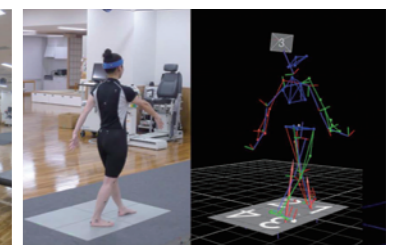
供しています。がん患者さんに対しても、研修を受けたスタッフがリハビリテーションを行い、“生活の質”の向上に努めています。

### 主な検査と説明

3次元動作解析、筋力検査、重心動揺、高次脳機能検査、言語機能評価、嚥下機能評価、心肺運動負荷試験などで客観的に評価を行います。



リハビリテーションセンター



3次元動作解析

tel.088-633-7161 fax.088-633-7488

## 視能訓練部

視能訓練部は、斜視弱視診療専門部門として1974年に設立され、当時は斜視や弱視の視能訓練といった専門分野のみを業務としていました。現在は眼科外来で、乳幼児から高齢の方までを対象に、眼科一般検査や精密な特殊検査、ロービジョンケアなど幅広い業務を行っています。

### 診療体制

眼科の診療体制と同じです。

眼科には斜視・弱視のみならず、網膜・硝子体、角膜、緑内障などさまざまな専門外来が設けられており、診断や治療に必要な各種検査を医師の指示のもと視能訓練士が実施します。

視能訓練、ロービジョンケアは完全予約制で行っております。

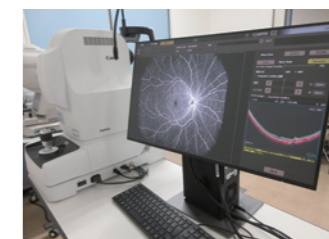
### 診療方針

眼科領域における医療の担い手として、専門知識と技術をもって患者さんの気持ちや安全に配慮し正確な検査を行います。また安心して検査を受けてもらえるよう、丁寧でわかりやすい説明を心がけています。

### 特色

視機能発達期にある小児の患者さんを数多く検査し、器質的疾患の有無や弱視の早期発見に努めています。

その他、眼科検査をもとに視能性を評価し、患者さんの日常生活におけるQOV(Quality of Vision:視覚の質)の向上を支援します。



## 輸血・細胞治療部

### 診療体制

日本輸血・細胞治療学会認定医、認定輸血検査技師など専門性の高いスタッフが検査業務・教育・研究を行っています。医療技術部臨床検査技師が24時間体制で診療に携わっています。

### 運営方針

厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」に基づき、安全で適正な血液製剤の使用推進に努めています。

### 主な業務

#### ①血液製剤の適切な一元管理

血液製剤を血液センターに発注し、温度集中監視装置付きの専用保冷庫で保管管理しています。手術部への出庫は直結するダムウェータで迅速に搬送し、病棟への出庫は専用の保冷バックに入れて搬送しています。

#### ②輸血前検査

輸血前に血液型検査、不規則抗体検査を行い、必要時は亜型検査も行います。過去の輸血や妊娠によって産生された不規則抗体の有無を判定し、抗体保有時は抗体名を同定することで、適合血を選別準備しています。血液製剤の出庫前には患者血と血液製剤血との交差適合試験を行い、安全な適合血を出庫しています。

#### ③移植関連検査、診断補助検査

造血幹細胞移植や臓器移植、一部疾患の診断補助に必要な組織適合性検査(HLA型検査)を行っています。血小板輸血不応時には血小板抗体(HLA抗体)検査を行い、陽性時にはHLA適合血小板の供給体制を整えています。

#### ④自己血・造血幹細胞の保管管理

貯血式自己血・造血幹細胞採取時にバッグ毎に製剤番号を付与したバーコードラベルを発行し、日赤血と同様にコンピュータシステムを用いた保管管理を行い、出庫時に適合チェックを行っています。

#### ⑤副作用対策

輸血前の患者検体を凍結保管(約2年間)し、輸血による感染症が疑われた場合に「生物由来製品感染等被害救済制度」の適応証明に備えています。

#### ⑥細胞治療

ヒト体性幹細胞加工製品「テムセルHS注」・CAR-T製剤などを保管管理し融解調整後出庫しています。



## 病理部

病理部では、顕微鏡診断のために、生検・手術等で採取された組織・細胞のガラス標本を作製しています。また、ガラス標本やパラフィンブロックの保管・管理も行っています。

### 診療体制

医師、臨床検査技師、技術補佐員、事務補佐員が診療業務に携わっています。

### 診療方針

当部では、病理診断のためにHE染色、特殊染色、免疫染色など様々な染色の標本を作製しています。染色には複数の自動染色装置を使って行われており、大量の標本作製にも迅速に対応できる体制をとっています。HE染色や特殊染色では、染色終了後に染色性をチェックする、免疫染色では、陽性・陰性コントロールをつけて染色を行うなどの内部精度管理に加えて、外部機関による精度管理を定期的に行い、標本の品質の維持に努めています。また、パラフィンブロックやガラスライドの自動印字システムを導入し、検体の受付から病理診断が確定するまでの多数のステップをすべてバーコード管理することにより、標本の取り違えが起きないようにしています。最近では、標本を薄切する際に刃を新しくし、マスクや手袋をするなど他人の細胞が標本に混入しないように慎重に作製した標本を提供することにより、ゲノム医療に貢献しています。

### 主な検査

年間の検体数:組織診断8,990件、細胞診断7,451件、術中迅速診断

623件、病理解剖12件

#### ・病理組織診断

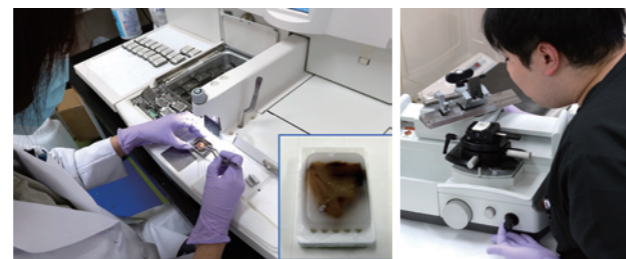
ホルマリン固定された組織をパラフィンに包埋したものをパラフィンブロックといいますが、これをマイクロームで薄切し、切片をガラスライドにのせて染色した標本を診断に用います。

#### ・細胞診断

採取された細胞材料をガラスライドに塗抹し、エタノールもしくは乾燥によって固定後、染色した標本を診断に用います。

#### ・術中迅速組織診断

手術中に提出された組織を凍結し、クリオスタットと呼ばれる専用のマイクロームで薄切後、切片をガラスライドにのせてエタノールで固定し、染色した標本を診断に用います。



パラフィン包埋(枠内は作製されたパラフィンブロック)

パラフィンブロックの薄切

## 安全管理部

本院の医療安全は病院長、副病院長等で構成されるリスクマネジメント委員会によって管理されており、安全管理部はその実務を担当しています。患者さんが医療を安全に安心して受けられるように、職員から報告される様々な問題を分析・対応する事により大きな問題を未然に防ぐとともに、発生した医療に関する種々の問題への対応や再発防止に努めています。特定機能病院として取り組まなければならない高難度新規医療技術や未承認新規医薬品を用いた医療の審査及び実施状況の管理、適切なインフォームドコンセントの運用推進を行う部門、クオリティ・インディケーターの分析・管理も担当しています。これらの業務を、部長(専従医師)、副部長(専任医師、兼任歯科医師、専従看護師、専従薬剤師)が核となり、兼任臨床工学技士、兼任診療放射線技師、専従事務職員、各職種の補佐等が支えています。

本院で報告されたインシデントは、多職種からなるチームで検討し、重要な問題についてはリスクマネジメント委員会で審議をします。現場が立案し、ここで修正された対策は職員に周知されますが、本院ではその対策の実効性を多職種チームが改めて現場に出向き検証するOODAループ及びPDCAサイクルを形成しています。私たちが現場からかい離することがないように、各部署関係者と密に連携を取りながら、より安全性の高い医療の提供をできるよう日々活動を行っています。

### 主な業務

・医療安全体制の整備

・医療安全の基本的な考え方や具体的方策についての職員への周知徹底および、安全に対する意識の醸成や、安全な業務の遂行につながる研修の企画・実施

・施行されていないか、されていても患者さんに大きな影響の生じていない事例の収集・分析と、再発防止対策の立案・検証

・発生した医療上の事故等発生時の患者、医療者双方への支援

・発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討、再発防止

・高難度新規医療技術や未承認新規医薬品を用いた医療の提供についての事前審査および実施状況の検証

・インフォームドコンセントの適切な実施体制の整備、説明書・同意書の審査

・クオリティ・インディケーターの計測と考察、および公表

### 特徴・特色

当部は、他院でもあまり例を見ない多職種で構成されています(医師GRM2名、歯科医師GRM1名、看護師GRM2名、薬剤師GRM1名、臨床工学技士GRM1名、診療放射線技師GRM1名、臨床工学技士GRM補佐1名、歯科医師GRM1名)。また、クオリティ・インディケーター室を持っており、通年、医療の質を検討しています。更に、院内での医療安全教育充実のための安全管理研修会は、参加しやすい



よう複数回開催するとともに、欠席しても受講できるようにe-learningシステム等を整備し、受講率100%となっています。

## 感染制御部

院内感染対策への関心は非常に高く、国の政策的にもその充実が求められています。本院は日本感染症学会認定研修施設、第一種・第二種感染症指定医療機関、エイズ中核拠点病院であり、様々な感染症の対応や、院内感染対策のさらなる質の向上に向け取り組んでいます。感染対策は、平常時の教育・啓発活動、現場の業務改善が重要です。また、アウトブレイクを早期に感知し、最小限にするためにサーベイランス体制を充実・強化し、臨床現場のラウンドを日常的に行っております。感染制御部には、感染症専門医・感染管理認定看護師をはじめ、薬剤師や検査技師など多職種のメンバーが所属しており、それぞれの専門性を活かしてこれらの活動を進めています。また、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)を編成し、定期的に抗菌薬カンファレンスを行い、広域

抗菌薬処方や血液培養陽性例に対し直接的な介入を実施し、院内の適正な抗菌薬使用を推進しております。これらの活動を通じ、院内感染対策を担う人材の養成に努めています。また、地域レベルでの感染対策の充実を図るため、地域の医療機関と連携し、合同カンファレンスの開催やコンサルテーションを実施しています。

これからも感染制御部は、院内の感染予防と職員の健康管理を行い、患者さんに安心・安全な医療を提供することを目標に日々活動していきます。



感染制御部メンバー



新興感染症発生時の対応訓練



研修医への研修風景(手指衛生)

## 総合歯科診療部

初めて来院された患者さんを臨床実習生(診療参加型臨床実習)および研修歯科医(卒後臨床研修)らと協力しながら治療に最適な診療科へ紹介する予診業務を行っております。また、外来診療では、歯科一般(う蝕治療、歯周治療、歯冠補綴、義歯、抜歯など)の治療を中心にを行っています。

### 診療体制

外来診療は、平日の午前/午後ともに5~8名の常勤歯科医師が診療に従事しています。また、研修歯科医10名以上が診療しています。

### 治療方針

当科は、患者さんのQuality of Life(QOL)向上を目指して、診断からメンテナンスまで総合的な治療を行っています。外来診療は歯内療法、保存修復処置、抜歯などの口腔外科治療、クラウンブリッジ及び有床義歯による補綴治療といった歯科一般的な治療を基本診療として行っております。そのほか、歯科口腔外科治療、歯周外科治療、歯周治療後の補綴治療、顎補綴治療、歯科インプラント治療といった専門性が必要となる治療も行っています。

### 得意分野

歯科一般:う蝕の診断及び修復治療、歯内疾患の診断及び治療、根尖性歯周疾患の診断及び治療、歯周病の病状ならびに病態の診断、歯周基本治療、抜歯などの口腔外科治療、クラウンブリッジ及び有床義歯による補綴治療、補綴治療後のメンテナンスを含めた口腔衛生指導やう蝕と歯周病の予防処置といった一般的な歯科治療を行っています。また、変色歯に対して審美歯科治療も行っています。

[外来]tel.088-633-7370

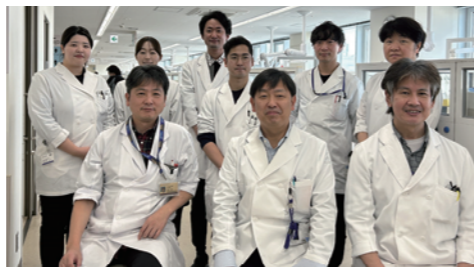
[医局]tel.088-633-9181

歯周外科:歯周基本治療後に再評価を行い、外科的な処置が必要な場合に歯周外科処置を実施しています。

顎補綴:口腔にできる腫瘍(良性腫瘍,悪性腫瘍)により顎や舌を切除した患者さんに、顎義歯などの特殊な補綴装置を製作し、咀嚼、嚥下、構音機能の総合的な回復を行っています。

歯科口腔外科:有病高齢の患者さんにおいて保存不可能と診断した歯の抜歯や外科的歯内療法・歯周外科治療を行います。

歯科インプラント:歯牙欠損部の顎骨にインプラント(人工歯根)を埋め込み、それを支台としてインプラント義歯を製作し、咀嚼、嚥下、審美的な機能回復を行っています。



研修歯科医への指導

## 高次歯科診療部(口臭部門)

口臭は日本人の約10%、10歳代から80歳代までの幅広い世代の方が悩んでいる問題です。本院の口臭部門では、口臭症を専門として診療を行っています。

### 診療体制

診療日は月・火・水曜日の午前中ですが、口臭検査は原則予約制となっています。分析機器の準備や検査前日から守っていただく注意事項があるため、初診の患者さんには口腔内の診査の後に別日での口臭検査の予約をお願いしています。

### 治療方針

年々増える相談者の中には、家族などに口臭を指摘された人だけでなく、実際は口臭が無いのに悩む人も少なくありません。まずは口臭の有無を確認する必要があり、口腔内の診査に加えて、機器分析などの口臭検査を行います。検査結果から、国際口臭学会の分類による診断と治療方針に従って、口臭に関する患者さんの悩みを解決していきます。

### 特徴・特色

口臭の原因の多くは、歯周病や、舌の上に粘膜からはがれた細胞や細菌などが溜まった舌苔(ぜったい)などです。口臭が認められる場合は、他の外来とも連携して歯周病などの治療や、口臭を軽減するために、舌の清掃も含めたブラッシングを指導します(写真参照)。また、良好な口腔衛生状態を継続できるように、歯のクリーニングなども行います。

一方、口臭がない場合には、本人が納得できるように測定や相談を繰り返して行います。口臭測定はお口の病気の早期発見にもつながり

ます。たとえば、喫煙者の方には歯周病に関連した口臭も多く認められます。口臭に関して気軽に相談していただき、健康維持に役立ててほしいと思います。

### 主な検査

口臭検査は自費診療で、保険は適用されません。

■官能検査法:複数の歯科医療従事者による、におい袋を用いた検査法です。

■機器分析法:これは写真に示す機器などを用いて口臭を客観的に評価する検査法です。特に、ガスクロマトグラフィーは、口臭の成分である硫化水素やメチルメルカプタンなどの揮発性硫黄化合物を成分別に正確に測定します。

### 口臭の改善



## 高次歯科診療部(口腔顔面痛・顎関節症部門)

顎(アゴ)の関節や咀嚼に関係する筋肉の痛み(動かすと痛い、強く噛みしめると痛い、大きく開けると痛いなど)、口を開けにくい、開けると音がするなどの症状を主体とする顎関節症の治療を行っています。

### 診療体制

かみあわせ補綴科、矯正歯科、総合歯科診療部および歯科麻酔科から併任の歯科医師が曜日別で治療を担当します。初診も含め診療は基本的に予約制となります。

### 診療方針

現在、顎関節症はSelf-limiting(自己限定的)な疾患であると考えられています。これは基本的には時間経過とともに症状も軽減することを意味しています。このため治療法としては保存的、可逆的な治療が推奨されています。また顎関節症の発症要因は複合的であり、日中の“くいしばり”や夜間の“歯ぎしり”あるいはその他の習癖、外傷、咬み合わせ、ストレスなどのいろいろな要因が関与していると考えられています。こうしたことからSelf-limitingな疾患と言いつつも、習癖等の要因についてコントロールが行われないと症状の長期化や再燃を生じてしまいます。顎関節症外来では、投薬やスプリント治療(マウスピースのような装置による治療)など比較的侵襲の少ない可逆的な治療法を主体とし、これに日常生活習慣指導(習癖のコントロール、ストレッチなどの家庭療法の指導)を加え、症状の改善と再燃防止のための治療を行っています。

場合によっては、補綴治療(冠やブリッジ、義歯などによる治療)や外科的処置を必要とする場合、あるいは社会心理的要因の影響が強い

[外来]tel. 088-634-1361

場合もあります。その時には補綴科、口腔外科、痛みセンター、脳神経内科、外科、精神科・心身症科などへ紹介し、それらの診療科での治療と平行して経過を診ていきます。

### 特徴・特色

本院は、一般社団法人 日本顎関節学会の顎関節症専門医研修施設、および日本口腔顔面痛学会の研修施設に認定されています。



[医局]fax.088-633-9132

## 高次歯科診療部(障害者歯科部門)

障害者歯科部門は、本病院小児歯科と連携して、障がい児(小児歯科担当)から障がい者(障害者歯科担当)まで全ての年齢の方の生涯にわたる口腔の健康管理を行っています。対象とする患者さんは、知的な障がいのある方や自閉症などの発達障がいのある方です。また、それ以外に障害者歯科での診療を希望される身体障がいのある方(脳性麻痺や聴覚障がいなど)の診療も行っています。診療室は専用の部屋になっていて、落ち着いた環境で、ゆっくりと時間をかけて診療を受けることができます。

### 診療体制

診療は、毎日、午前/午後1~2名の歯科医師が患者さんの歯科治療や口腔の健康管理を行っています。また、患者さんが安心して診療を受けることができるように、診療時には必ず看護師が介助についています。

### 治療方針

患者さんや保護者の要望をお伺いしたうえで、行動変容法・静脈鎮静法・全身麻酔法の中から、最も適した方法を選択し、ストレスのない歯科診療を受けることができるように心がけています。

また、口腔全体の歯科治療が終了した後も、う蝕や歯周病を予防する目的で定期的に来院していただいて、生涯にわたって健康な口腔を維持できるようサポートしています。

### 特徴・特色

■知的な障がいがある方への対応

診療台にはビデオモニター(写真-1)が備えつけられているので、患者さんは好きなビデオを見ながら、リラックスして治療を受けることができます。

■自閉症の方への対応

視覚優位という自閉症の特徴を考慮して、自閉症の方が理解しやすいように視覚素材(写真-2)を用いてコミュニケーションを図っています。

■聴覚障がいのある方への対応

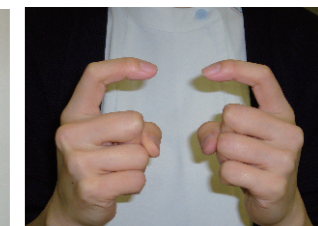
手話奉仕員養成講座、手話通訳者養成講座を受講し手話検定2級の資格を持った歯科医師が聴覚障がい者の歯科治療を担当し、治療中のコミュニケーションは手話(写真-3)を使用しています。



(写真-1)



(写真-2)



(写真-3)

## 高次歯科診療部(歯周病専門部門)

歯周病専門外来は、歯周病科の歯周病専門医によって高度な歯周治療を行う部門です。治療内容は、中等度以上の歯周病のある患者さんに対して歯周外科治療を行って歯周組織の改善を図ります。先進的な医薬品や材料を用いた歯周組織再生療法に加え、治療に伴う侵襲を可能な限り軽減することを重視して、マイクロスコープやレーザーなどを活用した低侵襲で精密な治療にも取り組んでいます。さらに、糖尿病や心臓病などの基礎疾患をもつ患者さんに対しては、医科との連携を図りながら歯周治療を行っています。



### 診療体制

初診患者の診察は歯周病科(第二保存科)で行います(火曜日、木曜日、金曜日)。再来患者の診察は月曜日から金曜日まで毎日行っています。

### 診療方針

手術が必要な患者さんについて、症例検討会で十分に討議した後、歯周外科治療が行われます。糖尿病や高血圧などの基礎疾患を伴う歯周病の患者さんに対しては、チームを組んで治療に当たります。

### 特徴・特色

先進的な歯周病治療を行うことによって歯周組織を健全に回復させるとともに、医科歯科連携を図りながら口腔と全身の健康増進に努めています。

## 高次歯科診療部(歯科用金属アレルギー部門)

何らかの原因(ピアスの不適切な使用等)により金属アレルギーを発症すると、歯科治療に用いられている金属も、その時点からアレルギーの原因となることがあります。金属アレルギーの症状は、口の中だけにとどまらず、手のひらや足の裏がカサカサになったり、全身に湿疹が出るなど、非常に多彩です。当外来では、金属アレルギーの診断に必要な各種検査をおこない、原因となる金属元素の種類を確定し、除去治療、治療後のメンテナンスを行っています。

### 特徴・特色

歯科用金属アレルギーは、患者さん自身がアレルゲンである修復物を排除できない点や、投薬ではなく除去治療を主とする点などが、他のアレルギーと大きく異なる点です。陽性金属を含む材料がお口の中にあるかどうかを調べるために、お口の中の金属製の詰めもの・かぶせものの表面からサンプルを採り、金属成分の分析検査も行っています。



患者さんの治療例



パッチテスト用金属試薬 20種類以上の金属の検査をします。

パッチテスト検査の準備をします。

### 診療体制

受診された患者さんには、医療面接(問診)を行い、金属アレルギーの疑いがある場合にパッチテストを行います。その結果から陽性金属を特定し、口の中にその金属を含んだ修復物があるかどうかを診査します。陽性金属を含む材料がある場合には除去して、陽性金属を含まない別の材料で再治療を行います。紹介患者さんの場合は紹介元の医療機関へ治療方法を情報提供します。

初診は火・木・金曜日で、それ以降(パッチテスト等の検査や診療)は予約制です。

### 診療方針

病歴や他のアレルギーに対する十分な医療面接(問診)を行い、歯科材料と症状の因果関係を各種検査結果をもとに診断して、包括的な治療を行っています。さらに、歯科はもとより皮膚科や耳鼻科との連携をはかっています。

## 高次歯科診療部(小児摂食・嚥下機能発達部門)

「食べる」ことは、専門的には「摂食・嚥下」と言います。早期産児、心身障害児および長期経管栄養児などは、摂食・嚥下の機能発達が遅滞し、口から食物や飲み物を上手に摂取できないことがあります。その場合、脱水や低栄養、誤嚥性肺炎などの危険があり、「食べる喜び」が奪われQOL(生活の質)を著しく低下させます。

当部門では、「あまり噛まないで丸飲みしたり、口に入れたまま飲み込めない」など食べ方が気になる健康な方も含め、摂食・嚥下機能の発達障害が認められるお子様を対象に、「摂食・嚥下機能発達療法」という上手に食べることの指導・訓練や相談を行っています。

### 診療内容

専門医が、一般家庭に近い雰囲気椅子と机だけのある絨毯敷きの専用個室において、持参した食品を食べていただきながら、お子様の指導・訓練、並びに保護者に対する食を中心とした育児支援を行います。

### 治療方針

摂食・嚥下機能発達療法は、食事時だけでなく日々の生活全般の改善を通しての機能発達訓練であるため、「保護者とのコミュニケーションを重視し、医療関係者および教育関係者との連携を取りながら、それぞれの障害や家庭環境に即した指導・訓練法を摸索しつつ、保護者の皆様に満足いただける成果を提供すること」をモットーに行っています。

### 診療に関する説明

- 食事をしながらの訓練ですので、11:00~12:00あるいは13:00~14:00に行います。
- 簡単な食べ物と飲み物を持参していただきます。
- 診断および治療効果の評価のために、食事中お子様の食べ方をビデオ撮影させていただきます。



診療風景

## 周産母子センター

周産母子センターは、平成16年12月に総合周産期母子医療センターとして承認されました。施設内容としては、母体胎児集中治療室(MFICU)6床、母体後方病床8床、新生児集中治療室(NICU)9床、新生児後方病床(GCU)12床で運用しており、旧国立大学病院では全国で初めての開設です。

### 診療体制・診療方針

徳島県の周産期医療ネットワークの基幹病院として、母体および新生児搬送を24時間態勢で受け付けており、周産期医療の最高水準を目指しています。さらに、小児科、小児外科・小児内視鏡外科、心臓血管外科、眼科、脳神経外科など院内の各部門と密接な連携のもと、高度医療の展開をめざしています。週1回の合同カンファレンスをおこない、ハイリスク症例の検討を行っています。



母体搬送受け入れ状況(2025、N=85 [%;一部重複])

切迫早産・前期破水	47	59%
妊娠高血圧症候群	7	8%
胎児機能不全	7	2%
産褥搬送(母体出血性ショック・DIC等)	8	12%
その他(母体合併症等)	5	19%

### 産科臨床統計(2021年~2025年)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
分娩数(22週以降)	616	638	633	636	626
帝王切開	181	242	269	242	241
双胎(組)	41	26	32	27	33
品胎(組)	0	1	1	0	0
出生体重1500g未満(人)	26	23	17	29	19
母体胎盤搬送受入(件)	84	110	78	85	72

### NICU・GCU入院統計(2021年~2025年)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総入院数	246	214	237	250	209
超低出生体重児	6	8	4	7	4
極低出生体重児	12	12	11	17	15
低出生体重児	124	106	115	108	95
その他	104	88	107	118	95
死亡症例					
早期新生児死亡	1	2	1	4	5
新生児死亡	1	2	1	5	5
疾患分類					
早産	91	79	95	96	104
(うち超早産)	6	9	3	8	4
小児外科	7	4	8	8	11
新生児黄疸	4	2	4	14	17
SGA児	50	43	38	34	18
新生児仮死	17	16	13	13	4
先天性心疾患	5	11	13	15	10
染色体・先天異常	9	10	12	7	5
神経筋疾患	2	1	2	1	4
呼吸器疾患	15	9	13	11	8
その他	46	30	36	43	24
治療内容その他					
人工呼吸管理	64	72	73	79	54
サーファクタント投与	35	31	29	34	26
O2投与	-	201	219	223	181
帝王切開	-	115	130	141	120
双胎児(分娩数)	54(32)	25(15)	46(28)	33(20)	50(27)
品胎児(分娩数)	6(2)	3(1)	3(1)	-	0
入院経路					
母体搬送または紹介	133	125	135	150	141
新生児搬送	9	7	16	12	7
当院産科管理	104	77	86	90	60

## 病院情報センター

病院情報センターは、医療とコンピュータシステムの共存・共栄を実現すべく、医療の専門家とコンピュータの専門家が共同して、診療業務の効率化と円滑化(Business Process Management / Business Process Re-engineering:BPM/BPR)に貢献しています。情報通信技術(Information and Communication Technology:ICT)を活用し、適切な時に、適切な場所で、適切なスタッフに、医療資源と医療情報が最適な状態で提供され続けられる環境と体制を整備し、確実に運用できるよう取り組んでいます。

### 組織体制

病院情報センターは、2009年3月に医療情報部と医事課医療情報係が統合され発足しました。医療情報学、医療マネジメント学、医療統計学などを専門とする教職員の他、事務職員やシステムエンジニアによって組織されており、日進月歩の医療と情報技術を診療現場で共生・融合することを目指し、関係部署と協力しながら病院情報システムの導入、構築、および運用管理を実践しています。

また、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、その他メディカルスタッフ、医療事務などで構成される委員会を運営し、各診療科や部門のバランスを考慮した包括的な視点で、病院全体に最適となる情報化を遂行しています。

### 主要業務

#### 【医療情報の一次利用】

患者への説明・医療費請求、臨床スタッフ間での情報伝達・共有、診療情報の記録・参照など、診療現場における医療情報の利用(一次利

用)において、円滑かつ正確な診断や治療を実現すべく、電子カルテ、オーダエントリーシステム、医事会計システムなど、各種診療部門システムや診療支援機器・装置の導入、改善、保守を行います。

#### 【医療情報の二次利用】

臨床研究、薬剤疫学、公衆衛生、医療経済などを目的とした医療情報の二次利用のために、診療業務で発生する様々なデータを蓄積・管理するデータウェアハウス(Data Ware House:DWH)を運用し、必要な情報を提供できる体制を整えています。

#### 【地域連携】

隣接する県立中央病院をはじめとする県内の様々な医療機関や施設間で、セキュリティを確保したうえで、医療情報の伝送・共有システム基盤を整備・運用しながら、脳卒中や小児・周産期などの救急医療、糖尿病・がんなどの慢性疾患診療、および予防医療を支援しています。また、徳島県全域で医療・介護情報を双方向に共有するために、ICTを活用した地域連携ネットワーク「阿波あいネット」において、クラウド型医療情報連携基盤(EHR)の運営に主導的立場として関わっています。



## 臨床研究推進部

徳島大学病院がその目標の一つとして掲げる「高度先端医療の開発と推進」を進めるには、患者のみならずご協力を得て研究者が行う「治験」や「臨床研究」などの実施基盤を整備することが必要です。1999年に治験管理センターとして発足した当部署は、2002年臨床試験管理センターへ名称変更、2015年には病院経理調達臨床研究支援係が併設され、2020年総合臨床研究センターへの名称変更を経て、2026年に臨床研究推進部として再スタートを切りました。このような整備が、新しい医薬品、医療機器、再生医療等製品および治療などの開発に繋がります。

### 体制・運営方針

臨床研究コーディネーター部門、臨床研究管理部門、レギュラトリーサイエンス部門、難病・希少疾患部門の4部門が連携しながら業務を行っています。

臨床研究コーディネーター(CRC:Clinical Research Coordinator)部門は、治験や臨床研究を支援する専門職であるCRCを中心に、科学性、倫理性、信頼性の確保を目的に活動しています。看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士が活動しており、日本臨床薬理学会にて制定された認定CRCを有します。

臨床研究管理部門は、医師等の研究者主導で行われる臨床研究の質の高い実施推進を目指す部門です。信頼性を中心とした基盤整備と管理面の強化を勧め、研究者教育と個別相談対応を基本業務としています。臨床研究コーディネーター部門とともに、医師主導治験への対応も行っており、治験調整事務局としての役割も継続しています。

レギュラトリーサイエンス部門は、研究シーズ段階の支援として、臨床で生まれるニーズを現場目線で捉え、臨床研究に向けた開発戦略(研究立案や外部資金取得促進など)の支援を行います。また、社会実装における支援として、社会への学術的成果の発信の支援を行います。臨床研究管理部門とともに、臨床研究法下の特定臨床研究を支援しています。難病・希少疾患部門は2025年から新たに設立され、難病・希少疾患領域における国際レベルの臨床研究の実施における支援を行います。また、臨床研究支援係と協働で、治験事務局として治験依頼者への対応窓口を担い、各書類の受付・作成・管理等、治験を実施する上で必要な手順の整備を行っています。その他にも、徳島大学病院治験審査委員会(IRB)、徳島大学病院生命科学・医学系研究倫理審査委員会(EC)、徳島大学臨床研究審査委員会(CRB)を担当し、各委員会がスムーズに運営されるよう支援を行っています。

### 特徴

治験や臨床研究が医療の進歩に不可欠の過程であることを多くの方々に知っていただくことが重要と考え、徳島大学病院フォーラムでのブース展示、市民講座への参加などの啓発活動にも力を入れています。



講演会「医療者のための生成AI〜臨床、教育、研究における実践的活用法〜」を開催



徳島大学病院フォーラムでのブース展示

## 総合診療部

近年、高齢化や生活習慣の変化に伴って慢性疾患の増加や、疾病の多様化、その症状における心理社会的要因の関与などが注目されています。原因となる臓器がはっきりせず、どの診療科にかかれば良いのか迷う事も少なくありません。

総合診療部では、病院を受診する患者さんの年齢・性別や臓器、疾患の種類を限定せず、総合的に診療し、必要に応じて専門各科、地域の医療機関、介護・福祉・保健サービスなどと連携しながら一人一人のニーズに応じた基本的な医療を提供いたします。

### 診療体制

家庭医・総合診療医を中心とした医療チームで外来及び入院診療を担当します。診断がついていない患者さん、疾患臓器が特定できない患者さん、あるいは複雑な要因の関与が推測される患者さんなどが主な診療対象となります。初診時には紹介状をご用意ください。

対象患者

- ・ Common disease(ありふれた病気)を持つ患者さん
- ・ 診断がついていない初診患者さんに対する初期診断・初期治療
- ・ 複数の治療を要する病気を合併している高齢者など
- ・ 精神的・社会的要素など複雑な要因の関与が推測されるケース
- ・ 原因臓器に限定されない包括的診療を必要とする方

### 治療方針

症状や検査データに加えて、患者さんの社会的背景、心のケアを含めた総合的視点から包括的、全人的医療を行ってまいります。診察後必要に応じて院内各専門科にご紹介する場合がありますし、特定機能病院として病病・病診連携の充実を目指しており、逆紹介も積極的に行ってまいります。また、2018年より入院ベッドを持ち、入院が必要な場合には入院診療も行います。



## 患者支援センター

患者・家族の方の様々な医療・保健・福祉に関わる総合相談窓口です。また、地域の関連医療機関等との連携窓口です。医療福祉相談や在宅での療養相談や健康相談について、医療ソーシャルワーカー、看護師が、医師、歯科医師、助産師、保健師、精神保健福祉士、薬剤師、栄養士、理学療法士、歯科衛生士、事務職員等と連携をとりチームで対応いたしますので、お気軽にご相談ください。また、各医療機関からの新患や高度画像診断等の予約はFAX予約で、予約変更等は予約センターで対応しております。(詳しくは、別冊「患者紹介方法」をご参照ください。)

### 体制

#### 【入退院サポートに関する事】

入院を予定している方が、入院生活や入院後の治療経過をイメージし、安心して入院医療を受けることができるよう情報提供(入院の事前説明や手続き、入院に必要なオリエンテーション等も含む)を行っています。また、退院後も住み慣れた地域で継続して生活できるよう、入院前から退院後の生活に視点を当てながら、スクリーニングシートを活用し、退院支援の必要な患者・家族に多職種で連携することにより、安心・安全で切れ目のないサービスを提供しています。

#### 【地域連携に関する事】

前方連携(受診支援)として各病院からFAX予約の受付、後方連携(退院支援)として病病・病診連携や在宅療養支援、地域連携として県や市町村、保健所、福祉施設等との連携を行っています。また、医療機関情報の収集・管理に努め、地域社会資源を情報共有できる機

関を目指しています。

#### 【相談に関する事】

医療・福祉・苦情等の医療福祉相談、看護相談、セカンドオピニオンや遺伝相談、難病相談、てんかん、高次脳機能障害などの各種相談をこちらに一元化し、サービス向上に努めています。また、肝疾患診療連携拠点病院として肝疾患相談室があります。その他にもがん相談支援センター、脳卒中・心臓病等総合支援センターの窓口にもなっていますのでお気軽にご相談ください。



## 移植・免疫細胞療法センター(TCU)

成人・小児の血液疾患全般を対象に、造血幹細胞移植や化学療法、免疫抑制療法を行うために、西病棟10階に28床の無菌個室、造血幹細胞移植・採取のための血液成分分離装置を配備しています。各診療科、地域医療機関と連携して診療を進めております。

### 診療体制

血液内科専門医、小児科専門医を中心とした担当医グループ、歯科医、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士などとチーム診療を行います。

### 治療方針

特定機能病院として、下記のような治療を行っております。

① 同種造血幹細胞移植療法：急性白血病、骨髄異形成症候群やリンパ腫などの造血器腫瘍、再生不良性貧血などの骨髄不全に対し、無菌管理の出来る病棟でHLA半合致移植を含む同種骨髄／末梢血幹細胞および臍帯血移植を行っています。免疫抑制療法、感染症対策や支持療法を丁寧に行うことを心がけ、常に治療成績の向上に挑戦しております。

② キメラ抗原受容体発現T (CAR-T) 細胞療法：急性白血病、骨髄異形成症候群、リンパ腫や多発性骨髄腫などの造血器腫瘍、小児がんに対する様々な化学療法を行っています。近年、様々な薬剤が臨床応用され、治療成績が益々向上しており、各疾患に対して新規治療薬を積極的に導入しております。2025年4月よりキメラ抗原受容体発現T (CAR-T)細胞療法の診療体制を立ち上げ。これまで以上に県内外からの患者の受け入れを行っています。

③ 自家造血幹細胞移植併用大量化学療法：急性前骨髄球性白血

[内科外来] tel.088-633-7118  
[小児科外来] tel.088-633-7132

病、リンパ腫、多発性骨髄腫や小児がんに対し自家造血幹細胞移植併用大量化学療法を行っています。

④ 無菌管理を要する治療：移植後の拒絶反応に対する免疫抑制療法を受けられる患者さんや免疫不全の患者さんに対し、無菌管理のできる病棟で感染を防御します。

⑤ 新しい薬剤の臨床試験：治療抵抗性の造血器腫瘍に対しては、従来の治療より効果が期待できる新規治療法が求められています。そのために、新たな治療法の開発を目的として臨床試験や治験を行っています。

### 特徴・特色

西病棟10階に全フロアが無菌管理可能な細胞治療センターが完成し、2026年より移植免疫細胞療法センター(TCU)と改称しました。造血幹細胞移植、細胞・免疫療法や強力な化学療法などの専門診療を行っています。日本造血・免疫細胞療法学会の移植認定施設、日本骨髄バンクの認定採取施設であり、移植適応患者さんや移植ドナーさんを多数受け入れております。また、地域の関連医療機関と診療連携を密にした体制を確立しております。



tel.088-633-9449

## 内視鏡センター

近年、内視鏡の進歩は著しく、カプセル内視鏡、小腸内視鏡、拡大内視鏡などの新しい診断技術をはじめ、早期胃癌、食道癌、大腸癌などの内視鏡治療も著しく進歩しています。当センターでは、経験の豊富な消化器内視鏡指導医および専門医が、最新の内視鏡診断を行うとともに、新しい内視鏡的治療を積極的に行っています。また、当センターでは、少しでも患者さんの苦痛を軽減するために、希望者には鎮静剤を投与し、入眠中に内視鏡検査を終了することができます。

### 診療体制

消化器内科を中心に、食道外科、消化器外科などの医師が担当します。(日本消化器内視鏡学会指導医: 7名 専門医: 25名)

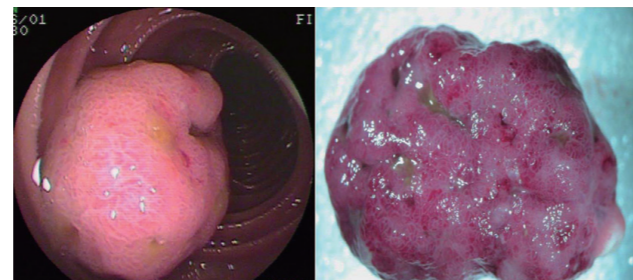
### 対象疾患

食道、胃、大腸などの消化管疾患や膵、胆のう、胆管などの胆膵疾患など。

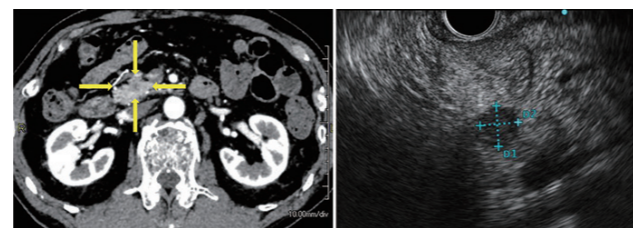
内視鏡治療の対象: 早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌、咽頭癌、小腸腫瘍など。内視鏡治療は年間300例以上あります。また、胆膵疾患の超音波内視鏡検査(EUS)やEUS下の細胞診(EUS-FNA)、胆道鏡検査、膵管鏡検査も多数行っています。



早期胃癌の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)



小腸(空腸)ポリープの内視鏡的切除



膵頭部の8mmの癌、EUS下に穿刺吸引細胞診を施行

## 超音波センター

超音波診断装置による画像診断を行う超音波センターは、高価な超音波診断装置を各診療科で共有して有効に利用するという目的で設立されました。超音波検査は得られる情報が多く、非侵襲的で繰り返し施行することもでき、ほとんどの診療科において必要不可欠な検査です。我々は、各診療科との密接な連携のもと、最新鋭の超音波診断装置を用いて、日々の診療に有用かつ正確な情報を提供しています。

### 診療体制

現在超音波センターで検査を施行している診療科は、循環器内科、消化器内科、内分泌・代謝内科、呼吸器・膠原病内科、歯科口腔外科です。これら診療科の医師、看護師および臨床検査技師8名が協力して、高度な超音波診断を行っています。また、他科からの依頼も当日に断ることなく全ての検査を実施しています。

現在、10台のハイエンド超音波装置と、2台のポータブル装置、2台の外來超音波室専用の装置を保有しています。DICOMに対応したデジタル画像ファイリング・レポートシステムを導入し、超音波画像はデジタル保存しています。このシステムは病院の電子カルテと連結しており、電子カルテで入力した予約情報が本システムと各超音波装置に送信され、本システムで作成した検査結果は電子カルテシステムに送信され、院内すべての端末から検査結果を閲覧することが可能です。また、看護師が物品および薬品管理や検査介助を行っており、高品質の患者サービスを提供しています。

### 主な業務とサービス

中央診療センターとして、あらゆる診療科の要請に応えるべく、超音波

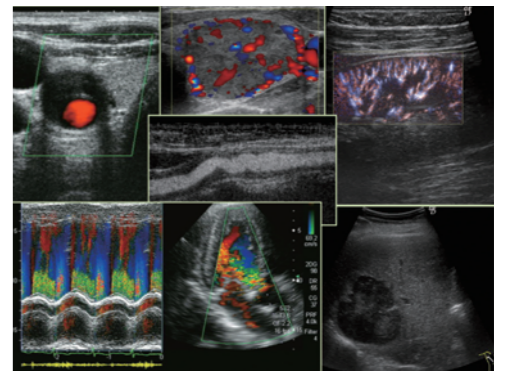
tel.088-633-9311 fax.088-633-7798

診療業務を提供しています。主に行っている検査は下記のごとくです。

- 経胸壁心エコー検査(成人、小児)、経食道心エコー検査
- 負荷心エコー図検査(運動負荷、薬物負荷、下肢陽圧負荷)
- 血管エコー検査(頸動脈、末梢動脈、腎動脈、下肢静脈)
- 腹部エコー検査 ■乳腺エコー検査 ■甲状腺エコー検査
- 表在エコー検査 ■関節エコー検査

心エコー検査・血管エコー検査については、大学病院外の医療施設からFAXによる検査の直接予約を受けて検査結果をお返ししており、地域医療への貢献も目指しています。

また、院内外の医師、臨床検査技師、診療放射線技師の超音波検査研修も随時受け入れており、日本超音波学会認定の専門医および超音波検査士、心エコー図学会認定心エコー専門技師、血管診療技師などの育成も行っています。



tel.088-633-7207(脳神経内科事務室) fax.088-633-7208

## 高次脳センター(筋電図室)

高次脳センター(筋電図室)は脳・神経に関連する診療科・部・教室が共同運営し、診療活動や研究活動を行う施設です。

私たち人間は、当たり前のように歩いたり、食事を摂ったり、人と話をしたりして生活しています。神経や筋肉に障害が発生すれば、こうした当たり前でできている動作が難しくなり、日常生活に支障を来します。神経は脳や脊髄からなる「中枢神経」とそこから全身に分布する「末梢神経」とに分類されます。これらの神経や、神経の指令を受けて働く筋肉のどこが障害されても、日常生活の動作が困難になります。高次脳センターでは、このような日常生活動作が困難になった患者さんを対象に、中枢神経、末梢神経、筋肉のいずれがどのように障害されているのかを判断し診療を進めるために必要な神経生理検査を主に行っています。神経生理検査には以下のものが含まれます。

■神経伝導検査: 末梢神経に電気の刺激を加え、それに対する反応を筋肉や神経上に置いた電極から記録します。電気の刺激といっても低周波の肩こりの治療器と同じようなもので、刺激の感じ方に個人差はありますが、少しピリピリとした感覚が生じ、軽い痛みを伴うことがあります。■大脳誘発電位検査: 頭皮上に電極を置き、手足の感覚神経の電気刺激、あるいは聴覚や視覚に刺激を加え、それに伴う電気信号の変化(誘発電位)を記録します。

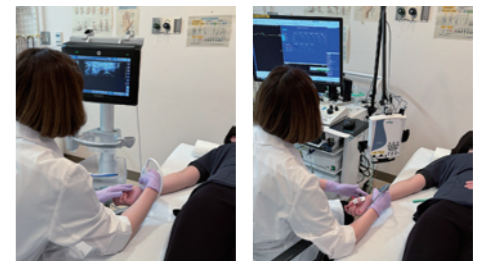
- ・体性感覚誘発電位: 神経伝導検査と同様の電気刺激を末梢神経に加えて、誘発電位を記録します。
- ・聴覚誘発電位(聴性脳幹反応): ヘッドホンでクリック音(カチカチ

という音)を聞いていただき、誘発電位を記録します。  
・視覚誘発電位: テレビ画面に映し出される、白黒が反転する格子模様を見ていただき、誘発電位を記録します。

■針筋電図検査: 手足や体幹の筋肉に細い針状の電極を刺し、電気活動を記録します。筋肉に針電極を刺し、まず力を抜いた安静状態での記録を行い、続いて力をほんの少し入れた収縮状態での記録を行います。  
■神経筋超音波検査: 超音波検査は心臓、血管やその他の内臓を見るためにすでに広く用いられています。当センターでは、神経や筋肉の状態を見るためにも超音波検査を積極的に行い、神経伝導検査と組み合わせて診療に用いています。痛みを伴わず安全なため、安心して受けていただけます。

### 検査を受けるには

必要な検査の種類や項目は、各患者さんの病状から想定される疾患によって異なります。まずは脳神経内科外来を受診し、医療面接や神経学的診察を受けてください。



神経超音波検査

神経伝導検査

## 卒後臨床研修センター

### 研修内容

卒後臨床研修センターでは医師、歯科医師の臨床研修に関わる業務を行っています。その内容は研修プログラムの作成や検討、研修環境の改善、研修内容の調整、研修の評価、研修医の募集と採用、研修医の健康管理や相談等の支援、研修医教育講座・指導医講習会の開催などです。医学科学生に対してはキャリアデザインセミナーや個別面談を行って進路決定に有意義な情報を提供しています。専任教員4名が常駐し、研修医の要望や各診療科との連携に対応しています。

医科の臨床研修プログラムでは、令和8年度は研修医1年次7名、2年次10名が在籍しています。徳島県内外の協力病院で研修が可能なAWAすだちプログラム、産婦人科研修プログラム、小児研修プログラムでは、大学病院や協力病院での研修内容、時期を自由に選択することができ、各自がオーダーメイドのプログラムで活気ある充実した研修を行っています。また、メディカルゾーン重点研修プログラムでは徳島県の医療拠点(総合メディカルゾーン)の中核である徳島大学病院と徳島県立中央病院を主軸とした一体化研修で、両病院の機能分化を活かすことにより、充実した教育指導体制のもと、研修医がさらに幅広い豊富な症例を経験することができます。令和8年春には令和6年度徳島大学病院基幹型プログラムの研修医6名が研修を修了し、4名が引き続き本院の専門医研修プログラムで専門医を目指しています。

歯科医師研修プログラムでは、令和8年度は20名の研修歯科医が在籍しています。臨床研修の基本理念と本院の理念を基に患者中心の全人的医療を理解し、全ての歯科医師に求められる基本的臨床能力(態度、知識、技術)を習得し、患者に信頼される歯科医師としての人格の

涵養に努めています。また、将来の大学院進学や専門医取得を目指し、総合診療に加え、専門領域の研修を行い、より高度な診察能力の修得ができるCプログラムを設置しており、計4つの研修プログラムで多くの協力型(I)、(II)研修施設と連携を取り研修を行っています。医科・歯科ともに徳島で将来の医療を支える医師・歯科医師の育成に取り組んでいます。



(医科)

(歯科)

[医療支援係] tel.088-633-7383  
[診療録管理係] tel.088-633-7762

## 医療支援センター

医療支援センターは、次に掲げる主な活動内容について取り組み、健全な病院業務の体制づくりの一つを担うセンターとしての活動に務めます。

### 主な活動内容

- (1)診療録の管理運用に関すること。
- (2)医師事務作業補助に関すること。
- (3)その他医療支援等に関すること。

### 体制

主な活動内容を具体的に推進するために、センターの構成員は、センター長、副センター長、医科、歯科及び病院情報センターの教員、薬剤師、看護師、医療技術部の職員、診療情報管理士、メディカルクラーク等を併任配置し対応します。

### 運営方針

主な活動内容を確実に実践していくためには、徳島大学病院の全組織及び全職員それぞれが、その役割を十分に認識し取り組む必要があります。センターは、それらの取り組みに対する適切な対応を行うと共に厳正な管理運用に務め、大学病院としての健全な運営体制を維持するための提案を行い、問題点の改善・解消を図り、患者さんにとって、安心で安全な医療の提供を続ける支援活動を行います。



メディカルクラーク事務室



スキャン室

## セカンドオピニオン外来

徳島大学病院は、高度先進医療の一環として「セカンドオピニオン」の提供を専門に行う外来を開設しています。

「セカンドオピニオン」とは、患者さんがご自身に最も適した治療法を再確認するために主治医以外の医師の意見を聞くことをいいます。医療技術の進展に伴い、治療法も多様化しています。「セカンドオピニオン」を聞くことにより、現在受けている治療の利点、欠点をより良く理解することができ、納得の上で治療を継続する事ができます。

当外来では、当院以外の医療機関を受診されている患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して専門医師の意見・判断を提供いたします。その意見や判断を、患者さんご自身の参考にしていただく事が目的です。当外来では新たな検査や治療は行いません。患者さんからのお話や主治医の先生から提示された資料の範囲で判断を行うこととなります。また、令和4年5月から新たに「オンライン・セカンドオピニオン(脳神経外科)(てんかんセンター)」を開設しております。

### 体制

完全予約制です。紹介元医療機関よりFAXでお申し込み下さい。  
\*申込みに際しての様式一式は、徳島大学病院ホームページよりダウンロードが可能です。

相談時間:相談45分+主治医への報告書作成15分

(平日9:00~17:00で応相談)

予約受付:平日9:00~17:00

相談料(自費診療):35,900円(税込)

### 対象

当院以外の医療機関を受診されている患者さん

### 相談例

- 癌が見つかり、温存療法で治療するか手術を受けるか悩んでいる。
  - 両方の治療法について、それぞれどんなリスクがあるのか知りたい。
  - 新しい先進的な治療法の内容について知りたい。
  - 内視鏡手術を勧められた。この手術にどんな利点・欠点があるのか知りたい。
- ### 対象外となる相談例
- 主治医の治療に不安があるので、主治医に内緒で話を聞きたい。
  - 主治医に質問がしにくいので、今の治療法でいいのかどうか、じっくりと話を聞いてみたい。
  - 以前に受けた治療が妥当な物だったかどうか知りたい。
  - いろいろ検査を受けたが原因が分からないので診断してほしい。



tel.088-633-9338

## 脳卒中センター

対象疾患は、すべての急性期脳血管障害(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)です。最先端の技術を駆使した診断・治療を行っており、脳卒中の患者さんが少しでも早く社会復帰できるように努めています。

### 診療体制

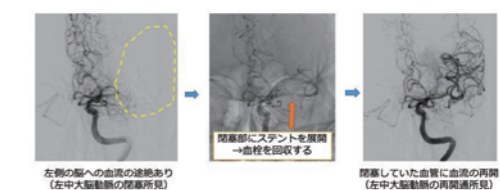
診療には脳神経外科医と脳神経内科医があたり、放射線科医、放射線技師の協力の下、最新の画像診断がいつでも行える体制にあります。内訳は、脳神経外科医20名(うち脳卒中学会専門医10名)、神経内科医5名(うち脳卒中学会専門医3名)、集中治療部医師1名です。

### 診療方針・特徴

1999年より脳卒中ケアユニットを開設し、徳島県より脳卒中の患者さんを24時間体制で受け入れており、さらに2005年より脳卒中センターとして機能を高めています。治療としては、開頭手術・血管外科、静脈内血栓溶解療法(t-PA)、急性期血栓回収療法(血栓再建術)やコイル塞栓術などの血管内治療を行っており、最新の治療方法を積極的に取り入れ、良好な結果を得ています。また、集中治療室に3:1の看護体制をとる脳卒中ケアユニット(9床)を確立し、より高度な脳卒中センターに拡充しました。当センターでは、専属のリハビリテーションスタッフによる早期リハビリを行っています。急性期治療が終了後は関連のリハビリテーション病院とスムーズに連携をとり、回復期リハビリが行えるように円滑な連携構築(地域連携パス)にも努めています。

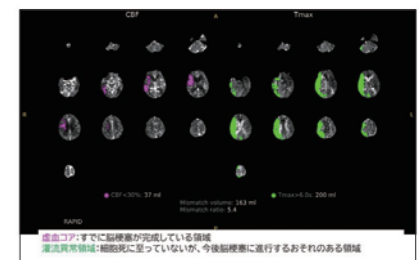
現在、スマートフォンを利用した遠隔画像診断システムを導入し、迅速で正確な診断と治療を実践しています。

### 急性期血栓回収療法



徳島大学脳卒中センターでは、脳血管内治療専門医8名が24時間体制で最新のシステムを用いた急性期血栓回収治療を行っています。この治療は、発症4.5時間を経過したt-PA適応外あるいは、t-PAを投与しても改善が得られない脳卒中幹動脈閉塞の症例に効果的であり、脳梗塞発症後24時間以内に行うことができれば、後遺症を残さずに完全に回復できる可能性が以前より高くなっています。当センターでの血栓回収療法の件数は年々増加傾向であり、2024年度は50件でありました。

徳島大学脳卒中センターでは、四国で唯一CTによる灌流画像解析ソフト「RAPID」を導入し、迅速な血栓回収療法の適応診断が可能となっています。造影CTを撮像すること



で、脳の虚血コア領域(ピンク)と低灌流領域(緑)が表示され、これら2つの領域の差がペナンプラ領域(救済可能な領域)を示しており、血栓回収療法適応判断に役立ちます。

<b>[予約]</b> tel.088-633-9106	<b>[予約]</b> fax.0120-335-812
<b>[検査]</b> tel.088-633-9071	<b>[検査]</b> fax.088-633-9071

## 高度画像診断センター

高度画像診断センターでは、PET/CT、高磁場MRI、マルチスライスCT、デジタルマンモグラフィ装置など最新画像診断装置を導入し、地域の皆様へ画像診断サービスを行っています。ご紹介いただいた患者様の画像診断を行い、その検査結果、読影結果と画像データをお返ししています。診断結果をご覧になり、患者様とよくご相談になってその後の治療方針をお決めください。

### 主な業務とサービス

#### ①短期間の予約

CT検査(特殊検査以外)は当日に、MRI、核医学検査(PET/CT含む)でも数日以内に検査の受け入れ可能です。ただし同日に2種類以上の検査はできませんので、別の日に改めて御予約ください(予約の申し込みは1度で可能です)。

#### ②専門医による読影診断

日本医学放射線学会認定の放射線診断専門医、日本核医学会認定の核医学専門医、PET核医学認定医が読影します。撮影においても専門の医師が現場に立会い、的確な撮像法を選択します。

#### ③迅速な検査結果の提供

検査結果は翌日に発送します。緊急の場合はFAXなどにて対応いたしますのでご相談ください。

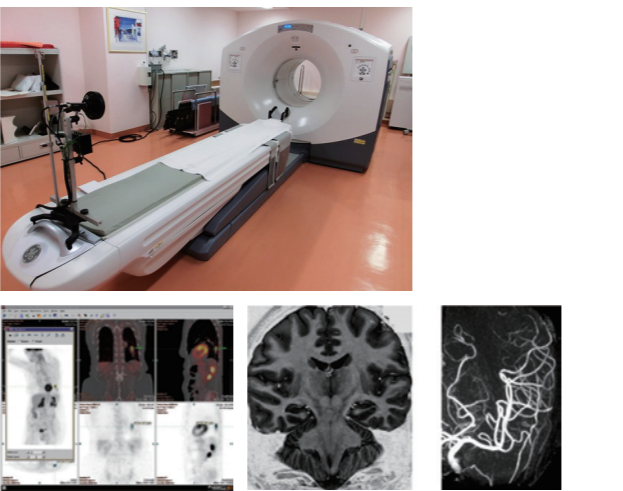
#### ④認知症総合画像診断も施行

MRI及び脳血流スペクトを用いた統計学的画像処理も加えた診断結果をご報告いたします。

<b>[予約]</b> tel.088-633-9106	<b>[予約]</b> fax.0120-335-812
<b>[検査]</b> tel.088-633-9071	<b>[検査]</b> fax.088-633-9071

#### ⑤デジタル画像データの提供

画像データはCD-Rにて提供します。中に画像を閲覧するためのソフト(WINDOWS対応)も入っていますので、特にソフトをご購入いただく必要はありません(MacではOsiriXのシステム条件があれば閲覧できます)。フィルムでの対応も行っておりますので、依頼時にお申し付けください。申し込み手順については別刷りのパンフレットをご参照ください。お手元にない場合は上記にご連絡いただくか、PET/CTの場合は徳島大学病院ホームページ(https://www.tokushima-hosp.jp/)よりダウンロード可能です。



<b>[外来]</b> tel.070-6586-0858	<b>[医局]</b> tel.088-633-7352	<b>[医局]</b> fax.088-633-7388
-------------------------------	------------------------------	------------------------------

#### ②マウスプロテクタ

全身麻酔手術の場合は、口腔内状況に応じて、歯を保護するマウスプロテクタの作製を総合歯科に依頼します。

#### ③包括的口腔ケア(口腔内清掃、口腔衛生指導)

手術・治療前日には、口腔内の微生物をできるだけ少なくするため、歯科医師・歯科衛生士による専門的口腔ケアを行います。手術後で外来受診が難しい場合は、病室に往診し専門的口腔ケアを行います。抗がん剤治療や頭頸部の放射線治療を受ける患者さんには、口腔粘膜炎が生じた際の口腔清掃指導や口腔乾燥時の保湿ケア指導ならびに生活指導について説明を行います。

#### ④口腔機能の維持・管理

咀嚼く機能や唾液腺機能の維持に努めます。

退院に際しては、必要に応じて継続的な口腔健康管理を地域の歯科診療所に依頼し、切れ目のない口腔の健康づくりを目指します。



## がん診療連携センター

本センターは、最新鋭のがん診療設備と専門スタッフを備えた本院のがん診療を診療科横断的に行う司令塔的な活動をするセンターです。

### 体制

本センターは以下の部門で構成されています。

部門名	部門の役割
がん診療企画部門	診療科横断的ながん診療に関するカンファレンス。医療関係者向けのセミナー、研修会の企画。
がん化学療法部門	がん化学療法に関する事柄の統括。
がん診療連携・相談部門	地域の病院との診療連携推進、患者の療養に関する相談への対応、患者教室の開催など。
がん研究・研修部門	がん研究とがんに特化した医療従事者の養成・研修。
がん登録部門	がんの登録、予後調査など。
がん緩和・こころのケア部門	がん緩和ケア、患者と家族に対する心理相談など。
がんゲノム医療部門	がんゲノム検査の実施、個別化医療の提供。

### 運営方針

当院のがん診療に関しては、年間新入院がん患者数は延べ約5,200人で全新入院患者の約33%を占めています。また年間約1,600件の悪性腫瘍手術に加え、約900件の放射線治療や延べ12,000件を超

### 緩和ケアセンター tel.088-633-7457

当センターは、がん治療と並行して、治療開始時から緩和医療・緩和ケアを適切に提供し、地域との円滑な連携を図るため、1997年に緩和ケア室を開設しました。現在はがん診療連携センターのがん緩和・こころのケア部門に所属する医師、看護師、心理士、ソーシャルワーカーなどで構成される緩和ケアチームが活動しています。緩和ケアとは、がんに伴う「体のつらさ」だけではなく、「こころのつらさ」「生活のつらさ」など様々なつらさを和らげ、がん患者さんやそのご家族にとって可能な限り良好な生活の質を実現させるための医療です。当センターでは患者さんが少しでも「その人らしく」過ご

### がん相談支援センター tel.088-633-9438

当センターは、患者さんやご家族あるいは地域の方々に、がんに関する情報を提供したり、相談にお応えしています。なお、がん相談支援センターは、全国のがん診療連携拠点病院に設置されている「がんの相談窓口」です。がん診療連携センターのがん診療連携・相談部門に所属するがん専門相談員としての研修を受けたスタッフが、信頼できる情報に基づいて、がんの治療や療養生活全般の質問や相

### がん遺伝子診断外来 tel.088-633-9438

当院は厚生労働省が指定する「がんゲノム医療連携病院」として認定されており、徳島県内では当院のみが「がん遺伝子パネル検査」を実施することができます。そのがん遺伝子パネルとは、患者さんの癌細胞に含まれる遺伝子の情報を次世代シーケンサーと呼ばれる専用の装置で解析することにより数百種類のがん遺伝子情報を一度に調べることが可能です。得られた情報は「エキスパートパネル」と呼ばれるがんゲノム医療に精通したスタッフが集まる会議にて検討し、意味のある遺伝子変異が認められるかどうか、またその変異に対応する

### 外来化学療法室 tel.088-633-9108

現在外来化学療法室では、月曜日から金曜日の週5日、毎月約900人の患者さんが化学療法を受けられています。部屋には22台のリクライニングチェアと2台のベッドがあり、音楽を聴きながらあるいはテレビをご覧になりながら快適に治療を受けていただけます。抗がん剤治療に関して経験豊富な医師、専任薬剤師、がん化学療法看護認定看護師などが協力して『患者様が自宅での生活や普段の社会生活

<b>tel.088-633-7312</b>	<b>fax.088-633-9111</b>
-------------------------	-------------------------

す外来化学療法も実施しています。

日本がん治療認定医機構が定める「日本がん治療認定医機構認定研修施設」、日本臨床腫瘍学会が定める「日本臨床腫瘍学会認定研修施設」にそれぞれ認定されているだけでなく、平成22年4月からは「都道府県がん診療連携拠点病院」として認定されています。大学病院としての特徴を活かし、最新鋭の診断機器や治療技術(薬剤)を駆使してがん診療に望んでおり、複数の診療科の医師やメディカルスタッフが協力するチーム医療を実践しています。また、がんの治療を受けるうえでの不安や悩み、療養生活や仕事のことについて気軽に相談していただけるよう「がん相談支援センター」を設置しています。新規の診断法や治療法開発に向けた研究を推進するとともに、県下のがん登録およびそのデータ解析を推進しています。教育研修施設としては、学生教育、研修医の専門医取得のための教育、看護師や薬剤師などのメディカルスタッフの専門職教育を行い、がん診療に従事する医療従事者を育成しています。一方、がん予防の観点からも市民公開講座の開催や患者会との交流などを通して一般の方を対象とした啓発活動にも尽力しています。

せるよう、様々な苦痛を緩和しサポートしていきます。

### 主な業務

- 緩和ケアの算定に関すること
- 緩和ケアに関わる診療およびコンサルテーションに関すること
- 緊急緩和ケア病床の運営に関すること
- がん看護専門外来の運営に関すること
- 緩和ケアの教育・啓発・研修会に関すること
- 緩和ケアに関わる情報収集および 提供に関すること

談をお受けしています。相談の内容に応じて、がんに詳しい看護師、医療ソーシャルワーカー、公認心理士などが対応できる連携体制を整えています。
\*ご相談は無料です。
\*ご相談いただいた内容が外部に漏れることはありませんので、安心してご相談ください

薬剤を提供できるかどうかを決定します。2025年からは当院においてエキスパートパネルが開催できるようになり、以前に比べて検査結果を患者さんにお伝えするまでに要する時間を短縮できています。「がん遺伝子パネル検査」は誰でも受けられる検査ではありません。また遺伝子変異が見つからない場合や、見つかったも使える薬がない場合、徳島県内では使いたい薬が使えない場合があります。検査を受けたい場合は、まずは現在かかっている医療機関の主治医にご相談ください。その他ご不明点は当センターまでご相談ください。

を送りながら、快適に安心して医療を受けることができる』よう支援しています。

また、化学療法が安全におこなわれるように患者様の状態に注意を払い、今受けておられる治療についての説明と、日常生活上の留意点のご説明やご相談に応じています。

## 物流センター

物流センターでは、手術部をはじめ、病棟や外来で使用した医療器材の再生処理(回収・洗浄・組立・滅菌・搬送)を行っています。洗浄滅菌に関わる業務を一元化することで、医療現場の業務の省力化・効率化に貢献しています。

### 体制

物流センターは、洗浄・滅菌部門、搬送部門、ベッド洗浄部門を担当しており、3部門とも外部委託されています。中央部門としての役割が果たせるように、各外部委託スタッフが協力し、業務を行っています。

### 運営方針

- 安全で質の保証された滅菌物の提供
- 迅速で正確な搬送業務の実施
- 安全で快適な療養環境の整備と提供

### 特徴・特色

洗浄・滅菌は、「滅菌物品管理システム」による2次元バーコード管理を行っており、器材の所在検索や、滅菌履歴・使用履歴・有効期限管理ができ、「洗浄・滅菌モニタリングシステム」により、各装置の稼働状況をリアルタイムで把握し、運転履歴や異常履歴などの履歴管理を行っています。また、各インジケータによる洗浄評価や滅菌評価を実施し、安全で保証された滅菌物の提供に努めています。



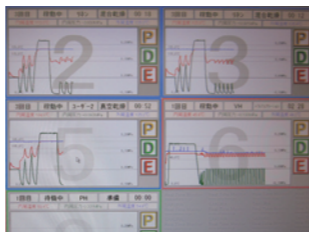
洗浄室



既滅菌室



組立室



滅菌モニタリングシステム



洗浄モニタリングシステム

## 臨床工学部

平成19年7月1日、生命維持管理装置および先端技術を応用した特定保守管理装置の操作・保守管理業務を中央化し、本院における臨床工学技士業務を適正かつ円滑に行うことを目的として「ME管理センター」が設立されました。その後、医療の高度化・専門化に伴い役割を拡大し、令和8年4月1日より「臨床工学部」へと名称を変更しました。臨床工学部では、チーム医療の一員として、医師、看護師をはじめとする多職種とのメディカルスタッフと連携し、安全かつ質の高い医療の提供に貢献しています。

### 主な業務

- ① **医療機器管理・細胞移植部門**: 各病棟および新生児集中治療部(NICU)における人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器等のME機器ならびに特殊ガスボンベ(N<sub>2</sub>、NO等)の操作・保守管理を行っています。また、胸腹水濾過濃縮再静注法(CART)の準備・操作・保守管理、血液内科における幹細胞採取や骨髄濃縮など細胞治療センターでの移植関連業務も担当しています。
- ② **血液透析部門**: さまざまな疾患・病態に対し、血液透析をはじめとする血液浄化療法全般を担っています。
- ③ **救急集中治療部門**: 急性呼吸不全や大手術後患者に対する人工呼吸管理をはじめ、持続的腎代替療法(CRRT)や免疫・神経疾患に対する血液浄化療法の操作・管理を行っています。また急性循環不全患者に対する補助循環装置の操作・管理や熱傷患者への気管支鏡検査の介助・管理にも従事しています。
- ④ **心臓カテーテル部門**: 虚血性心疾患、不整脈疾患、小児循環器疾患に対するカテーテル検査・治療において、各種医療機器の操作・保守

管理および清潔野での介助を行っています。また、手術部と連携し、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)の介助にも携わっています。

⑤ **手術部部門**: 心臓血管外科手術における人工心肺装置や補助循環装置の操作、整形外科・脳神経外科手術における神経誘発電位測定、胸腔鏡・腹腔鏡下手術機器の介助を担当しています。

さらに、レーザー手術やロボット支援手術など高度医療技術等にも対応しています。

⑥ **内視鏡センター部門**: 内視鏡検査および内視鏡治療における介助業務を行っています。

⑦ **外来部門**: 循環器内科および心臓血管外科外来において、ペースメーカーなどの植込み型デバイス患者の動作チェックを実施しています。また、補助人工心臓(VAD)植込み患者への指導および管理も担当しています。

⑧ **安全教育部門**: 医師やメディカルスタッフに対する医療機器操作の指導、情報提供、各種研修会の開催を通じて、院内の医療安全向上に寄与しています。

### 特徴・特色

特定機能病院に所属する臨床工学技士として、日々自己研鑽に努め、高度な専門知識と技術の習得に取り組んでいます。各分野における認定資格を有するスタッフが在籍し、専門性を生かしたチーム医療の推進に貢献しています。



## アンチエイジング医療センター

### 1. 糖尿病療養指導外来

糖尿病診療はめざましいスピードでデジタル化が進んでいます。特に24時間にわたり皮下のブドウ糖(グルコース)濃度を連続的にモニタリングする持続血糖モニタリング(CGM)は当院で約400名の糖尿病のある方に利用いただいております。また、インスリン注入ポンプもCGMと連動し、インスリンの自動注入による血糖マネジメントが可能となり、1型糖尿病をもつ約60名の方に使用されています。これらの機器はスマートフォンと連携でき、蓄積された膨大なデータが診療に活かされています。アンチエイジング医療センターでは、これらの機器の使用にあたり、機器連携から日常使用への支援、さらに診療時のデータ整理を行い、糖尿病のある方の生活と診療がスムーズに進むよう活動しています。また、多様になった注射機器や血糖自己測定機器に対しても細やかな支援を行っています。お困りなことがあれば立ち寄らせてください。

### 2. 糖尿病透析予防外来

糖尿病は腎不全から透析に至る最大の原因ですが、病初期のアルブミン尿や蛋白尿は治療により改善することが多く、また進行した腎臓障害に対してもその進展を遅らすことができる時代です。このためには、腎保護を考えた薬物療法とともに早期より適切な食事療法や運動療法が効果的です。希望される場合、当院の内分泌・代謝内科受診中の糖尿病のある方は担当医にお申し出ください。

### 3. 糖尿病ケア外来(フットケア外来)

糖尿病の合併症である神経障害は傷が治りづらく、血流障害も併発すると足病変と言われる潰瘍や壊疽につながり、足の切断にまで至る場合があります。その予防のためには、普段からの足のケアが重要です。

専門の看護師が、糖尿病性神経障害をもつ糖尿病のある方に対し、足の評価やケアを行い、日常生活での足の観察や手入れの方法を伝え、足病変の予防や悪化しないように支援しています。

### 4. 動脈硬化性疾患、骨粗鬆症やサルコペニアなど加齢に伴う病態の評価、管理、治療

超高齢化社会を世界で先駆け邁進する日本において、単に寿命の延長ではなく、健康で自立した生活が出来る健康寿命の延伸が求められています。糖尿病や脂質異常症に合併する動脈硬化性疾患、70歳以上の女性の約半数が罹患していると言われる骨粗鬆症、骨格筋障害であるサルコペニアは患者さんのQOL(生活の質)を悪化させるのみならず、死亡リスクを上昇させることが報告されています。同時にこれらの病態は密接に関連しており、包括的かつ全人的な管理が必要です。アンチエイジング医療センターでは、内分泌代謝内科と協働し、これらの病態の評価及び管理、治療を行っています。



アンチエイジング医療センター

## パーキンソン病・ジストニア治療研究センター

パーキンソン病とジストニアは運動異常症(不随意運動)を生じる2大神経疾患で近年患者数が増加しています。当センターでは、パーキンソン病・ジストニアに加えて脳卒中後遺症(痙縮)、振戦、舞踏運動、ミオクロームスなどの運動異常症の診断・治療を行っています。

### 診療体制

**外来**: 脳神経内科と脳神経外科において専門外来を開設しています。

**脳神経内科**: 第1、3、5木曜日午後「ジストニア・運動障害外来」を開設しています。

**脳神経外科**: 第1~4月曜日午後、第1~4水曜日午後専門スタッフが診察対応しています。

遠隔地から受診の患者さんでは事前連絡があればなるべく診察日に合わせて受診当日に検査・治療などをまとめて行うよう調整します。  
**入院**: 入院での検査・薬物治療あるいは脳(神経)外科手術治療が必要な場合は随時入院して頂きます。

### 治療方針

脳神経疾患による運動異常症(不随意運動)を改善し患者さんのADL(QOL)を向上するための包括的医療を行います。

### 得意分野

パーキンソン病やジストニアをはじめとしたさまざまな運動異常症に対して、薬物治療、ボツリヌス注射、手術治療を行っています。パーキンソン病については、日々の運動のサポートから内科的・外科的治

療まで包括的な治療が可能です。ジストニアの治療においても全国有数の治療経験を有しております。

パーキンソン病やジストニアなどの運動異常症には薬物治療が第一選択肢ですが、内科的治療で満足いく治療効果が得られない場合は手術治療の対象になります。運動異常症に対する機能的外科治療のなかで、過去20年以上の臨床研究から有用性が確認され世界中で普及しているのが脳深部刺激療法(DBS)です。DBSとは、直径1mm程度の柔らかい電極を脳深部に定位的に留置し、これを前胸部皮下に埋設したパルス発生装置と結線し持続的な電気刺激を行い脳神経回路の機能修正をする治療法です。徳島大学病院はDBS治療の経験が豊富で、日本定位機能神経外科学会が定める「機能的定位脳手術認定施設」に登録されています。

### 対象疾患

パーキンソン病・ジストニアだけでなく、全ての脳神経疾患によって生じる全ての運動異常症(不随意運動)が治療対象です。



## 高次脳機能障害支援センター

当病院は、徳島県から指定を受けて、高次脳機能障害支援拠点となっています。これは、障害者総合支援法を根拠とするもので、高次脳機能障害に関する専門的相談を主に担います。当院では、精神保健福祉センターや各保健所、民間病院、市町村などと連携し、支援体制の構築・充実を図っています。

### 支援体制

当病院患者支援センターに専門の支援コーディネーター(医療ソーシャルワーカー)を配置し、診断やリハビリテーションなどの医学的相談、また、年金や傷病手当金などの経済補償、ならびに家族への対応など、福祉の相談にも充分に対応します。特に、高次脳機能障害は、比較的若年の方が脳を交通事故や疾患により損傷する 경우가多く、就労支援が大きな支援ともなっています。したがって、労働機関とも連携し、一般および福祉的な就労支援に力をより注いでいく予定です。



## キャリア形成支援センター

本センターは、医師・歯科医師、看護師・助産師、医療技術職員、事務職員等の医療人の生涯研修とキャリア形成の支援に取り組んでいます。

### 体制

医師部門、歯科医師部門、看護職部門、医療専門職部門および事務部門の5つの部門で構成されています。

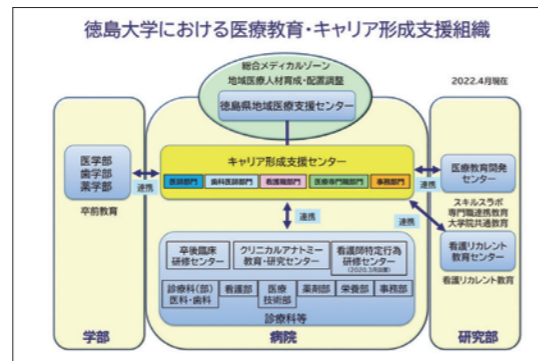
### 取組内容

- 医療人の生涯研修とキャリア形成を支援
  - ・医師・歯科医師の専門研修、メディカルトレーニングラボの運営
  - ・看護師、医療技術職員および事務職員の生涯研修
  - ・院内認定コースや各部門研修会等の教育プログラムや講習会・講演会を企画・実施
  - ・卒後臨床研修センターとの連携(医師・歯科医師の初期臨床研修との連携)
  - ・クリニカルアナトミー教育・研究センターおよび徳島県地域医療支援センターとの連携
  - ・卒前教育および大学院教育との連携
- 専門職連携・チーム医療教育の推進
- 講演会・講習会開催経費や参加費用の助成
- キャリア形成支援に関する物品購入の助成

### 学部、大学院との連携

医学部、歯学部、薬学部や、専門職連携教育、スキルス・ラボ運営ならびに大学院教育支援を担当している大学院医歯薬学研究所医療教育開発センターとも密接に連携しています。これによって、卒前教育

から卒後研修、大学院、生涯研修にわたる一貫した医療人教育やシミュレーション教育ならびにチーム医療教育の充実が期待されます。



## キャリア形成支援センター 看護職部門

キャリア形成支援センター看護部門は、平成18年4月に開設した看護教育支援室を発展的に改組し、全職員のキャリア形成を担う部門として設置しました。平成23年度より看護部と連携して、看護師及び助産師のキャリア形成支援並びに卒後臨床教育の円滑な実施を図ることを目的に、体系的な支援体制を整備し、人材育成の支援を行っています。

具体的な業務は、当院看護部の教育ビジョンを基に教育の計画、実践、その成果を分析し、強化すべき課題を明確にすることです。新人教育の推進や看護職員の実践能力の向上をはじめ、看護職員の生涯を通じたキャリアパスを構築し、キャリアレベル別の研修を推進しています。具体的には、実践能力向上のために生涯教育体系プログラムに沿って研修を企画・実践し、一人一人がキャリア実績を蓄積し、それぞれの職務、職域での活動をポイント化することにより、看護ケアの質の維持・向上を図っています。

本院のキャリアパスは、組織の目標達成と同時に個人のキャリアに対する目標意識を高め、看護実践能力の向上を目指しています。このキャリアパスは、①職務(専任看護師)、②職位(管理者)、③資格(専門)のキャリアを3段階6レベルに設定し、スタンダード、ミドル、ハイの3つの段階をそれぞれ2つのキャリアレベルに分け6レベルとし、それらの段階、レベル別に求められる能力と役割を明確にするための、評価システムを設定しました。評価システムには、仕事の結果を判定する『能力評価』『業績評価』に加えて、仕事のプロセスや姿勢などを判定する『職務プロセス評価(情意評価)』を追加しています。業績評

価としては、各部署で定めた目標の達成度と、各看護師の貢献度を自己と他者双方の評価として導入しました。そして、自施設で開発したキャリア開発支援システム上で、自らの能力の獲得レベルを確認でき、個々の看護職員が、『自分がどのレベルに属しているのか』『そこでは何を求められているか』を意識して看護に取り組めるように工夫しています。キャリアパス内での昇任・昇格、キャリアパスの変更基準を決め、各自の意志、適正に応じて移行できるキャリアパスとなっています。ミドルレベル以上に限定した複線型人事制度を導入しており、それぞれのキャリアに応じた処遇を検討しています。さらに、評価認定会議を置き、仕事のプロセスや成果、看護師の能力が「該当するレベルの要求を十分に満たしている」と判定し、一つ上に進むことができるように自己申告制度を導入しています。



## 糖尿病対策センター

徳島県の糖尿病による死亡率は全国ワースト1を脱却したものの、全国的に見てまだ高い状況が続いております。このように糖尿病に関する深刻な状況の原因究明とその解決策を発見することを徳島県より受託する形で、当センターは平成19年10月に徳島大学病院内に設置されました。

### 運営方針

当センターの主な事業の一つは、徳島県民の皆様を対象とした疫学調査です。糖尿病をお持ちの方々が不幸にしてお亡くなりになる大きな原因の一つに心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化性疾患があります。また糖尿病をお持ちの方には、肥満、高血圧、脂質異常なども併せ持つメタボリックシンドロームを起している場合が頻繁に見られます。ある生活習慣のために肥満し、そして増加した脂肪組織から血液中に分泌される因子が糖尿病やメタボリックシンドロームを引き起こすことで動脈硬化を発生・進行させているのではないかと、その因子を見つけることで病気になる前に予測でき、予防につながるのではないかと私たちは考えています。この証明のため、調査にご協力、ご登録いただいた皆様に年一回、調査をさせていただいております。プライバシー配慮のために匿名化されたデータを基に、生活習慣、血液中の因子、メタボリックシンドロームでみられる各疾患(内臓肥満、糖尿病、高血圧症、脂質異常症)の間の因果関係を証明していく所存です。また疫学調査で明らかになる因果関係をさらに実験系による検証で確立し、その成果を皆様の健康維持に役立てていただけたらと考えております。





## 国際医療センター

グローバルな視点から見た日本の医療は、高い医学研究に基づいた医療と自国民に対して平等・公平な医療制度を持ち、世界最高水準の医療が提供されています。

その中で、医療の輸出・輸入(アウトバウンド・インバウンド)の面での国際的な取り組みの要請が高まっており、外国人に対する医療サービス、医療の人材・技術・システム等の提供、医療人の相互受入等、国立大学附属病院には多用な役割が求められています。

国際医療センターは、本院における国際的な活動を行う組織として2017年度に新しく設置されました。

### 取組内容

外国人(インバウンド)患者受入のための体制整備や院内表示の英語化等の環境整備、通訳システムや必要文書の英語化等のほか、英語版ホームページを充実することによる情報発信を推進していきます。

発展途上国への人材育成の協力や、海外から優れた医療技術を持つ医療従事者の受け入れを推進し、教育・診療・研究を通じて相互の医療技術の向上を目指した取り組みを行うと共に、院内の国際化に必要な人材育成のため、医療スタッフ、事務職員等の海外研修支援制度を整えてまいります。

人材・技術の発信、医療器材の発信(提供)等、これまで個人や診療科単位で行われてきた国際的活動の情報収集を行い、組織的に支援、充実させ、病院全体の取り組みとして発展させていきます。

大学院やインターナショナルオフィス等学内関連組織及び国内外との連携を図りながら、地域における大学病院として特色ある国際貢献を行っています。

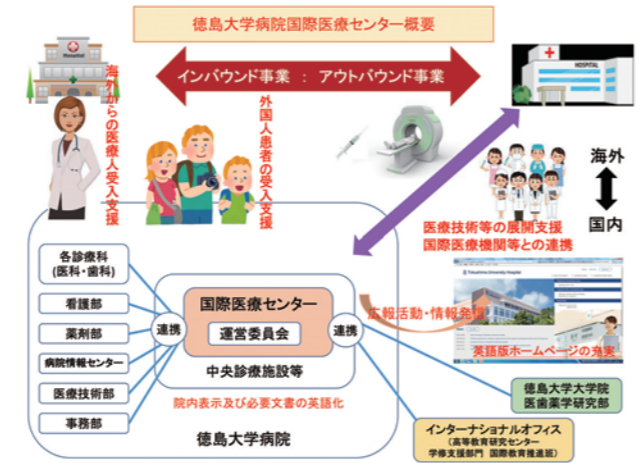
### 体制

センター組織:センター長、副センター長、医療従事者等

運営委員会:センターの管理運営、業務計画等について審議する委員会

### 外国人患者への対応

多言語翻訳機器を3台導入し、院内において外国人患者と手軽にコミュニケーションを行うことが可能となり、診療がスムーズに進んでいます。



## クリニカルパスセンター

クリニカルパス(パス)は一言で表すと標準診療計画です。患者状態と診療行為の目標および評価・記録を含み、医療の安全と質を改善できるツールとして活用されています。クリニカルパスセンターでは、従来紙運用で発展させてきたパスを2017年に電子化し、診療と経営の効率化と質の向上、および医療従事者と患者の満足度の向上を図るための体制づくりに取り組んでいます。

パスには医療者用と患者用があります。医療者用パスは病院情報システムに組み込まれており、パス適用画面において該当するパスと基準日を選択すると、あらかじめ設定された薬剤、注射、検査、食事、処置、指示等を一括オーダーすることができます。その結果、パスの設定基準日(入院日など)から終了日(退院日など)までの一連のオーダー内容が、簡便な操作で病院情報システムに反映され、診療に関する業務内容が医療スタッフ間で共有されることを実現します。また、実施した診療行為は、適用したパス画面から直接入力することができ、結果の閲覧も可能です。さらに電子パスの画面では特定期間の表示だけでなく、設定基準日から終了日までを俯瞰できるオーバービュー画面や1日表示の日めくり画面に切り替えて閲覧することができます。一方、患者用パスは診療の経過を1枚の用紙にまとめているので、患者・家族が事前に説明を受けることにより、自身の検査や治療の流れを容易に把握でき、インフォームドコンセントの充実、自己管理意識や満足度の向上につながります。

パスを有効活用するためには、未達成目標(バリエーション)の情報を収集し、診療の経過が標準的計画から逸脱していないかを把握することが重要です。バリエーションが生じれば、標準からの偏位を分析し、計

画を見直して新たに実践するといったPDCAサイクルを繰り返すことで、医療の標準化と質改善につながります。その実現のため、クリニカルパスセンターでは、日本クリニカルパス学会が提供しているBasic Outcome Master(BOM)を活用し、パス利用の本来の目的であるアウトカム志向の運用を目指しています。さらにBOMを活用した電子パスの運用と分析は、医療機関同士のベンチマーキングも可能とし、施設間の比較から、診療のみならず経営的な付加価値も見出すことができます。

医療現場では、診療業務の質向上や効率化だけでなく、経営改善の戦略が求められています。同時に病院の継続的な発展と職員・患者の満足度向上を実現するために、クリニカルパスセンターは、今後さらに重要性が高くなるパスの充実した管理・運用を目指します。

### 主な活動内容

- ①パスの作成と使用の推進
- ②マスタ管理
- ③パス評価
- ④報告会および研修

### 体制

クリニカルパスセンターは、センター長、副センター長、医科・歯科医師、看護師、薬剤師、診療情報管理士および病院情報センター職員等が構成員として配置されています。

## 総合スポーツ医学センター

スポーツは世界中の多くの国々や人々に親しまれ、推進されている文化事業であり教育活動です。オリンピックや国際的競技選手にとどまらず、一般市民も子どもから高齢者にいたるまで、非常に多くの方がスポーツにふれあっています。その一方で、スポーツは心疾患による突然死や柔道・ラグビーなどのコンタクトスポーツによる重大な頭部事故、脊椎・脊髄損傷、頻繁な四肢外傷、熱中症などの様々なスポーツ障害が発生します。これらのスポーツ障害に対し、本院ではこれまで個々の診療科が個別に担当してまいりましたが、今後、増加が予想されるスポーツ障害に対し、様々な面でより高いレベルの診療を実施していくには、学際的、総合的に予防、診療、研究を推進していく必要があります。このことから、本院では平成29年10月に徳島大学病院総合スポーツ医学センターを設立し、関連する診療科、部局が連携してスポーツ障害等に対応していくこととなりました。今後は総合スポーツ医学センター各部門のより一層の充実を図り、スポーツ障害に対する診療力の向上、競技者の支援、スポーツ医学研究の向上、地域社会への貢献を目指していきます。

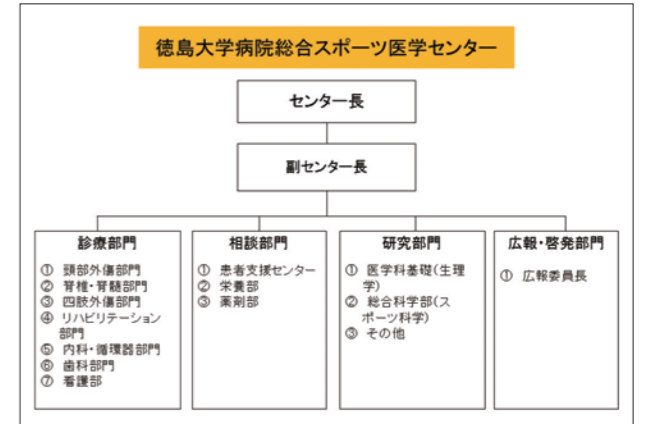
### センターの主な取り組み内容

- ①スポーツ障害に関する予防と診療に関すること。
- ②スポーツ選手のための栄養管理、心理的サポート及びアンチドーピングに関すること。

- ③スポーツ障害の発生機序や予防・治療に関する基礎及び臨床研究に関すること。
- ④地域の学校やスポーツ団体などの研修・啓発事業に関すること。
- ⑤その他センターの設置目的を達成するために必要な事業の推進に関すること。

### センターの部門

- ①診療部門
- ②相談部門
- ③研究部門
- ④広報・啓発部門



## 口唇口蓋裂センター

口唇口蓋裂は、口唇・顎・口蓋の披裂を特徴とする先天疾患で、日本人の新生児における発生率は約550名に1人です。これは、出生時に体表に発現している先天異常としては頻度が高いものの1つと言えます。口唇口蓋裂の治療は、出生直後から成人までかかることが多く、全年代にわたり専門的な知識に基づく、確かな技術に裏打ちされた診療が求められます。本センターは、口唇口蓋裂の患者及び家族の心のケアを行うとともに、口唇口蓋裂の包括的な診断・治療を実施し、その改善を行うことを目的として平成31年4月に開設されました。

### 診療体制

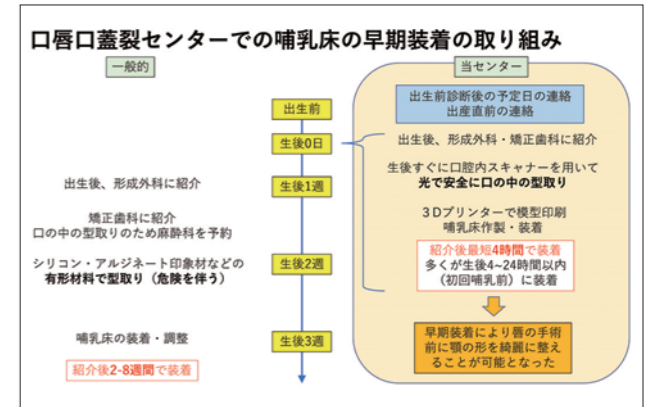
毎週火曜日(午前9:00~12:00・午後1:00~3:00)に形成外科外来と歯科外来Kブロック(K1)にて専門スタッフ(形成外科医または小児歯科医・矯正歯科医)が診察対応しています。

### 特徴・特色

徳島大学は四国で唯一、医学部、歯学部、薬学部の揃った総合大学であり、徳島大学病院は医科・歯科を含めた、四国の中核病院としての役割を果たしております。そのため本センターは、口唇口蓋裂患者の一貫した治療を医科歯科連携で実施できる、四国で唯一の専門医療施設という特徴を有します。

診療に際しては、産婦人科、耳鼻咽喉科、形成外科、小児科、小児歯科、矯正歯科、歯科・口腔外科、言語治療室など、医科・歯科問わず、複数の診療科の医師・歯科医師・スタッフが共同で、密に連携を取り合

うことで治療計画を策定することが必要です。本センターは、口唇口蓋裂の治療のために多分野の専門家が連携する診療体制を整えており、充実した医療サービスを提供することが可能です。



## 周術期管理センター

急性期病院では、DPC制度が導入されて以来、常に在院日数短縮と手術件数の増加が求められています。徳島大学病院においても、手術件数は年々増加し令和7年度は7,557件となり、在院日数短縮により、入院から手術までの期間は約1〜2日です。その上、高齢の患者さんが増え、手術に必要な説明や術前評価をこの短期間に集中して受けるため、精神的・身体的準備が十分出来ているとは言えず、医療安全上問題と考えています。

このような背景の中、周術期管理センターは、徳島大学病院における周術期管理について組織横断的に業務を行い、手術を受ける患者さんに対して、快適で安全・安心な医療を効率的に提供し周術期の患者管理の質向上と患者満足度を高めることを目的に2019年度新たに設置されました。

全身麻酔で悪性腫瘍の手術を受ける患者さんへの介入から開始し、手術決定から入院までの患者さんの流れ、各職種がセンター設置に伴い行う業務内容の整理等を行い周術期管理の体制作りを進めています。

### 体制・運営方針

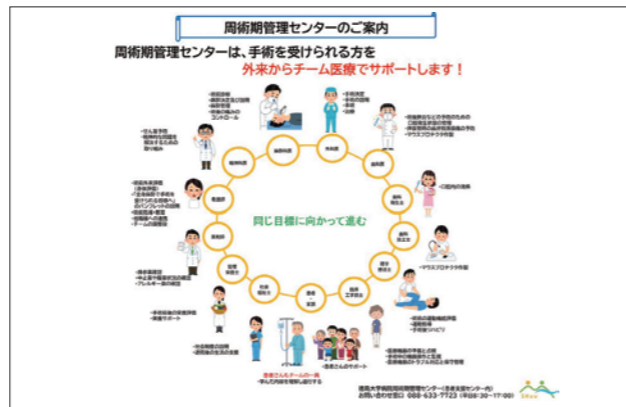
センター長を中心に、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・歯科衛生士・歯科技工士・理学療法士・社会福祉士・臨床工学技士等が



チームとなり活動します。手術が決まった外来の時点から手術に向けた心身の準備をサポートし、患者さんが主体的に手術に取り組んでいただけるよう支援していくことを大切にしていきます。手術に臨む患者さんを、周術期を通して多職種がチームとなり、それぞれの専門性を発揮し支えていきます。

### 業務内容

- ・外来での術前評価及び術前オリエンテーションの実施に関すること。
- ・術後疼痛管理の支援及び術後早期離床の支援に関すること。
- ・術中を含む周術期管理の安全性、質の向上及び効率化に関すること。
- ・周術期管理の知識向上のため、研修会等の企画及び実施に関すること。
- ・周術期管理に係る情報及びデータの集積に関すること。
- ・その他周術期管理に関すること。



(総務課専門研修係)tel.088-633-9976

## 看護師特定行為研修センター

当院は、2020年2月に、徳島県初の看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働大臣より指定(8区分)を受け、同年5月に徳島県内の看護師を対象に看護師特定行為研修を開講しました。

看護師特定行為研修センターは2020年3月に設置され、当院において、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号の規定に基づく特定行為、及び同項第4号の規定に基づく特定行為研修を実施し、特定行為研修を行う場合に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能を有する特定看護師を養成することを目的としています。

### 運営体制

本センターは、センター長、副センター長、専任看護師、事務員を配置し、看護師特定行為研修、ならびに特定行為実践に関する審議については、多職種から構成される看護師特定行為研修管理委員会、及び看護師特定行為研修管理委員会専門部会を設置しています。

### 主な業務内容

- ① 指定研修機関の指定の申請に関すること。
- ② 特定行為研修基準に則った特定行為研修計画の作成、提出に関すること。
- ③ 特定行為研修実施のための準備、運営に関すること。
- ④ 特定看護師の業務支援に関することなど。

### 本院の特定行為研修の基本理念

特定行為研修は、チーム医療のキーパーソンである看護師が、患者および国民並びに医師その他の医療関係者から期待される役割を十分に担うため、医療安全に配慮し、医療現場において、高度に臨床実践能

力を発揮できるよう、自己研鑽を継続する基盤を構築するものである。

### 研修の概要

本院は、特定行為研修を通じて、急性期医療をはじめ慢性期や在宅医療を含む幅広い分野に対応できる特定行為研修修了看護師を養成し、地域へ貢献します。

### ■2026年度開講

<領域別パッケージ>①周術期麻酔管理領域(旧術中麻酔管理領域)②救急領域③外科系基本領域

<コース研修>①創傷管理コース②血糖管理コース

<区別研修>①呼吸器(気道確保に係るもの)関連②呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連③呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連④胸腔ドレーン管理関連⑤腹腔ドレーン管理関連⑥栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連⑦栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈用カテーテル管理)関連⑧創傷管理関連⑨創部ドレーン管理関連⑩動脈血液ガス分析関連⑪栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑫感染に係る薬剤投与関連⑬血糖コントロールに係る薬物投与関連⑭術後疼痛管理関連⑮循環動態に係る薬剤投与関連



末梢留置型中心静脈注射用カテーテル(PICC)挿入の手法トレーニング



## 総合アレルギーセンター

総合アレルギーセンターは、令和2年4月に当院に設置されました。当センターが設置された背景には、アレルギー疾患の重症化の予防及び症状の軽減、アレルギー疾患医療の均てん化の促進、アレルギー疾患を有する者の生活の質の維持向上等を目的としたアレルギー疾患対策基本法が制定されたことにあります。この法律に基づき、都道府県ごとにアレルギー診療の中核施設となる拠点病院が選定され、徳島県では、徳島大学病院が平成31年1月29日にアレルギー疾患医療拠点病院として指定されています。

### 組織体制

センターのメンバーは、アレルギー疾患診療と関連の深い呼吸器・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科、かみあわせ補綴科、そしゃく科、看護部、治療薬に関係する薬剤部、食事療法に関わる栄養部、医療、保健、福祉に関わる患者支援センターの代表者やアレルギー専門医により構成されています。

### 活動状況

アレルギー診療に従事している関係者の院内での連携を深め、情報共有を図る目的に「院内連携カンファレンス」を行っています。第6回となる令和7年度は、アレルギー専門メディカルスタッフの認定制度である小児アレルギーエデュケーター(PAE)、アレルギー疾患療養指導士(CAI)の資格の違いや共通点、また、経験した症例や身につける装飾品と歯科治療の関連性についてアレルギーの視点からの講演、アトピー性皮膚炎による眼の合併症についての講演と討論が行われました(図)。専門家であるセンターのメンバーだけに留まらず、

院内の医療従事者に公開し、病院全体として診療レベルの向上に努めたいと考えています。また、アレルギー疾患医療に携わる医療従事者を対象としたアレルギー疾患対策研修会と、患者やその家族、地域住民に適切な情報を提供するアレルギー疾患県民公開講座を行っています。

今後は、多職種が参加する症例カンファレンスを実施するなど幅広い観点から、アレルギー疾患の予防や治療に積極的に関与するとともに、将来、センターとして臓器横断的、集学的な対応へ移行することを目指しており、小児アレルギーエデュケーターやアレルギー専門医、アレルギー疾患療養指導士などの人材育成を進めています。



図 令和7年度院内連携カンファレンス

## 再生医療細胞調整センター

高度な技術を要する細胞調整(再生医療に必要な幹細胞・前駆細胞・体細胞など)を行うことが可能な、厚生労働省に認可されたGCTP基準を持つセンターです。消化器・移植外科、形成外科、呼吸器・膠原病内科、血液内科などの医師が参加し、次世代の最先端医療である細胞移植治療・試験を行うことが可能な体制となっています。

当センターは徳島大学病院・中央診療棟4階の手術室・集中治療部に直結する場所に位置し、移植医療にとって最短のアクセスが可能となっています。また、センター内には各種幹細胞由来細胞製剤および免疫細胞療法用細胞製剤・体細胞由来細胞療法製剤の加工・製造を行うために、2つの異なるグレード環境下の培養施設を完備しています。また、設備内のすべての環境モニタリングは電子制御され、24時間体制で連続モニタリングが可能のほか、緊急時対応に備えリモートモニタリング監視システムおよびアラートシステムを強化することによって万全な安定稼働を目指しています。本施設は、平成27年4月24日付で、中国四国厚生局より「再生医療等の安全性の確保等に関する法律第35条第1項」の規定による特定細胞加工物製造施設としての許可を取得しています。

当センターにおいては、形成外科による多血小板血漿治療の細胞調整が開始されたほか、First-in-human試験となる脂肪由来幹細胞より分化誘導したinsulin-producing cell自家移植(医師主導治験)が計画されており、膝島移植などの先端的再生医療を今後順次施行し、四国における再生医療拠点となるべく活動を行っていきます。院内の各部署(各診療科・看護部・検査部・臨床試験センターなど)と綿密に連

携し、既に確立された治療法から先進的な研究開発・施行まで幅広く対応し、患者さんにとって、また医療従事者にとっても安全な細胞調整が行える体制を整えています。



## 総合腎臓病センター

腎臓病は患者の生命、生活の質(QOL)を脅かし、最終的に末期腎不全に移行すれば、血液透析、腹膜透析、腎移植を必要とし、その医療費は社会に膨大な経済的な負担を課します。透析患者の増加を阻止することは腎臓病の診療の最大の目標です。こうした中、徳島県での腎不全医療は全国的にみて十分とは言えません。今後の透析阻止そして透析患者さんが立ち向かう合併症対策は急務で、徳島県では腎臓病医療および透析医療のさらなる活性化が求められています。徳島大学病院は大学病院の強みである高度専門医療及びチーム医療を活用した腎不全患者や維持透析患者への多面的なケア、地域の開業医の先生方や他の基幹病院との連携を検討しました。そして個々の活動を統合的に展開するための医療組織を設置することが必要と考えられ、「総合腎臓病センター」を設置することとなりました。

### 活動の概要

現在大きく5つの活動が軌道に乗っています。

#### ① 透析カンファレンス

各科特に内科、外科系の科の透析患者さんの透析管理に関して主治医とともに最善の治療法を模索します。管理栄養士の先生も入れて、栄養管理につき議論します。(写真1)

#### ② 泌腎カンファレンス

移植患者の腎生検、ドナーの片腎患者の経過観察について意見交換します。腎不全関連の手術について情報交換をします。

#### ③ 小児腎カンファレンス

小児腎疾患患者に関して内科的意見や小児から成人腎疾患への引継ぎを行います。(写真2)

#### ④ 腎臓病の早期発見、早期介入計画

開業医の先生方との紹介、逆紹介の連携モデルを構築しています。こうした院内外の活動を通し、腎不全医療の充実、透析阻止、末期腎不全患者さんのQOLの向上に努めたいと考えております。



写真1  
透析カンファレンス



写真2  
小児腎カンファレンス

## 下肢救済・創傷治療センター

糖尿病患者の増加に伴い、その合併症である末梢神経障害や下肢の動脈硬化・血流障害から足に潰瘍や壊疽を発生する患者さんは増加しています。このような足のキズを放置しておくと趾(あしゆび)の切断になったり、もっと進行した場合には下腿や大腿での切断になったりします。このように足の切断リスクのある病態を近年は包括的高度慢性下肢虚血(Chronic limb-threatening ischemia: CLTI)と呼ぶようになりました(図1)。治療は非常に難しく、血管の治療、創部の治療、糖尿病の治療などを要し、形成外科、心臓血管外科、循環器科、リハビリテーション科、栄養部、看護師などの多くの関連部署との連携が必要です。ほかには褥瘡なども治療が難しいキズで集学的な治療を要することがあります。当院では足の切断を避けるため、あるいは治療の難しいキズを治すために当センターを立ち上げ、スムーズな連携を行いながら治療を進めていけるよう努力しております(図2)。

### 診療体制

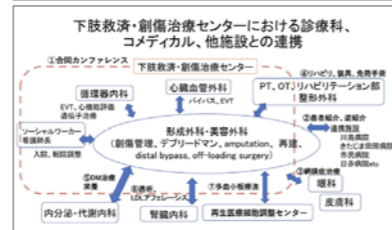
月曜と火曜の形成外科外来を窓口として、患者様の紹介を予約制で受け付けております。緊急性のある場合は形成外科外来に連絡をいただき相談していただくようになります。外来で検査を進めて病態の把握を行い、血行再建など各部署に依頼していきます。毎月1回、形成外科、循環器科、心臓血管外科の医師、理学療法士、管理栄養士、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟師長、入院患者の担当医を交えて合同カンファレンスを行い、患者様に最適な治療方針を決定していきます(図3)。また3か月ごとに難治性潰瘍や糖尿病性足潰瘍に関連した勉強会を開催しております。

### 対象疾患

難治性足潰瘍や足壊疽(包括的高度慢性下肢虚血:CLTI)、糖尿病性足変形(足趾変形、尖足拘縮)、褥瘡、静脈うっ滞性潰瘍、そのほか難治性潰瘍、リンパ浮腫



足病変 (CLTI) の様々な要因



診療体制



カンファレンス風景

## 脳卒中・心臓病等総合支援センター

当センターは、厚生労働省の令和4年度脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業の実施法人に採択され、令和4年8月に設立されました。徳島県における脳卒中・心臓病等の循環器疾患に対する診療連携体制の構築、地域の患者・家族への相談支援及び地域の医療機関との連携、循環器病に関する情報提供など、徳島県内全体の患者支援体制の構築を目的としています。

### 主な事業内容

- ① 循環器病に関する無料相談支援
- ② 循環器病について、予防に関する内容も含めた情報提供及び普及啓発
- ③ 地域の医療機関、かかりつけ医やメディカルスタッフを対象とした研修会の開催
- ④ 啓発資材(パンフレット)等の開発、提供
- ⑤ その他、循環器病患者の支援に必要とする活動

### メンバー構成

センター長である循環器内科 佐田政隆教授と、副センター長の脳神経外科 高木康志教授を筆頭に、各連携診療科の医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、MSWなど多職種で構成され、職種間の垣根をなくした円滑な連携を目指しています。

### 特徴・具体的活動

県民の方ならどなたでも利用できる無料相談窓口を設置しています。脳卒中・心臓病に関する困り事やお悩み事など、看護師・医療ソーシャルワーカーが窓口となり寄せられた相談に対応しています。

## 痛みセンター

2010年の調査では、慢性疼痛を有する患者数は日本の成人人口の4.4人に1人、22.5%に相当すると推計されています。慢性疼痛の原因や影響は身体面のみならず、心理面、社会面と多岐にわたり、治療に関わる医療従事者の専門分野や治療内容も多様なものであることが望ましいとされています。

厚生労働行政推進調査事業(慢性の痛み政策研究事業)において、「慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」に基づき、集学的痛みセンターの構築が全国的に勧められています。本センターは、徳島県においても痛みに対して専門性を持ち集学的な治療を行い、治療効果、研究実績の向上と、県内の慢性疼痛患者の満足度に貢献することを目的として令和4年8月1日に設置されました。

### 特徴・特色


慢性の痛みで悩まれている患者さんに対して医師、歯科医師、看護師、公認心理師、理学療法士など多職種が協力して治療とサポートを行います。主な治療法は薬物療法、ブロック注射、心理療法、リハビリテーション療法、手術療法などです。徳島大学には四国で唯一の歯学部があり、医科歯科の連携により慢性疼痛の中でも最も深刻で早急な対策が求められている口腔顔面痛に対しても専門的に対応可能な痛みセンターの運営を行ってまいります。

### 診療体制・連携部署

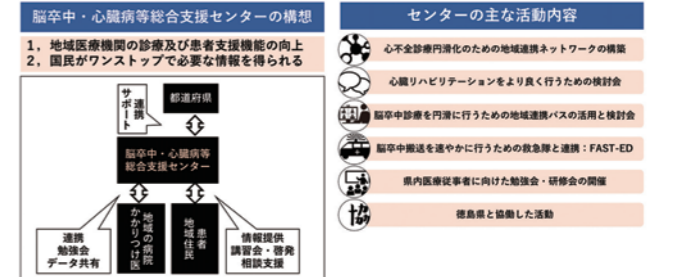
初診の方は医科麻酔科・歯科麻酔科の各ペインクリニック外来で診察対応しています。その後各部門と連携して治療方針を検討します。

また、啓発活動として、関連施設や複合商業施設などでの街頭啓発や出張相談会を行っています。県民に向けた取り組みについては、随時ホームページにて更新しています。

患者支援センター(外来診療棟1F)にて対面のご相談も受け付けています。  
無料相談 TEL:088-618-0171



HP



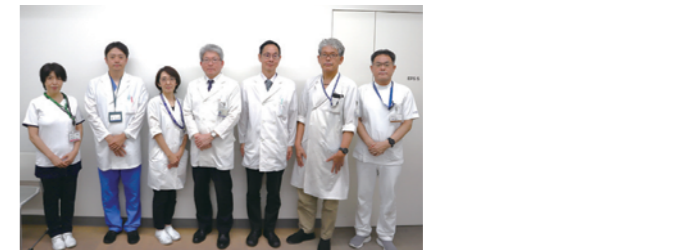
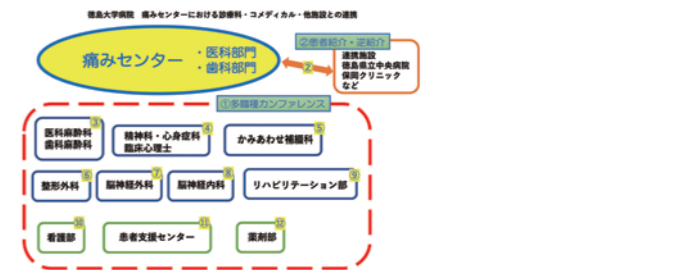
医科部門:精神科神経科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション部など

歯科部門:かみあわせ補綴科、総合歯科診療部など

看護部、薬剤部、患者支援センターなど

### 対象疾患

帯状疱疹、帯状疱疹後神経痛、三叉神経痛、各種頭痛、口腔顔面痛、舌痛症、線維筋痛症、CRPS(反射性交感神経性異常症、カウザルギー)、神経損傷後疼痛、術後疼痛、脊椎に由来する痛み、各種神経痛



## ゲノム医療センター

ゲノム医療センターは、遺伝カウンセリング部門、ゲノム解析部門、データ管理部門の3部門からなり、周辺医療圏におけるゲノム医療の拠点として、遺伝カウンセリングの提供、診断・治療支援、ゲノム解析支援、ゲノムデータ管理、啓発活動や人材育成等を行っています。遺伝医学の専門知識を有する臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーのほか、各科の医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどと連携し、各種相談・お問合せに対応しています。

### 体制

#### 【遺伝カウンセリング部門】

遺伝性疾患に関する不安や悩みを抱えた方に向けた情報提供と支援。当部門は四国における初の遺伝カウンセリング専門部門として平成11年10月に開設され、現在では年間約500件の遺伝カウンセリングを行っています。

**遺伝カウンセリングの例:** 遺伝性腫瘍、染色体異常、習慣流産、不妊症、奇形症候群、先天性代謝異常症、神経・筋疾患、耳鼻科系疾患、骨系統疾患、遺伝性疾患の確定診断・発症前診断・出生前診断など  
**遺伝カウンセリング料(自費診療):** 6,000円(初回1時間まで)、3,000円(再来または院内紹介時30分まで)、1時間を超えた場合は30分ごとに1,800円。

#### 【ゲノム解析部門】

ゲノムデータ解析支援および一部遺伝学的検査の実施。

#### 【データ管理部門】

ゲノムデータ管理体制の整備。

### 対象

- ・遺伝についての情報提供やご相談をご希望される一般の方。
- ・ゲノム医療、ゲノム解析等に関する情報提供を希望される医療関係者の方。

### 特徴・特色

近年、ゲノム医療の普及は著しく、腫瘍や難病、周産期・生殖分野などさまざまな領域で診断や治療に活用されています。当院はがんゲノム医療連携病院、IRUD拠点病院、NIPT拠点病院に指定されており、当センターも院内外の関係各科と連携しゲノム医療の総合的な推進を図っています。特に、遺伝性腫瘍については、院内のがん診療連携センターと協力しながら診療にあたっています。また、当院は臨床遺伝専門医の認定研修施設に指定されています。ゲノム医療の専門的知識を有する人材は今後も不可欠であり、月例カンファレンスやオンライン勉強会を通じ医師やコメディカルの能力向上に力を入れています。



## 技工室

中央診療施設の一部門である技工室は、一般技工業務を行う「中央技工室」、CAD/CAMや3Dプリンターを使用した最新技術の業務を行う「CAD/CAM室」、セラミックスや強化ガラスなどの審美材料を使用した技工業務を行う「ポーセレン室」が外来診療棟4階にあります。また、歯学部学生の臨床実習や卒業研修医が使用する技工室が歯学部棟にあります。歯科技工とは、義歯・顎義歯・冠橋義歯・インプラント・プロテーゼ・エビテーゼ・床矯正装置・小児歯科用装置・スプリント・外科用シーネ・インレー等々、いわゆる技工物全般の製作を行う業務であり、技工室ではこれらの技工物が製作されています。

### 体制

本院は、徳島県や四国地区での地域歯科界の中核病院であり、患者さんの信頼性や期待が大きいことは言うまでもありません。したがって、技工室で製作する技工物はその責務を担っており、他との技術的な差別化を図るために、アカデミズムに則った最新で最高技術の提供を行うことをモットーとした部門です。

### 運営方針

先端技術としては、インプラント治療を始め顎義歯・顎関節症・金属アレルギー・閉塞性睡眠時無呼吸などに対し専門的で高度な技術サポートを上げることができます。近年では、デジタル技術の発展により、歯科分野だけでなく、医科分野とも連携が進んでいます。3Dプリンターを用いた骨・臓器模型やサージカルガイドを通して、手術や処置を支援する装置を提供しています。

### 特徴・特色

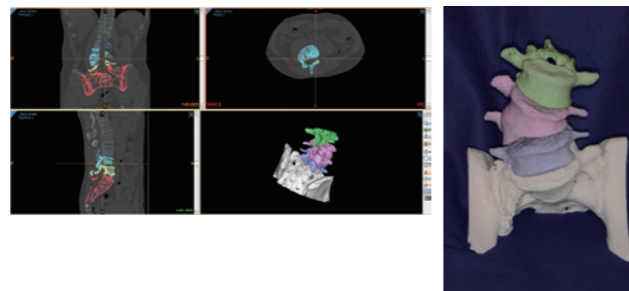
#### ■即日インプラント治療の紹介

人は、可能ならば一生「総入れ歯を体験しないこと」が理想と言えるでしょう。技術の進歩によって、患者さんには選択肢を広げることができるようになりました。治療後は直ちに、食べる・話す・審美性などの機能回復を図り、翌日から日常生活への復帰が可能となります。



#### ■手術支援の紹介

CT・MRIスキャンデータから3Dプリンターを使用して患者さんの骨・臓器模型を製作し、手術のシミュレーションを支援します。



## 歯科衛生室

歯科衛生室では、患者さんがご自身の歯をより長持ちさせ、笑顔で楽しい生活を送ることができるように、口腔健康管理を行っています。

### 診療体制

当診療室は歯科衛生士が患者さんの担当となり、歯科予防処置、歯科保健指導などを歯科医師の指示のもとに行います(担当は、予診の歯科医師が決めさせていただきます)。診療日は火～木曜日ですが、原則予約制となっています。

### 治療方針

#### ①口腔健康管理

痛みが生じてから歯医者に行くのではなく、定期的にブラッシング指導をはじめ専門的口腔清掃やフッ化物歯面塗布などの歯科予防処置を受けていただくことによって、歯が強くなり、口腔内をより清潔に保つことができます。その結果、歯を失う原因であるう蝕(虫歯)や歯周病の発症・進行が予防でき、歯をより長持ちさせることができます。また、口臭の予防にもつながります。

#### ②インプラント周囲炎の予防

歯が抜けた部分の歯茎に人工の歯を植えるインプラント治療を受けた患者様を対象に、定期的に専門的口腔清掃を受けていただくことによって、インプラント周囲炎によるインプラントの脱落を予防します。

#### ③妊産婦の歯科保健指導

妊娠期の女性では、ホルモン量の変化に加え、環境や心理的な変化などから、口腔内の状態が悪くなることがあります。このような場合

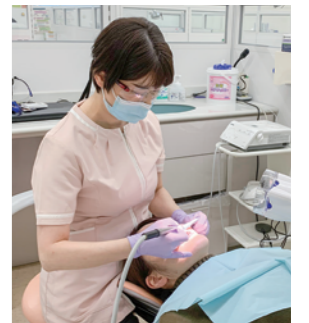
に歯周病は進行しやすくなります。そして、これが低体重児早産に関連するともいわれています。当室では、生まれてくるお子さんの口腔疾患の予防のためにも、妊産婦の方に両親学級での歯科保健指導や診療室での歯科予防処置を受けていただいております。

### 特徴・特色

当室では診療を受けた患者さんにお口の健康を実感していただけるよう、スタッフ一同日々の診療を行っています。また、歯科医師、歯科衛生士を目指す学生の臨床実習も積極的に行っています。ご協力、よろしく願いたします。



両親学級での歯科保健指導(両親学級)



歯科衛生士による専門的口腔清掃(歯科予防処置)

## 子と親のこころ診療・学習障害センター

心の問題や学習障害(読字障害など)を抱える子どもさんに、カウンセリング、心理療法、学習支援、薬物療法、などを行っています。子どもを支える家族の皆さんも含めて、相談に応じています。

### 診療体制

1)診療は完全予約制の保険診療です。

新来患者様の予約は小児科外来で受け付けます。

予約受け付け時間は、毎日15:00-17:00です。

(再来患者様については、診療終了時に担当医師が次回の要望日時を予約致します。)

(Tel:088 - 633 - 7132、Fax:088 - 633 - 7481)。

2)対象年齢は、新来患者様の場合、中学生までを対象としています。

3)対象疾患

①学習障害(発達性読み書き障害など):診断、読み書き能力検査、学習支援。視覚認知外来(眼科)との連携も行っています。

②心の問題を有する子ども:心身症(起立性調節障害、頭痛、チック、頻尿、夜尿症、過敏性腸症候群、過呼吸症候群、拒食症など)、不登校、気分障害、統合失調症など

③自閉スペクトラム症、注意欠如多動症など

④虐待による心の問題:PTSD(心的外傷後ストレス障害)、愛着障害など

⑤外来・入院治療中で心理支援の必要な子ども

### 診療予定曜日及び担当医師

曜日	時間	担当医師
月曜日	(終日)	森 達夫(小児科医師)
火曜日	(午前)	精神科神経科医師 (精神科神経科での受付が必要)
	(終日)	森 健治(小児科医師)
木曜日	(終日)	森 達夫(小児科医師)
金曜日	(終日)	森 健治(小児科医師)
	(13:45-14:30)	森 健治(小児科医師)学習障害新患



## 褥瘡対策室

褥瘡対策室は平成19年に院内の褥瘡発生の予測ならびに早期発見および重症化の予防を目的とし、設置されました。

### 体制

褥瘡対策室員は形成外科医、褥瘡管理者、病院情報センター技術員、歯科医師、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士、管理栄養士、看護師、事務の多職種から構成されています。褥瘡対策チームは褥瘡対策室員のメンバーと褥瘡リンクナースから構成されています。

### 運営方針

定期的に室員が集まり、褥瘡対策運営委員会を開催しています。室員で院内の褥瘡対策についての問題点、対策についての協議、検討を行っています。褥瘡対策チームメンバーは週1回、褥瘡のある患者に対して褥瘡回診を行っています。多職種が連携しそれぞれの専門性を生かしたアセスメントやケアを提供し、褥瘡の早期発見や悪化予防に努めています。褥瘡管理者は褥瘡のリスクのある患者に対して定期的なラウンドを行い、適切なケアの提案や、体圧分散寝具の導入や管理や職種との連携などケアコーディネートを行っています。

### 特徴・特色

医療従事者向けに褥瘡ケアに対する教育を行っています。



## 人工透析室

徳島大学病院内の血液浄化療法の適応となる全ての患者さん(集中治療室適応は除く)の診療にあたっております。

### 診療体制

腎臓内科・泌尿器科医師、臨床工学技士、看護師でチームをつくり、透析患者さんの内科的管理や術後管理からシャント形成術などの外科的手技まで行っております。

### 診療方針

慢性腎不全患者さんの血液透析導入管理や維持透析患者さんの合併症治療はもちろんのこと、急性腎不全患者さんの急性血液浄化療法、さらには腎移植自己免疫疾患や難治性ネフローゼ患者さんの血漿交換療法・LDL吸着療法など診療科を超えた幅広い患者さんの診療にあたっております。各診療科から血液透析の依頼があった場合は患者各診療科の先生方とも情報交換を行いながら、円滑かつ安全に患者さんの治療が行えるように努めております。徳島県の基幹病院として県内の各医療機関や透析施設とも密に連携をとりながら、退院後も患者さんが安心して透析療法を受けていただけるよう取り組んでおります。



### 特徴・特色

現在人工透析室のベッド数は8床と増床し、血液浄化療法を必要とされる患者さんを、診療科を超えて受け入れております。(2023年実績:血液透析件数:のべ2,226件、血液透析導入患者数:39人、血液浄化療法(血液透析を除く)件数:35件)

## 排尿ケア管理室

排尿ケア管理室は、入院中に尿道カテーテルを留置した患者さんを対象に、可能な限り早期にカテーテルを抜去し、適切な排尿ケアを行って、尿路感染症の予防や患者さんの排尿が自立できるよう支援しています。排尿自立を得ることで、患者さんのQOLは大きく向上します。当院では医師、看護師、理学/作業療法士らからなる「排尿ケアチーム」が排尿ケアの質向上を目指して活動しています。入院中から退院後も排尿自立が得られるよう取り組んでいます。

### メンバー紹介と役割

- 泌尿器科医師：下部尿路機能の評価、薬物療法、主治医や転院先との連携など
- 看護師(脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、下部尿路機能障害に関する所定の研修修了者)：排尿日誌や残尿測定の結果を含めた患者情報の収集、排尿アセスメント、自己導尿指導、排泄用具の選択などのアドバイスなど
- 理学療法士・作業療法士：ADL評価、リハビリ介入の検討、排尿姿勢やトイレ動作などのリハビリ計画、骨盤底筋トレーニングの指導など
- 医療ソーシャルワーカー：排尿ケアが必要な患者の退院・転院調整、転院先との連携
- 事務職員：会議開催、書類作成、地域連携など

### 活動内容

尿道カテーテル抜去後に排尿困難、頻尿、尿失禁などの下部尿路症状

を認めた患者、あるいはこれらの症状の発現が予測される患者を対象としています。

病棟看護師が対象患者を選出し、排尿日誌の記載や残尿測定を行ったうえで、排尿ケア管理室へ介入を依頼します。

毎週木曜日午後に排尿ケア回診を実施し、管理室メンバーと病棟看護師がともに診察を行います。その後、多職種でアセスメントを行い、包括的な排尿ケア計画を立案します。病棟では本計画に基づいたケアを実践し、排尿自立の達成を目指します。

排尿ケアは、尿路感染の予防、患者の早期回復、さらには入院期間の短縮につながります。排泄の問題は人間の尊厳に関わる重要な課題です。患者のQOL向上と尿路感染の減少を目標に、日々活動しています。



## 看護部

### 看護の理念

私たちは、常に生命、人格、権利を尊重することを看護の判断、行動の基本とするとともに、社会環境の変化、医療の進歩に対応した安全でより質の高いケアを提供します。

### 看護の特色

看護部は、豊かな人間性と高い倫理観を持った「愛と知と技のバランスのとれた看護職の養成」を目指し、生涯教育体系を構築しながら、看護師の育成に力を注いでいます。患者の皆様とご家族を看護サービスの中心に置き、「あたたかさ」「信頼」「気配り」をキーワードとして、心のこもったあたたかい親切なケア、個別性のある最善のケアを提供するために、日々継続的に改善を図っていきたくと考えております。

看護方式は、PNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)を全病棟で導入しており、PNSにより、ペアとなる看護師間や病棟全体のコミュニケーション技術を高め、業務を補完しあう体制を整えることで、WLB(仕事と生活の調和)の向上も目指しています。そのために、個々の看護師の「与える心」「自立・自助の心」「複眼の心」というパートナーシップ・マインドの醸成を大切にしています。また、一人一人の看護師の自己実現に向けた支援を行い、個々の看護職が生涯を通じて看護の質を高めつつ、能力を最大限に発揮することができる職場づくりを目指しています。

### 教育方針

病院と看護の理念に基づき、豊かな感性、高い倫理観、真の自律性を身に付け、幅広い理論を実践に統合できる看護職を育成する。

看護体制……7:1看護

看護提供方式……PNS(Partnership Nursing System /パートナーシップ・ナーシング・システム)

認定看護管理者……4名

専門看護師……8名[がん看護(4)、急性・重症患者看護(1)、慢性疾患看護(2)、精神看護(1)]

認定看護師A課程……25名[クリティカル・ケア(1)、感染管理(3)、がん化学療養看護(1)、がん放射線療法看護(1)、乳がん看護(1)、集中ケア(2)、脳卒中リハビリテーション看護(3)、摂食・嚥下障害看護(2)、手術看護(3)、新生児集中ケア(1)、皮膚・排泄ケア看護(2)、糖尿病看護(4)、認知症看護(1)]

認定看護師B課程……6名[クリティカルケア(1)、感染管理(1)、がん薬物療法看護(1)、認知症看護(1)、在宅ケア(1)、手術看護(1)]

特定行為研修修了者……21名[認定看護師(10)、ゼネラリスト(11)]

### ◎力を入れて取り組んでいること

- 生涯教育の充実
  - 看護職キャリアシステムの構築
  - 臨床看護実践能力の向上
- チーム医療の推進
- 看護職と看護補助者の協働
- 災害対策の環境整備
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- ISO9001継続活動と目標管理



新人看護師研修 静脈注射研修

## 薬剤部

薬剤部では、生涯にわたり高い知識と技術の水準を維持するよう積極的に研鑽すること、医療の担い手として常に同僚及び他の医療関係者等と協力し、医療及び保健、福祉の向上に努め、患者さんの利益のために職能の最善を尽くすことを理念とし、業務の改善と拡大に努めています。

### 診療体制

薬剤部では、調剤業務(入院、外来、注射)・医薬品管理業務・製剤業務・医薬品情報収集・抗がん剤調製・高カロリー輸液調製・服薬指導など種々の薬剤業務を通じて患者さんの安全確保、リスクマネジメントの向上に努めています。

### 運営方針・得意分野

薬剤師の任務は、「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する。」と薬剤師法で規定されています。薬剤部では、特に重大な医療事故の危険性が高い抗がん剤について、全ての外来・入院患者さんを対象に、抗がん剤のレジメンチェック、混合調製を専任の薬剤師が行い、がん化学療法施行に伴う医療事故防止、リスクマネジメント向上に努めています。また、集学治療病棟には専任薬剤師を配置し、ICU・HCU等で使用する医薬品の管理、TPNの調製及び食物血中濃度の解析を行っています。安全管理対策・感染対策・NST・褥創対策・緩和ケア・周術期管理・臨床研究推進部などのチーム医療にも薬剤部員が参画し、活動を行っています。

[薬剤部]tel.088-633-7213 [薬剤部]fax.088-633-7472  
[調剤室]tel.088-633-7216

PET-CT検査においては、薬剤師が院内で合成される放射性医薬品の適合性試験を毎回行うなど診療業務の一翼を担っています。更に平成25年11月からは、全病棟に専任の薬剤師を配置し、従来から実施して来た薬剤管理指導業務に加え、持参薬調査をはじめとした病棟薬剤業務を開始しました。また、薬学部6年制移行に伴い、薬剤部では平成22年度から徳島大学、徳島文理大学などの薬学部学生に対して2.5ヶ月間の長期実務実習を実施しています。



tel. 088-634-6450 fax.088-634-6450

## 医療技術部

医療技術職員を一元的に組織し、効率的かつ適切な配置を行うため、平成15年に「診療支援部」が創設されました。令和元年度より診療支援部は、より皆様の医療サービス向上に寄与するため、「医療技術部」に生まれ変わりました。

### 組織体制

医療技術部の組織体制は、医療技術部長、副部長のもとに、臨床検査技術部門、診療放射線技術部門、リハビリテーション部門、臨床工学技術部門、歯科医療技術部門の5つの部門で構成され、各部門長とそれぞれに関係する技術職員がいます。所属する職員は臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、視能訓練士、言語聴覚士、歯科技工士、歯科衛生士、看護師(3名)であり、多種の職員が携わっています。また、技術職員の配属先は、検査部、輸血・細胞治療部、病理部、超音波センター、産科婦人科、放射線部、臨床工学部、手術部、救急集中治

療部、リハビリテーション部、精神科神経科、耳鼻咽喉科、視能訓練部、技工室、歯科衛生室、歯科診療室など多岐にわたっています。

### 運営方針

部内会議を通じて、部門間で情報の共有化や問題点を見つけ円滑な運営を心がけています。またそれぞれの分野で最大の技術を発揮できるように、経験年数に応じて目標を立てスキルアップを図っています。さらに研修制度などを通じて豊かな人間性を兼ね備えた技術職員の育成を目指しています。

また、高校生を対象とした職場体験を行い、これからの世代に私たち医療技術者の認知度を高めてもらうようにしています。

### 特徴・特色

医療技術部は専門的技術を持った医療技術者で構成されています。長年培ってきた専門技術と知識を駆使して診療をサポートすることにより医療の質の向上に寄与していきたいと思ひます。



## 栄養部

栄養部は、「食事は医療の一環である」という理念のもと、患者さんの治療と回復を栄養面から支えています。栄養管理、患者食管理、栄養食事指導の3つの業務を柱とし、医師・看護師・薬剤師をはじめとする多職種と連携して、安全で質の高い栄養ケアを提供しています。また大学病院として、人材育成や栄養学に関する研究活動も行っています。これらの活動を通じて、疾患の治療だけでなく地域の健康づくりや予防医療に貢献できるよう努めています。

### 運営方針

#### 栄養管理業務

医療の一翼を担う部門として、医師や他の医療スタッフと協力し、患者さんの早期回復につながるよう栄養面から支援しています。管理栄養士が栄養スクリーニングを行って栄養状態を把握し、入院診療計画書に基づいて栄養管理計画を作成します。病状に応じて内容を見直しながら適切な栄養管理を進め、再評価を行っています。また、栄養不良のリスクが高い患者さんには、栄養サポートチーム(NST)が多職種で連携し、病状に応じた栄養療法を検討しながら改善に向けて支援を行います。

#### 患者食管理業務

健康保険法の「入院時食事療養(Ⅰ)」に基づき、「安全で安心した美味しいお食事」をお届けしています。食事療法の参考となるよう、糖尿病食や腎臓病食、嚥下食など、疾病や病状に応じた治療食を提供しています。また、食事の質の向上と患者サービスの改善に努めるとともに、治療の一環として患者さん一人ひとりの病状に応じた適切な

[栄養部]tel & fax.088-633-9202  
[厨房事務室]tel & fax.088-633-9203

食事提供が行えるよう努めています。

#### 栄養食事指導業務

入院・外来を対象に、個別の栄養食事指導や集団での栄養教室を開催し、病態に応じた食事療法や生活習慣の見直しの重要性をお伝えしています。継続的な介入により治療と療養生活の両面を支援します。管理栄養士は、糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、NST専門療法士等の資格を取得し、日々、研鑽に努めています。

#### 教育・研究および社会貢献

教育:医学部医科栄養学科をはじめ、県内の管理栄養士養成校の学生に臨床栄養学実習の場を提供しています。また医療系学生の臨床実習にも協力し、多職種が栄養の視点を学べる教育環境の整備に取り組んでいます。

研究:臨床栄養に関する研究活動を行い、その成果を関連学会で発表し栄養管理の質の向上に努めています。

社会貢献:徳島県の中核病院の栄養部として、県民の糖尿病や肝疾患、がん対策などに取り組み、疾患の治療・予防に貢献しています。



NSTカンファレンス

栄養指導

患者食(常食)

## 事務部

### 総務課

総務課には、総務係、広報・企画係、労務係、卒後臨床研修係、専門研修係があります。総務課では、各種会議、規則の制定・改廃、情報公開、個人情報保護、医療法関係の諸手続、放射線障害防止法関係の諸手続、災害対策、広報活動、ホームページの管理、ホスピタル・アイデンティティ、中期目標・中期計画、外部評価の推進及び維持、防火・防災・防犯、職員の服務、勤務時間、健康管理、福祉及びメンタルヘルス、労働安全衛生、卒後臨床研修、専門医研修、キャリア形成支援、受託実習生等の受入れ、診療許可等に関する事務を担当しています。

### 経営企画課

経営企画課には、経営企画係、予算管理係及び医療情報システム管理係があります。経営企画課では、予算・経営戦略委員会、経営の合理化・効率化の推進、病院の経営改善、予算及び決算や医療情報システムの管理等の企画立案等に関する事務を担当しています。

### 経理調達課

経理調達課には、経理・管理係、調達係、臨床研究支援係及び病院検収センターがあります。経理調達課では、寄附金、受託事業の受入、謝金及び旅費支払手続、資産管理、物品及び役務の契約、物品の納品等に係る検収、治験の支援及び契約、臨床研究の支援及び審査委員会の運営等に関する事務を担当しています。

### 医事課

医事課には、医事係、診療報酬請求係、収入係、診療録管理係、医療支援係、患者支援係、専門医療係、医療安全管理係があります。医事課では、医事関係規則、施設基準、保険医登録、諸料金規則、診療契約、先

進医療、臓器移植、診療報酬請求、社会保険委員会、診療料金収納、診療録の管理・監査等に関する事務、中央診療施設の連絡協議会・医療支援センター(メディカルクラーク)・患者支援センター・がん診療連携センター・脳卒中・心臓病等総合支援センター・ゲノム医療センター・肝疾患相談室・てんかんセンター・高次脳機能障害支援センター等に関する事務、地域医療機関との連携協力・苦情を含む医療福祉相談・リスクマネジメント・感染対策・医療訴訟等を担当しています。

### 施設企画管理連携室

施設企画管理連携室では、病院施設の将来構想、再開発整備等の企画立案や施設環境の維持・管理に関する事務を担当しています。



総合案内

受付



入院サポート

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
検査部	部長	教授	松岡 賢市	血液内科学・造血幹細胞移植
	副部長	特任助教	上野 理絵	循環器全般
		講師	田蒔 昌憲	腎疾患全般、腹膜透析、シャントの診療
手術部		助教	川端 豊	循環器全般
	部長	教授	滝沢 宏光	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、甲状腺疾患
	副部長	講師	川西 良典	麻酔学
		助教	笠井 飛鳥	麻酔学
放射線部		助教	中路 佳美	麻酔学
	部長	教授	原田 雅史	放射線診断・核医学一般
	副部長	講師	音見 暢一	放射線診断・核医学
	副部長	講師	前田 直樹	歯科放射線学
救急集中治療部		助教	高岡 友紀子	放射線診断
	部長	教授	大藤 純	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	副部長	特任教授	板垣 大雅	集中治療医学、救急医学、麻酔学
		講師	石原 学	集中治療医学、救急医学、脳神経外科
		助教	佐藤 裕紀	集中治療医学、救急医学
		助教	板東 夏生	集中治療医学、救急医学
		助教	西條 早希	集中治療医学、救急医学
リハビリテーション部		特任助教	三好 晃太	集中治療医学、救急医学
	部長	教授	松浦 哲也	リハビリテーション医学、スポーツ医学
	副部長	特任講師	佐藤 紀	リハビリテーション医学、骨粗鬆症
		特任助教	生島 健太	リハビリテーション医学、形成外科・美容外科
視能訓練部	部長	教授	三田村 佳典	網膜硝子体疾患、糖尿病、加齢黄斑変性
	副部長	准教授	柳井 亮二	ぶどう膜炎、網膜硝子体疾患
		助教	南 佳佑	眼科一般、網膜硝子体疾患、角膜
輸血・細胞治療部	部長	病院教授	三木 浩和	血液内科学
	副部長	助教	曾我部 公子	血液内科学
病理部	部長	教授	上原 久典	前立腺病理
	副部長	教授	坂東 良美	乳腺病理
	副部長	教授	常松 貴明	口腔病理学
		特任助教	住田 智志	病理学
安全管理部		特任助教	西條 康代	病理学
	部長	教授	池本 哲也	肝胆膵外科、再生医療、医療安全
		ゼネラルリスクマネージャー		
	副部長	特任講師	寺奥 大貴	肝胆膵外科、消化器外科
		ゼネラルリスクマネージャー		
感染制御部	副部長	助教	北村 尚正	小児歯科、障がい者歯科
		ゼネラルリスクマネージャー		
	副部長	ゼネラルリスクマネージャー	大坂 朱美	看護師長
	副部長	ゼネラルリスクマネージャー	溝口 徹也	薬剤師
総合歯科診療部	部長	教授	松岡 賢市	血液内科学・造血幹細胞移植
	副部長	特任教授	中村 信元	血液内科、実践地域診療・医科学分野
	副部長	特任助教	秋本 雄祐	救急集中治療医学分野
	副部長	特任助教	島田 大嗣	結核・抗酸菌症指導医、抗菌化学療法認定医、呼吸器専門医、認定内科医
	副部長	助教	可児 耕一	口腔内科学
	副部長	看護師長	後藤 さおり	看護師
高次歯科診療部	副部長	薬剤師	泉 侑希	薬剤師
	副部長	副臨床検査技師長	佐藤 雅美	臨床検査技師
	部長	教授	北村 直也	歯科口腔外科、顎関節症、インプラント
	副部長	講師	岡 謙次	補綴治療、高齢者歯科
		講師	安陪 晋	補綴治療、顎関節症、インプラント、睡眠歯科
		助教	美原 智恵	保存治療・歯周治療
		助教	大川 敏永	補綴治療、保存修復治療
		助教	岸本 卓大	補綴治療、高齢者歯科
	部長	教授	湯本 浩通	保存治療、歯周治療
	歯科用金属アレルギー部門長	教授	細木 眞紀	歯科補綴、歯科用金属アレルギー
周産母子センター	口鼻部門長	教授	日野出 大輔	口臭症、口腔健康管理
	口腔顔面痛・顎関節症部門長	講師	安陪 晋	口腔顔面痛、顎関節症、歯科補綴、歯科インプラント、睡眠歯科
		教授	川人 伸次	口腔顎顔面痛
	障害者歯科部門長	講師	中川 弘	障害者歯科、小児歯科
	副部長・歯周病部門長	助教	二宮 雅美	歯周治療、歯周組織再生療法、歯周病細菌PCR検査、自家歯牙移植
	小児摂食・嚥下機能発達部門長	助教	赤澤 友基	小児歯科、障害者歯科
	部長	教授	加地 剛	生殖、更年期医療学
	副部長	講師(病院教授)	石橋 広樹	新生児外科、小児外科全般、鏡視下手術

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
周産母子センター	副部長	講師	中川 竜二	新生児学、小児医学
	副部長	准教授	山本 由理	生殖医学
		講師	吉田 あつ子	周産期医学
		助教	谷 彰浩	眼科、網膜硝子体疾患
		助教	青木 秀憲	婦人科腫瘍学
		助教	森 大樹	消化器外科、鏡視下手術
		特任助教	竹内 竣亮	新生児学、小児医学
		特任助教	仲須 千春	消化器外科、鏡視下手術
		特任助教	野口 拓樹	生殖医学
	部長	教授	若田 好史	医療情報学、疫学、医学統計学、小児科学
病院情報センター	副部長	講師	安陪 晋	歯科補綴、顎関節症、インプラント、睡眠歯科
	副部長	准教授	川中 崇	放射線治療
	副部長	助教	田木 真和	医療情報学、情報セキュリティ、医療経営
		特任助教	単 暁	AI
臨床研究推進部	部長	教授	石澤 啓介	臨床薬理学、薬理学
	副部長	教授	湯本 浩通	歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周病
	副部長	教授	和泉 唯信	脳神経内科学
	副部長	教授	古川 順也	泌尿器科学
		特任講師	相澤 風花	医療薬学、臨床薬理学、薬理学
		特任助教	新村 貴博	臨床薬理学
総合診療部		特任助教	中尾 遼平	脳神経内科学
	部長・総務医長・外来医長・病棟医長	特任教授	八木 秀介	総合診療医学
患者支援センター	センター長	教授	原田 雅史	放射線診断・核医学一般
	副センター長	特任教授	八木 秀介	総合診療医学
	副センター長	助教	田木 真和	医療情報学
	副センター長	病院長特別補佐	久米 博子	患者支援担当
移植・免疫細胞療法センター(TCU)	センター長	教授	松岡 賢市	血液内科学、造血幹細胞移植
	副センター長	講師	藤井 志朗	血液内科学、造血幹細胞移植
	副センター長	講師	岡村 和美	小児血液・腫瘍病学
		講師、病院教授	三木 浩和	血液内科学、輸血学
		特任教授	中村 信元	血液内科学、感染症学
		准教授	原田 武志	血液内科学
		講師	大浦 雅博	血液内科学、造血幹細胞移植
		助教	曾我部 公子	血液内科学
		特任助教	住谷 龍平	血液内科学
		特任助教	前田 悠作	血液内科学
内視鏡センター		特任助教	堀 太貴	血液内科学
	センター長	教授	滝沢 宏光	呼吸器外科学、呼吸器内視鏡
	副センター長	講師	岡本 耕一	消化器病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
		特任助教	三宅 孝典	消化器病学、消化器内視鏡学、胆膵疾患
超音波センター	センター長	特任教授	山田 博胤	循環器、心臓超音波、心不全、肺高血圧症、腫瘍循環器
	副センター長	助教	大柳 祐一郎	循環器一般、心血管イメージング、腫瘍循環器
	副センター長	副臨床検査技師長	西尾 進	各種超音波検査
	センター長	教授	和泉 唯信	脳神経内科全般
高次脳センター	副センター長	教授	原田 雅史	放射線診断・核医学一般
	副センター長	講師	藤田 浩司	脳神経内科全般
	センター長	教授	大藤 純	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	副センター長(医師)	特任講師	門田 宗之	循環器、心不全、カテーテル治療
卒後臨床研修センター	副センター長(歯科)	教授	北村 直也	歯科口腔外科学
		特任助教	行重 佐和香	乳腺外科
		特任助教	蔭山 彩人	脳神経外科一般、脳腫瘍
		特任助教	水口 誠人	形成外科一般、頭頸部再建、微小血管外科、皮膚悪性腫瘍、美容
	センター長	教授	滝沢 宏光	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、甲状腺疾患
	副センター長	教授	古川 順也	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍、ロボット手術
医療支援センター	副センター長	教授	湯本 浩通	保存医療、歯周治療
	センター長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
脳卒中センター	副センター長	教授	大藤 純	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	副センター長	特任准教授	島田 健司	脳血管障害、脳卒中の外科、脳血管内治療
	副センター長	特任講師	山本 伸昭	脳神経内科学、脳卒中、脳血管内治療
	センター長	教授	原田 雅史	放射線診断・核医学一般
高度画像診断センター	副センター長	特任教授	新家 崇義	放射線診断・核医学一般
	センター長	准教授(病院教授)	青田 桂子	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
口腔管理センター	副センター長	助教	浪花 耕平	口腔内科、口腔外科、周術期口腔機能管理
		特任助教	西田 真理	周術期口腔機能管理、口腔内科、口腔外科
がん診療連携センター	センター長	講師	荻野 広和	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん
	副センター長	教授	生島 仁史	放射線治療
	副センター長	准教授	宮本 弘志	消化器病学、胆膵疾患、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学
	がん診療企画部門長	教授	北村 嘉章	鼻科学、アレルギー、頭頸部腫瘍

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
がん診療連携センター	がん診療企画副部門長	准教授	村尾 和俊	膠原病、皮膚病、熱傷
	がん診療企画副部門長	特任教授	西 正暁	消化管外科、鏡視下手術、ロボット手術
	がん化学療法部門長	教授	滝沢 宏光	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、甲状腺疾患
	がん化学療法副部門長・がん登録副部門長	特任助教	吉本 貴則	消化器病学
	がん化学療法副部門長	がん専門薬剤師	柴田 高洋	がん化学療法
	がん化学療法副部門長	外来化学療法室看護師長	三木 こずえ	
	がん化学療法副部門長	西病棟6階看護師長	大西 美知子	
	がん診療連携・相談部門長	教授	古川 順也	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍、ロボット手術
	がん診療連携・相談副部門長	講師	三崎 万理子	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、肺移植、再生医療
	がん診療連携・相談副部門長	看護師長	山口 美代子	乳がん看護認定看護師
がん研究・研修部門長	講師	荻野 広和	呼吸器疾患およびリウマチ・膠原病全般、特に肺がん	
がん研究・研修副部門長	副看護部長	川原 みゆき		
がん研究・研修副部門長	医療技術部長	中尾 隆之	臨床化学、臨床検査学	
がん登録部門長	教授	森岡 久尚	公衆衛生学分野	
がん登録副部門長	講師	中島 公平	脳腫瘍	
がん緩和・こころのケア部門長	教授	沼田 周助	精神疾患全般	
がん緩和・こころのケア副部門長	教授	川人 伸次	歯科麻酔科学、ペインクリニック、緩和医療、集中治療	
がん緩和・こころのケア副部門長	特任助教	乾 友浩	乳腺外科、一般外科、緩和ケア	
がん緩和・こころのケア副部門長	特任助教	松田 宙也	精神疾患、心身症	
がん緩和・こころのケア副部門長	看護師長	岡本 恵	がん看護	
がんゲノム医療部門長	特任教授	佐藤 康史	消化器病学、肝臓病学、消化器内視鏡学、臨床腫瘍学	
がんゲノム医療副部門長	助教	岡田 泰行	消化器病学、消化器内視鏡、臨床腫瘍学	
がんゲノム医療副部門長	准教授	布川 朋也	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍	
物流センター	センター長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
	副センター長	病院長補佐	近藤 武	
	副センター長	講師	山口 浩司	循環器、虚血性心疾患、心臓カテーテル治療
臨床工学部	部長	教授	大藤 純	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	副部長	教授	田中 克哉	麻酔
	副部長	技師長	近田 優介	臨床工学
	副部長	技師長	近田 優介	臨床工学
アンチエイジング医療センター	センター長	教授	遠藤 逸朗	内分泌・代謝学全般、糖尿病
	副センター長	助教	原 倫世	内分泌・代謝学全般、糖尿病
パーキンソン病・ジストニア治療研究センター	センター長	教授	和泉 唯信	脳神経内科全般、神経変性疾患、パーキンソン病、ジストニア
	副センター長	特任教授	森垣 龍馬	脳神経外科全般、パーキンソン病、ジストニア
	副センター長	講師	藤田 浩司	脳神経内科全般、神経変性疾患、パーキンソン病、ジストニア
	副センター長	特任講師	宮本 亮介	脳神経内科全般、末梢神経疾患、不随意運動
	副センター長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
高次脳機能障害支援センター	センター長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
	副センター長	教授	和泉 唯信	脳神経内科学、認知症、神経変性疾患、筋萎縮性側索硬化症
	副センター長	准教授	中瀧 理仁	精神疾患全般、気分障害、心身症、てんかん
	副センター長	教授	後藤 崇晴	社会福祉、老年医学、認知機能
		講師	原 慶次郎	脳腫瘍、脳神経外傷
		講師	藤田 浩司	脳神経内科学、認知症、神経感染症学
		特任助教	松田 拓	リハビリテーション、機能的脳神経外科、脳卒中
		特任助教	松田 拓	リハビリテーション、機能的脳神経外科、脳卒中
キャリア形成支援センター	センター長	教授	脇野 修	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副センター長・歯科医師部門長	教授	北村 直也	歯科口腔外科、顎関節症、インプラント
	副センター長	看護部長	上田 美香	
	医師部門長	講師	大浦 雅博	血液内科
	看護職部門長	副看護部長	白石 美恵	看護部教育担当
	医療専門職部門長	医療技術部長	中尾 隆之	
糖尿病対策センター	センター長	教授	遠藤 逸朗	内分泌・代謝学全般、糖尿病、骨粗鬆症
		特任助教	秦 明子	管理栄養士、糖尿病
		特任助教	秦 明子	管理栄養士、糖尿病

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
徳島県地域医療支援センター	センター長	病院長	西良 浩一	脊椎・脊髄外科、スポーツ医学
	副センター長	教授	脇野 修	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副センター長	教授	滝沢 宏光	肺癌・縦隔・胸壁疾患、気管支鏡診断・治療、甲状腺疾患
	副センター長	徳島県保健福祉部 医務技監	鎌村 好孝	
	センター長補佐	阿南医療センター 緩和ケア内科	寺嶋 吉保	
	センター長補佐	徳島県立中央病院 救急科副部長 救命救急センター センター長	川下 陽一郎	消化器・一般外科
	センター長補佐	特任教授	八木 秀介	地域・家庭医療学、循環器
	センター長補佐	講師	大浦 雅博	血液内科
		特任助教	前田 悠作	血液内科
		特任助教	榎本 紀哉	脳神経外科
口腔インプラントセンター	センター長	准教授(病院教授)	友竹 偉則	歯科補綴、インプラント
	副センター長	教授	栗尾 奈愛	口腔外科、インプラント
		助教	島田 亮	歯科補綴、インプラント
		教授	古川 順也	泌尿器科疾患全般、泌尿器科悪性腫瘍、ロボット手術
クリニカルアナトミー教育・研究センター	センター長	教授	富田 江一	神経解剖学、神経生物学、神経発生学
	副センター長	特任准教授	森本 雅俊	整形外科疾患全般、脊椎・脊髄外科
てんかんセンター	センター長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
	副センター長	准教授	多田 恵曜	てんかん、脳血管障害
	副センター長	准教授	中瀧 理仁	精神医学
	副センター長	准教授	森 達夫	小児神経学
国際医療センター	センター長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
	副センター長	教授	松岡 賢市	血液内科学、造血幹細胞移植
クリニカルバスセンター	センター長	教授	岩佐 武	生殖内分泌、産科婦人科学
	副センター長	助教	青木 秀憲	周産母子センター
総合スポーツ医学センター	センター長	教授	松浦 哲也	成長期のスポーツ障害・外傷
	副センター長	助教	岩瀬 稯志	スポーツ医学
口唇口蓋裂センター	センター長	教授	橋本 一郎	形成外科全般
	副センター長	教授	田中 栄二	歯科矯正、先天異常、顎変形症、顎関節症
周術期管理センター	センター長	教授	田中 克哉	麻酔
	副センター長	教授	川人 伸次	歯科麻酔科
	副センター長	副看護部長	原田 路可	
	副センター長	看護師長	藤本 理恵子	
看護師特定行為研修センター	センター長	教授	田中 克哉	麻酔科学
	副センター長	教授	大藤 純	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	副センター長	副看護部長	白石 美恵	
総合アレルギーセンター	センター長	教授	北村 嘉章	鼻アレルギー、鼻科学
	副センター長	准教授	佐藤 正大	アレルギー性呼吸器疾患、膠原病
再生医療細胞調整センター	センター長	教授	曾山 明彦	肝胆脾外科、肝移植
	副センター長	講師	齋藤 裕	肝胆脾外科、肝移植
総合腎臓病センター	センター長	教授	脇野 修	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副センター長	講師	田蒔 昌憲	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副センター長	講師	山口 邦久	泌尿器科疾患全般、腎移植
	副センター長	助教	山口 純代	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副センター長	特任助教	湊 将典	腎臓内科全般、腎不全、透析
		教授	漆原 真樹	小児腎臓病学
下肢救済・創傷治療センター		教授	大藤 純	集中治療医学、救急医学、麻酔学
	センター長	教授	橋本 一郎	形成外科全般、乳房再建、顔面神経麻痺
	副センター長	教授	秦 広樹	心臓弁膜症/冠動脈バイパス手術・重症心不全に対する再生療法・外科治療・補助人工心臓
	副センター長	講師	山口 浩司	循環器、虚血性心疾患、心臓カテーテル治療
	副センター長	助教	山下 雄太郎	下肢救済、リンパ浮腫、マイクロナージャリー
		助教	山口 純代	腎臓内科全般、腎不全、透析
		助教	松本 遼太	人心疾患(冠動脈・弁膜症)、大動脈手術(血管内治療含む)、心臓血管外科一般
		准教授	西庄 俊彦	骨・軟部腫瘍外科
		助教	山口 佑樹	内分泌・代謝学全般、糖尿病
	副センター長	教授	佐田 政隆	循環器、心臓カテーテル治療、虚血性心疾患、動脈硬化、高血圧、再生医療
脳卒中・心臓病等総合支援センター	副センター長	教授	高木 康志	脳神経外科手術全般、脳血管障害
	センター長	教授	川人 伸次	麻酔科学、歯科麻酔科学、ペインクリニック
	副センター長	教授	松香 芳三	歯科補綴学、口腔顔面痛・顎関節症
	副センター長	教授	田中 克哉	麻酔科学
痛みセンター	センター長	教授	川人 伸次	麻酔科学、歯科麻酔科学、ペインクリニック
	副センター長	教授	松香 芳三	歯科補綴学、口腔顔面痛・顎関節症
	副センター長	教授	田中 克哉	麻酔科学

診療科名	役職	職名	氏名	専門分野
ゲノム医療センター	センター長 (遺伝カウンセリング部門長)	教授	森野 豊之	脳神経内科学、臨床遺伝学
	副センター長 (ゲノム解析部門長)	教授	和泉 唯信	脳神経内科学
	データ管理部門長	教授	漆原 真樹	小児科学
		特任講師	郷司 彩	小児科学、臨床遺伝学
技工室		特任助教	武田 明日香	産科婦人科学
	室長	准教授(病院教授)	永尾 寛	歯科補綴治療、高齢者歯科、顎補綴
	副室長	講師	鈴木 善貴	歯科補綴、顎関節症、睡眠歯科
	副室長	歯科技工士技師長	鴨居 浩平	歯科技工、歯科材料、デジタル歯科
歯科衛生室	室長	教授	片岡 宏介	口腔健康管理
	副室長	講師	福井 誠	口腔健康管理
子と親のこころ診療・ 学習障害センター	センター長	教授	漆原 真樹	小児科学
	副センター長	准教授	森 達夫	小児神経学
	副センター長	助教	山田 直輝	精神疾患、心身症
		名誉教授	森 健治	小児神経学
褥瘡対策室	室長	教授	橋本 一郎	形成外科全般
	副室長	准教授	安倍 吉郎	形成外科全般、再建外科
	褥瘡管理者	副看護師長	三谷 和江	皮膚排泄ケア
人工透析室	室長	教授	脇野 修	腎臓内科全般、腎不全、透析
	副室長	助教	山口 純代	腎臓内科全般、腎不全、透析
排尿ケア管理室	室長	教授	古川 順也	泌尿器科
	副室長	副看護部長	川原 みゆき	業務担当
看護部	看護部長		上田 美香	
	副看護部長		長谷 奈生己	総務担当
	副看護部長		白石 美恵	教育担当
	副看護部長		川原 みゆき	業務担当
	副看護部長		原田 路可	病床管理・ISO担当
	看護部長補佐		戸崎 美鈴	
	看護部長補佐		尾形 美子	
	看護部長補佐		真鍋 理絵	
	看護部長補佐		石田 伸子	
	看護部長補佐		石澤 啓介	
薬剤部	部長	教授	石澤 啓介	
	副部長	講師	川田 敬	
	副部長		桐野 靖	
	副部長		櫻田 巧	
	麻薬室長		生田 賢治	
	薬品情報室長		坂本 久美子	
	薬品安全対策室長		溝口 徹也	
	製剤室長		上村 卓広	
	薬務室長		菊石 美也子	
	調剤室長		石田 俊介	
	試験室長		坂東 寛	
		特任助教	堀川 伊和	
		特任助教	小川 敦	
	医療技術部	部長・ 臨床検査技術部門長	臨床検査技師長	中尾 隆之
副部長・ 診療放射線技術部門長		診療放射線技師長	天野 雅史	
副部長・ 歯科医療技術部門長		歯科衛生士技師長	真杉 幸江	
リハビリテーション 部門長		理学療法士技師長	山田 めぐみ	
臨床工学技術 部門長		臨床工学技士技師長	近田 優介	
		視能訓練士技師長	直江 幸美	
		歯科技工士技師長	鴨居 浩平	
栄養部	部長	教授	野村 和弘	
	副部長		鈴木 佳子	
	栄養管理部門長		西 麻希	
	教育・研究部門長	教授	竹谷 豊	
		特任助教	良元 俊昭	
事務部	事務部長		浦田 明宏	
	総務課長		兒玉 実和	
	経営企画課長		井元 純	
	経理調達課長		酒井 稔雄	
	医事課長		安部 修司	

## 寄附講座

Endowed Course

- 92 ER・災害医療診療部  
地域外科診療部
- 93 地域脳神経外科診療部  
麻酔科診療部
- 94 地域小児科診療部  
スタッフ一覧
- 95 高度先進整形外科診療部  
スタッフ一覧

TOKUSHIMA  
UNIVERSITY  
HOSPITAL  
2026

## ER・災害医療診療部

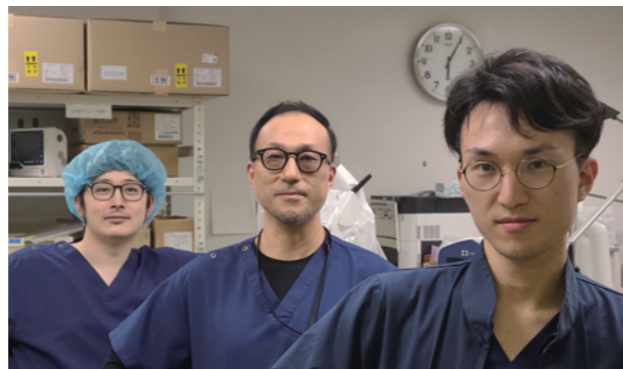
ER・災害医療診療部は、2010年4月に設置された寄附講座です。

### 診療方針

徳島大学の救急集中治療医学講座と、徳島県立中央病院のER・ICUが連携を深め、徳島県の救急・災害医療、集中治療のレベルアップ、人材育成に貢献していきます。診療を通じて、医学生、研修医、ローテーターに対し、救急・災害医療、集中治療の面白さ、重要性を伝えていきます。遅いようでも学生時代からの人作りを地道に続けるしかないと考えています。いつの時代にも通用する教育原理は「後輩の目標となる先輩」であり、「ベッドサイド教育」です。

卒後研修、専門医研修における目標は、救急・災害医療、集中治療を一貫して担当できる医師を育てることです。救急・集中治療の役割は近年ますます大きくなっています。中央診療部門として、様々な診療科から評価され、誇りのもてる救急医、集中治療医を育成しなければなりません。そのため、救急・集中治療を通じて全身管理ができることを目標

とします。たとえば、救急医療を実践したい人は県立中央病院ERで、集中治療をじっくり経験したい人は大学ICUで、教育研修を受けるというプログラムを作って交流を深めていきたいと考えています。



ER・災害医療診療部

## 地域外科診療部

徳島県の外科診療は、外科系志望医学生の減少、医学生の都市部志向、ベテラン外科医の勤務医離れにより崩壊しつつありますが、へき地ではさらに厳しい状況です。このような状況下でへき地病院において手術を中心とした効果的な診療支援を行うこと、遠隔医療支援システムを駆使した教育システムを導入することで若手医師にとって魅力ある研修体制を確立することを目指します。

### 診療体制

消化器外科2名、呼吸器外科1名の計3名の外科医師で構成され、県立三好病院で手術を中心とした診療支援を行っています。

### 診療方針・運営方針

所属する3名の外科医は、消化器外科(上部・下部消化管、肝胆膵)、呼吸器外科の専門医であり、手術、化学放射線療法といった一連のがん治療を三好病院で完結できる体制づくりに努めています。

#### ①地域の患者さんが安心できる医療の提供

消化器・呼吸器疾患は、へき地でも症例の多くを占めており、救急疾患も含めて休日・夜間も可能な限り診療、手術に対応しています。また、高齢者が多く、より身体への負担の軽い鏡視下手術を積極的に行っており、消化器がん(胃、結腸・直腸)の約6割は鏡視下手術を行っています。徳島大学病院がん診療連携センターと連携し、遠隔診療システムを用いてCancer Boardを配信し、がん診療の均てん化を図っています。

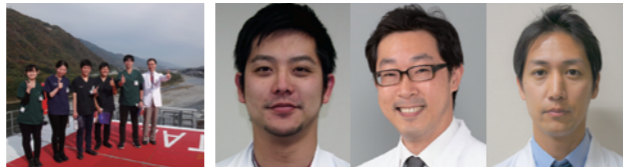
#### ②若手医師の確保・養成

徳島大学や県立病院群とのネットワークを活用した医療支援体制の強化を引き続き行っていきます。都市部と同じように鏡視下手術などの高度医療を行っていくことは、初期・後期研修医の獲得に寄与すると考えています。

大学のクリクラ実習で消化器・移植外科を回っているグループに2週間のうち1日学外実習を行っており、三好病院にも来てもらいました。また、選択実習で1週間三好病院に来てくれた学生には、西祖谷診療所での診療見学も行いました。

#### ③研究(手術などの遠隔医療支援)の推進

大学病院、県立病院とインターネットを利用した遠隔医療システムを構築し、双方向の音声・映像の通信が随時可能となっており、手術指導やLive Surgeryの配信を行ってきました。手術だけでなく検査、画像診断やカンファレンスなどにも応用可能です。今後も遠隔医療支援システムを活用し、さらなる診療支援体制の構築に取り組みます。



## 地域脳神経外科診療部

徳島県は、東部に比べて南部や西部との医療格差が大きいことが近年の課題となっています。

県南部(特に海部地域)は、以前は急性期脳卒中を専門的に診療できる医療機関が無く、地域内で発症した脳卒中患者は症状の重篤性に関わらず県東部までの搬送を余儀なくされていました。2011年(平成23年)に地域脳神経外科診療部が開設されたことにより外来診療が毎日可能となりました(それまでは週1回のみ)。これにより脳卒中患者をはじめ脳神経外科疾患を24時間受け入れるだけでなく、リハビリなどの機能回復目的で慢性期患者の受け入れも今まで以上に可能になり、地域に根差した診療が行えるものと考えています。

県西部にはかねてから徳島県立三好病院で脳神経外科専門医による診療ができる体制があります。しかし24時間365日対応できる体制とは言いがたく、徳島県立三好病院の常勤医師の負担が大きくなっているのが現状です。2018年(平成30年)からは地域脳神経外科診療部のスタッフが徳島県立三好病院で週1回の外来診療を行っており、県西部の脳神経外科診療の充実を図っています。

### 診療体制

特任教授(併任)、特任講師、特任助教の計3名の医師で構成されています。

## 麻酔科診療部

麻酔科診療部は2017年に設立された寄附講座です。

特任教授1名、助教1名が徳島大学病院と徳島県立中央病院にて周術期麻酔管理を行っております。

徳島大学では最先端の手術を受ける患者様に対して最も安全で安心できる麻酔管理を目標に、徳島県立中央病院では増加する手術、多くの緊急手術にも素早く対応できるよう常勤麻酔科医と共に診療を行っております。

近年、手術は進歩し、麻酔の安全性はさらに高まっているとはいえ、高齢化に伴い様々な合併症を有する患者様が増加しています。それに関わらず地方では麻酔専門医が充足しておらず、安全な麻酔管理を受けられないところもあります。そのような中、徳島大学と徳島県は協力し、このような講座が設立されました。

大学病院では最先端の麻酔管理や研究、中央病院では重症救急患者に対する全身管理などを通し、研修医の教育にも力を入れて、麻酔の魅力を感じてもらい新しい麻酔科医を育てることも目指しております。



## 地域小児科診療部

地域小児科診療部は、平成30年4月1日より開設された診療部門です。この診療部は、徳島県が現状の小児医療体制(徳島県東部、南部、西部各地区)の地域医療再生のために徳島大学に依頼して設置された寄附講座です。徳島県の小児救急医療体制は、東部は徳島県立中央病院、南部は徳島赤十字病院、西部は徳島県立三好病院およびつるぎ町立半田病院が行っていますが、これら救急医療体制には、徳島大学病院小児科・地域小児科診療部が寄与しています。さらに、小児救急、周産期・新生児医療に加えて、慢性期の福祉・保健・在宅医療など地域での継続した医療の確立をめざし、徳島大学病院小児科と協力し、徳島県の小児科医療体制を如何に構築して充実させていくかを研究しています。



	役職	職名	氏名	専門分野
ER・災害医療診療部	部長	特任教授	板垣 大雅	集中治療医学、救急医学、麻酔学
		特任助教	布村 俊幸	集中治療医学、救急医学
		特任助教	中野 勇希	集中治療医学、救急医学
地域外科診療部	部長	特任教授	徳永 卓哉	消化器外科(消化器)
		特任助教	吉川 雅登	消化器外科
		特任助教	山本 清成	呼吸器外科
地域脳神経外科診療部	部長	特任准教授	島田 健司	脳血管内治療、脳血管障害、脳卒中の外科
		特任助教	鹿草 宏	脳神経外科一般
麻酔科診療部	部長	特任教授	酒井 陽子	麻酔科学
		特任助教	曾我部 洋平	麻酔科学
地域小児科診療部	部長	特任教授	早瀬 康信	小児循環器
		特任助教	武井 美貴子	小児代謝・内分泌
		特任助教	佐藤 宏紀	小児科一般

## 高度先進整形外科診療部

高度先進整形外科診療部は、2023年4月より開設された新しい寄附講座です。本講座は徳島県全域にわたって子供から高齢者に至るまで、専門性の高い運動器(整形外科)疾患の診療の充実を図ると共に、内視鏡手術やロボット手術を含めた一歩進んだ医療技術の提供と開発を目指します。

特任教授1名、特任助教1名の2人体制で、大学病院整形外科、県立中央病院をはじめとする県関連施設と協力し、診療を行います。参考:徳島大学整形外科ホームページ<https://utokushima-orthop.com/seikei/>

徳島県の県西部は“四国のへそ”と呼ばれてきたように、香川県・愛媛県・高知県の3県と接し、医療圏も四国4県に跨っています。したがって県西部(四国のへそ)の医療を充実させることは、徳島県内のみならず四国全体の医療を充実させることに繋がると考えられます。またその取組みを県西部だけでなく県内全域にも広げ、大学病院や関連施設と密に連携することで、重症患者の受け入れもスムーズに行い、安心した医療を提供できることを目指します。



徳島県立三好病院 高度先進関節脊椎センターにて

	役職	職名	氏名	専門分野
高度先進整形外科診療部	部長	特任教授	酒井 紀典	脊椎・脊髄外科、スポーツ医学
		特任助教	西殿 圭祐	脊椎・脊髄外科

令和8年4月1日現在

### S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法

診療科： 消化器・移植外科

適応症： 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)

主な内容： 他臓器に遠隔転移のない画像上局所進行膵癌に対して審査腹腔鏡検査もしくはバイパス手術を行い、腹膜播種や腹腔洗浄(腹水)細胞診陽性を病理学的に診断する。腹腔内投与ルート作成のために、腹壁ポートを留置する治療開始後21日間を1コースとし、S-1は80mg/m<sup>2</sup>を14日間内服、7日間休薬。パクリタキセルは第1, 8日目に50mg/m<sup>2</sup>を経静脈投与、20mg/m<sup>2</sup>を腹腔内投与。1週間休薬後コースを繰り返す。プロトコルを遵守して、治療を継続する。病勢悪化、重篤な有害事象、患者の希望などのあるときにはプロトコル治療を中止もしくは終了する。試験期間中に根治切除が行われた場合、術後も当該治療を継続する。

### 反復経頭蓋磁気刺激療法

診療科： 精神科神経科

適応症： うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)

主な内容： 反復経頭蓋磁気刺激は、左前頭前野に連続した高頻度刺激を行うことで、背外側前頭前野、前部帯状回などの領域の機能を是正し、うつ症状を改善させる。わが国でも、2017年9月に承認、2019年6月から保険診療となった。薬物療法に反応しない中等症以上の成人うつ病患者に対して、反復経頭蓋磁気刺激による急性期療法が行われる。一方、治療抵抗性うつ病は再燃・再発しやすいことが知られているが、現時点では、保険収載されている治療抵抗性うつ病の維持療法はない。本先進医療では、急性期の反復経頭蓋磁気刺激療法に引き続き、反応あるいは寛解した患者に対して、維持療法として、週1回(前半6か月間)または隔週1回(後半6か月間)の反復経頭蓋磁気刺激療法を継続する。試験デザインは、多施設共同、前向き、縦断研究とし、主要評価項目は、維持期12ヵ月の再燃・再発率である。

### アスピリン経口投与療法

診療科： 消化器内科

適応症： 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)

技術の概要： Stage III (UICC-TNM第7版)の下部直腸を除く大腸癌[結腸(C、A、T、D、S)、直腸S状部(RS)、上部直腸(Ra)]の治癒切除患者を対象とし、術後補助療法として低用量アスピリンを併用することが、プラセボに対して、無病生存期間において優れていることを検証する。治療：術後補助化学療法+プラセボ/アスピリンテラセボ/アスピリン：1日1回1錠(100 mg)、連日内服する。内服期間は3年とする。pStage IIIA/IIIBではカベジタビン療法、pStage IIICではオキサリプラチン併用療法(mFOLFOX6療法、またはCAPOX療法)を行うことを原則とする。ただし、患者希望により、pStage IIIA/IIIBに対するオキサリプラチン併用療法(mFOLFOX6療法、またはCAPOX療法)、pStage IIICに対するカベシタビン療法も許容する。

### 着床前胚異数性検査2

診療科： 産科婦人科

適応症： 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。)が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)

主な内容： 体外受精において、胚移植を複数回行っても妊娠しない、または流産を繰り返す症例が一定数存在する。また、染色体の構造異常により、通常より流産のリスクが高い症例も存在する。晩婚、晩産化が顕著な我が国において、移植不成功により繰り返し体外受精-胚移植(ART)を行うことの身体的、精神的、経済的、社会的負担は大きな課題となっている。また、妊娠後に流産となった場合は流産手術を要し、身体的、精神的、経済的負担に加え時間的損失も増大する。このように、子宮に戻しても着床しない、または着床しても流産となる最大の要因として、従来の方法では胚の染色体異数性を事前に見極めることができないことが挙げられる。これに対して、胚の染色体情報を移植前に評価し、着床、発育がより期待できる胚を移植することで、妊娠率を高め流産率を低下させることを目的としたのが、着床前胚異数性検査(PGT-A)である。本研究では、PGT-Aにより移植可能胚が得られ、初回凍結胚移植を実施した症例を「胚移植実施集団」とし、胚移植実施集団における妊娠12週時の継続妊娠率(生児獲得率と同等と推定する)を主要評価項目として評価する。

主な内容：体外受精において、胚移植を複数回行っても妊娠しない、または流産を繰り返す症例が一定数存在する。また、染色体の構造異常により、通常より流産のリスクが高い症例も存在する。晩婚、晩産化が顕著な我が国において、移植不成功により繰り返し体外受精-胚移植(ART)を行うことの身体的、精神的、経済的、社会的負担は大きな課題となっている。また、妊娠後に流産となった場合は流産手術を要し、身体的、精神的、経済的負担に加え時間的損失も増大する。このように、子宮に戻しても着床しない、または着床しても流産となる最大の要因として、従来の方法では胚の染色体異数性を事前に見極めることができないことが挙げられる。これに対して、胚の染色体情報を移植前に評価し、着床、発育がより期待できる胚を移植することで、妊娠率を高め流産率を低下させることを目的としたのが、着床前胚異数性検査(PGT-A)である。本研究では、PGT-Aにより移植可能胚が得られ、初回凍結胚移植を実施した症例を「胚移植実施集団」とし、胚移植実施集団における妊娠12週時の継続妊娠率(生児獲得率と同等と推定する)を主要評価項目として評価する。

## 抗ネオセルフβ2グリコプロテインI複合体抗体検査

診療科：産科婦人科

適応症：不妊症(流産(化学流産以外のものに限る。))の既往歴(二回以上のものに限る。))を有するものに限る。))

技術の概要：不妊症は不妊症と異なり、妊娠はできるが流産や死産を繰り返し、生児を産むことができない病気である。日本では、不妊症患者が推計140万人いると考えられており、少子高齢化が進む日本において克服すべき重要課題である。しかし、不妊症患者の半数以上は原因が不明で、治療法がわからないことが多いのが現状である。

先行研究において、脳梗塞のような重要な臓器の血管に血の塊が詰まり生命を脅かす血栓症や、流産、妊婦の生命を脅かす妊娠高血圧症候群などの病気を引き起こす抗リン脂質抗体症候群の原因となる全く新しい自己抗体(抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体)が発見された。

不妊症と抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体の関係については、2019～2021年度の日本医療研究開発機構(AMED)成育疾患克服等総合研究事業「不妊症、産科異常に関わるネオ・セルフ抗体の研究開発」において、臨床研究が行われた。この臨床研究において、不妊症の女性227人について抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体を測定した結果、52人(23%)の患者で陽性となった。不妊症における抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体陽性の頻度は、不妊症の原因を調べた他の検査(子宮形態異常、甲状腺機能異常、カップルいずれかの染色体異常など)の中で最も高く、抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体が不妊症を起こす重要な原因になっている可能性が示唆された。また、この227人の不妊症患者のうち、既存の不妊症検査では原因が判明しなかった患者は121人おり、このうち24人(20%)が抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体のみが陽性となった。

今回、抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体の保険収載を目指して、抗β2グリコプロテインIネオセルフ抗体の有効性を示すことを目的とした多機関共同臨床研究を、先進医療制度(先進医療A)として実施することとした。

TOKUSHIMA  
UNIVERSITY  
HOSPITAL  
2026

青〔細字〕: 医学部 青〔太字〕: 医学部附属病院 緑〔細字〕: 歯学部 緑〔太字〕: 歯学部附属病院	昭和18年2月	徳島県立徳島医学専門学校を設立	1943 Feb. Apr.	Tokushima Prefectural Medical College was founded. Tokushima City Hospital was transferred to Tokushima Prefectural Medical College Hospital.	青〔細字〕: 医学部 青〔太字〕: 医学部附属病院 緑〔細字〕: 歯学部 緑〔太字〕: 歯学部附属病院	昭和52年10月	医学部附属病院歯科口腔外科として保存診療部門、補綴診療部門、口腔外科、診療部門、矯正診療部門の4診療部門の診療を開始	1977 Oct.	The clinic of four sections (Conservative Dentistry, Prosthodontics,Oral Surgery,Orthodontics) started as Clinical Department of Dentistry Oral Surgery of University Medical Hospital.	
	4月	徳島県立徳島医学専門学校附属病院(徳島市民病院を徳島県に移管)が発足	1945 Apr.	Tokushima Prefectural Medical College was transferred to the national government and named Tokushima Medical College. The Hospital was also named Tokushima Medical College Hospital.		昭和53年4月	附属病院の事務部を3課(総務課、管理課、医事課)に改組	1978 Apr.	In the Hospital,the Administration offices were reorganized into Sections of General Affairs,Administrative Affairs and Medical Affairs. Organizing Section for University Dental Hospital was founded.	
	昭和20年4月	徳島県立徳島医学専門学校を官立に移管、徳島医学専門学校と改称	1948 Feb.	Tokushima Medical School was established by merging Tokushima Medical College and Tokushima High School (Government ordinance No.33). The Hospital was renamed Tokushima Medical School Hospital.		昭和54年3月	歯学部・同附属病院棟新営竣工	1979 Mar. Apr.	Construction of the building of School of Dentistry and University Dental Hospital was completed. In the Hospital,the central clinical facilities were reorganized into Sections of Laboratory Medicine,Surgical Center,Radiological Center and Central Supply.	
		徳島県立徳島医学専門学校附属病院は、徳島医学専門学校附属医院と改称	Nov.	The Branch Hospital was established at 2-chome,Shinkura-cho,Tokushima.		4月	附属病院の中央臨床検査部、中央手術部、中央放射線部及び中央材料部を検査部、手術部、放射線部及び材料部に改称		The Section of Oral Surgery in the Hospital was transferred to the University Dental Hospital (16 clinical sections in total).	
	昭和23年2月	徳島医科大学(徳島医学専門学校、徳島高等学校を包括)を設置(政令第33号)	1949 May.	The University of Tokushima was established as a national university under the National School Establishment Law (Law No.150) and Tokushima Medical School was incorporated into the University system together with Tokushima Medical College and Tokushima Medical High School. Tokushima Medical School Hospital became the University Hospital which comprised the following clinical sections: *Internal Medicine I ,Internal Medicine II, Psychiatry and Neurology,Pediatrics,Surgery, Dermatology and Urology,Ophthalmology, Oto-Rhino-Laryngology, Radiology, Gynecology and Obstetrics.			歯科口腔外科は歯学部附属病院の設置に伴い廃止(計16診療科)		The University Dental Hospital was established. The Section of Preventive Dentistry, Conservative Dentistry,Periodontology and Endodontology, Removable Prosthodontics, Fixed Prosthodontics, Oral and Maxillofacial Surgery, Orthodontics was established in the Dental Hospital (7 clinical sections in total).	
		徳島医学専門学校附属医院は、徳島医科大学附属病院と改称		In addition, the Surgical Center and the Central Supply Section were also established.			歯学部附属病院創設準備室設置	May.	The clinical started.	
	11月	附属病院の分院(徳島市新蔵町二丁目)を設置	1951 Mar.	Tokushima Medical college was closed.			歯学部附属病院に第二口腔外科、歯科放射線科を設置(計9診療科)	1980 Apr.	The Section of Oral and Maxillofacial Surgery and Oncology,Oral and Maxillofacial Radiology was established in the Dental Hospital (9 clinical sections in total).	
	昭和24年5月	徳島大学医学部(徳島医科大学、徳島医学専門学校、徳島高等学校を包括)を設置(法律第150号)	Apr.	The Section of Surgery in the Hospital was divided into the Sections of Surgery I,II,and Orthopedic Surgery and the Section of Dental Surgery was added (13 clinical sections in total).			歯学部附属病院に予防歯科、第一保存科、第二保存科、第一補綴科、第二補綴科、第一口腔外科、矯正科を設置(計7診療科)		1981 Dec.	Ward No.3. (SRC8 10,954m <sup>2</sup> ) was completed in the Hospital.
		徳島医科大学附属病院は、開設科	1955 Apr.	The Section of Radiology was also established in the Hospital.			歯学部附属病院に第二口腔外科、歯科放射線科を設置(計9診療科)	1982 Apr.	The Section of Otolgy in the Hospital was authorized. The Section of Pediatric Dentistry was established in the Dental Hospital (10 clinical sections in total).	
		第一内科、第二内科、精神神経科、小児科、外科、皮膚泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科(院内措置)、産婦人科の10診療科と中央手術部(院内措置)、中央材料室(院内措置)	1958 Apr.	The Branch Hospital was closed.			附属病院に難聴診療部を設置	1983 Apr.	The Emergency Service was established in the Hospital.	
	昭和26年3月	徳島医学専門学校を廃止	1960 Mar.	Tokushima Medical School was closed.			歯学部附属病院に小児歯科を設置(計10診療科)	1985 Apr.	The Section of Cardiovascular Surgery was established in the Hospital (17 clinical sections in total)	
	4月	附属病院に第二外科、整形外科(外科から分離)及び歯科(院内措置)を設置(計13診療科)	1961 Mar.	The Central Building (RC3 2,654m <sup>2</sup> ) of the Hospital was completed.			附属病院に救急部を設置	1990 Jun.	The Section of Transfusion Medicine was authorized in the Hospital.	
			1962 Apr.	The Sections of Laboratory Medicine and Surgical Center in the Hospital were authorized by the Ministry of Education.			附属病院に心臓血管外科を設置(計17診療科)		The Administrative Offices of the School of Medicine and the University Hospital were integrated and reorganized into four sections of General Affairs,Administrative Affairs, Educational Affairs and Medical Affairs.	
	昭和30年4月	附属病院に放射線科を設置	1963 Apr.	The Section of Dermatology and Urology in the Hospital was also divided into the Section of Dermatology and the Section of Urology (14 clinical sections in total).			医学部及び附属病院の事務部を統合し医学部事務部(総務課、管理課、学務課、医事課)に改組	1991 Apr.	The Section of Dental Anesthesiology was established in the Dental Hospital (11 clinical sections in total).	
	昭和33年4月	附属病院の分院を廃止	1964 Apr.	In the Administration Office of the Hospital, the Section of Administrative Affairs and the Section of Service were added.			歯学部附属病院に歯科麻酔科を設置(計11診療科)	1992 Apr.	The Intensive Care Unit was established in the Hospital.	
	昭和35年3月	徳島医科大学を廃止	1965 Mar.	The Ward No.1 (RC5 8,097m <sup>2</sup> ) were completed in the Hospital.			附属病院に集中治療部を設置	1995 Apr.	The Section of Plastic and Reconstructive Surgery was established in the Hospital (18 clinical sections in total).	
	昭和36年3月	附属病院中央診療棟(RC3 2,654m <sup>2</sup> )が竣工	Apr.	The Section of Dentistry was established in the Hospital.			附属病院に形成外科を設置(計18診療科)	1997 Apr.	Center for Special Care in Dentistry was founded.	
	昭和37年4月	附属病院に中央臨床検査部及び中央手術部を設置	1966 Apr.	The Section of Central Supply was established in the Hospital.			歯学部附属病院に特殊歯科総合治療部を設置	1998 Jul.	East Ward (SRC8 19,820m <sup>2</sup> ) was completed in the Hospital.	
	昭和38年4月	附属病院の皮膚泌尿器科から泌尿器科を分離して増設(計14診療科)	Dec.	The Outpatient Clinics Building (RC3 11,599m <sup>2</sup> ) was completed in the Hospital.			附属病院東病棟(SRC8 19,820m <sup>2</sup> )が竣工	1999 Apr.	Maternity and Perinatal Care Unit was authorized in the Hospital.	
	昭和39年4月	附属病院事務部に管理課及び業務課を設置	1967 Jun.	The Section of Psychiatry and the Section of Gynecology in the Hospital were renamed as the Section of Psychiatry and Neurology and the Section of Gynecology and Obstetrics,respectively.			附属病院に周産母子センターを設置	2000Apr.	The Section of Medical Information Science was established in the Hospital.	
	昭和40年3月	附属病院第1病棟(RC5 8,097m <sup>2</sup> )が竣工	1968 Mar.	In the Hospital,the Administration Offices and the Ward No.2 (SRC8 6,743m <sup>2</sup> ),and the Emergency Service (RC3 1,071m <sup>2</sup> ) were completed.			附属病院に医療情報部を設置	2001 Apr.	The Section of Pathology was established in the Hospital.	
	4月	附属病院に歯科を設置	1969 Apr.	The Section of Anesthesiology was established in the Hospital (15 clinical sections in total).			附属病院に病理部を設置	2002 Apr.	Eleven Clinical Departments were reorganized into four Clinical Departments(General Dentistry, Orthodontics, Pediatric Dentistry,Oral and Maxillofacial Surgery).	
	昭和41年4月	附属病院に中央材料部を設置	1971 Apr.	The Section of Internal Medicine III was established in the Hospital (16 clinical sections in total).			歯学部附属病院の11診療科体制から歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科の4診療科体制に再編		Department of Oral Care and Clinical Education was founded.	
			1972 Mar.	Ward No5. (RC2 2,871m <sup>2</sup> ) was completed in the Hospital.			歯学部附属病院に総合歯科診療部を設置	2003 Mar.	The Central Building (RC5 17,876m <sup>2</sup> ) of the Hospital was completed.	
	12月	附属病院外来棟(RC3 11,599m <sup>2</sup> )が竣工	Apr.	The Section of Physiotherapy was established in the Hospital.			附属病院中央診療棟(RC5 17,876m <sup>2</sup> )が竣工	Apr.	Clinical Trial Center for Developmental Therapeutics was established in the Hospital.	
	昭和42年6月	附属病院の精神神経科を精神科神経科に、産婦人科を産科婦人科に改称	1973 Apr.	The Radiological Center was established in the Hospital.			臨床試験管理センターを設置	Oct.	Integration of Medical Hospital and Dental Hospital.	
	昭和43年3月	附属病院の管理部及び第2病棟(SRC8 6,743m <sup>2</sup> )、及び救急診療棟(RC3 1,071m <sup>2</sup> )が竣工	1974 Apr.	The Section of Neurosurgery was established in the Hospital (17 clinical sections in total). The Section of Orthoptics was also established in the Hospital.			附属病院中央診療棟(RC5 17,876m <sup>2</sup> )が竣工		Clinical Departments were reorganized to ten Clinical Departments with 29 divisions.	
			May.	Organizing Section for School of Dentistry was founded.			4月	4月	Medical Technology was established in the Hospital.	
	昭和44年4月	附属病院に麻酔科を設置(計15診療科)	1975 Oct.	In the Hospital,the Section of Dentistry was renamed the Section of Oral Surgery.			医学部・歯学部附属病院に統合	10月	The Administrative Office of Tokushima University Hospital was established.(General Affairs, Management,Medical Affairs,Medical Service)	
	昭和46年4月	附属病院に第三内科を設置(計16診療科)	1976 Oct.	The Delivery Unit was authorized in the Hospital. The University of Tokushima School of Dentistry was established.					Emergency service-Intensive Care Unit was established.(Integratio	
	昭和47年3月	附属病院の第5病棟(RC2 2,871m <sup>2</sup> )が竣工							n of Emergency service and Intensive Care Unit) Center for Maternity and Perinatal Care was designated.	
	4月	附属病院に理学療法部(旧物療部)を設置								
	昭和48年4月	附属病院に中央放射線部を設置								
	昭和49年4月	附属病院に脳神経外科(計17診療科)及び視能訓練部を設置								
	5月	歯学部創設準備室設置								
	昭和50年10月	歯科は歯科口腔外科と改称								
	昭和51年10月	附属病院に分娩部を設置								
		徳島大学歯学部設置								

平成18年1月 特殊歯科総合治療部を改組し、高次歯科診療部を設置

4月 病院事務部を3課体制に再編(総務課、企画経営課、医事課)

平成19年4月 病院事務部を4課体制に再編(総務課、経営企画課、経理調達課、医事課)

5月 理学療法部をリハビリテーション部に改称

平成20年10月 放射線科に置く放射線科を放射線診断科と放射線治療科に変更

平成21年3月 医療情報を改組し、病院情報センターを設置

9月 附属病院西病棟(SRC11 19,100m<sup>2</sup>)が竣工

平成22年4月 学部附属から大学直轄となることに伴い徳島大学病院に名称変更

平成23年4月 病院事務部を5課及び1室体制に再編(総務課、経営企画課、経理調達課、医事企画課、医療支援課、施設整備室)

10月 栄養管理室を改組し、栄養部を設置

平成24年3月 総合メディカルゾーン・メディカルブリッジ・大学病院～県立中央病院連絡橋(3階部分接続S 297m<sup>2</sup>)が竣工

平成25年4月 輸血部を輸血・細胞治療部に改称

11月 口腔インプラントセンターを設置

平成26年4月 安全管理対策室を改組し、安全管理部と感染制御部を設置

8月 クリニカルアナトミー教育・研究センターを設置

平成27年4月 地域医療連携センターを廃止し、患者支援センターを設置

病院事務部を6課体制に再編(総務課、経営企画課、経理調達課、医事企画課、医療支援課、施設整備課)

外来診療棟(S5 19,200m<sup>2</sup>)が竣工

平成28年3月 西外来診療棟(RC5 4,878m<sup>2</sup>)改修が竣工

4月 総合診療部を設置

遺伝相談室を臨床遺伝診療部に改称

クリーン歯科診療室を廃止

12月 てんかんセンターを設置

平成29年4月 麻酔科診療部を設置

国際医療センターを設置

クリニカルパスセンターを設置

病院事務部を4課体制に再編(総務課、経営企画課、経理調達課、医事課)

10月 総合スポーツ医学センターを設置

平成30年4月 地域小児科診療部を設置

平成31年2月 総合メディカルゾーン(大学病院・県立中央病院)両病院の外構が完成しメディカルストリートが開通

4月 診療支援部を医療技術部に改称

令和2年3月 看護師特定行為研修センターを設置

4月 総合アレルギーセンターを設置

排尿ケア管理室を設置

神経内科を脳神経内科に改称

臨床試験管理センターを総合臨床研究センターに改称

2006 Jan. Center for Special Care in Dentistry was reorganized to Center for Advanced Dental Health Care.

Apr. The Administrative Office of Tokushima University Hospital was reorganized to three sections.(General Affairs, Management, Medical Affairs)

2007 Apr. The Administrative Office of Tokushima University Hospital was reorganized to four sections. (General Affairs, Management Planning, Accounting and Supply Affairs, Medical Affairs)

May. Physiotherapy was renamed to Rehabilitation.

2008 Oct. In Radiology, Radiology was reorganized into Diagnostic Radiology and Radiation Oncology.

2009 Mar. Department of Medical Informatics was reorganized to Medical IT Center.

Sep. West Ward (SRC11 19,100m<sup>2</sup>) was completed in the Hospital.

2010 Apr. This hospital was renamed the Tokushima University Hospital as it was put under direct control of the University from affiliated hospitals of the Faculties of Medicine and Dentistry.

2011 Apr. The Administrative Office of Tokushima University Hospital was reorganized to five sections and an office. (General Affairs, Management Planning, Accounting and Supply Affairs, Medical Planning, Medical Support, Facility Maintenance)

2011 Oct. Division of Nutritional Management was reorganized to Nutrition.

2012 Mar. The Medical Bridge (S 297 m<sup>2</sup>) connecting the 3rd floor of the Tokushima University Hospital with the 3rd floor of the Tokushima Prefectural Central Hospital in the General Medical Zone was completed.

2013 Apr. Trans fusion Medicine was renamed to Transfusion Medicine and Cell Therapy.

Nov. Oral Implant Center was established in the Hospital

2014 Apr. Safety Management was reorganized to Department of Patient Safety and Department of Infection Control and Prevention.

Aug. Clinical Anatomy Education and Research Center was established in the Hospital.

2015 Apr. Liaison Center was closed and Patient-Support and Community-Service Center was established in the Hospital.

The Administrative office of Tokushima University Hospital was reorganized to six sections. (General Affairs, Management Planning, Accounting, and Supply Affairs, Medical Planning, Medical Support, Facility Maintenance)

The Outpatient Clinic (S5 19,200m<sup>2</sup>) was completed.

2016 Mar. The refurbishment of the West Outpatient Clinic (RC5 4,875m<sup>2</sup>) was completed.

Apr. General Medicine and Primary Care was established in the Hospital. Genetic Counseling was renamed to Division of Clinical Genetics. Infection Control Section was closed.

Dec. Epilepsy Center was established in the Hospital.

2017 Apr. Department of Anesthesiology was established in the Hospital. International Medical Center was established in the Hospital. Clinical Pathway Center was established in the Hospital.

The Administrative office of Tokushima University Hospital was reorganized to four sections. (General Affairs, Management Planning, Accounting and Supply Affairs, Medical Affairs)

Oct. Integrated Sports Medicine Center was established in the Hospital.

2018 Apr. Department of Pediatrics and community medicine was established in the Hospital.

2019 Feb. The exterior of both the Tokushima University Hospital and the Tokushima Prefectural Central Hospital in the General Medical Zone was completed and the Medical Street was opened to traffic.

Apr. Supporting Department for Medical Treatment was renamed to Division of Medical Technology.

2020 Mar. Advanced Nurse Training Center was established in the Hospital.

Apr. Allergy Center was established in the Hospital.

Management Section of Urinary Care was established in the Hospital. Clinical Trial Center for Developmental Therapeutics was renamed to Clinical Research Center for Developmental Therapeutics.

令和3年8月 再生医療細胞調整センターを設置

総合腎臓病センターを設置

10月 災害・感染症トリアージ棟(RC 418m<sup>2</sup>)が竣工

令和4年4月 病院事務部を4課及び1室体制に再編(総務課、経営企画課、経理調達課、医事課、施設企画管理連携室)

7月 下肢救済・創傷治療センターを設置

8月 脳卒中・心臓病等総合支援センターを設置

痛みセンターを設置

12月 臨床遺伝診療部をゲノム医療センターに改称

令和5年4月 高度先進整形外科診療部を設置

5月 救急集中治療科を設置

令和6年4月 病理診断科を設置

子と親のこころ診療室を子と親のこころ診療・学習障害センターに改称

令和7年4月 光線学的治療センターを廃止

6月 地域産婦人科診療部を廃止

7月 細胞治療センターを移植・免疫細胞療法センターに改称

令和8年4月 総合臨床研究センターを臨床研究推進部に改称

ME管理センターを臨床工学部に改称

2021 Aug. Cell Processing Center(CPC) for Regenerative Medicine and Cell Transplantation was established in the Hospital. Integrate Kidney Center was established in the Hospital.

Oct. Outpatient Triage Clinic For Disaster and Infection Control (R 418m<sup>2</sup>) was completed.

2022 Apr. The Administrative office of Tokushima University Hospital was reorganized to four sections and an office. ( General Affairs ,Management Planning, Accounting and Supply Affairs, Medical Affairs, Facility Planning and Management)

Jul. Limb Salvage and Wound Care Center was established in the Hospital.

Aug. Stroke and Cardiovascular Diseases Support Center was established in the Hospital. Pain Center was established in the Hospital.

Dec. Division of Clinical Genetics was renamed to Clinical Genomics Center.

2023 Apr. Department of Advanced Orthopaedic Surgery was established in the Hospital.

May. Emergency and Critical Care Medicine was established in the Hospital.

2024 Apr. Diagnostic Pathology was established in the Hospital. COCOLO Clinic for Children and Family was renamed to COCOLO Clinic for Children and Family / Learning Disorder Center.

2025 Apr. Photo Dynamic Therapy Center was closed.

Jun. Department of Community and Obstetrics and Gynecology was closed.

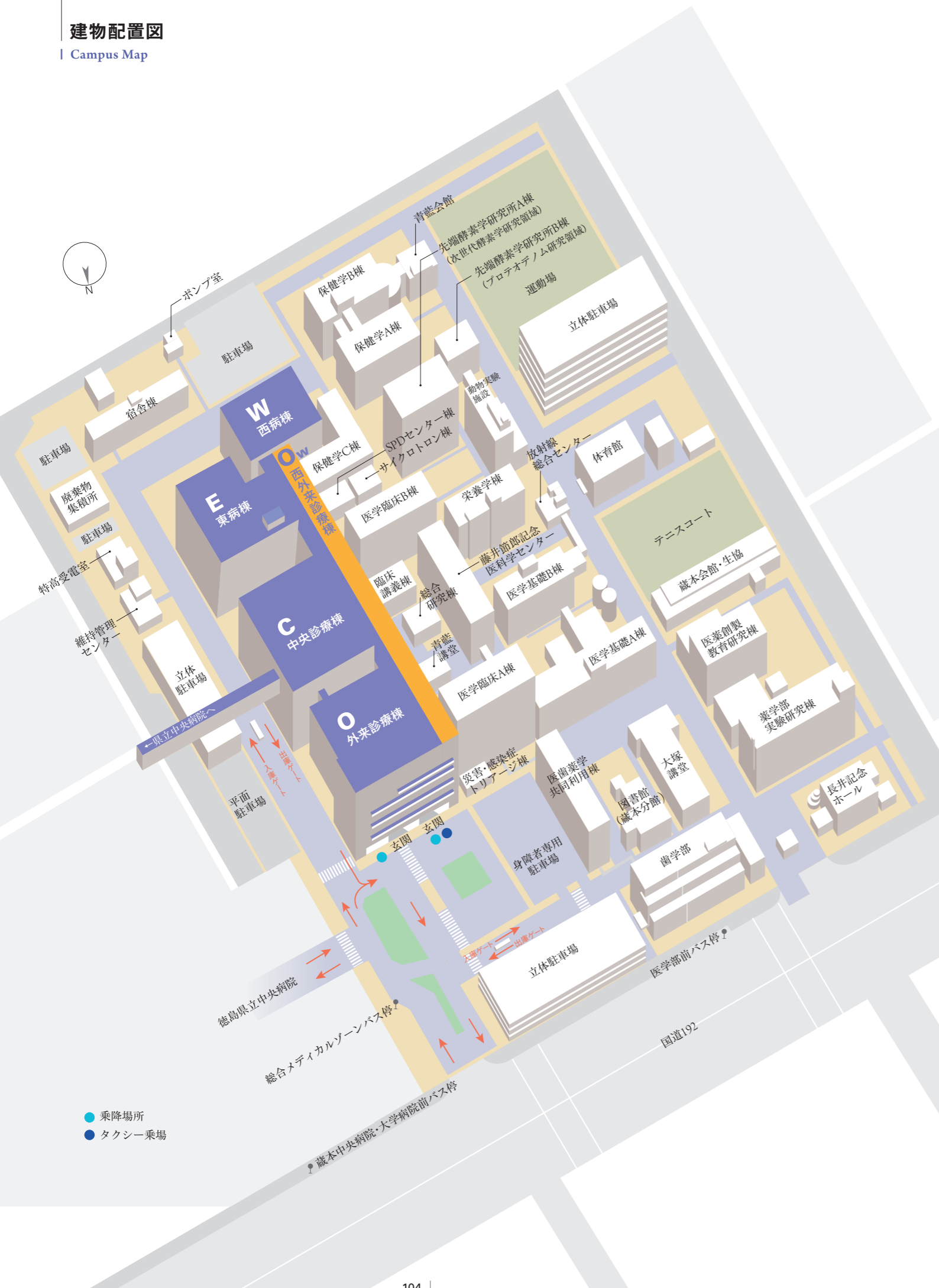
Jul. Cellular Therapy Center was renamed to Transplant and Cell therapy Unit.

2026 Apr. Clinical Research Center for Developmental Therapeutics was renamed to Department of Clinical and Translational Science. Medical Engineering and Techno Center was renamed to Department of Clinical Engineering.



# 建物配置図

1 Campus Map



## O 外来診療棟

- 5階 日亜ホール(White,Blue,Green)  
徳島県地域医療支援センター  
キャリア形成支援センター
- 4階 歯科(むし歯科)(歯周病科)(そしゃく科)  
(かみあわせ補綴科)  
矯正歯科  
小児歯科  
歯科口腔外科  
(口腔内科)(口腔外科)(歯科麻酔科)  
歯科放射線科  
総合歯科診療部  
高次歯科診療部  
(歯周病専門外来)(歯科用金属アレルギー外来)  
(口臭外来)(顎関節症外来)(障がい者歯科外来)  
(小児摂食・嚥下機能発達外来)  
技工室  
歯科衛生室  
口腔管理センター  
口腔インプラントセンター  
受付・会計  
手術室
- 3階 内科  
外科  
心臓血管外科  
皮膚科  
形成外科・美容外科  
美容センター  
外来化学療法室  
アンチエイジング医療センター  
フットケア外来  
治験外来  
総合診療部
- 2階 整形外科  
泌尿器科  
眼科  
視能訓練部  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
耳鼻咽喉科機能検査室  
人工内耳センター  
産科婦人科  
産婦人科超音波検査室  
麻酔科  
小児科  
子と親のこころ診療・学習障害センター
- 1階 脳神経外科  
第3リニアック治療室  
総合案内  
受付・会計  
診断書窓口  
患者支援センター  
(入院・退院、各種相談)(医療相談窓口)  
(看護相談室・まちの保健室)(診療説明室)  
おくすり窓口(院内処方箋受付)  
ローソン  
天吉うどん  
タリーズコーヒー  
自動販売機コーナー  
郵便局  
キャッシュコーナー  
コインロッカー

## Ow 西外来診療棟

- 5階 精神科神経科  
心身症科
- 4階 精神科神経科  
心身症科  
デイケア室  
作業療法室  
人工膝臓室
- 3階 褥瘡対策室  
糖尿病臨床・研究開発センター  
集団指導室
- 2階 看護師特定行為研修センター
- 1階 遺伝カウンセリング室  
緩和ケアセンター  
栄養部集団指導室  
患者図書室libro「リプロ」  
薬剤部  
経理調達課

## C 中央診療棟

- 5階 病院情報センター  
安全管理部  
感染制御部  
キャリア形成支援センター  
(看護職部門)
- 4階 手術部  
家族控室
- 3階 検査部  
輸血・細胞治療部  
病理部  
超音波センター  
高次脳センター
- 2階 放射線部  
内視鏡センター
- 1階 放射線科  
放射線部  
高度画像診断センター  
物流センター  
臨床工学部

## (災害・感染症トリアージ棟)

- 2階 災害倉庫
- 1階 発熱外来

## (医歯薬学共同利用棟)

- 3階 臨床研究推進部
- 1階 アイン薬局  
厚仁会薬局  
ローソン

## E 東病棟

- 8階 整形外科  
泌尿器科
- 7階 外科(消化器・移植)
- 6階 外科(食乳甲外)(呼吸器)(消化器・移植)  
皮膚科  
美容室「LUCE」
- 5階 脳神経外科  
内科(腎臓)(脳神経)
- 4階 集学治療棟  
(ICU, SCU, HCU)
- 3階 産科  
周産母子センター  
(MFICU, NICU, GCU)  
院内健康学級
- 2階 精神科神経科  
卒後臨床研修センター
- 1階 栄養部  
入院栄養指導室  
(NST)栄養サポートチーム室  
栄養研修室  
リネン室  
売店「bonta」  
果物店「cocomero」

## W 西病棟

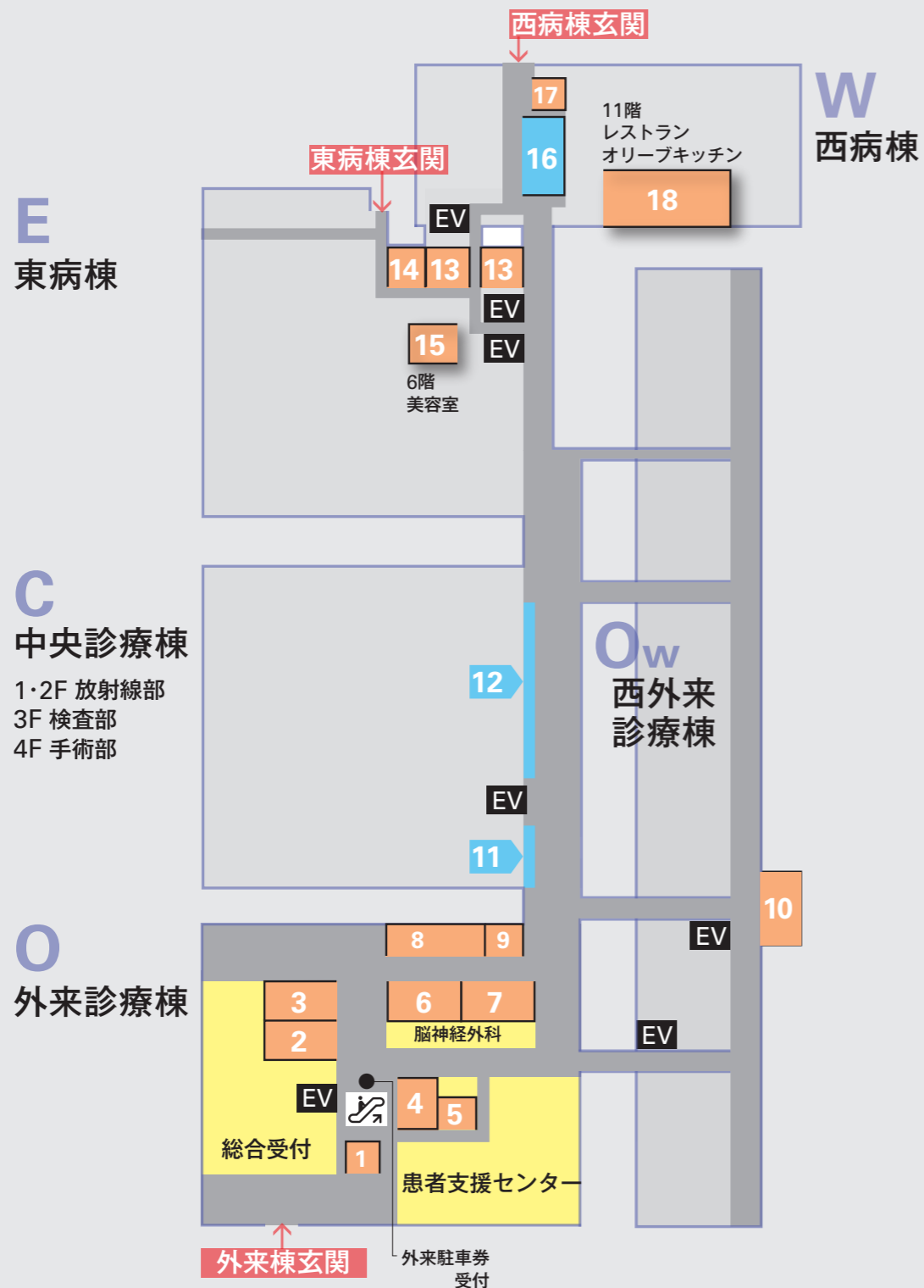
- 11階 日亜メディカルホール  
特別個室  
レストラン「オーリーブキッチン」
- 10階 移植・免疫細胞療法センター  
内科(血液)
- 9階 形成外科・美容外科  
歯科(口腔外科)(口腔内科)  
内科(血液)
- 8階 総合診療部  
泌尿器科  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 7階 内科(消化器)(内分泌・代謝)
- 6階 内科(呼吸器・膠原病)
- 5階 眼科  
皮膚科  
内科(脳神経)(循環器)
- 4階 内科(循環器)(腎臓)  
心臓血管外科  
人工透析室
- 3階 小児医療センター  
プレイルーム「be」
- 2階 放射線科  
婦人科  
泌尿器科  
麻酔科
- 1階 総合リハビリテーションセンター  
救急外来  
ホスピタルギャラリー「be」



外来診療棟

もっと便利に、もっと快適に。  
外来診療棟をはじめとする徳島大学病院のホスピタリティ。

徳島大学病院は、“よりよい医療”を提供するため、治療や設備だけでなく“よりよい環境”とは何かをいつも考えています。外来棟を中心に、心地よく過ごせる空間で徳島大学病院での快適な時間をお過ごしください。



## O 外来診療棟

- 1** 総合案内


- 2** ローソン  
営 / 7:00~20:00(平日)  
7:00~18:00(土・日曜、祝日)  
病院が許可したスタッフのみ  
時間外利用可能


- 3** 天吉うどん  
営 / 9:30~  
15:30 ラストオーダー(平日)


- 4** ATM  
[阿波銀行・徳島大正銀行・  
四国銀行]  
営 / 8:45~18:00(平日)  
9:00~18:00(土曜)


- 5** コインロッカー  
使用可能時間 / 7:30~18:00  
(使用期間は当日のみ)


- 6** タリーズコーヒー  
営 / 8:00~17:30(平日)


- 7** 郵便局  
営 / 郵便 9:00~17:00(平日)  
貯金・保険 9:00~16:00(平日)  
ATM 8:00~18:00(平日)  
9:00~12:30 (土曜)


- 8** 自販機コーナー
- 9** テレビカード精算機・販売機
- O<sub>w</sub>** 西外来診療棟
- 10** 患者図書室 libro  
営 / 8:30~17:00(平日)  
※都合により閉室しております



## C 中央診療棟

- 11** 市民ギャラリー


- 12** ストリートギャラリー


- E** 東病棟
- 13** 売店 bonta  
営 / 8:00~17:00(平日)


- 14** 果物店 cocomero  
営 / 8:30~15:00(平日)


- 15** 美容室 LUCE (6階)  
営 / 9:00~17:00  
(月・水・木・金)  
※医療用ウィッグ取扱い店  
※アピアランスサロン(ケア)  
トータルサポート


- W** 西病棟
- 16** ホスピタル  
ギャラリー be


- 17** テレビカード精算機・販売機
- 18** レストラン  
オリーブキッチン  
(11階)  
営 / 9:00~15:00(平日)



## 位置図

### Location Map



### 交通アクセス | Access |

徳島阿波おどり空港からタクシーで30分・バスで45分  
JR徳島駅からタクシー・バスで15分  
JR蔵本駅から徒歩5分  
バスは「県立中央病院・徳島大学病院前」または  
「総合メディカルゾーン」で下車

### 徳島大学病院 Tokushima University Hospital

770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1  
Phone.088-631-3111[案内]  
Fax.088-633-7009  
<https://www.tokushima-hosp.jp/>

Tokushima University Hospital  
2-50-1 Kuramoto-cho, Tokushima  
770-8503, Japan  
Phone.+81-88-631-3111  
Fax.+81-88-633-7009  
<https://www.tokushima-hosp.jp/>

### 徳島大学病院公式SNS



### 徳島大学病院 2026

Tokushima  
University Hospital 2026

発行日: 令和8年6月  
編集・発行: 徳島大学病院 広報委員会

本書に掲載されているすべての画像、  
文章の無断転用、転載をお断りいたします。